静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第238集

八分平E遺跡

第二東名No.141-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町－9

2011

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告　第238集

八分平E遺跡

第二東名No.141-2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

長泉町－9

2011

中日本高速道路株式会社東京支社

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

序

富士山の南側にそびえる愛鷹山、その南側に広がる丘陵は遺跡の宝庫です。第二東名高速道路の建設に伴って当財団では、この愛鷹山麓で多くの遺跡を発掘調査してきました。

今回報告する八分平Ｅ遺跡は、平安時代、縄文時代、旧石器時代に渡る遺跡です。平安時代では竪穴住居跡を調査しました。縄文時代以来長く続いた竪穴式の住居としては終末期に当たるものです。縄文時代では、早期の撚糸文土器や押型文土器が出土し、それらの土器を検討したところ、縄文時代早期の中でも特定の時期に見られる組み合わせであることから、この遺跡が短期間のうちに形成されたことがわかりました。旧石器時代の調査では、休場層から質の良い頁岩製の石器がまとまって出土しました。原産地は突き止められませんでしたが、地元では採集できない石材であることから、このような石材が、どこからどのようにして運ばれてきたのか、今後の検討に期待がかかります。

この調査を通じてお世話になった中日本高速道路株式会社、静岡県教育委員会、長泉町教育委員会、そして、現地調査と整理作業にたずさわってくださった皆様に、心よりお礼を申し上げます。

平成23年３月

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
所　長　　石　田　　彰

例　言

1　本書は静岡県駿東郡長泉町東野字八分平484－78他にある八分平Ｅ遺跡（第二東名No.141－2地点）の調査報告書である。

2　調査は、第二東名高速道路建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、日本道路公団（現中日本高速道路株式会社）静岡県建設局の委託を受け、静岡県教育委員会文化財保護課の指導のもと、長泉町教育委員会の協力を得て、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

3　八分平Ｅ遺跡の確認調査・本調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。

確認調査　平成13年12月３日～平成14年１月11日　平成14年１月15日～平成14年３月31日

本調査　平成13年４月26日～平成13年７月７日　平成13年12月３日～平成14年３月29日

平成14年４月２日～平成14年７月３日

資料整理・本報告書作成　平成22年４月１日～平成23年３月31日

4　本遺跡の調査担当は下記のとおりである。

平成13年度（本調査）

所長　斎藤忠　副所長　山下晃　総務部長　粂田徳幸　総務課長　本杉昭一　経理専門員　稲葉保幸

総務係長　山本広子　会計係長　大橋薫

調査研究部長　佐藤達雄　調査研究部次長兼調査研究一課長　及川司

調査担当　前嶋秀張　鈴木康之

平成14年度（本調査）

所長　斎藤忠　副所長　飯田英夫　総務部長　粂田徳幸　総務課長　本杉昭一　経理専門員　稲葉保幸

総務係長　山本広子　会計係長　大橋薫

調査研究部長　山本昇平　調査研究部次長兼資料課長　栗野克巳

調査研究部次長兼調査研究一課長　中嶋郁夫

調査担当　前嶋秀張　笹原芳郎　岩崎しのぶ　村松利彦

平成22年度（資料整理）

所長　石田彰　次長兼総務課長　松村亨　専門監兼事業係長　稲葉保幸　総務係長　瀧みやこ

会計係長　杉山和枝　調査課長　中鉢賢治　調査第一係長　勝又直人　調査第二係長　岩本貴

調査担当　富樫孝志

5　本書は、特記のない限り富樫が執筆した。

6　黒曜石の原産地推定は、独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授　望月明彦氏に依頼した。

7　炭化物の年代測定は、株式会社加速器分析研究所に依頼した。

8　整理作業において、下記の諸氏に御教示をいただいた。

池谷信之、稲田孝司、小崎晋、原田雄紀（五十音順）

9　発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管している。

10　本書の編集は、静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。

凡　例

1　現地調査は、2002年４月の世界測地系への移行以前に設定した座標を使用しているため、日本測地系による平面直角座標Ⅷ系のX=34440.0、Y=－93380.0を起点として設定してある。

2　整理作業の過程で、遺構番号を付け直してあるため、付属ＣＤに新旧番号の対照表を示した。

3　編集の都合上、遺物台帳、ブロック別石器組成表、礫群属性表は付属ＣＤに所収した。

新旧遺構番号対照表

旧	新	旧	新	旧	新
BL01	ブロック09	RG03	礫群01	SY02	集石02
BL02	ブロック10、礫群10	RG04	礫群11	SY03	集石03
BL03	ブロック08、礫群07、礫群08	RG05	礫群09	SY04	集石04
BL04	ブロック07、礫群06	RG06	礫群05	なし	ブロック01
BL05	ブロック03、礫群04	RG07	礫群08	なし	ブロック02
BL06	ブロック14、礫群13	RG08	礫群12	なし	ブロック04
BL07	ブロック15、礫群14	RG09	礫群15	なし	ブロック05
BL08	ブロック17	SB01	竪穴住居跡02	なし	ブロック06
FP01	焼土土坑01	SB02	竪穴住居跡03	なし	ブロック11
FP02	焼土土坑02	SB03	竪穴住居跡04	なし	ブロック12
FP03	焼土土坑03	SB04	竪穴住居跡01	なし	ブロック13
FP04	焼土土坑04	SB05	竪穴住居跡05	なし	ブロック16
RG01	礫群02	SB05SY01	集石05		
RG02	礫群03	SY01	集石01		

本書で用いる石材の略号は下記のとおりである。

和名	英名	略号	和名	英名	略号
角閃石安山岩	Hornblende Andesite	An(Ho)	ホルンフェルス	Hornfels	Hor
輝石安山岩	Pyroxene Andesite	An(Py)	硬質頁岩	Hard Shale	HS
玄武岩	Basalt	Ba	硬質砂岩	Hard Sandstone	HSS
チャート	Chert	Ch	砂岩(中粒)	Medium-grained Sandstone	MSS
チャート(黒色)	Black Chert	Ch(Bl)	黒曜石	Obsidian	Ob
砂岩(粗粒)	Coarse-grained Sandstone	CSS	ひん岩	Porphyry	Po
デイサイト	Dacite	Da	流紋岩	Rhyolite	Rhy
閃緑岩	Diorite	Di	赤玉石(碧玉)	Red Jasper	RJa
ドレライト	Dolerite	Do	頁岩(ケツガン)	Shale	Sh
細粒安山岩	Fine-grained Andesite	FAn	シルト岩	Siltstone	Si
砂岩(細粒)	Fine-grained Sandstone	FSS	珪質岩	Siliceous Rock	SR
凝灰岩(細粒)	Fine-grained Tuff	FT	珪質頁岩	Siliceous Shale	SSh
ガラス質黒色安山岩	Glassy Black Andesite	GAn	凝灰岩	Tuff	Tu
緑色片岩	Green Schist	GS	安山岩(多孔質)	Vesicular Andesite	VAn
緑色凝灰岩	Green Tuff	GT	玄武岩(多孔質)	Vesicular Basalt	VBa
硬質細粒凝灰岩	Hard Fine-grained Tuff	HFT			

本書で用いる黒曜石産地の略号は下記のとおりである(望月明彦氏による)。

産地			略号
長野県	諏訪	星ヶ台群	SWHD
	和田(WD)	鷹山群	WDTY
		土屋橋北群	WDTK
		芙蓉ライト群	WDHY
	蓼科	冷山群	TSTY
静岡県	天城	柏峠群	AGKT
神奈川県	箱根	畑宿群	HNHJ
東京都	神津島	恩馳島群	KZOB

目　次

序・例言・凡例
第１章　調査の概要
　第１節　第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯……1
　第２節　発掘調査の方法と経過……2
第２章　遺跡の概要
　第１節　地理的環境……3
　第２節　歴史的環境……3
　第３節　層位と文化層の設定……6
第３章　平安時代の調査……9
第４章　縄文時代の調査……13
第５章　旧石器時代の調査
　第１節　休場層出土の遺構と遺物……49
　第２節　第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯出土の遺構と遺物……95
第６章　まとめ……95
付編１　八分平Ｅ遺跡における放射性炭素年代……99
付編２　第二東名八分平Ｅ遺跡出土黒曜石産地推定結果……105

図版目次

第１図　八分平Ｅ遺跡周辺地形図……4
第２図　八分平Ｅ遺跡周辺遺跡分布図……5
第３図　八分平Ｅ遺跡の土層図……7
第４図　平安時代の遺構分布図、竪穴住居跡01平・断面図……10
第５図　竪穴住居跡02、03平・断面図……11
第６図　竪穴住居跡04平・断面図、出土遺物……12
第７図　縄文時代の遺構分布図……14
第８図　縄文時代の遺物分布図……15
第９図　竪穴住居跡05平・断面図、出土遺物……16
第10図　集石01、03平・断面図、出土遺物……17
第11図　集石02平・断面図、出土遺物……18
第12図　集石04平・断面図、出土遺物……20
第13図　集石05平・断面図……21
第14図　焼土土坑01、02平・断面図……22
第15図　焼土土坑03平・断面図、周辺遺物分布図……23
第16図　焼土土坑03周辺出土遺物……24
第17図　焼土土坑04平・断面図、出土遺物……26
第18図　J7グリッド周辺遺物分布図、出土遺物（１）……27
第19図　J7グリッド周辺出土遺物（２）……28
第20図　縄文時代包含層出土遺物（１）……30
第21図　縄文時代包含層出土遺物（２）……32
第22図　縄文時代包含層出土遺物（３）……33
第23図　縄文時代包含層出土遺物（４）……35
第24図　J7グリッド周辺、縄文時代包含層出土遺物……37
第25図　縄文時代包含層出土遺物（５）……38
第26図　縄文時代包含層出土遺物（６）……39
第27図　縄文時代包含層出土遺物（７）……41
第28図　縄文時代包含層出土遺物（８）……42
第29図　縄文時代包含層出土遺物（９）……43
第30図　縄文時代包含層出土遺物（10）……44
第31図　縄文時代包含層出土遺物（11）……45
第32図　縄文時代包含層出土遺物（12）……46
第33図　縄文時代包含層出土遺物（13）……47
第34図　縄文時代包含層出土遺物（14）……48
第35図　休場層出土遺構、遺物分布図……50
第36図　休場層遺物接合状況……51
第37図　礫群01、02平・断面図……52
第38図　礫群03平・断面図……53
第39図　礫群09、11平・断面図……55
第40図　礫群12、15平・断面図……56
第41図　ブロック01遺物分布図、出土遺物……57
第42図　ブロック02、04遺物分布図……58
第43図　ブロック03、礫群04遺物分布図……59
第44図　休場層出土遺物（１）……60
第45図　休場層出土遺物（２）……61
第46図　ブロック05遺物分布図……63
第47図　ブロック05出土遺物（１）……64

第48図　ブロック05出土遺物（２）……65
第49図　ブロック06遺物分布図……66
第50図　ブロック06出土遺物……67
第51図　ブロック07、
礫群05、06遺物分布図……68
第52図　ブロック08、礫群07、08遺物分布図、
出土遺物……69
第53図　ブロック07、08出土遺物……70
第54図　ブロック08出土遺物……71
第55図　ブロック09遺物分布図……73
第56図　ブロック10、礫群10遺物分布図……74
第57図　ブロック10出土遺物（１）……75
第58図　ブロック10出土遺物（２）……76
第59図　ブロック11、12遺物分布図、
出土遺物……77
第60図　ブロック13遺物分布図、
出土遺物……79
第61図　ブロック14、礫群13遺物分布図、
出土遺物……80
第62図　ブロック15、礫群14遺物分布図……81
第63図　ブロック15出土遺物（１）……82
第64図　ブロック15出土遺物（２）……83
第65図　ブロック16遺物分布図、
出土遺物……84
第66図　休場層出土遺物（１）……85
第67図　休場層出土遺物（２）……86
第68図　休場層出土遺物（３）……87
第69図　休場層出土遺物（４）……89
第70図　休場層出土遺物（５）……90
第71図　休場層出土遺物（６）……91
第72図　休場層出土遺物（７）……92
第73図　休場層出土遺物（８）……93
第74図　休場層出土遺物（９）……94
第75図　第Ⅲ黒色帯遺物分布図、
ブロック17遺物分布図……96
第76図　ブロック17出土遺物（１）……97
第77図　ブロック17出土遺物（２）、
第Ⅲ黒色帯出土遺物……98
第78図　暦年較正年代グラフ（１）……103
第79図　暦年較正年代グラフ（２）……104
第80図　黒曜石産地位置……118

表目次

第１表　八分平Ｅ遺跡の土層注記……８
第２表　年代測定結果一覧表（１）……101
第３表　年代測定結果一覧表（２）……102
第４表　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表
……106
第５表　産地原石判別群一覧表（SEIKO SEA-2110L
蛍光Ｘ線分析装置による）……116

写真図版目次

図版１　調査区遠景
図版２　竪穴住居跡04遺物出土状況
竪穴住居跡04土器出土状況
図版３　竪穴住居跡01、04完掘状況
竪穴住居跡01完掘状況
図版４　竪穴住居跡02完掘状況
竪穴住居跡03完掘状況
図版５　竪穴住居跡05、集石05検出状況
竪穴住居跡05床面検出状況
図版６　集石01検出状況
集石05内部状況
図版７　集石05掘削途中
集石05底部礫出土状況
図版８　集石02検出状況
集石04検出状況
図版９　諸磯ｂ式土器出土状況
礫群03検出状況
図版10　ブロック08検出状況
ブロック09検出状況
図版11　竪穴住居跡04出土土器他
図版12　焼土土坑03周辺出土土器
図版13　撚糸文土器（１）
図版14　撚糸文土器（２）
図版15　撚糸文土器、押型文土器
図版16　早期縄文土器（１）
図版17　早期縄文土器（２）
図版18　早期条痕文土器
図版19　諸磯ｂ式土器（１）
図版20　諸磯ｂ式土器（２）
図版21　下吉井式土器、諸磯ｂ式土器
図版22　包含層出土石器（１）
図版23　包含層出土石器（２）
図版24　包含層出土石器（３）

第１章　調査の概要

第１節　第二東名高速道路建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

昭和62年、東名・名神高速道路の混雑緩和の対策として、道路審議会において、第二東名、第二名神高速道路の建設が建議された。

平成元年、第四次全国総合開発計画の閣議決定、国土開発幹線自動車道建設法の一部改正等を経て、第28回国土開発幹線自動車道建設審議会において、神奈川県横浜市から愛知県東海市に至る第二東名高速道路（以下、第二東名）が計画された。この基本計画策定を受けて静岡県は、12月、第二東名建設推進庁内連絡会議を設置し、静岡県教育委員会文化課（以下、文化課）もこの協議に参加した。

平成３年、第二東名の基本計画について、文化財を含む環境調査等が行われ、他の公共事業や地域開発計画との調整を図り、９月24日、静岡県の長泉町から引佐町（現浜松市、以下同じ）に至る都市計画の決定が告示された。

平成４年、環境調査と並行して、埋蔵文化財の分布状況も把握された。第二東名建設に係る調査の指示を受けた日本道路公団（現中日本高速道路株式会社、以下同じ）は、２月17日付けで文化庁にこれを通知するとともに、５月11日付けで、日本道路公団東京第一建設局長（以下、建設局長）から静岡県教育委員会教育長宛て（以下、県教育長）に、第二東名建設予定地内の埋蔵文化財の分布調査が依頼された。また、８月27日付けで日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長（以下、事務所長）から県教育長宛てに、「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」が照会された。これを受けて県教育委員会は、９月29日に関係市町村教育委員会の関係者を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を設けるとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在について、当該市町教育委員会に照会し、当該教育委員会から回答を得た。

平成５年、県教育委員会はこの回答をもとに協議を行い、結果を３月18日付けで、県教育長から事務所長宛てに回答した。この時点で調査対象箇所は136箇所、調査対象面積は1,453,518㎡となっている。

その後、長泉町～引佐町間については、11月19日付けで日本道路公団に施工命令が出された。これに伴い、日本道路公団東京第一建設局及び静岡県土木部高速道路建設課、文化課で、埋蔵文化財調査の進め方を協議した。調査対象範囲の確定、個々の遺跡の取り扱い等について検討するとともに発掘調査の実施については日本道路公団が財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所（以下、当財団）に委託することが確認された。しかし、短期間に膨大な調査を行うための体制作りが課題となった。

平成６年、文化課が調査対象箇所の状況を調査するとともに、前年度に告示されたパーキングエリア、サービスエリア建設予定地内の踏査を、当該市町教育委員会に依頼。その結果、調査対象地は133箇所、調査対象総面積は1,286,759㎡となった。

平成７年、日本道路公団静岡建設所と文化課による「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」が設置され、12月13日に第１回会議が行われた。

平成８年、第二東名に係る埋蔵文化財調査に向けて、建設局と県教育委員会は、９月24日付けで埋蔵文化財の取り扱いに関する確認書を締結した。さらに調査実施機関である当財団を加えた三者は、９月25日付けで第二東名に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について定めた協定書を締結し、年度内に調査を始めることとなった。そして、掛川市、浜北市（現浜松市）で確認調査を始めた。

平成９年、本格的に発掘調査を開始した。これ以降、原則として第二東名の本線、サービスエリア、パーキングエリア、廃土処分場については、当財団が調査を実施、工事用道路、取り付け道路部分については、当該市町教育委員会が対応することとし、現在に至っている。

第２節　発掘調査の方法と経過

（１）発掘調査の方法

遺跡の測量や遺物の出土位置の特定などのため、平面直角座標第Ⅷ系のＸ＝－93380、Ｙ＝34440を原点として調査区全体に10m四方の方眼を設定した。そして、Ｙ軸に対して南から北に向かってアルファベット、Ｘ軸に対して西から東へアラビア数字によって記号をつけた。10m四方のグリッドの名称は、南西隅の記号をとり、R31区、W36区のように呼ぶこととした。

遺構の測量や遺物の出土位置は、株式会社トプコンのトータルステーションＧＴＳ－700を使用して、国家座標により記録し、そのデータは株式会社シン技術コンサルの「遺跡管理システム」にて管理した。

（２）現地調査

平成13年度

奈良時代から平安時代の竪穴住居跡を４軒調査した。いずれも一辺３m程度の小さな住居跡であることから、本格的な定住目的とは考えにくいが、焼土と炭化物の集中から竈が付いていたと思われるものもあった。

縄文時代の調査では、竪穴住居跡を１軒検出した。長径３m、短径２m程の楕円形で、住居埋没後に集石遺構が作られていた。

旧石器時代の調査では、休場層からまとまった石器が出土した。

平成14年度

縄文時代の調査で集石土坑と焼土土坑を検出した。包含層からは早期～前期の土器が多量に出土した。

旧石器時代の調査では、13年度に引き続き休場層からまとまった石器が出土した。下層の調査では、第Ⅲ黒色帯でも石器の集中地点を検出した。

（３）資料整理、報告書作成

平成22年４月～平成23年３月まで袋井整理事務所で行った。平安時代、縄文時代、旧石器時代の調査いずれも現地調査と並行して行った基礎整理作業で、遺物台帳の整備や図面整理などを進めてあったため、整理作業の円滑化におおいに有効であった。

奈良時代～平安時代の整理作業では、住居跡の記載に重点を置いた。４軒検出した住居跡のいずれも出土遺物が少ないため、時期判定に若干の時間を要した。

縄文時代の整理作業では、土器の型式分類と遺物分布域の抽出に重点を置いた。遺物の分布では、J7グリッド付近と焼土土坑03付近に遺物の集中域が認められたため、この２つを遺物の集中域としたが、出土した土器の型式から、複数時期に渡ることが明らかで、一括性は乏しいと思われる。

旧石器時代の整理作業では、文化層の設定に重点を置いた。遺物が出土しているのは、休場層と第Ⅲ黒色帯で、第Ⅲ黒色帯は問題なく文化層を設定できたが、休場層中の文化層設定には時間がかかった。休場層は上層、中層、下層に分けられるが、これと文化層が必ずしも合わないことは、これまでの整理作業でも経験していることである。現地調査では、休場層上層、中層上位、中層中位の３層に文化層を設定していたが、遺物の出土レベルと遺物の接合では、休場層上位と中位を別の文化層にする根拠は見出せなかった。次に休場層上層と中層を別の文化層に分けられるか検討した。礫群は、休場層上層から中層にかけて、連続して出土しており、特定のレベルに集中する傾向は認められなかった。遺物の接合でも、休場層上層と中層で接合するものが複数認められた。これらのことから、休場層上層と中層を別の文化層に分けることはできないと判断した。したがって、休場層上層と中層を同じ文化層とした。

細石器とナイフ形石器の分離についても検討したが、同じ産地の黒曜石を使用している場合や個体識別のできない石材を使用している場合があることから、両者の分離は不可能と判断した。

第２章　遺跡の概要

第１節　地理的環境

愛鷹山（標高1,504m）は、富士山の南側にある山で、40年前から10万年前まで活動していた成層火山である。愛鷹山麓の南東側に広がるなだらかな丘陵地は、この火山活動によって形成された。また、この火山活動でできたデイサイトは、台石や石皿、石斧などの石器の材料として使われた。

愛鷹山が火山活動を終えた後、８万年前、今の富士山の前身である古富士が火山活動を始めた。この噴火は激しいもので、多量の火山灰を噴出しながら、現在の富士山へと成長した。この火山灰は、偏西風で西に運ばれ、関東ローム層形成の一因にもなったが、火山灰は主に西に運ばれたため、愛鷹山山麓に積もった火山灰の厚さは４m程度である。

愛鷹山麓に積もった火山灰は、ローム化して愛鷹ローム層と呼ばれている。この中で上部のローム層に遺跡が残っている。このローム層は、腐植質土壌の黒色帯と、激しい噴火で短時間に堆積したスコリア層が交互に堆積している。

この愛鷹ローム層が堆積した愛鷹山麓は、いくつもの川が南北方向に谷を刻み、谷に挟まれた丘陵地は、眺望が開けた良好な居住地で、丘陵地上には旧石器時代以降の多くの遺跡がある。

八分平Ｅ遺跡は、第１図に示したように、上記のような開析谷に挟まれた緩斜面上にある。遺跡の現況は植林による林になっており、遠方への眺望はきかない。

長泉町が発行している2009年8月1日付け『広報ながいずみ』によれば、八分平と言う地名の由来には諸説あるらしく、沼津市から長泉町池ノ平に行く道のりの八分目に当たる平地だからという説や、八分隊という部隊が開墾したからという説などがあるらしい。

第２節　歴史的環境

周辺での遺跡分布を第２図に示す。沼津市の元野遺跡では、第二東名建設に伴う調査で、愛鷹ローム層の第Ⅶ黒色帯から石器が出土した。放射性炭素年代測定で、３万年を越える年代値が出ている層から石器が出土したことで、日本最古級の石器として話題になった。その後、第二東名建設に伴って調査した№25地点、№27地点、東細尾遺跡、富士石遺跡、梅ノ木沢遺跡、向田Ａ遺跡、そして、前回報告した的場遺跡でも第Ⅶ黒色帯から遺物が出土し、日本最古級の石器群として貴重な資料が蓄積された。

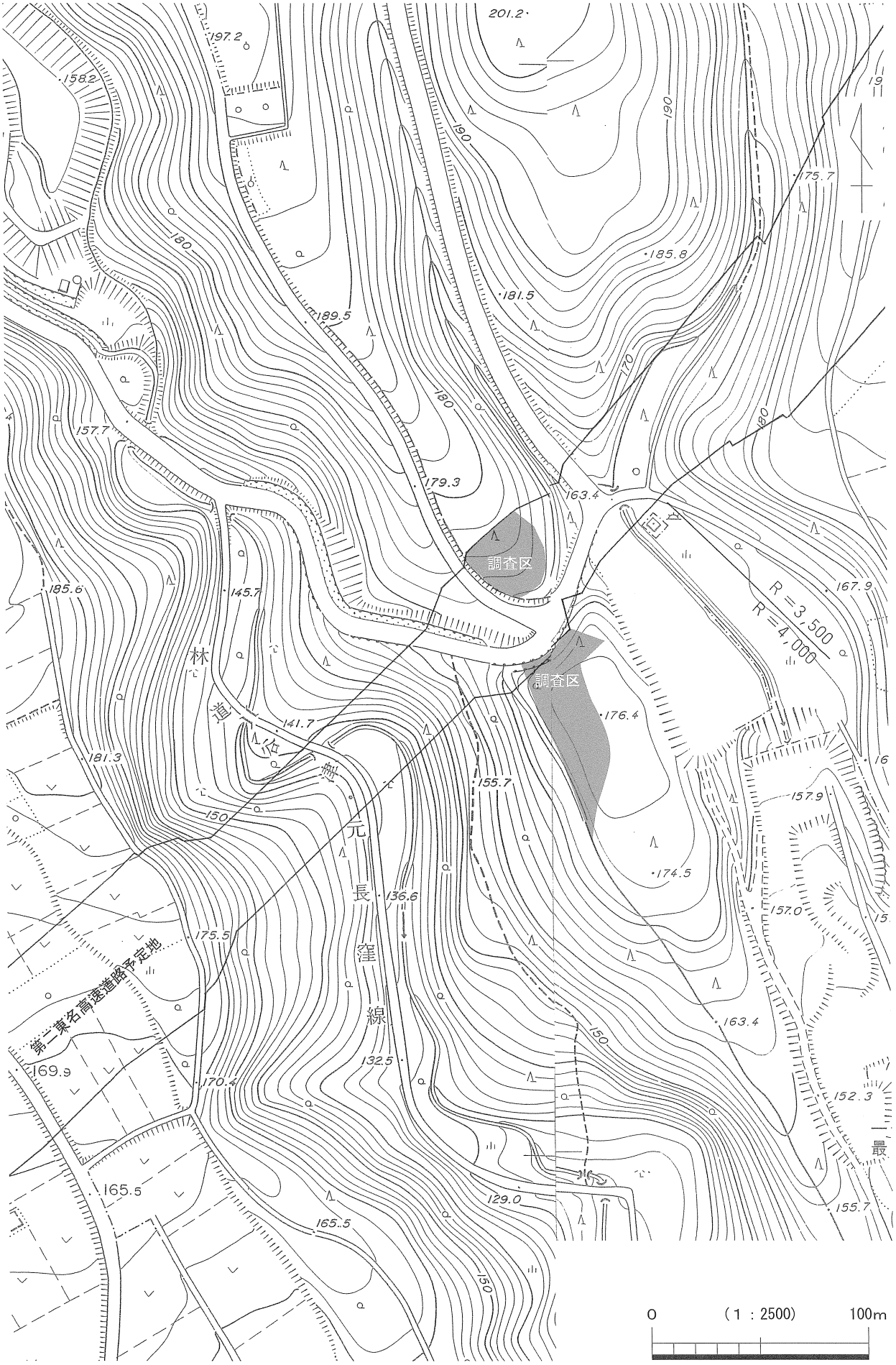
愛鷹山の南東側山麓は、東にある箱根山麓と並んで、旧石器時代の落とし穴が集中する地域でもある。これらはいずれも愛鷹ローム層の第Ⅲ黒色帯に掘り込まれたもので、硬いスコリア層を掘り抜いて作られている。1986年、三島市の初音ヶ原Ｂ遺跡で60基もの土坑が並んで発見されて以降、愛鷹山麓と箱根西麓では、当然のようにこうした土坑の発見が相次いだ。

第二東名建設に伴う調査でも、№27地点、№28地点、東細尾遺跡、富士石遺跡、東野遺跡、塚松遺跡、向田Ａ遺跡などで土坑が発見されているが、今回報告する八分平Ｅ遺跡では発見されなかった。

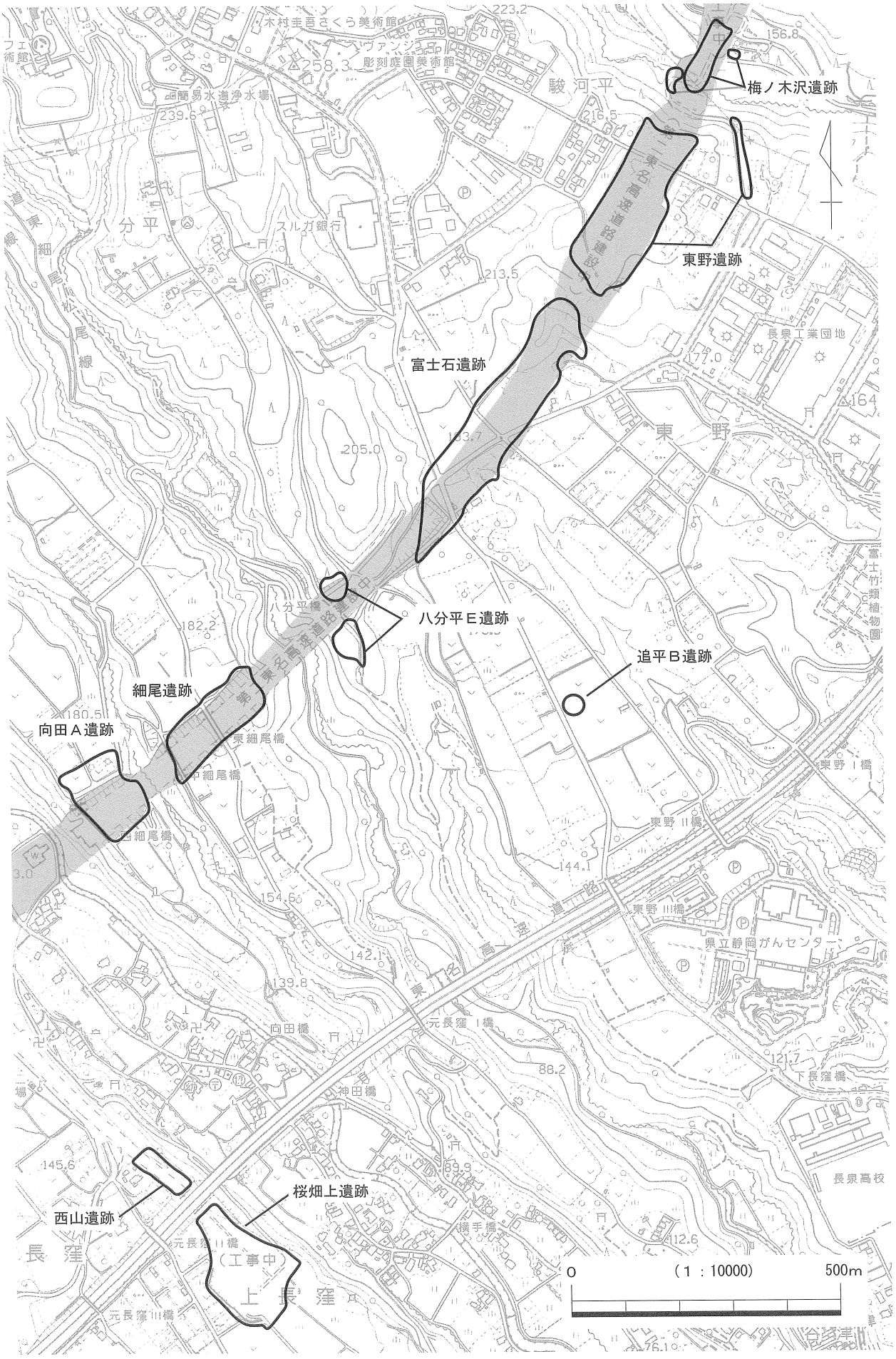
ニセローム層と呼ばれる層には、２万５千年前の姶良丹沢火山灰が含まれ、他の地域との年代比較の材料になっている。その上層に堆積している黒色帯や休場層には非常に多くの遺跡が残されている。

縄文時代に入っても愛鷹山南東山麓には多くの遺跡が分布する。縄文時代草創期～前期は遺跡の多い時期で、沼津市の葛原沢Ⅳ遺跡では、縄文時代草創期の押圧縄文土器を伴う竪穴住居跡が発見されており、縄文時代に入って間もなく定住に近い生活が始まったことがうかがえる。また、清水柳北遺跡では、縄文時代草創期の良好な石器ブロックが発見されている。

縄文時代早期になると遺跡数が急増する。尾上イラウネ遺跡や清水柳北遺跡などで、この時期の良好



第１図　八分平Ｅ遺跡周辺地形図



第２図　八分平Ｅ遺跡周辺遺跡分布図

な集落が発見されている。また、早期前半になると、この地域独特の土器型式が見られるようになる。「駿豆撚糸文系土器」はその代表である。

早期後半になると、清水柳Ｅ類、元野式といった独自の土器型式が見られると同時に、木島式のように東海系の土器が下地となって、この地域で独自に発達した型式や、南関東や長野県の土器が下地となって発達した型式が見られるようになり、この地域が各方面の文化の交流地になっていたことがわかる。

この時期、集落を外れた地域には、落とし穴が多く作られた。沼津市の植出遺跡や拓南東遺跡では、丘陵上や尾根上に列をなした落とし穴が発見されている。多くの落とし穴には、そこに逆茂木を刺したと思われる小さな穴が複数掘られていた。

このような縄文時代集落の盛行は縄文時代前期前葉までは続くが、その後は徐々に遺跡数が減り、前期末には無人の地になってしまったかのように遺跡が見られなくなる。長野県や関東地方で縄文時代中期以降、遺跡数や規模が増大する傾向と対照的である。

次に愛鷹山麓に遺跡が見られるようになるのは、弥生時代後期以降である。沼津市の植出遺跡では、弥生時代後期の大規模な集落が発見されている。ここでは、竪穴住居跡が301軒、掘立柱建物跡54棟の他に方形周溝墓などが発見された。また、尾上Ⅲ橋西遺跡や清水柳北遺跡では、弥生時代後期の大規模な墳丘墓が発見されている。

古墳時代前期の遺跡は見られないが、後期になると、６世紀初頭の長塚古墳や、年代は明らかでないが、長塚古墳に先行するとも考えられる子ノ神古墳といった前方後円墳が出現する。

その後、６世紀後半から７世紀初頭になると、群集墳が作られるようになり、古墳の数は激増する。清水柳２号墳や虎杖原古墳などが築かれる。荒久城山古墳からは金銅製の馬具が出土しており、二ツ塚古墳からは単鳳環頭大刀が出土している。

参考文献　『沼津市史　通史編　原始・古代・中世』沼津市　2005年

第３節　層位と文化層の設定

（１）層位

八分平Ｅ遺跡での層位を第３図、その注記を第１表に示す。愛鷹山麓の標準的な地層を示すが、第Ⅱ黒色帯より下の黒色帯は、色を基にした分層が難しかった。また、第０黒色帯と第Ⅰスコリア層、第Ⅲスコリア帯第３スコリア層～第Ⅲスコリア帯第５スコリア層は分層できなかったため、同一層として扱った。

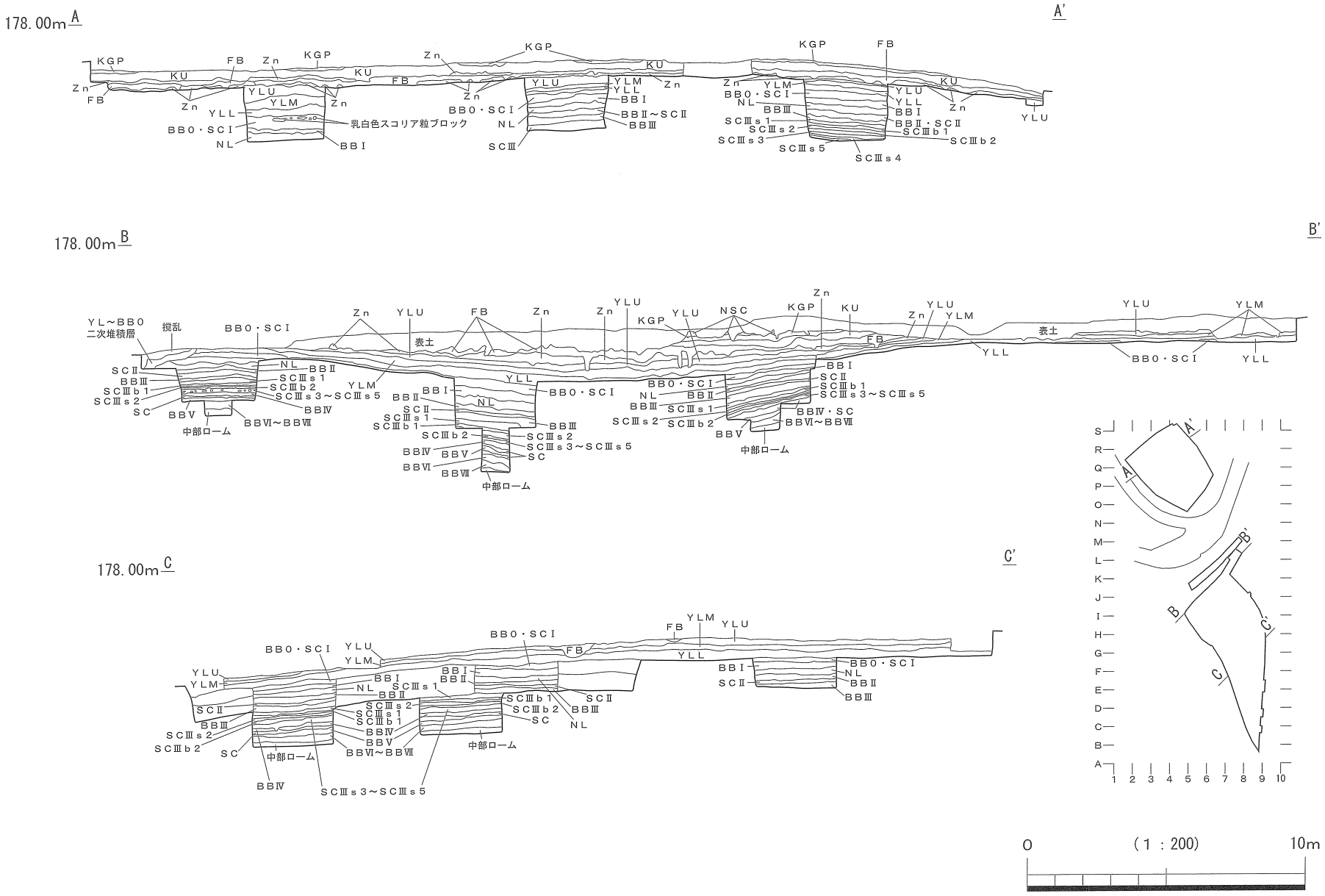
（２）文化層の設定

休場層上層～下層

休場層上層～下層にいくつの文化層があるのかは、常に問題になることである。ブロックと礫群の出土層では、休場層上層に中心を持つもの、休場層中層に中心を持つもの、休場層上層～中層にまたがるもの、休場層上層～下層にまたがるものの４種類が認められた。ここで、休場層上層に中心を持つ遺構と休場層中層に中心を持つ遺構を別の文化層に分けるとしても、休場層上層～中層、休場層上層～下層にまたがる遺構の所属文化層を決めることはできなかった。また、休場層上層で常に問題になるのが、ナイフ形石器と細石器の分離であるが、分布が重なるうえに、両者とも同じ産地の黒曜石を使っていることなどから、分離できなかった。

第Ⅲ黒色帯

ほとんどの遺物が11区から出土している。上下の層からは遺物が出土しておらず、接合もこの層内に収まるため、１つの文化層にした。



第3図　八分平E遺跡の土層図

第１表　八分平Ｅ遺跡の土層注記

土層名	略号	色調	注記
表土			
新期スコリア層	NSC	7.5YR3/4　暗褐色	
カワゴ平パミス		10YR3/4　暗褐色	直径３～５㎜のスコリアからなる。
栗色土層	KU	10YR3/3　暗褐色	直径１～２㎜のスコリアを含む。
富士黒色土層	FB	10YR2/2　黒褐色	直径２～３㎜のスコリアを含む。
漸移層	Zn	10YR3/3　暗褐色	直径２～３㎜のスコリアを含む。
休場層上層	YLU	10YR4/4　褐色	直径２～３㎜のスコリアを含む。
休場層中層	YLM	10YR4/4　褐色	直径２～３㎜のスコリアを多く含む。
休場層下層	YLL	10YR3/4　暗褐色	スコリアを非常に多く含む。
第0黒色帯・第Ⅰスコリア層	BB0・ScⅠ	7.5YR3/4　暗褐色	本来は別の層だが、この遺跡では分層できなかった。
第Ⅰ黒色帯	BBⅠ	10YR3/4　暗褐色	硬く締まる。
ニセローム層	NL	10YR4/6　褐色	姶良丹沢火山灰を含む。
第Ⅱ黒色帯	BBⅡ	7.5YR4/4　黒褐色	直径３～５㎜のスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅱスコリア層	ScⅡ	7.5YR4/4　褐色	直径５㎜程度のスコリアからなる。
第Ⅲ黒色帯	BBⅢ	10YR3/4　暗褐色	直径３～５㎜のスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第１スコリア帯	ScⅢs1	7.5YR4/6　暗赤褐色	直径3㎜程度のスコリアからなり、黄白色の粒子を多量に含む。
第Ⅲスコリア帯第１黒色帯	ScⅢb1	7.5YR4/4　黒褐色	直径３～５㎜のスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯スコリア２	ScⅢs2	7.5YR4/4　暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第２黒色帯	ScⅢb2	7.5YR4/4　黒褐色	直径３～５㎜のスコリアを含み、硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第３スコリア層	ScⅢs3	7.5YR4/4　暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第４スコリア層	ScⅢs4	7.5YR4/4　暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅲスコリア帯第５スコリア層	ScⅢs5	7.5YR4/4　暗赤褐色	非常に硬く締まる。
第Ⅳ黒色帯	BBⅣ	7.5YR4/4　褐色	
第Ⅲスコリア層	ScⅢ	7.5YR4/4　暗赤褐色	直径３㎜程度のスコリアからなる。
第Ⅴ黒色帯	BBⅤ	7.5YR4/4　褐色	
第Ⅵ黒色帯	BBⅥ	7.5YR3/4　暗褐色	
第Ⅶ黒色帯	BBⅦ	7.5YR3/4　暗褐色	
中部ローム	ML	黄褐色	硬く締まる。

第３章　平安時代の調査

平安時代の遺構分布を第４図上段に示す。北側の調査区で竪穴住居跡を４軒検出した。検出面はカワゴ平パミス層の上面で、地形は尾根上の平坦面である。４軒の住居跡は隣接しており、竪穴住居跡01と04、竪穴住居跡02と03が隣り合うようにして検出された。

（１）竪穴住居跡01（第４図下段）

標高175.9m～176.2mで検出した。今回検出した竪穴住居跡の中では最も残りが良い。埋土は流れ込んだ黒色土である。規模は南北2.47m、東西2.13mで、平面形は長方形である。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認されなかった。図中の３層が貼り床で、黒褐色土が硬く締まっている。床面２箇所で焼土が検出された。竈は確認できなかったが、北隅の焼土集中部は竈の位置を示しているかもしれない。

遺物は埋土から土師器が少数出土しただけである。

（２）竪穴住居跡02（第５図上段）

尾根上の平坦面、標高176.7m～177m付近で検出した。住居跡の東側は現代の畑を作った際に大きく破壊されている。また、南側は斜面土の流出により残りは良くない。埋土は流れ込んだ黒色土である。

規模は、検出できた範囲では南北3.25m、東西2.2mである。平面形は正方形に近かったと思われる。主軸の方向は北西で、壁はほぼ垂直に立ち上がっている。壁溝は確認されなかった。床面はほぼ平坦で、全面に黒色土を硬く締めた貼り床を作ってある。

西側の壁沿いに炭化物が弧を描くように分布している。ここに竈があり、弧を描く部分が竈の袖に当たると思われるが、竈が崩落した状態である。遺物は土師器の小片が少数出土したのみである。

（３）竪穴住居跡03（第５図下段）

標高176.8～177mで検出した正方形に近い住居跡だが、ほとんど流出した状態で、残りは悪い。埋土は流れ込んだ黒色土である。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認されなかった。貼床は検出されず、掘り方のみを検出した。遺物は出土していない。

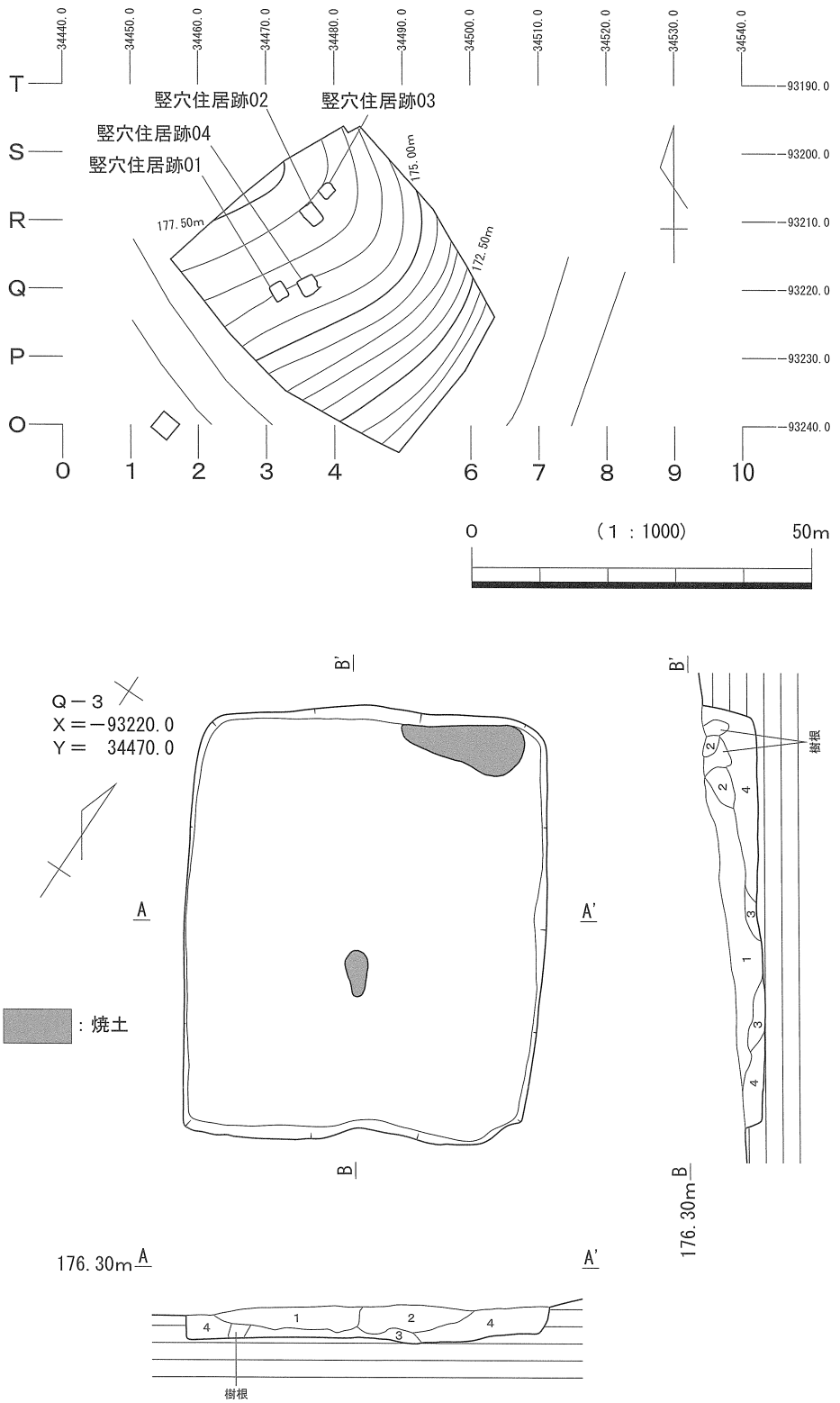
（４）竪穴住居跡04（第６図）

標高175.7～176mで検出した。残りは良くなく、東側の一部は破壊されている。埋土は炭化物が混じった黒色土である。規模は南北2.77m、東西2.73mである。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認されていない。床面は平坦で、貼り床は確認できなかった。南隅に浅い土坑を検出し、この中から後述の土器が出土した。竈は検出できなかったが、北東隅には焼土があり、竈の可能性がある。

遺物は今回検出した平安時代の竪穴住居跡では最も多く、埋土からも多くの土師器片が出土した。床面に掘られた土坑からは捨てられたような状態で土師器が出土した。

１は土師器の坏で、床面から出土した。口縁部はやや外反している。内面は横方向になでた後、丁寧に磨いている。外面はなでて仕上げている。底は糸切りの後、へら状工具で不定方向になでている。２は土師器の坏で、床面に掘られた土坑から出土した。内面は横方向になでた後、丁寧に磨いている。外面はなでて仕上げている。底はへら状工具で不定方向になでており、糸切り痕は残っていない。３は甕の口縁部で、床面から出土した。口縁端部がわずかにつまみ上げられている。４は鉢と思われる土器で、床面に掘られた土坑から出土した。内外面とも非常に丁寧に磨いてあり、内面には暗文が見られる。

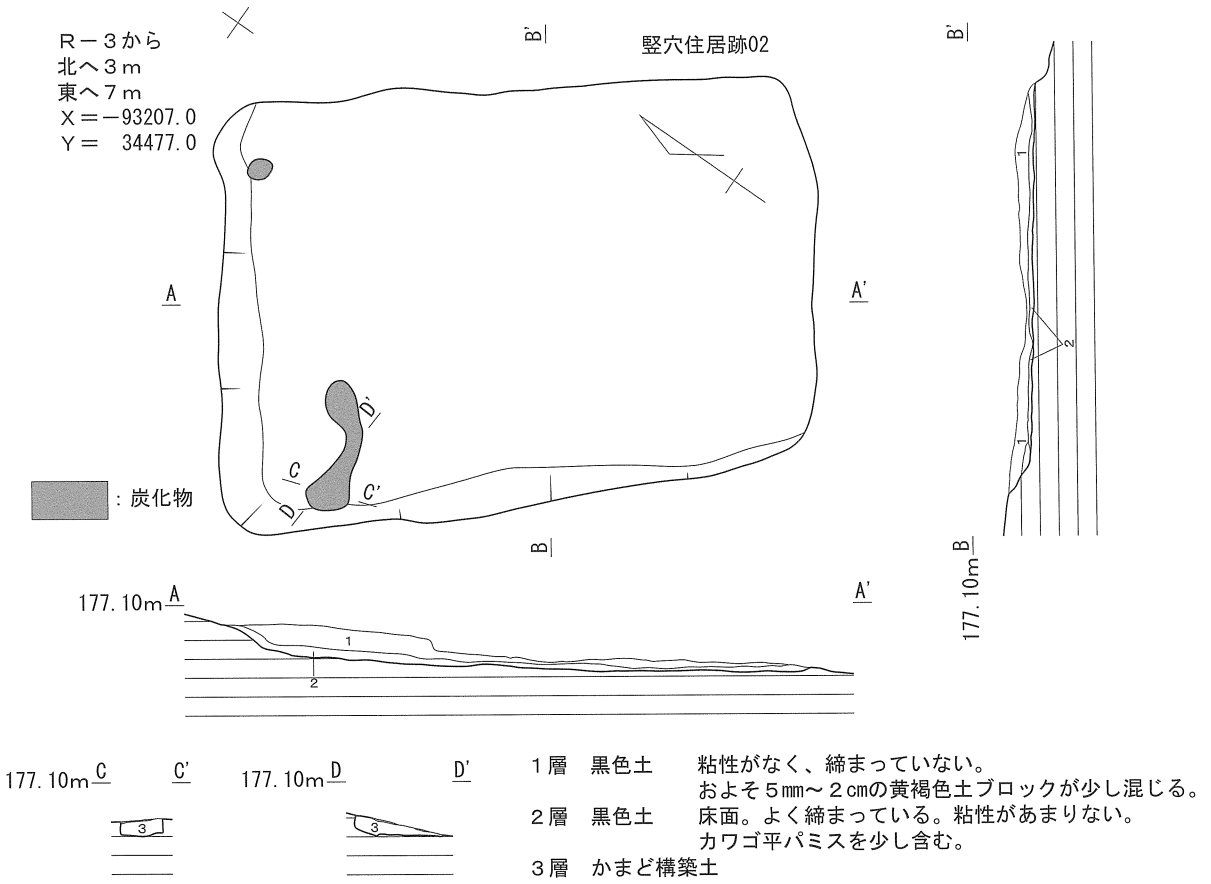
第６図－５は、包含層出土の土師器で、内外面に細かいはけ目が見られる。



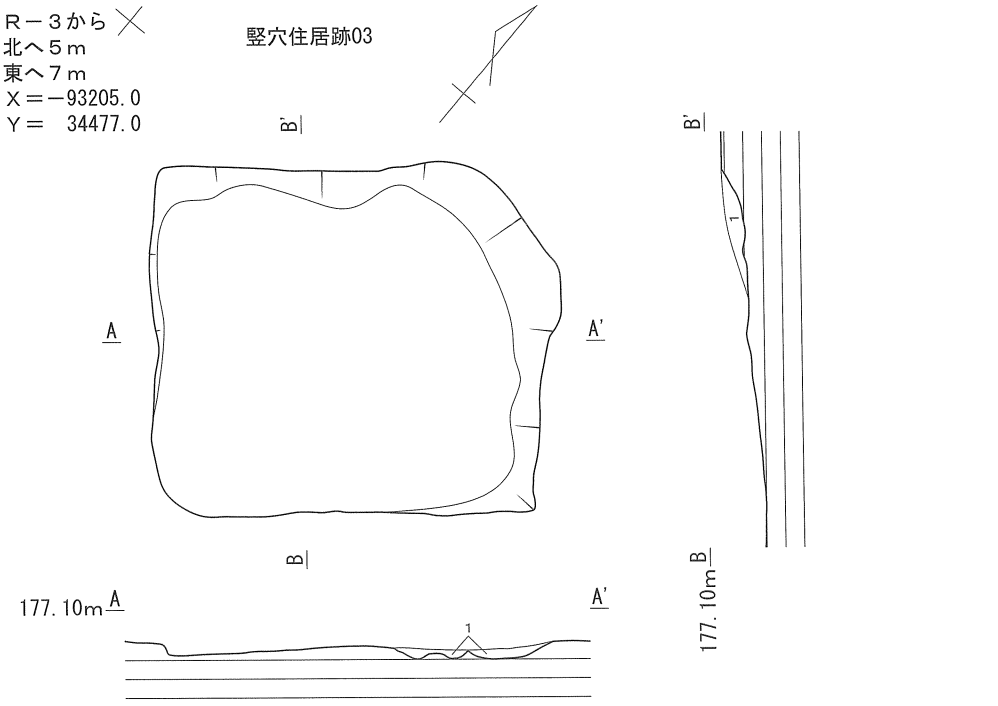
1層　黒色土　　よく締まっている。粘性があまりない。
　　およそ２～３㎜の赤褐色スコリア粒と黄褐色土粒を多く含む。
2層　黒褐色土　　よく締まっている。粘性があまりない。およそ２～３㎜の
　　赤褐色スコリア粒と黄褐色土粒を多く含む。
3層　黒褐色土　　よく締まっている。粘性があまりない。
4層　カワゴ平パミス層混合土　　よく締まっている。粘性があまりない。およそ２～３㎜の
　　赤褐色スコリア粒と黄褐色土粒を多く含む。

0　(1：40)　1m

第４図　平安時代の遺構分布図、竪穴住居跡01平・断面図

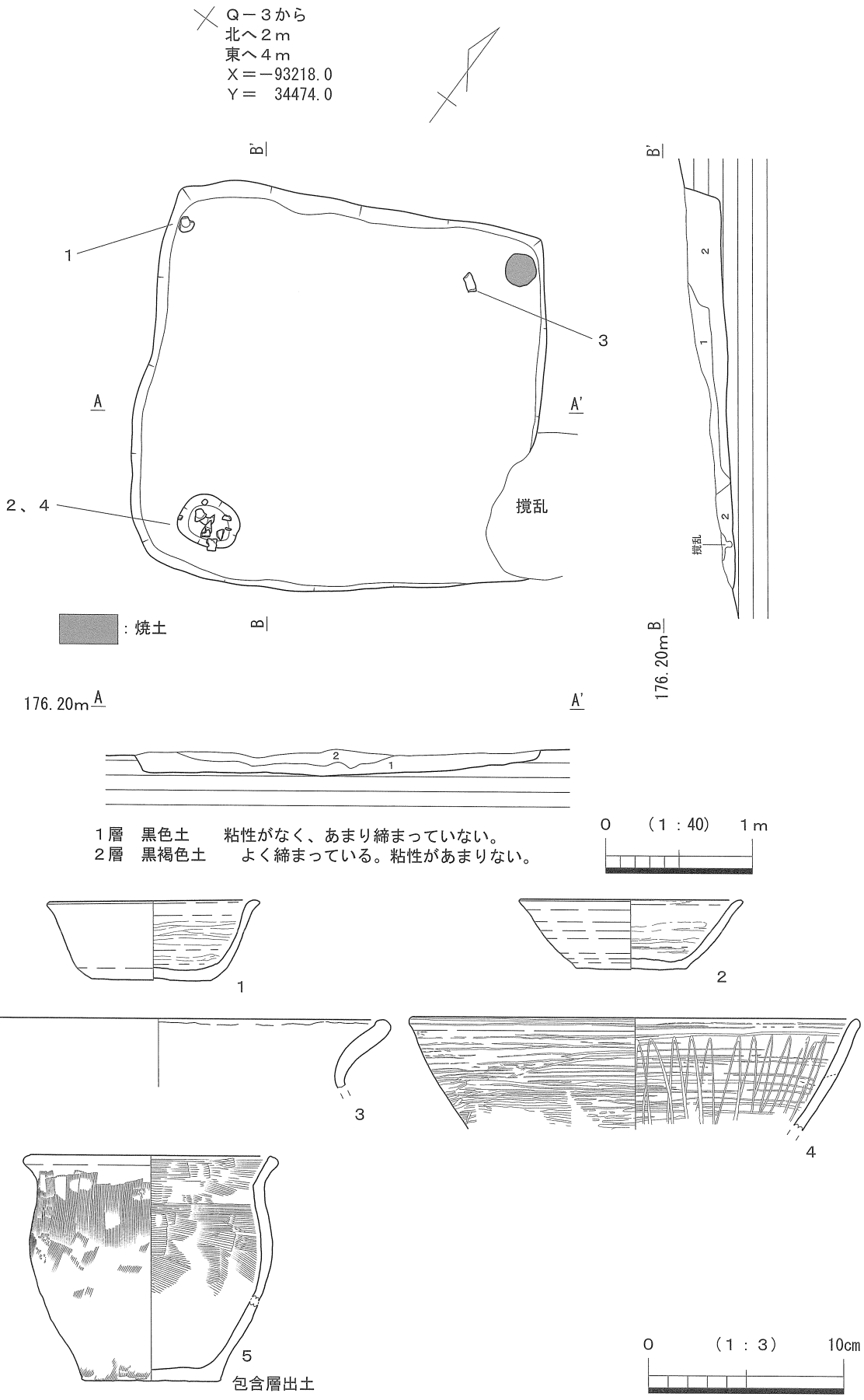


1層　黒色土　　粘性がなく、締まっていない。
およそ5mm～2cmの黄褐色土ブロックが少し混じる。
2層　黒色土　　床面。よく締まっている。粘性があまりない。
カワゴ平パミスを少し含む。
3層　かまど構築土



1層　黒色土　　粘性がなく、締まっていない。

第5図　竪穴住居跡02、03平・断面図



第6図　竪穴住居跡04平・断面図、出土遺物

第４章　縄文時代の調査

縄文時代の遺構、遺物は南側の調査区で集中して発見された。遺構は第７図に示すように、竪穴住居跡１軒と集石５基、焼土土坑４基を検出した。検出面は富士黒土層上面～休場層上層である。地形は、南側に緩やかに下っていく尾根上である。

遺物の分布は、第８図に示したように濃密であるが、縄文時代の遺物は表土～漸移層の各層から出土しているため、全部を表示するとこのような図になる。層単位で分けると、遺物包含層としては通常の密度である。この中で特にJ7グリッド周辺と焼土土坑03付近に集中する傾向があったため、遺物分布域として報告する。

縄文時代早期前半の土器については、池谷信之2003「縦位密接施文から異方向帯状施文へ－駿豆地方押形文土器の変遷と立野式－」『利根川』第24・25合併号で、「西洞段階」と「イラウネ段階」を設定してあるため、この用語を用いる。また、胎土については、細かい気泡が入り、大きさの割に軽く、表面がスベスベする独特の胎土を使ったものがあり、池谷2003では、これを「軽しょうな」胎土と表現してあるため、下記でもこの表現を用いる。

（１）竪穴住居跡05（第９図）

休場層上層の上面、標高175.5m～175.6mで検出した。埋土は炭化物が混じった富士黒土層の流れ込みである。規模は南北3.8m、東西3.24mで、平面形は不整の楕円形である。壁は垂直に立ち上がり、壁溝は確認できなかった。中央付近にある大きな撹乱は、後に報告する集石05である。

床面中央で焼土の集中部を検出した。この下には南北0.64m、東西0.5m、深さ10㎝程の土坑が掘り込まれている。この住居跡の炉跡と考えて良い。この炉跡は、住居跡埋没後に作られた後述の集石05により半分近くを破壊されている。また、床面東側には、長軸0.6m、短軸0.42m、深さ0.14mの土坑が掘られている。形は不整形で、炭化物を多く含んだ富士黒土層が入っている。この土坑からは遺物は出土しなかった。床面で検出したため、この住居跡に伴うと考えているが、性格は不明である。

遺物は、第34図－６の台石が床面に置かれた状態で出土した。玄武岩の円礫を使っており、表面が磨滅してなだらかになっている。

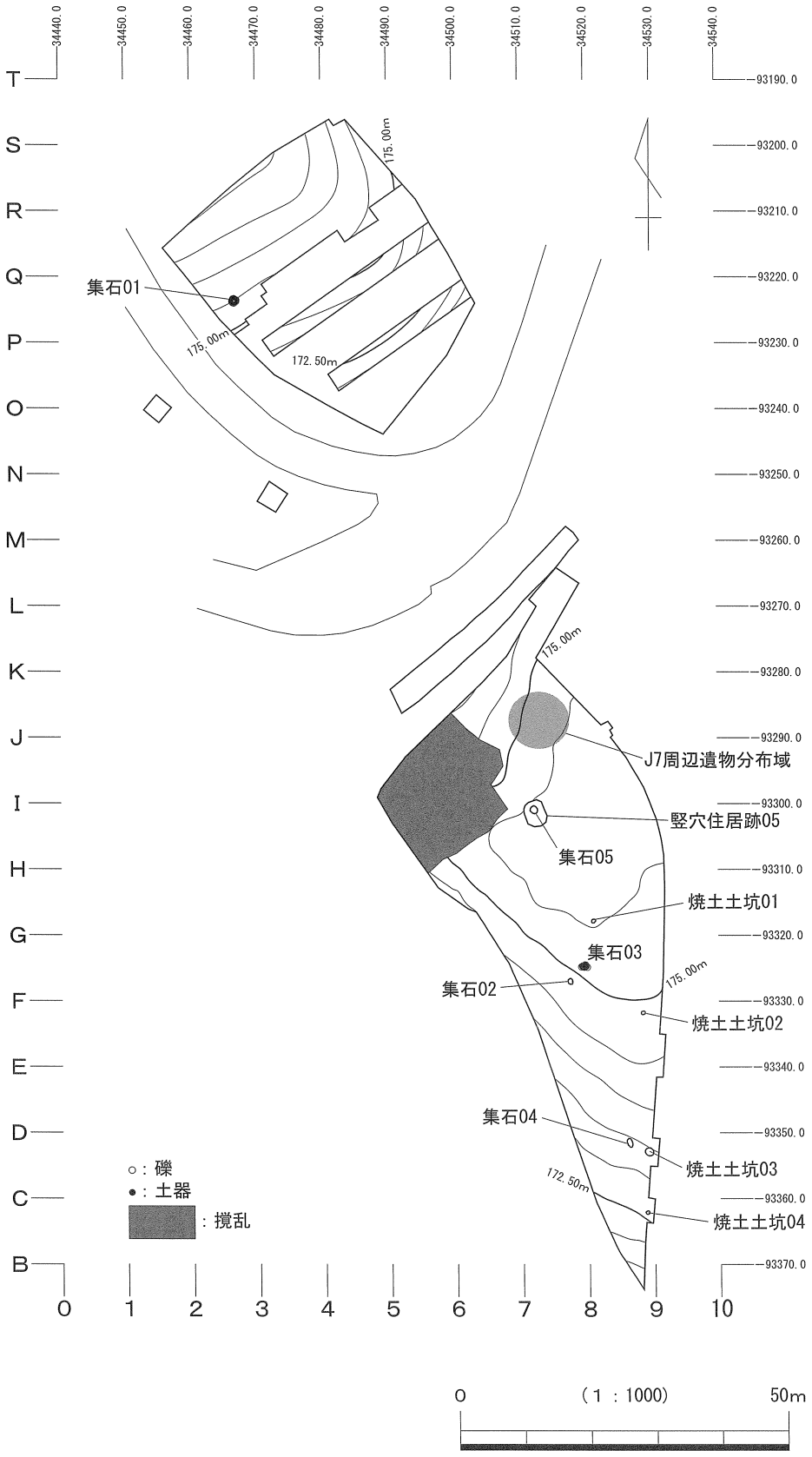
土器は、第９図－１、２に示したものが出土した。１は縄文土器の口縁部で、外面に縄文が付いている。縄の撚りの方向は不明だが、縄粒の間隔が開いているのが特徴である。同様の特徴を持つ土器は、包含層中からも多く出土しており、いずれも縄文時代早期の西洞～イラウネ段階と考えられる。これも同じ土器であろう。２も口縁部の破片で、口縁端部はなでて面取りをしてあり、外面には連続爪形文を付けてある。粕畑式に並行する土器と考えられる。

（２）集石01（第10図上段）

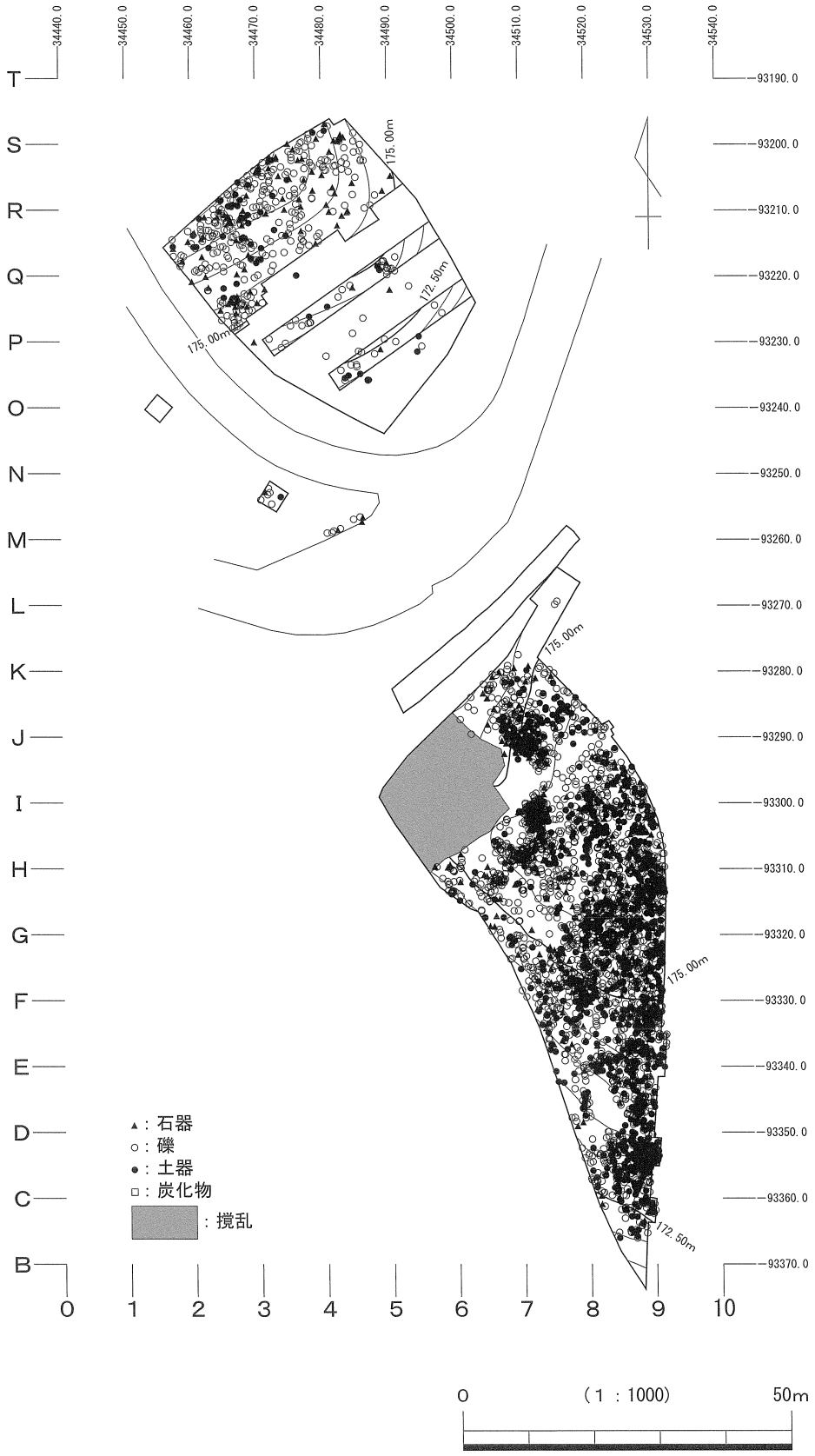
15㎝大の礫を円形に敷き詰めたような状態で検出した。規模は長径0.75m、短径0.64mである。すべての礫が赤化している。遺物は出土していない。

（３）集石02（第11図）

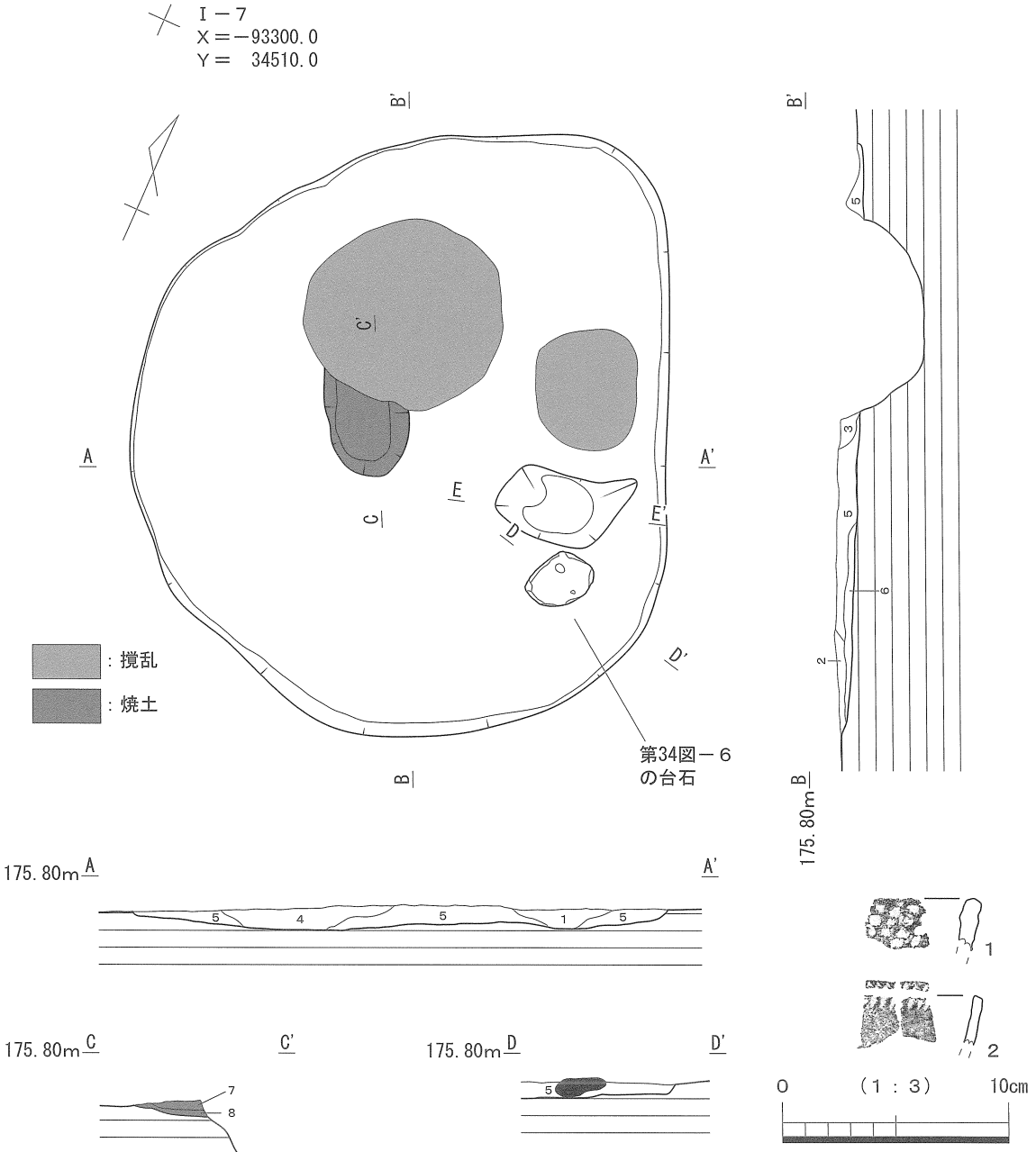
富士黒土層上面で検出した。長径0.88m、短径0.72mの土坑に礫が入っているが、上面を失われているため、本来の規模は不明である。土坑の埋め土は炭化物の混じった富士黒土層である。土坑の底に第11図－１の台石が置かれたような状態で出土した。台石を礫として再利用していると思われる。また、２に示した石皿の破片も出土している。これも割れた石皿を礫として再利用しているのであろう。土坑の東側には礫がない部分があり、人為的に礫を抜き取ったような状態である。土坑内で火を焚いた痕跡は認められないが、ほとんどの礫が赤化して割れている。



第７図　縄文時代の遺構分布図



第８図　縄文時代の遺物分布図



１層　富士黒土層混合土　よく締まっている。粘性がなく、やや粗い。およそ２～３mmの炭化物粒が少し混じる。

２層　富士黒土層混合土　あまり締まっていない。粘性がなく、やや粗い。およそ２～３mmの焼土粒が多く混じる。

３層　黒褐色土　あまり締まっていない。粘性がなく、やや粗い。およそ２～３mmの焼土粒、炭化物粒が多く混じる。

４層　富士黒土層混合土　あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ２～３mmの炭化物粒が多く混じる。

５層　富士黒土層混合土　４層土より明るい色調。あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ２～３mmの炭化物粒が多く混じる。

６層　富士黒土層と休場層の混合土　よく締まっている。粘性がない。およそ２～３mmの炭化物粒が少し混じる。

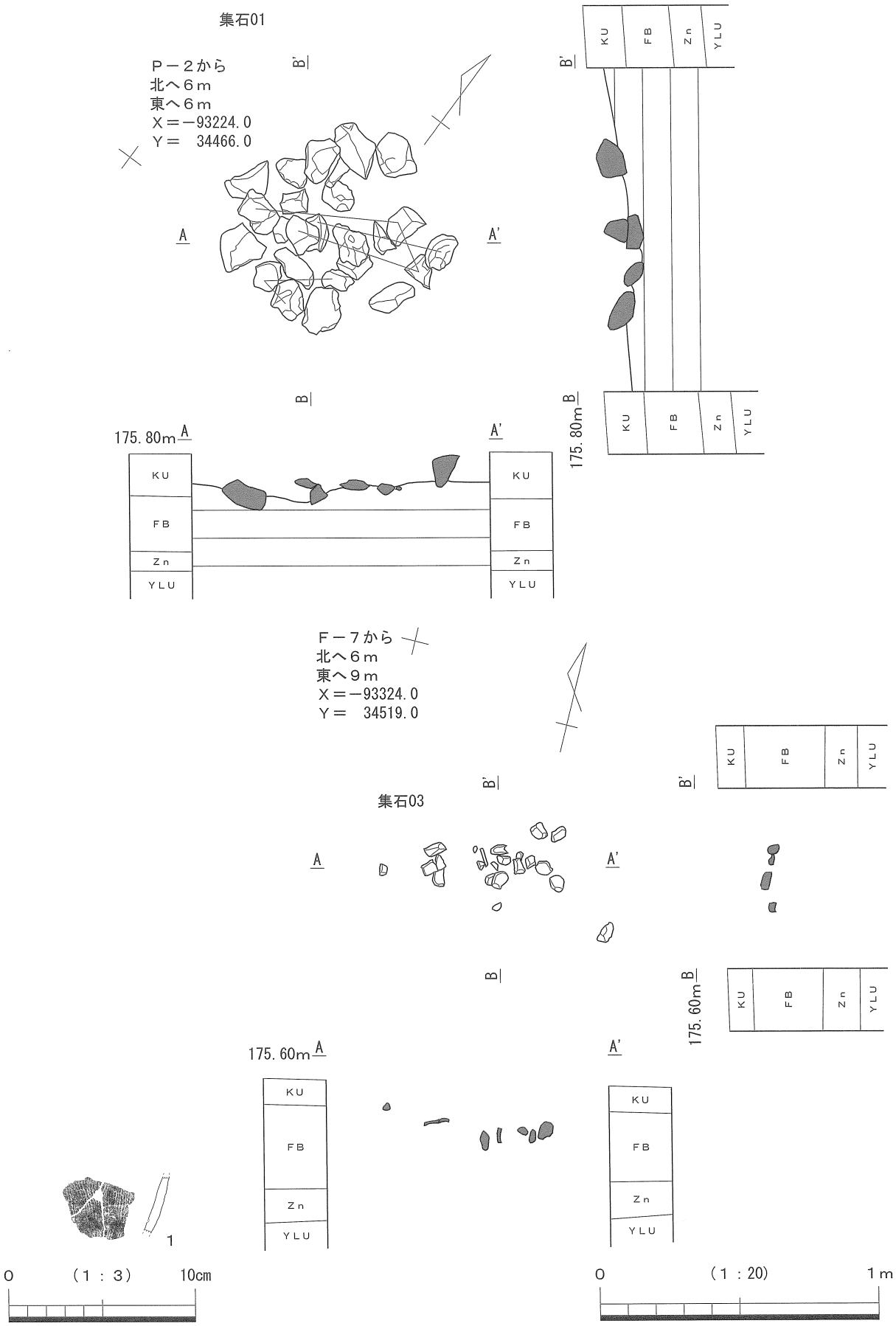
７層　富士黒土層混合土　あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ２～３mmの炭化物粒、焼土粒が多く混じる。

８層　休場層混合土　あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ２～３mmの焼土粒、炭化物粒が少し混じる。

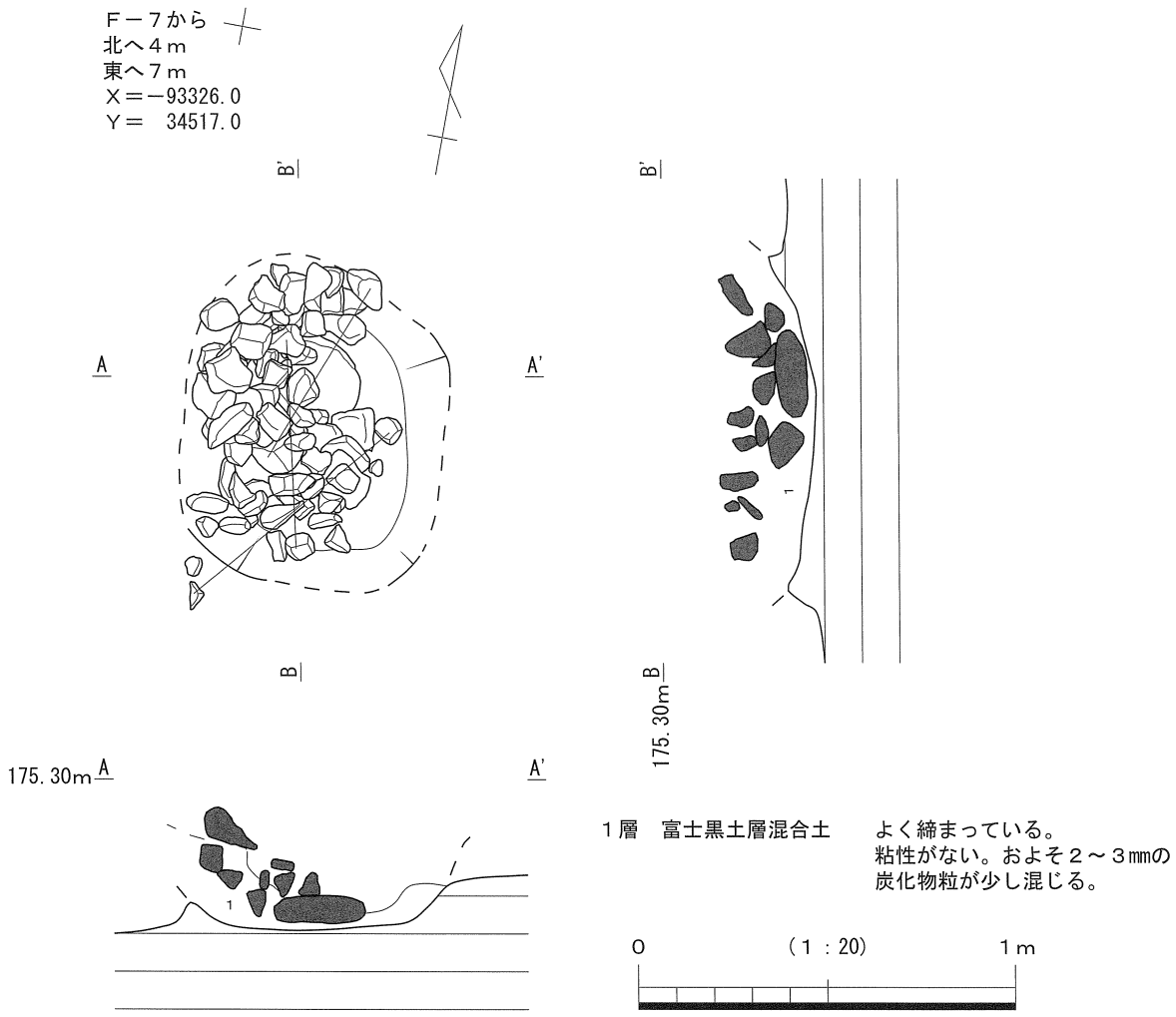
９層　黒褐色土　あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ２～３mmの焼土粒が多く混じる。およそ２mm～５cmの炭化物が混じる。

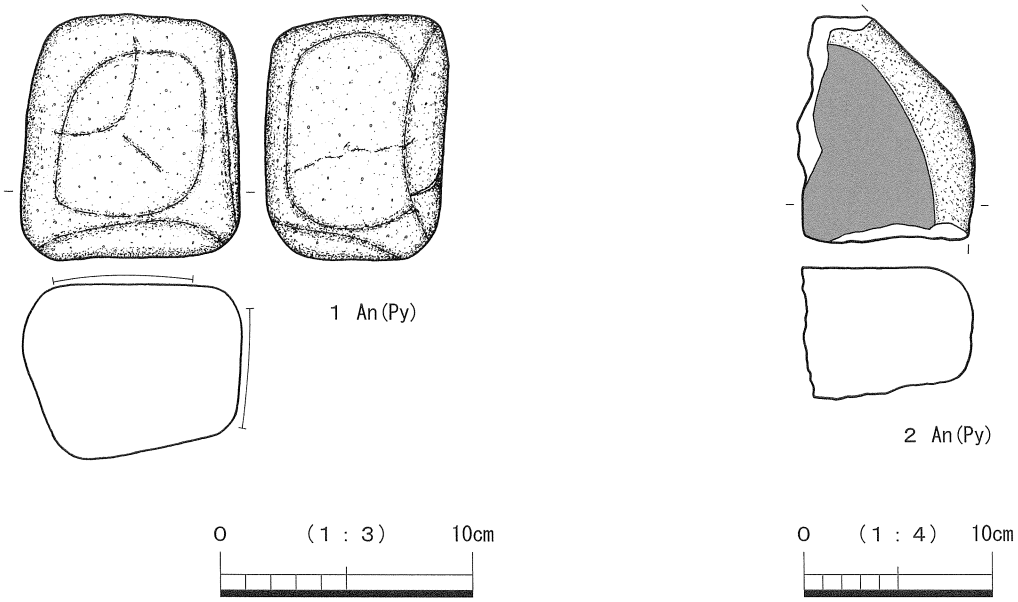
0　（1：40）　1m

第９図　竪穴住居跡05平・断面図、出土遺物



第10図　集石01、03平・断面図、出土遺物





第11図　集石02平・断面図、出土遺物（1：1/3、2：1/4）

（４）集石03（第10図下段）

南北0.65m、東西1.32mの範囲に５㎝程度の礫が散在する。礫の平均重量が39.1ｇと軽いのが特徴である。ほとんどの礫が赤化している。図中に示した撚糸文土器が伴っている。Ｒの撚糸を縦方向に施文している。器壁は分厚い。

（５）集石04（第12図）

漸移層上面で検出した。直径1.16m～1.3m、深さ0.23mの土坑の中に礫が入っている。土坑中の埋土は炭化物の混じった富士黒土層で、土坑下部に行くほど炭化物の量は多くなる。土坑内に火を焚いた痕跡は見られないが、ほとんどの礫が赤化している。

出土遺物を第12図－１～４に示す。１～３はいずれも格子目文土器の小片である。１は格子目文が切り合っている状況が見える。２はネガティブ押型文である。３は整った菱形が並んだ格子目文である。３点とも文様原体が違うので、同一個体の土器ではない。また、４に示した石皿の破片が出土している。表面が磨滅して平坦になっている。破損した石皿を礫として再利用しているのであろう。

（６）集石05（第13図）

竪穴住居跡05が埋没した後、その住居跡の上に作ってある。直径1.24m～1.26m、深さ0.49mの土坑の中に礫が入っている。土坑内埋土は炭化物を含んだ黒色土で、下に行くほど炭化物の量は増える。土坑の断面は逆台形をしており、土坑内に礫を詰め込んだような状態である。礫の総点数は237点で、今回調査した集石の中では最多である。平均重量も1066.1ｇと重いのが特徴である。埋土中に炭化物は含むが、焼土を含まないことから、土坑内で火を焚いたとは思えないが、ほとんどの礫が赤化している。礫の接合は土坑内だけでなく、土坑外の礫とも接合している。遺物は出土していない。

（７）焼土土坑01（第14図上段）

休場層上層の上面で検出した。長軸0.64m、短軸0.55m、深さ0.15mの土坑である。平面形は楕円形で、埋土は焼土の粒を多く含んだ富士黒土層と同じく焼土の粒を多く含んだ休場層である。遺物は諸磯ｂ式土器と撚糸文土器の小片が出土している。土器の時期から考えれば、この土坑は縄文時代前期、諸磯ｂ式の時期ということになる。

（８）焼土土坑02（第14図下段）

休場層上層の上面で検出した。直径0.45m～0.58m、深さ0.12mの円形の土坑である。埋土は焼土の粒を多く含んだ富士黒土層と同じく焼土の粒を多く含んだ休場層である。遺物は出土していない。

（９）焼土土坑03（第15図上段）

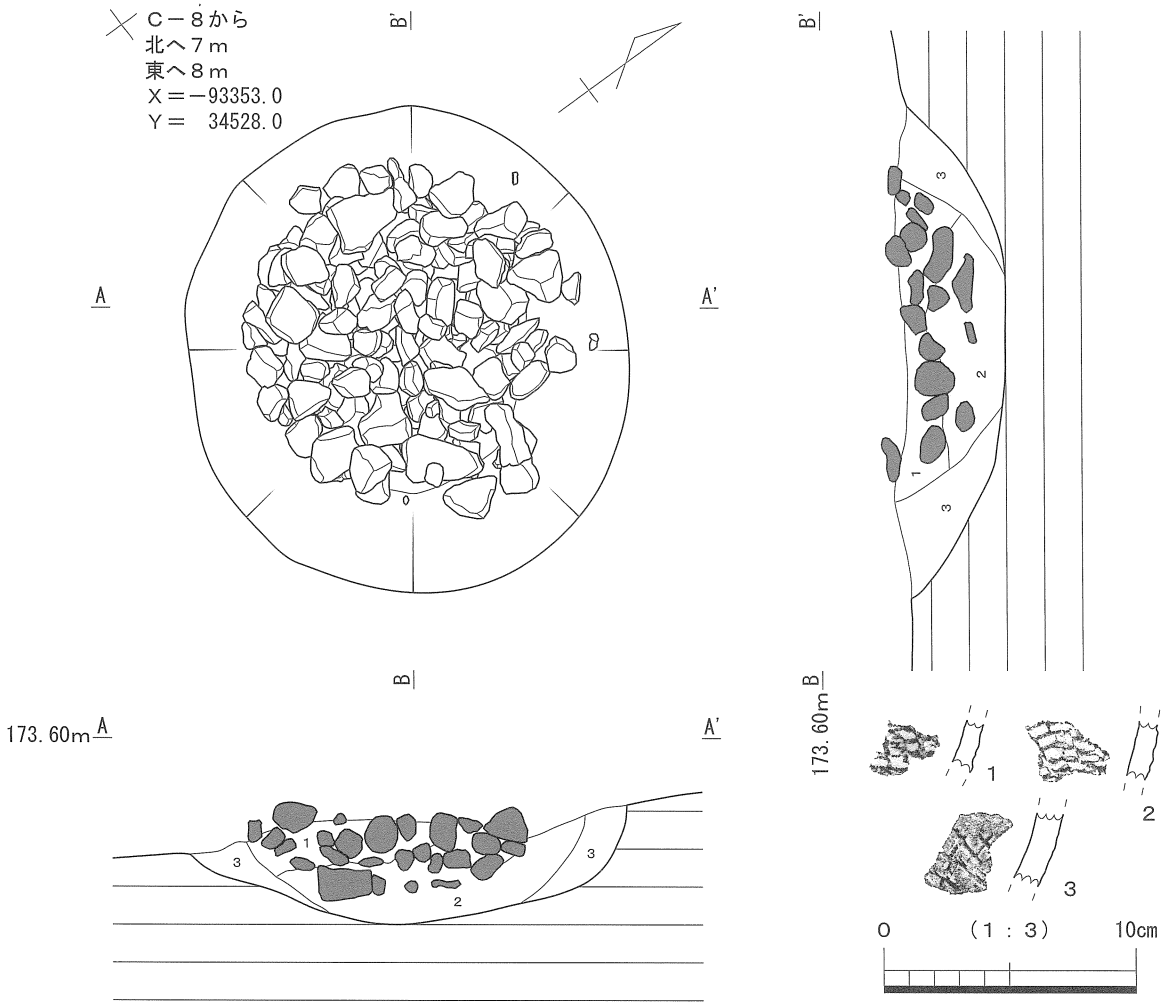
休場層上層の上面で検出した。長軸1.72m、短軸0.55m、深さ0.29mの歪んだ楕円形の土坑である。埋土は焼土を多く含んだ休場層である。検出面と埋土から考えると旧石器時代の可能性もあるが、後述するように、周辺で縄文土器が出土しているため、縄文時代の土坑として報告する。

（10）焼土土坑03周辺遺物分布域（第15図下段）

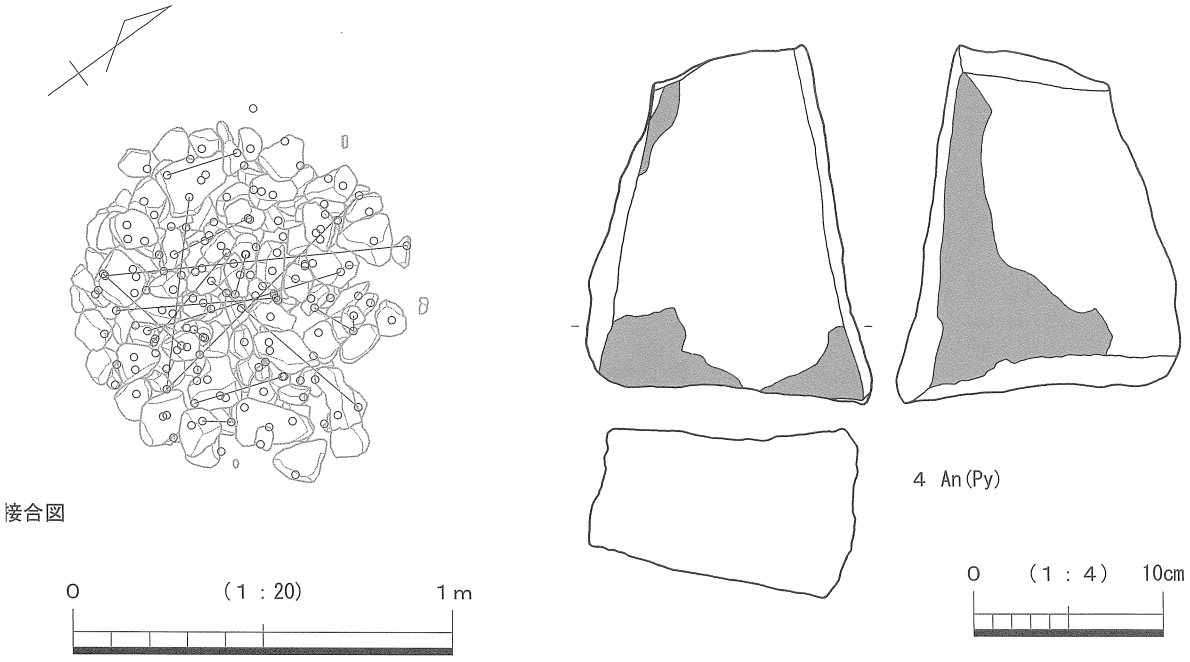
焼土土坑03の周辺では、縄文時代早期の遺物が集中して出土した。出土層は富士黒土層を中心に、その上層の栗色土層から、富士黒土層の下層にある漸移層まで及んでいる。出土した遺物を第16図に示す。土器は撚糸文土器と押型文土器、早期の縄文土器が出土している。

１～４は撚糸文土器である。１は、Ｒ撚りの撚糸が交差している。２はＲ撚りの撚糸を縦方向と斜め方向に施文して交差させている。３もＲ撚りの撚糸を縦方向に交差させるように施文している。４もＲ寄りの撚糸を縦方向に交差させるように施文している。１～４の撚糸文土器は、別個体であるが、Ｒ撚りの撚糸文を交差させる特徴がある。いずれもイラウネ段階と考えられる。

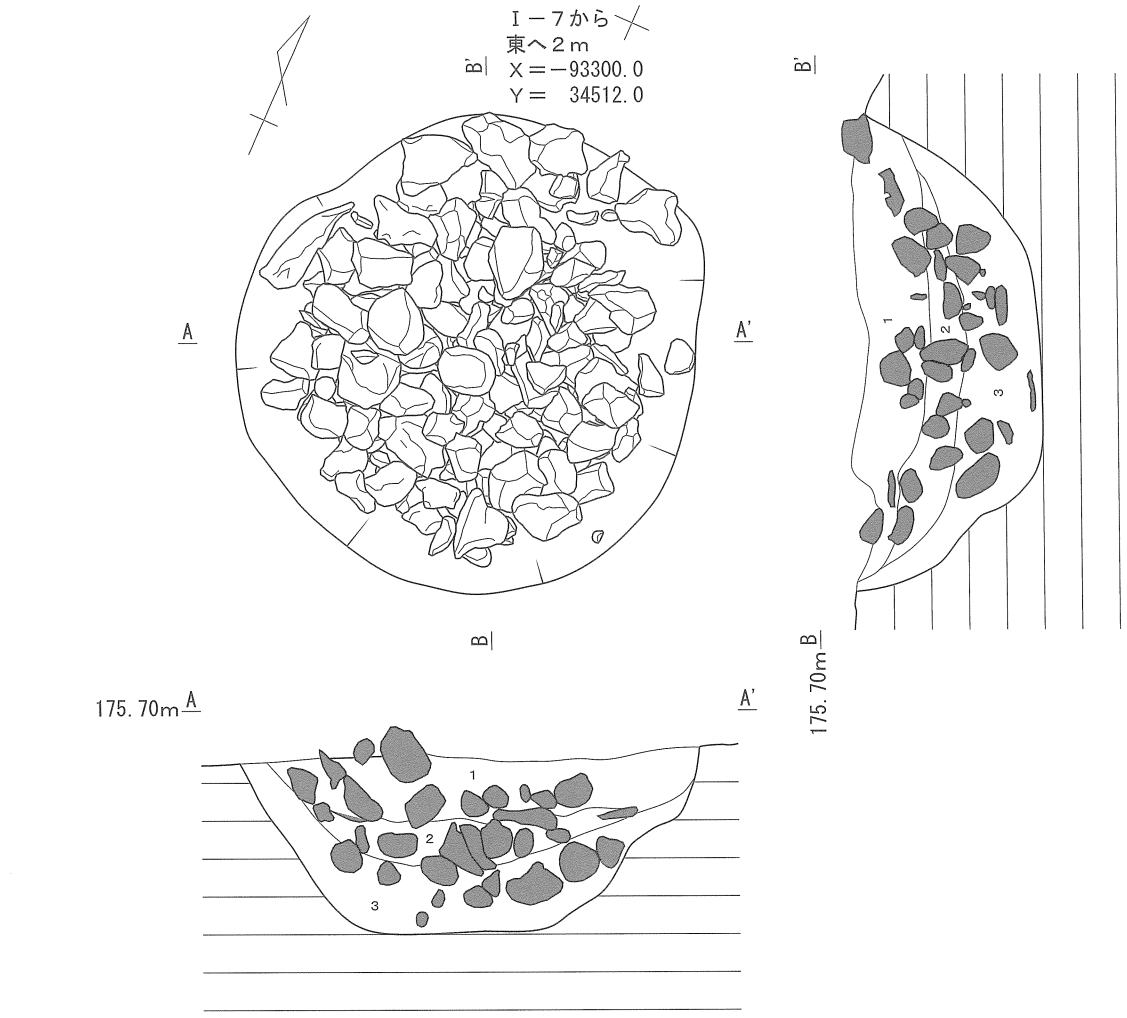
５～８は格子目文土器である。５は格子目文土器と思われるが、格子が不規則で乱れた印象を受ける。６は長方形が規則正しく並んだ印象の格子目が入っている。

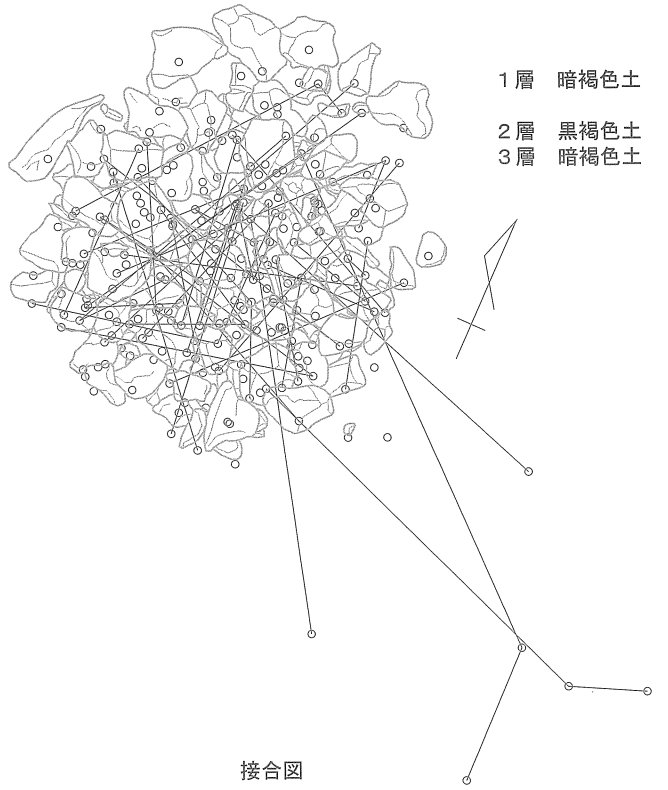


1層　黒褐色土　　あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ5mm～1cmの炭化物粒が多く混じる。
2層　黒色土　　あまり締まっていない。粘性がなく、非常に粗い。およそ5mm～2cmの炭化物粒が多く混じる。
3層　黒色土　　あまり締まっていない。粘性がなく、粗い。およそ1～2cmの炭化物粒とおよそ2～3mmの休場層土粒が多く混じる。



第12図　集石04平・断面図、出土遺物（1～3：1/3、4：1/4）



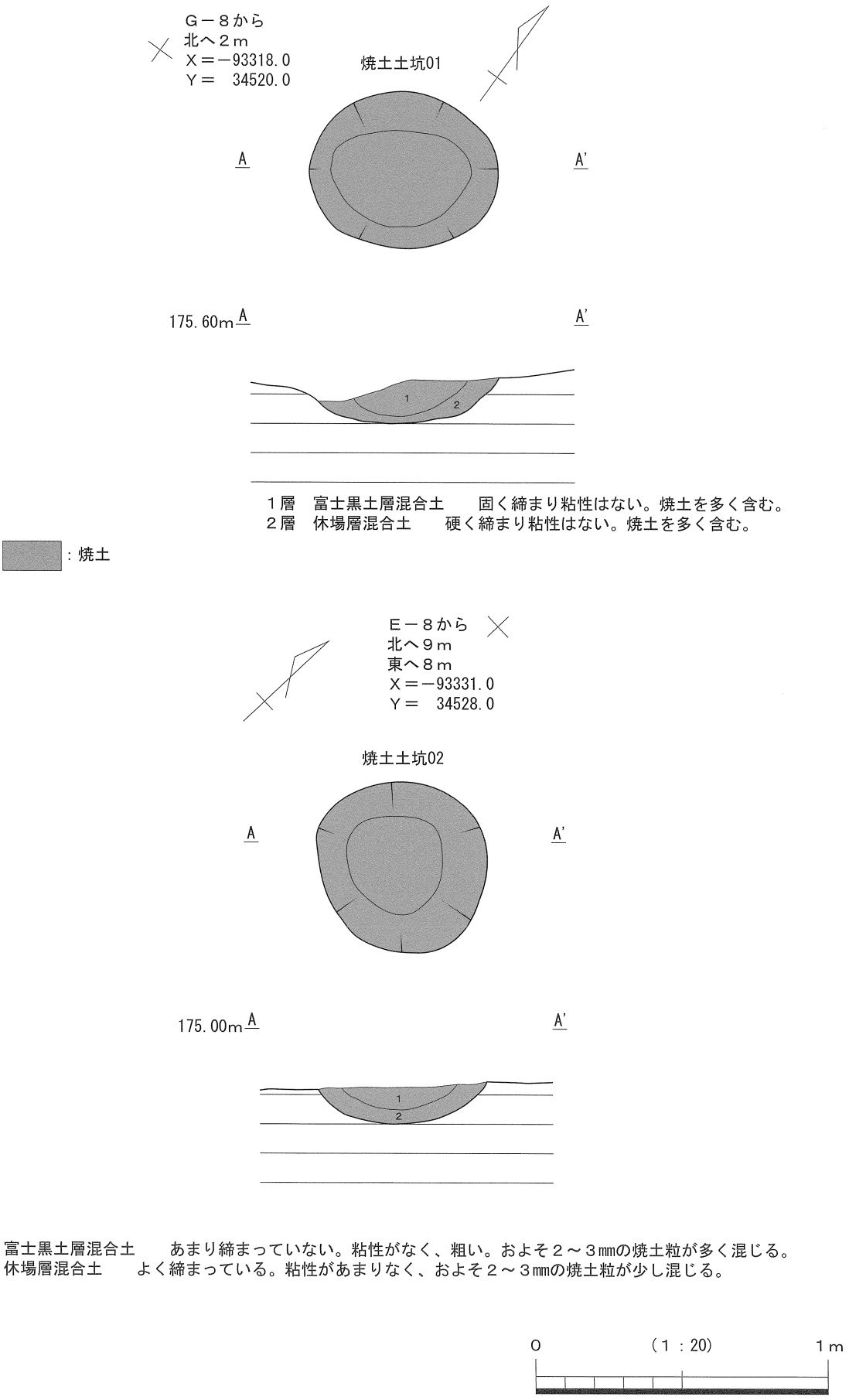


接合図

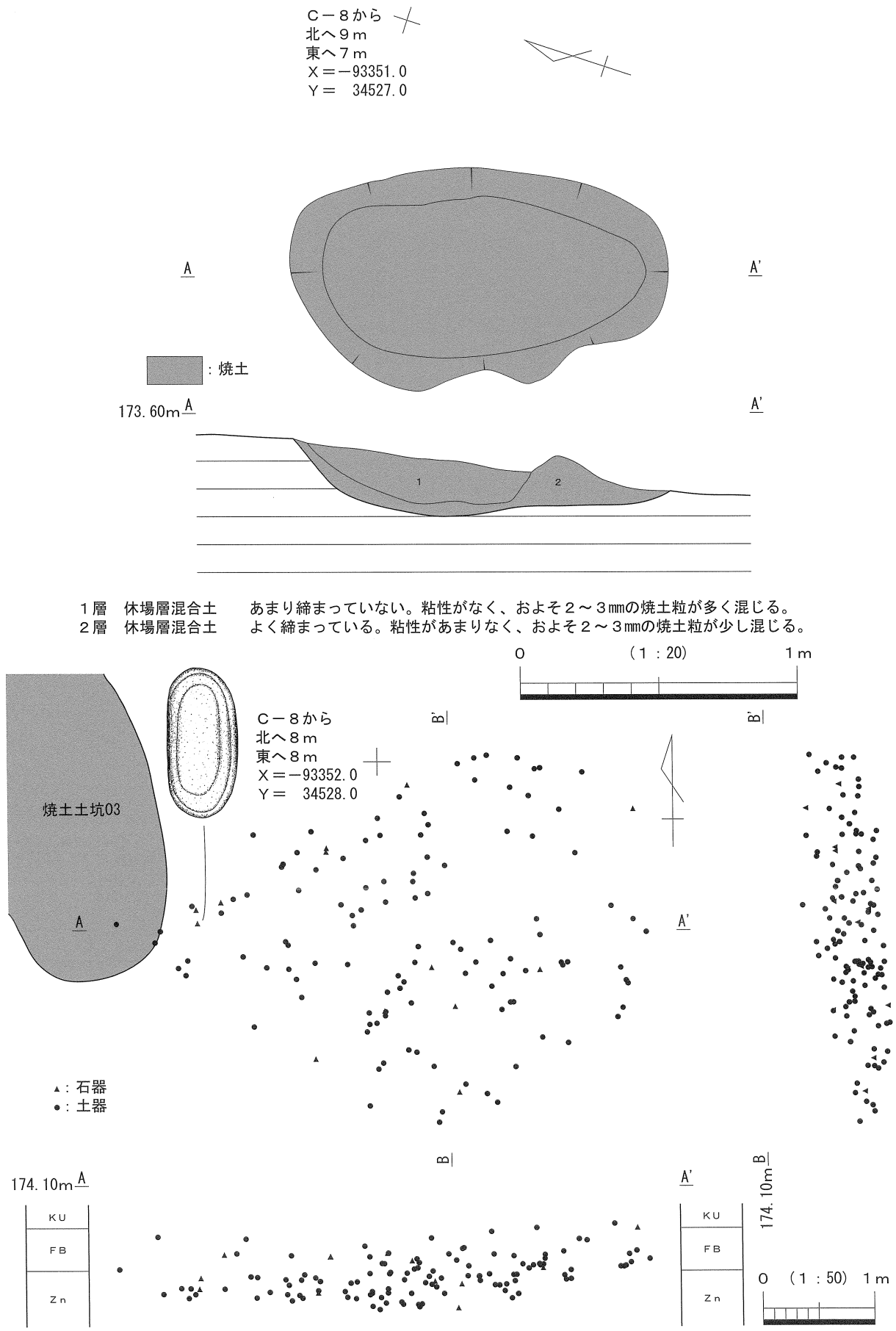
1層	暗褐色土	あまり締まっていない。粘性がなく、やや粗い。 およそ2～3㎜の焼土粒と炭化物粒が少し混じる。
2層	黒褐色土	あまり締まっていない。粘性がなく、やや粗い。
3層	暗褐色土	あまり締まっていない。粘性がなく、やや粗い。 およそ2～3㎜の焼土粒と炭化物粒がわずかに混じる。

0 (1：20) 1m

第13図　集石05平・断面図



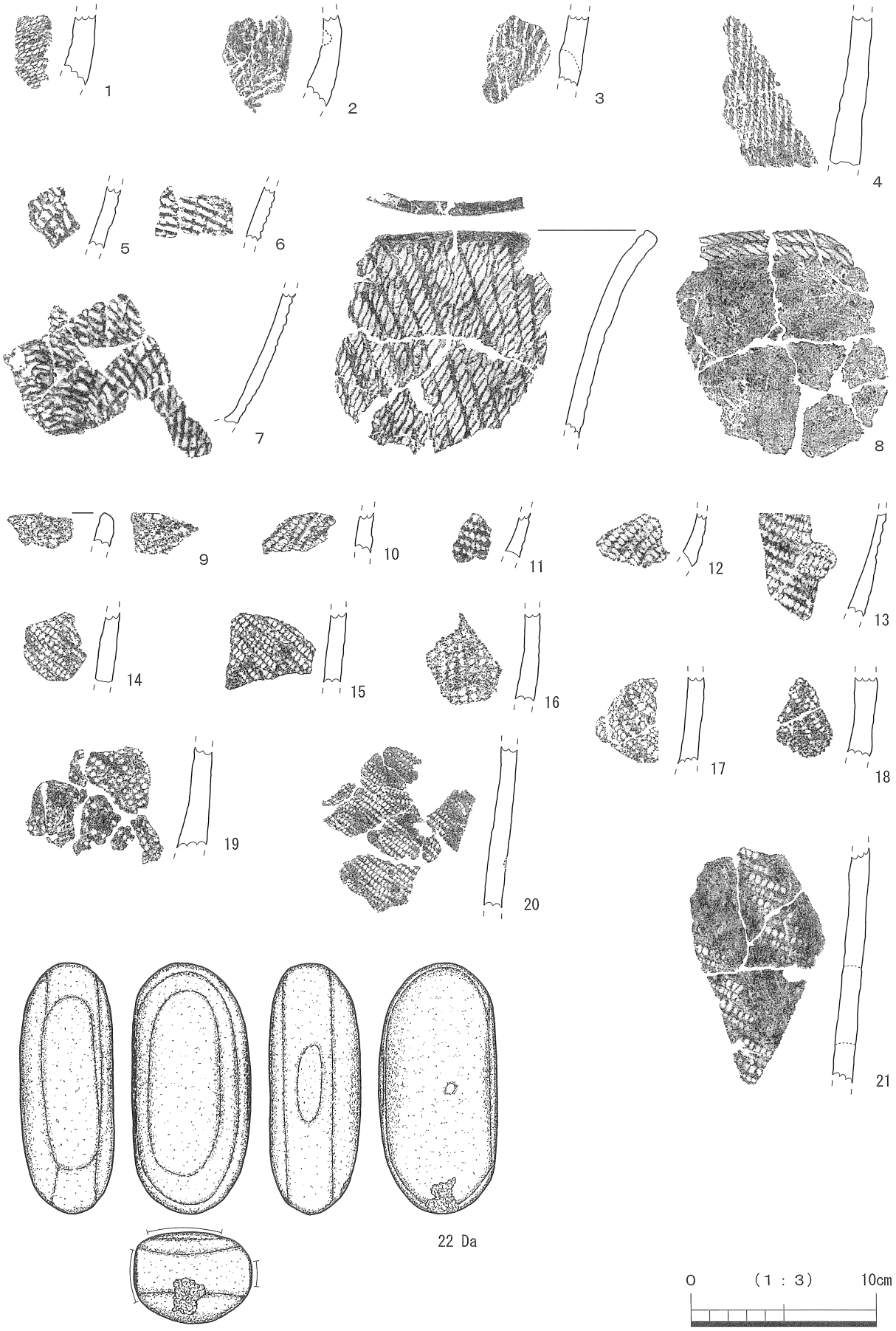
第14図　焼土土坑01、02平・断面図



1層　休場層混合土　　あまり締まっていない。粘性がなく、およそ2～3mmの焼土粒が多く混じる。
2層　休場層混合土　　よく締まっている。粘性があまりなく、およそ2～3mmの焼土粒が少し混じる。

0 (1：20) 1m

第15図　焼土土坑03平・断面図、周辺遺物分布図



第16図　焼土土坑03周辺出土遺物

７は底部に近い部分の破片で、長方形が規則正しく並んだ感じの格子目文が入っている。８は口縁部を面取りした後、外面一面に格子目文を入れている。内側の口縁部直下にも格子目文が入っている。格子目の文様は一見して特徴的である。これらの格子目文土器はいずれもイラウネ段階であろう。

９～21は縄文土器である。９は口縁部の破片で口縁端部を面取りした後、外面にLRの縄文を施文してある。10と11はRLの縄文を施文してある。12はLRの縄文を施文してある。13はLRの縄文を施文した後、なでて調整してある。14と15、19はLRの縄文、16と17はRLの縄文を施してある。14～17、19は、大きさの割に軽く、滑らかな手触りの胎土に特徴がある。18はLRの縄文を施してあるが、縄目がまばらなため、縄文を回転させているのか疑問である。20はRLの縄文を施文しているが、施文がまばらである。胎土は軽しょうな胎土である。21はRLの縄文を施文しているが、施文間隔が広く開いているため、かなりまばらな印象を受ける。これも軽しょうな胎土を使っている。

22はデイサイトの円礫を使った磨き痕と敲打痕のある石器で、表面に磨き痕、端部に敲打痕がある。

(11) 焼土土坑04（第17図）

漸移層上面で検出した直径0.55m、深さ29cmの土坑である。埋土は焼土を多く含んだ富士黒土層と休場層上層である。埋土の上層から第17図－１の石皿が出土している。

(12) J7グリッド周辺出土遺物（第18図、第19図、第24図）

J7グリッド付近に遺物の集中が認められたため、遺構ではないが、遺物集中域として扱った。出土した土器を第18図と第19図に載せたが、撚糸文土器、押型文土器、下吉井式、諸磯ｂ式と複数時期に渡る土器が出土しているため、一括遺物ではない。

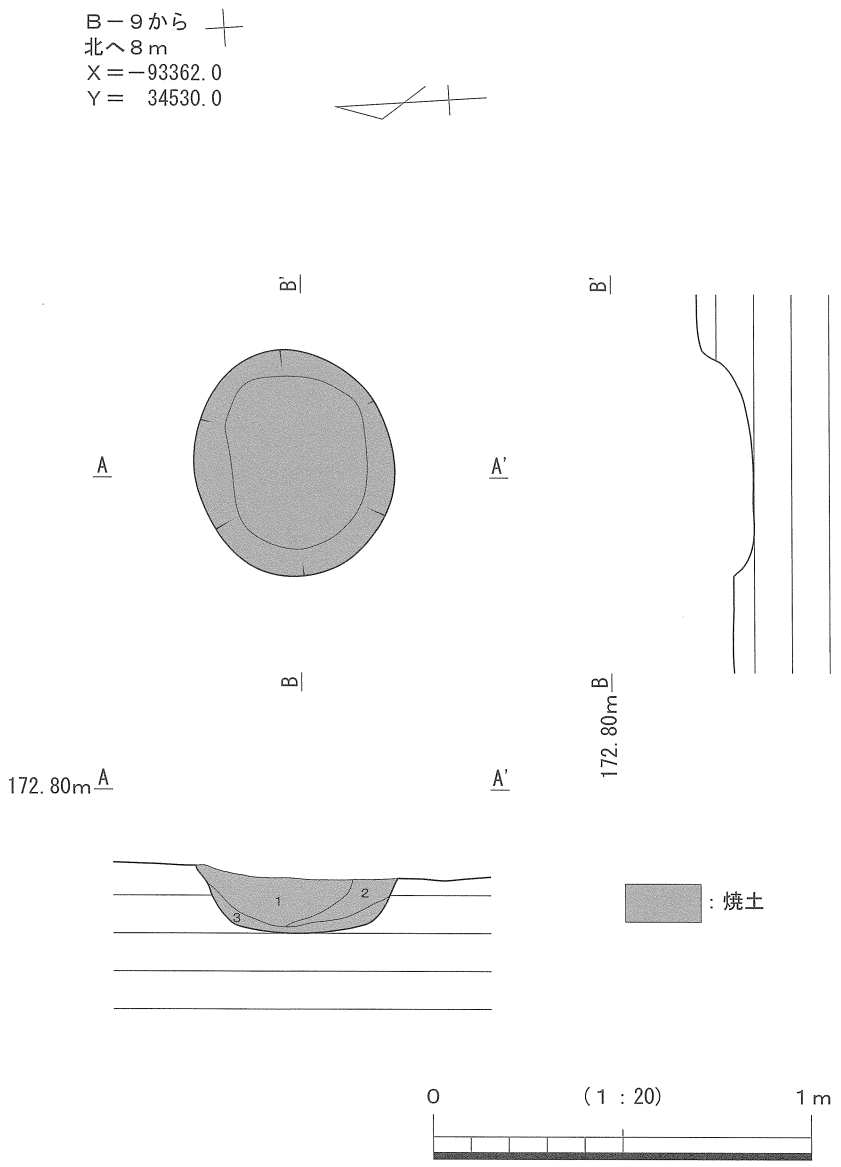
第18図－１、２は撚糸文土器で、１はＲの撚糸を斜め方向に施文してある。２はＬの撚糸を斜め方向に施文した後、表面をなでているため、表面の粘土が撚糸文の上にはみ出している部分がある。これによって、拓本では撚りの方向を表現できなくなっている。いずれも西洞～イラウネ段階の土器である。

３～７は楕円文土器である。３は口縁部の破片で、口縁直下に楕円文を施文してあるが、楕円が不鮮明である。４は口縁部の破片で、口縁端部が外反する特徴がある。これも楕円が不鮮明である。５は小片だが、楕円文が切り合っている状況が見える。６と７は楕円の形が崩れており、配列も不規則になっているのがわかる。

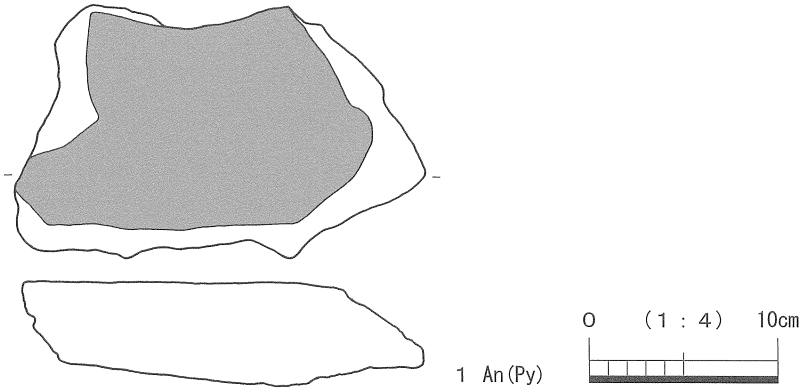
８～11は条痕文土器で、11は野島式である。８～10は条痕調整の後、表面をなでている。11は、条痕調整の後、沈線を引いている。

第19図－１～５は縄文を施文してある。１は、口縁端部を面取りしてあり、外面と内面の口縁直下にLRの縄文を施文してある。縄目の間隔が広い特徴があり、胎土は軽しょうな胎土である。２はRLの縄文を施文しているが、これも縄目の間隔が開いており、軽しょうな胎土を使っている。１、２ともにイラウネ段階に属する。３～５はRLの縄文を施文した後、表面をなでているため、縄目が消えかかっていたり、縄目の縁が丸みを帯びたりしている。これらもイラウネ段階である。

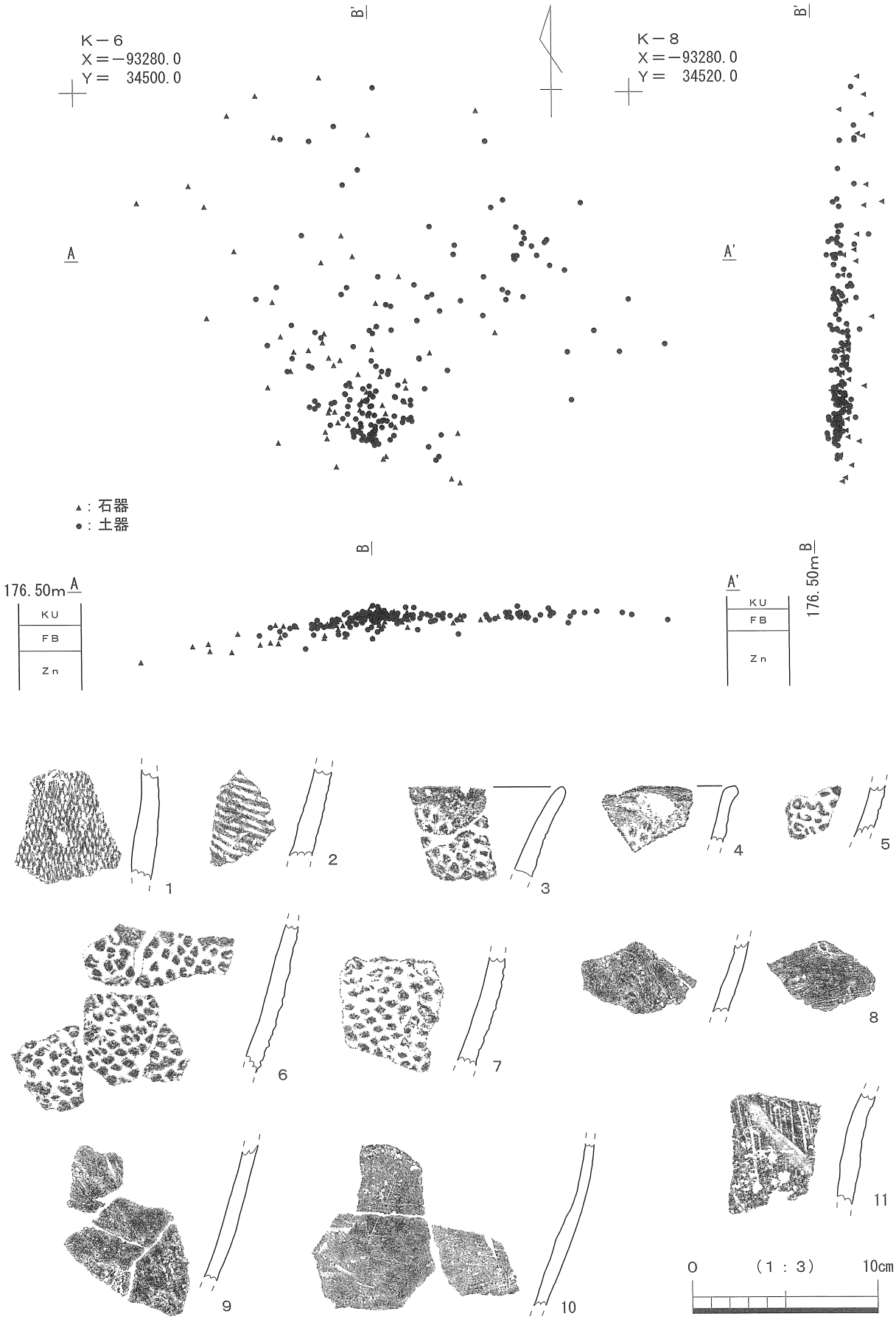
６～12は下吉井式である。６は条痕による調整が見られるだけだが、７～12と同じ胎土のため、下吉井式に含めた。７と８は、口縁端部に半円形の棒状工具を斜めに押し当てて施文している。胴部は条痕の後、浮線文を貼り付け、浮線文の両脇を棒状工具でなでて浮線文を固定している。そして最後に、浮線文の上に棒状工具を斜めに押圧している。９は、条痕調整の後浮線文を波状口縁の直下に口縁に沿って貼り付けている。そして、胴部にも横方向に浮線文を貼り、波状口縁から垂下させた浮線文を胴部横方向の浮線文に連結し、口縁直下の浮線文と胴部横方向の浮線文、波状口縁から垂下する浮線文、この３つの浮線文で文様帯を区画している。浮線文は、両脇をなでて固定してあり、浮線文の上には半円形工具の端部を押圧した刺突文がある。浮線文の両脇をなでて浮線文を固定。口縁端部にも半円形工具の端部を押圧。胴部横方向の浮線文の下には、条痕調整の後に貝殻腹縁文の施文が見られる。



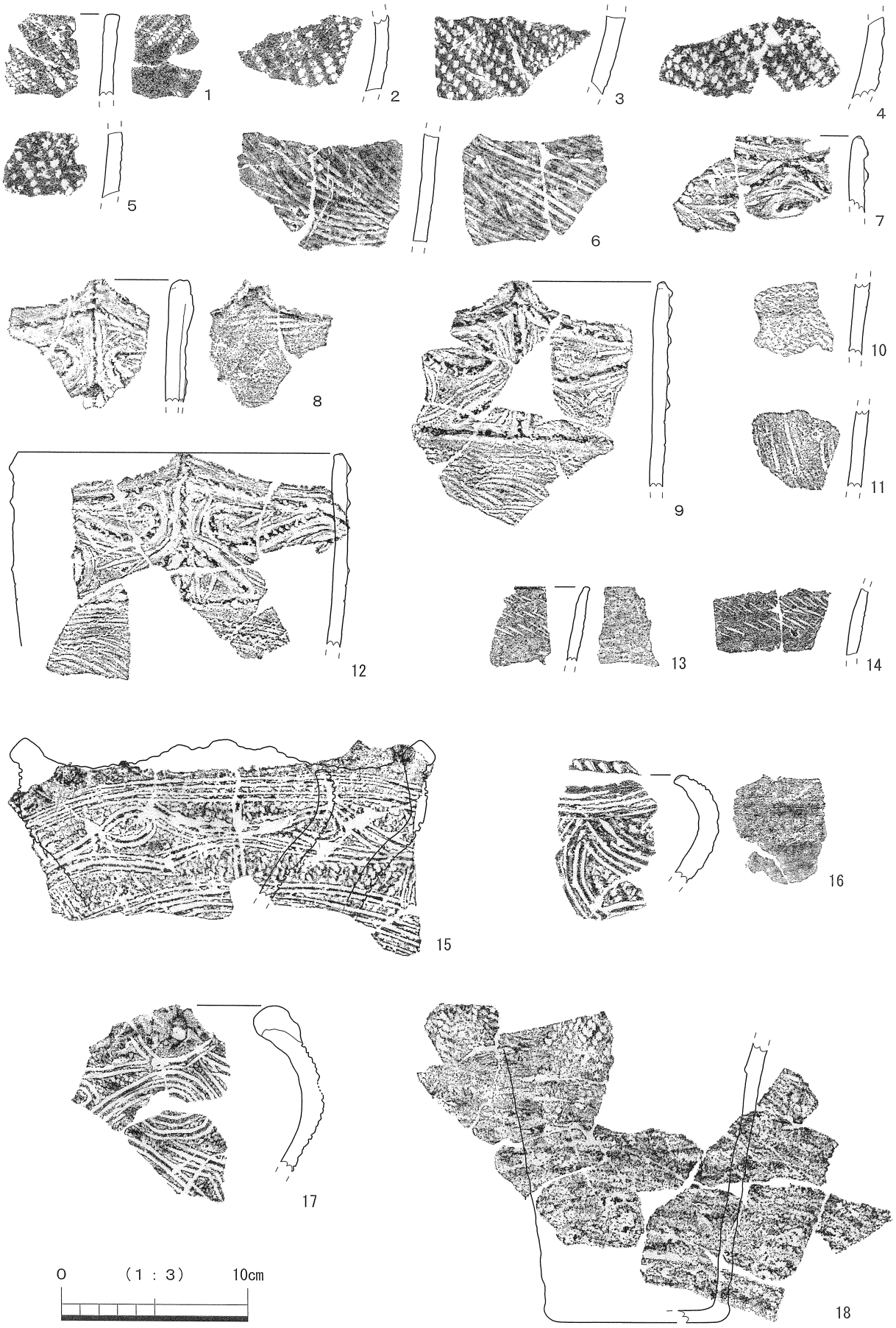
１層　富士黒土層混合土　　よく締まっている。粘性がなく、およそ２～３mmの焼土粒が混じる。
２層　富士黒土層混合土　　よく締まっている。粘性がなく、およそ２～３mmの焼土粒が多く混じる。
３層　休場層混合土　　よく締まっている。粘性があまりなく、およそ２～３mmの焼土粒が少し混じる。



第17図　焼土土坑04平・断面図、出土遺物



第18図　J7グリッド周辺遺物分布図、出土遺物（1）



第19図　J7グリッド周辺出土遺物（2）

10は表面に貝殻腹縁文を施してある。11には条痕による調整が見られる。10、11とも９と同一個体と思われる。12は波状口縁で、口縁の端部に半円形の棒状工具を押圧してある。そして、波状口縁の突起から垂直に浮線文を降ろした後、口縁直下に、口縁と平行に浮線文を貼り、浮線文と口縁端部の間をなでて浮線文を固定している。浮線文の上には半円形の棒状工具の端部を押圧し、胴部には、横方向に浮線文を貼り、その浮線文と口縁の間に浮線文を蕨手状に巡らせて文様を作っている。浮線文でモチーフを作った後は、モチーフの間を細い棒状工具でなでて浮線文を固定すると同時に器面を調整している。浮線文による文様帯の下には、条痕調整の後に貝殻腹縁文を施している。

13と14は清水ノ上Ⅱ式で、外面に棒状工具を使って斜めの連続した押圧がある。

15は諸磯ｂ式で、口縁部は内湾している。口縁は波状口縁で、突出部外面につまみ状の突起が付いている。口縁端部には棒状工具による押圧があり、外面はLR縄文を施文した後、口縁直下に並行竹管文を引き、その下に並行する竹管文でレンズ状文を描いている。さらにその下にも横方向に並行竹管文による文様を描いている。16も諸磯ｂ式で、口縁端部を面取りした後、口縁端部に棒状工具の端部を押圧している。口縁直下には横方向の並行竹管文があり、胴部には、RLと思われる縄文を施文した後、竹管文により曲線の文様を描いている。17は諸磯ｂ式で、口縁部は内湾している。波状口縁で外部につまみ状の突起が付いている。その突起には棒状工具による刺突がある。撚りの方向は不明だが、縄文の後に竹管文で蕨状の文様を描いている。18は諸磯ｂ式の胴部～底部と思われ、RL縄文を施文した後、一部をなでて消している。

第24図－1～４はJ7グリッド付近の遺物集中域で出土した石器である。１は石鏃で、長さが短い割に基部の抉りが深いため、ブーメラン状になっている。２は剥片を使った周縁加工尖頭器で、周縁に45度程の角度の剥離を入れて加工している。主剥離面側には剥片の打瘤を除去したと思われる剥離が見られる。細長い木の葉形できれいな平面形である。３は細長い尖頭器で、４と同じ形態の有舌尖頭器と思われる。４は有舌尖頭器で、基部をわずかに欠損している。

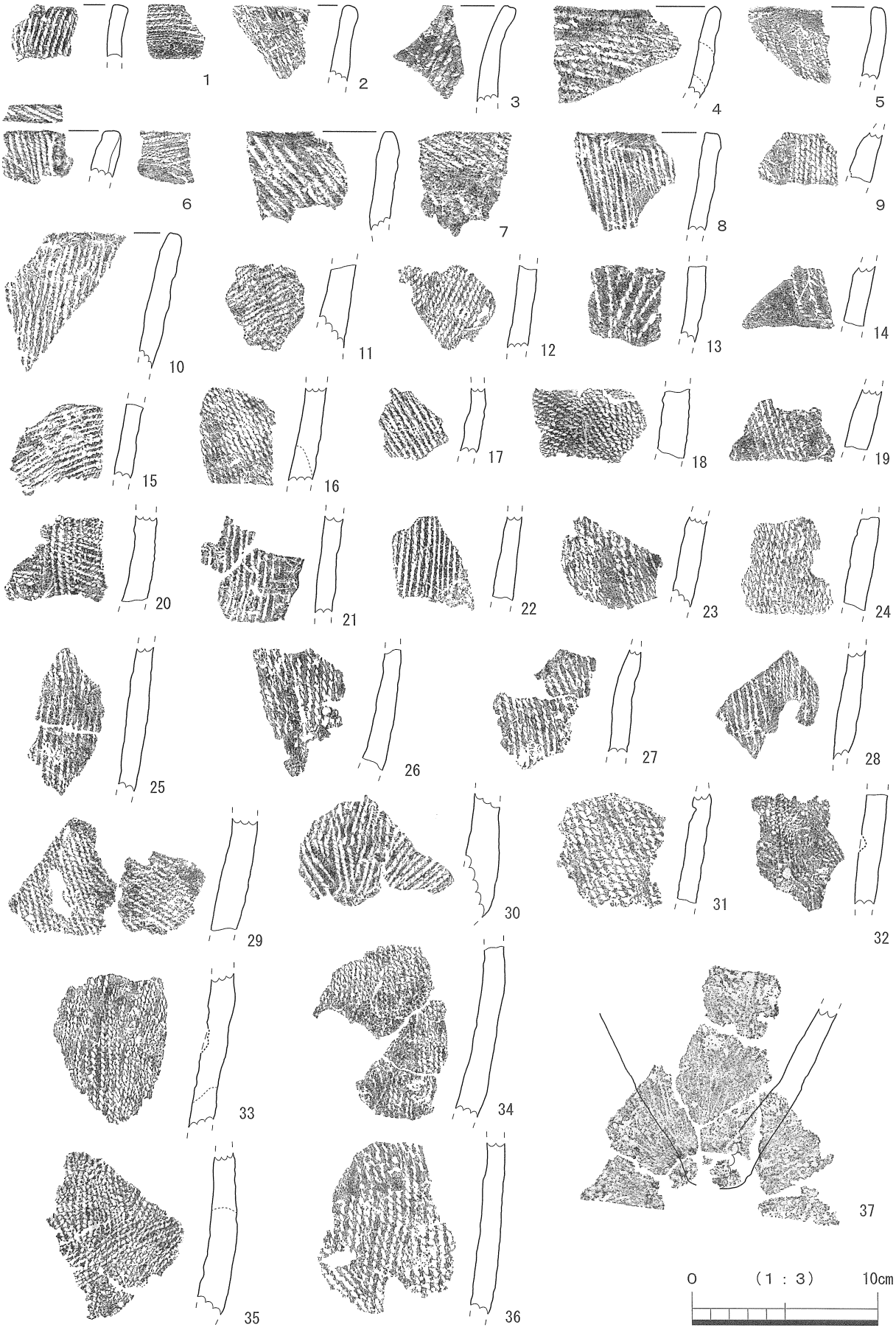
(13) 包含層出土遺物

撚糸文土器（第20図）

第20図に掲載した撚糸文土器は、特記しない限りすべてＲ撚りである。

１は口縁部の破片で、端部を面取りしてある。内面の口縁直下は横方向、外面は縦方向に施文している。２は外面に斜め方向に施文してある。３はＬ撚りの撚糸を斜め方向に施文してある。４は横方向に施文してある。５は縦方向に施文しているが、撚糸の間隔が開いている。６は口縁端部を面取りして、口縁内外面と口縁端部にも施文してある。内外面ともに撚糸の走向が乱れている。７は口縁部の両面に斜め方向に施文してある。８は外面の口縁直下から縦方向に施文してある。９は細い撚糸を縦方向に施文している。10は斜め方向に施文している。11は斜め方向に施文しているが、施文方向が異なる部分が見られる。12は斜め方向に施文して交差させているようだが、撚糸の間隔が開いている。13は撚糸の間隔がかなり開いており、まばらな印象を受ける。14は斜め方向に施文しているが、撚糸の間隔は広い。15は斜め方向に密接に施文している。施文後なでているため、一部で文様が消えかかっている部分がある。16は走向が乱れる特徴がある。17は斜め方向に施文している。

18はＲ撚りの撚糸を斜め方向に施文している。19は斜め方向に施文している。20は縦方向施文と横方向施文が混じる特徴がある。21は縦方向に規則正しく並行に施文している。22は縦方向に施文した後に表面をなでている。23は斜め方向に密接した撚糸文が見られる。24は縦方向に施文しているが、一部で原体の当たりが弱く、文様がはっきりしない部分がある。25と26は走行が乱れて撚糸文が交差する特徴がある。27は縦方向に施文しているが、撚糸の間隔が不規則な部分が見える。28と29は走行が乱れる特徴がある。



第20図　縄文時代包含層出土遺物（1）

30は斜め方向に交差した撚糸文が見られる。31は斜め方向に施文している。32は縦方向に施文しているが、一部で交差が見られる。33は細い撚糸を使っており、一部で交差が見られる。34は走行が乱れて撚糸文が交差する典型的な例である。35も異なる走向の撚糸文が交差している。36は走行が乱れ、撚糸文が交差しており、さらに施文後に表面をなでているため、文様が不鮮明になっている。37は不鮮明ながら縦方向にまばらな撚糸文が見られる。器壁が厚い特徴がある。

以上の撚糸文土器は、すべて西洞段階～イラウネ段階に入る。

押型文土器（第21図－１～12）

１は山型文土器で、イラウネ段階に属する。この遺跡では山形文は少ない。２～４は楕円文土器である。いずれも胎土に繊維を含んでおり、文様の楕円の形が崩れている。細久保式と高山寺式の間に位置づけられる。５～12は格子目文土器で、いずれもイラウネ段階に位置づけられる。

田戸下層式土器（第21図－13）

13は、横方向に並行する２本の沈線で文様帯を区画し、上の区画には、横方向に貝殻腹縁文を入れ、その下の区画には、横方向に並行する細い沈線を入れている。さらにその下の区画には細い沈線と貝殻腹縁文の両方が見られる。

茅山下層式並行の土器（第21図－14）

14は、口縁部に盃状の突起が付いている。皿状突起の外縁には、棒状突起の押圧が見られるが、外側の外縁には円形棒状工具の端部を押圧しているのに対して、内側の外縁には、棒状工具の側面を押圧している。胴部外面はLR縄文を施文した後、口縁直下に並行する２本の太い沈線を入れている。胴部には並行する２本の太い沈線を格子目状に施文している。文様構成は鵜ヶ島台式に似ているが、沈線の交差部分に刺突がない。

早期末～前期初頭の土器（第21図－15～17）

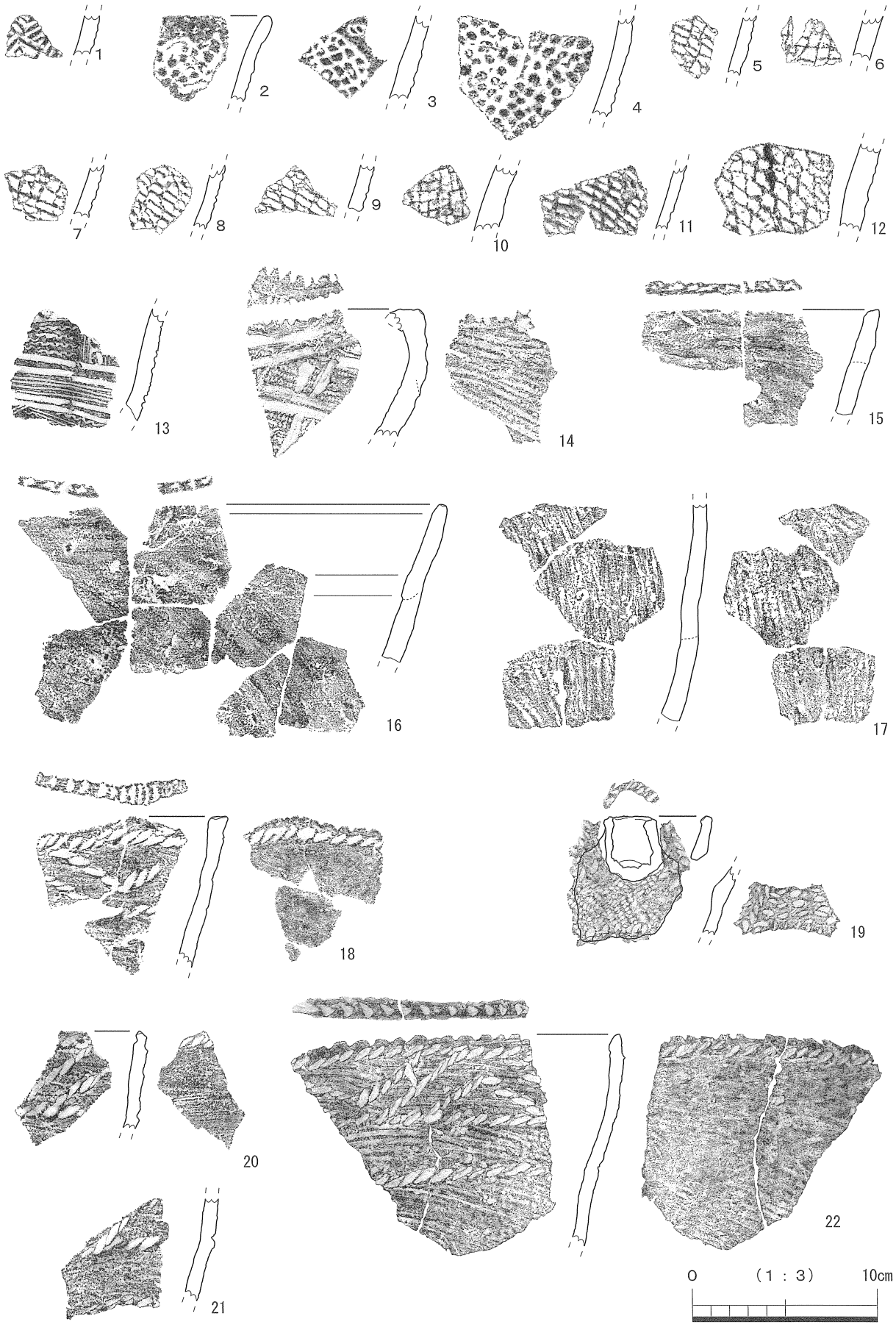
15は条痕文土器で、口縁端部に棒状工具の端部の押圧がある。16も条痕文土器と思われるが、胴部はなでて調整してある。15と同様に口縁端部に棒状工具による連続押圧がある。17は条痕文土器で、両面に条痕が見られる。

八ッ崎Ｉ式土器（第21図－18～22）

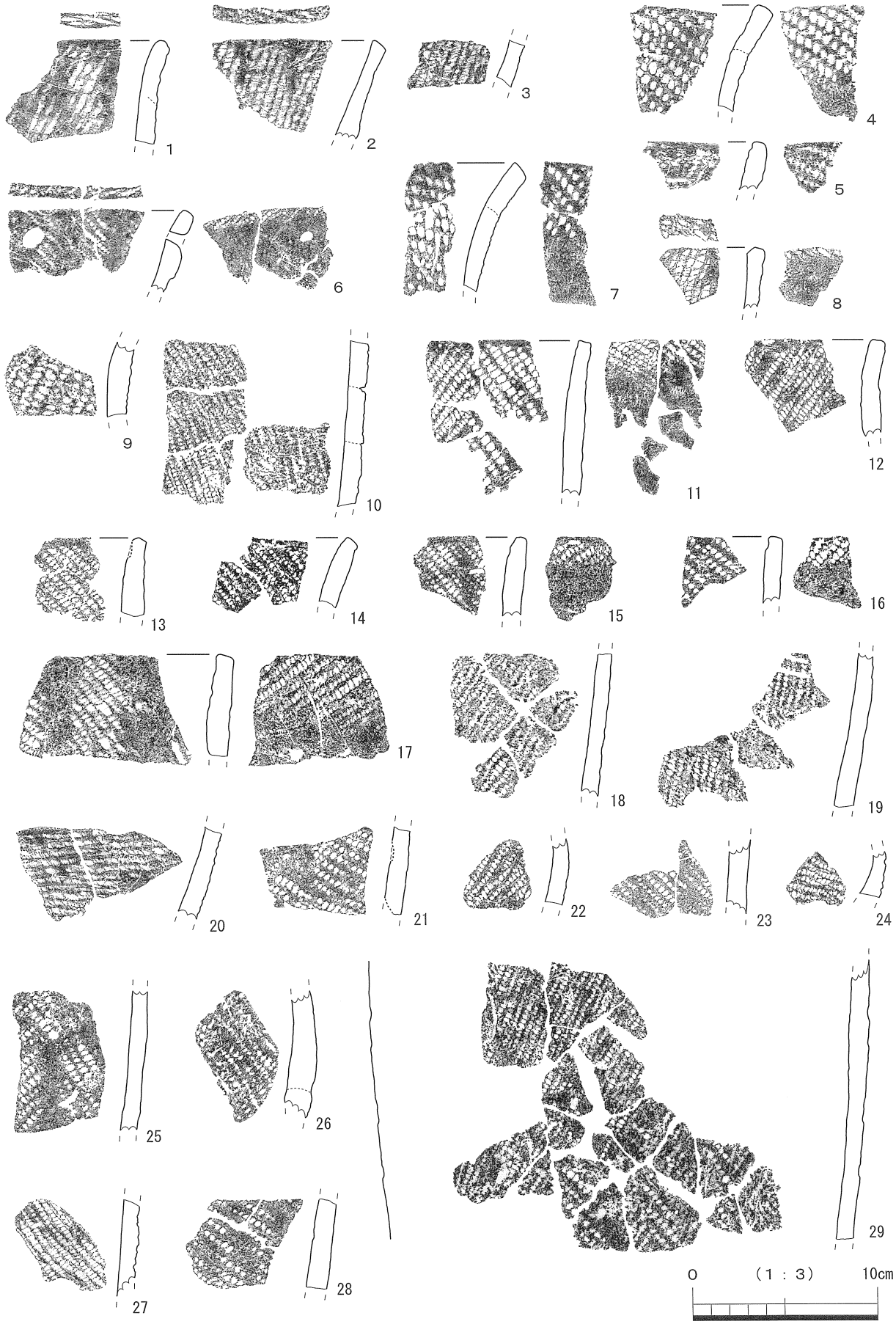
18は波状口縁の端部に棒状工具による押圧がある。胴部は条痕調整の後、口縁に沿って連続爪形文を入れ、その下に並行する２列の爪形文をジグザグに入れている。また、口縁内側にも連続爪形文が見られる。19は、口縁に付けられた中空の突起部分である。突起の内面はなでている。突起の口縁上端と口縁胴部には爪形文が見られる。突起の胴部には縦方向の爪形文、突起の下端には横方向の爪形文が見られる。土器の胴部は条痕調整の後、爪形文を施文し、その後に爪形文の間をRL縄文で充填している。20と21は条痕調整の後、爪形文を入れている。20は口縁内側にも爪形文が見られる。22は、口縁端部に棒状工具の端部を押し当てた押圧文がある。胴部は条痕調整の後、口縁直下に１列の連続爪形文、その下に２列の並行する爪形文を入れ、上２列の連続爪形文の間にジグザグの爪形文を入れている。また、内面の口縁直下にも連続爪形文が見られる。

早期縄文土器（第22図）

１はＲの無節縄文を断続的に施文しているため、施文単位間の間隔が開いている。また、口縁端部にも施文してある。２と３はＬの無節縄文を施文しており、２は口縁端部にも見られる。４は口縁部を面取りしてあり、表裏にRLの縄文を施文している。縄文の間隔が広い特徴がある。６と７は口縁端部と口縁直下の表裏にRLの縄文を施文しているが、表面の方は施文間隔が開いている。８は口縁部と口縁直下の表裏面にRLの縄文を施文してある。９はRLの縄文を施文してある。10は縄目の細かいRLの縄文を施文している。11は口縁部を面取りしてあり、口縁部内外面にLRの縄文を帯状に施文している。縄粒の大き



第21図　縄文時代包含層出土遺物（2）



第22図　縄文時代包含層出土遺物（3）

さが違う２種類の縄を使い、胎土は軽しょうである。12は、口縁部を面取りして、外面にRLの縄文を施文している。13は口縁部外面を面取りした後、内面側も面取りしているため、口縁端部が尖っている。口縁直下からRLの縄文を施文している。軽しょうな胎土である。14はRLの縄文を施文しているが、縄文の間隔が広い特徴がある。15～17は口縁部を面取りした後、口縁部の内外面にLRの縄文を施文している。軽しょうな胎土である。18はLRの縄文を施文した軽しょうな胎土の土器である。19はLRの縄文を施文した後に沈線を引いているのが見える。20にはＬの無節縄文が見られる。

21～24、26、27はLRの縄文を施文してあり、胎土は軽しょうである。25はLRの縄文を帯状に施文している。28はLRの縄文を施文してあるが、縄目の間隔が広く開いており、回転して施文したのか疑問である。29はRLの縄文を帯状に施文している。以上の縄文土器はすべて西洞～イラウネ段階に属する。

諸磯ｂ式土器（第23図）

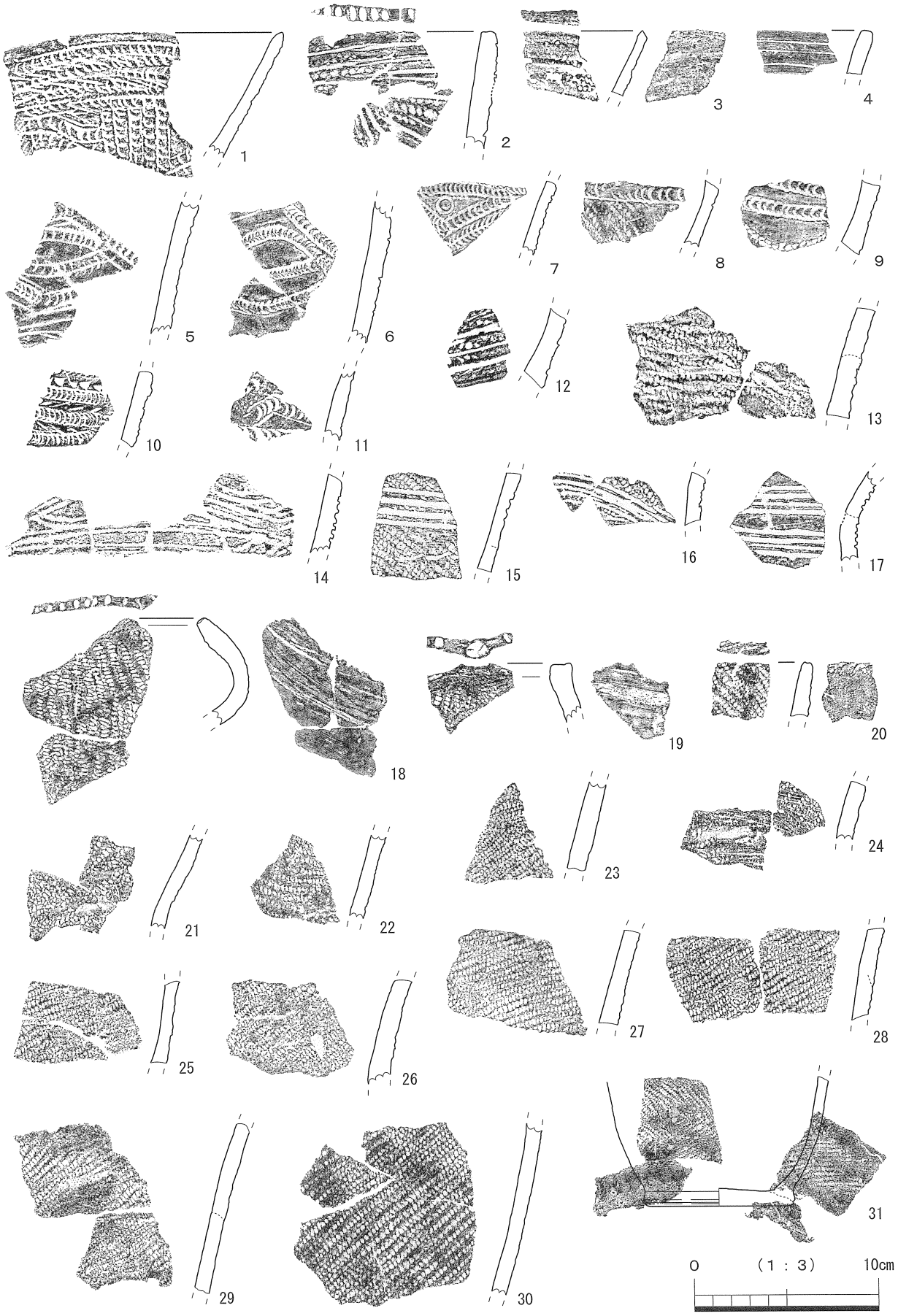
１は口縁部の破片で、口縁部直下には横方向に並行沈線を入れその間に連続爪形文を入れている。竹管でも同様の文様を作れるが、爪形文が沈線の上に重なる部分があることから、沈線と爪形文は別に付けられたとわかる。胴部には縦方向の沈線文の間に爪形文を入れた部分と蛇行する並行沈線文の間に爪形文を入れた部分がある。２は口縁端部面取りの後、棒状工具による押圧がある。胴部にはRLの縄文を施文した後で並行沈線文を入れ、一部には並行沈線文の中に棒状工具の端部による押圧が見られる。

３は口縁部を面取りした後、口縁直下に浮線文を３本貼り、その上にRLの縄文を施文している。４は内外面とも丁寧になでた後に外面に浅く細い沈線を入れている。５と６は、表面を丁寧になでた後に並行沈線でレンズ状の文様を描き、並行沈線の中に爪形文を入れている。ともに並行沈線と爪形文が合っていない部分がある。７は、並行沈線の間にほぼ等間隔で爪形文を入れているが、沈線がなく、爪形文だけの部分もある。また、円形スタンプ文も見られる。８はRLの縄文を施文した後、並行沈線を引き、その間に爪形文を入れている。９は表面を丁寧になでた後、並行沈線文を引き、その間に爪形文を入れている。10は横方向に並行する３列の連続爪形文を入れた後、上から１列目と３列目に、爪形文の後に並行沈線を入れている。そして、並行沈線と爪形文を組み合わせた文様の間には、棒状工具による押圧が見られる。その押圧も、上から１列目は棒状工具端部を斜めに押圧しており、２列目と３列目は棒状工具の側面を斜めに押圧している。11は並行沈線を入れた後、並行沈線の間に爪形文を入れている。

12はRLの縄文を施文した後、表面をなでて縄文を消してから並行沈線を入れている。なでが浅い部分では、消えきらない縄文がわずかに見える。13は表面を丁寧になでた後、蛇行する浮線文を貼り、その上からRLの縄文を施文している。14は地文がなく、並行沈線でレンズ状の文様を描いている。15はRLの縄文を施文した後、横方向に４本の並行する沈線を引いている。16はRLの縄文を施文した後に竹管文を入れている。竹管文が深いため、竹管内面が当たっている。17は丁寧になでた後、横方向に４本一組の並行沈線文を入れている。18は波状口縁で、口縁端部に棒状工具による押圧がある。外面にはLRの縄文を施文し、胴部の張り出した部分は縄文を施文した後、なでて縄文の一部を消している。内面は張り出し部より上は横なで、下はみがき状の丁寧ななでが入っている。19は弱い波状口縁で、波状の突出部に円形の刺突文が見られる。また、口縁端部には棒状工具による押圧もある。20は口縁端部と口縁部両面にLRの縄文を施文してある。

21～30は諸磯ｂ式と思われる縄文の入った胴部の破片である。21は縄文が入り乱れている。22はRLの縄文、23、25～28、30はLRの縄文が入っている。24は条痕調整の後、LRの縄文を施文し、さらに一部をなでているため、縄文が消えかかっている部分がある。29と30もLRの縄文を施文した後、なでているため、一部の縄文が消えかかっている。

31は底部を含む破片で、RLの縄文を施文しているが、施文単位の間隔が開く特徴がある。



第23図　縄文時代包含層出土遺物（4）

石鏃（第24図－５～22）

５～22は石鏃である。５は有茎の石鏃で茎部を欠損している。６～13は基部の抉りが深いものである。６は良質な黒曜石を使っており、加工も細かい。７は先端の加工が細かく、基部の方は大きな剥離が残っている。８は脚部だけが残っている。相当脚部の長い石鏃だったと思われる。９は加工が粗い印象を受けるが、縁辺が鋸歯状に仕上がっているため、これで完成品なのであろう。上下方向からの深い剥離が目立つ。10は平面形がやや崩れているが、加工は進んでいる。11は細かい剥離は入っていないが、平面形は整っており、薄くなっていることから、完成品と思われる。12は良質な黒曜石を使っており、加工も細かい。13は片方の脚部を欠損しているが、残った脚部から見て、脚部の長い石鏃だったと思われる。14～20は基部の抉りが浅いものである。14は細長い剥離が並行しているため、整った印象を与える。15は特に小型である。16は一部に石の目に似た平坦面を残している。加工が進み、相当薄くなっている。17は、加工は粗いが、完成品であろう。18は実測図左面の方が、加工が細かく、実測図右面の方が加工が粗い。19は細かい剥離は入っていないが、完成品である。20は両側縁から細長い剥離を並行して入れており、側縁は鋸歯状に仕上がっている。21と22は平基に近いものである。21は正三角形に近い形で、３辺から平坦剥離を入れている。22は裏面の基部付近に剥片の素材面が残っている。23は先端部の破片で、細長い石鏃か尖頭器のどちらかであろう。

尖頭器（第24図－24～第26図－１）

第24図－24～第26図－１は尖頭器である。24は良質な黒曜石を使っている。第24図－25は横長の剥片を使っており、実測図右面に打瘤を除去した平坦剥離が見られる。実測図左面に平坦剥離が入っているが、まだ厚みが残っている。26は、実測図左面の左側縁から大きな平坦剥離が入っており、これによって全体が薄くなっている。また、実測図右面にも大きな平坦剥離が見られ、これによって、全体を薄く仕上げている。27は平面形が歪んでいるが、右側縁の屈曲した部分は加工時の欠損で、この部分で大きな階段状剥離を起こしているので、これ以上の加工は無理と思われる。

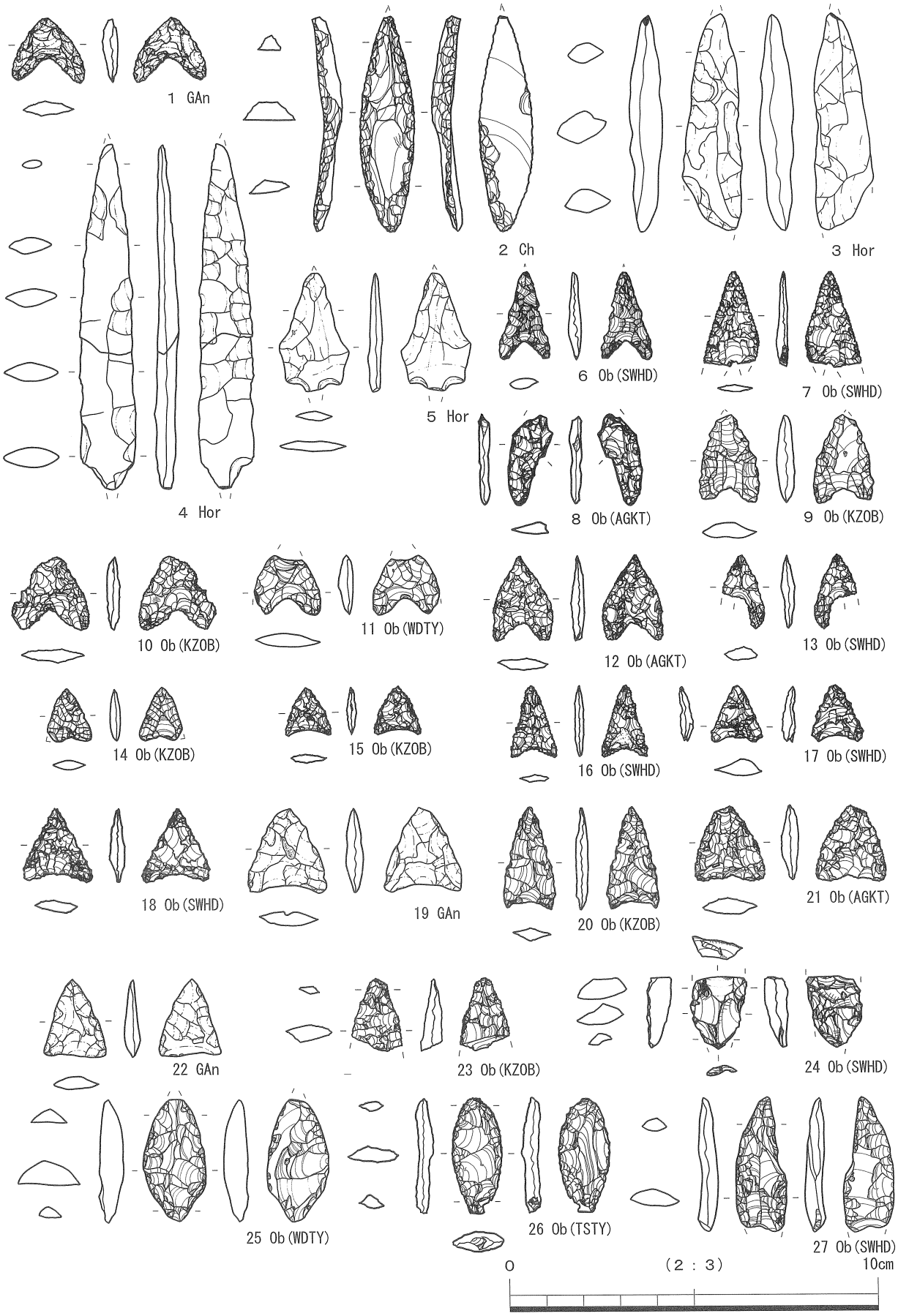
第25図－１は、実測図右面に大きく素材面を残しており、この面では、先端だけ加工してある。２は側面見通し図に表れているように、瘤のように飛び出した部分がある。３は優美な木の葉形である。加工は進んでいるが、器体中央付近に達する平坦剥離は少ない。元々薄い剥片を素材にしているのであろう。４は基部が丸くなる形態である。５は縦長の剥片を使っており、実測図右面に剥片の主剥離面が残っている。６は横長剥片を使っており、両面に剥片の素材面が残っている。加工は粗いが、これ以上加工すると、相当小さくなってしまうため、これで完成品なのであろう。７は、細粒の安山岩製の両面加工で、基部を丸く仕上げる特徴がある。８はチャート製で、尖頭器としては大型である。平面形がやや歪んでいるが、加工はかなり細かく丁寧で、素材面と思われる剥離面は残っていない。完成品と思われる。第26図－１は両側縁から平坦剥離が入っているため、尖頭器の破片と考えた。

石匙（第26図－２～６）

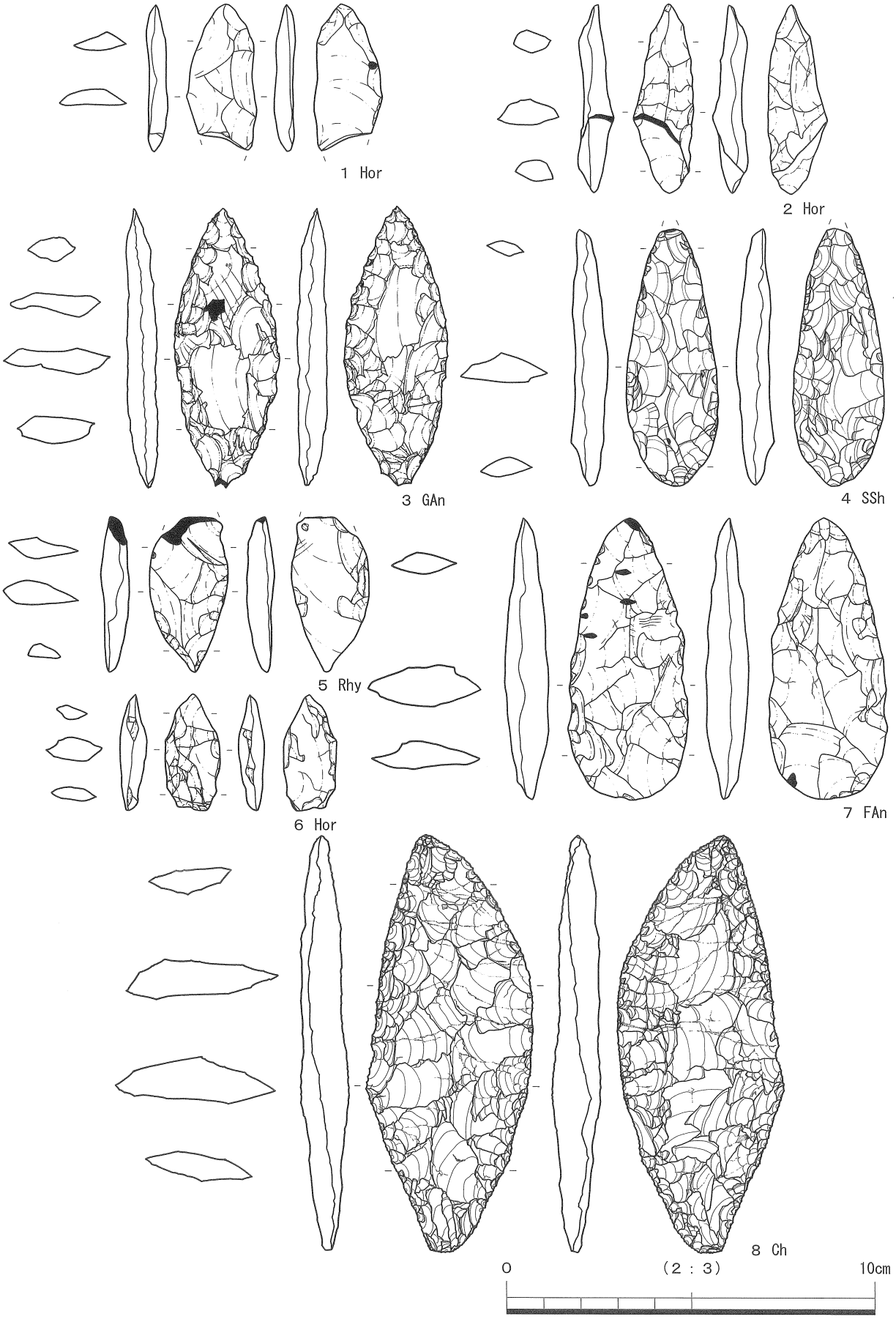
２は石鏃の再利用品である。欠損した片方の脚部をつまみに作り替えている。石鏃の製作途中で脚部を欠損したため、石匙に作り替えたと思われる。３は幅の広い剥片を使い、剥片の打面側につまみを作っている。刃部は剥片末端の薄くなっている部分を利用しているため、刃部を作る剥離は少ない。

４は縦長の剥片を使っており、基部に打面を残し、剥片の末端側につまみを作っている。右側縁に主剥離面から剥離を入れて刃部を作っている。左側縁の加工は粗い。

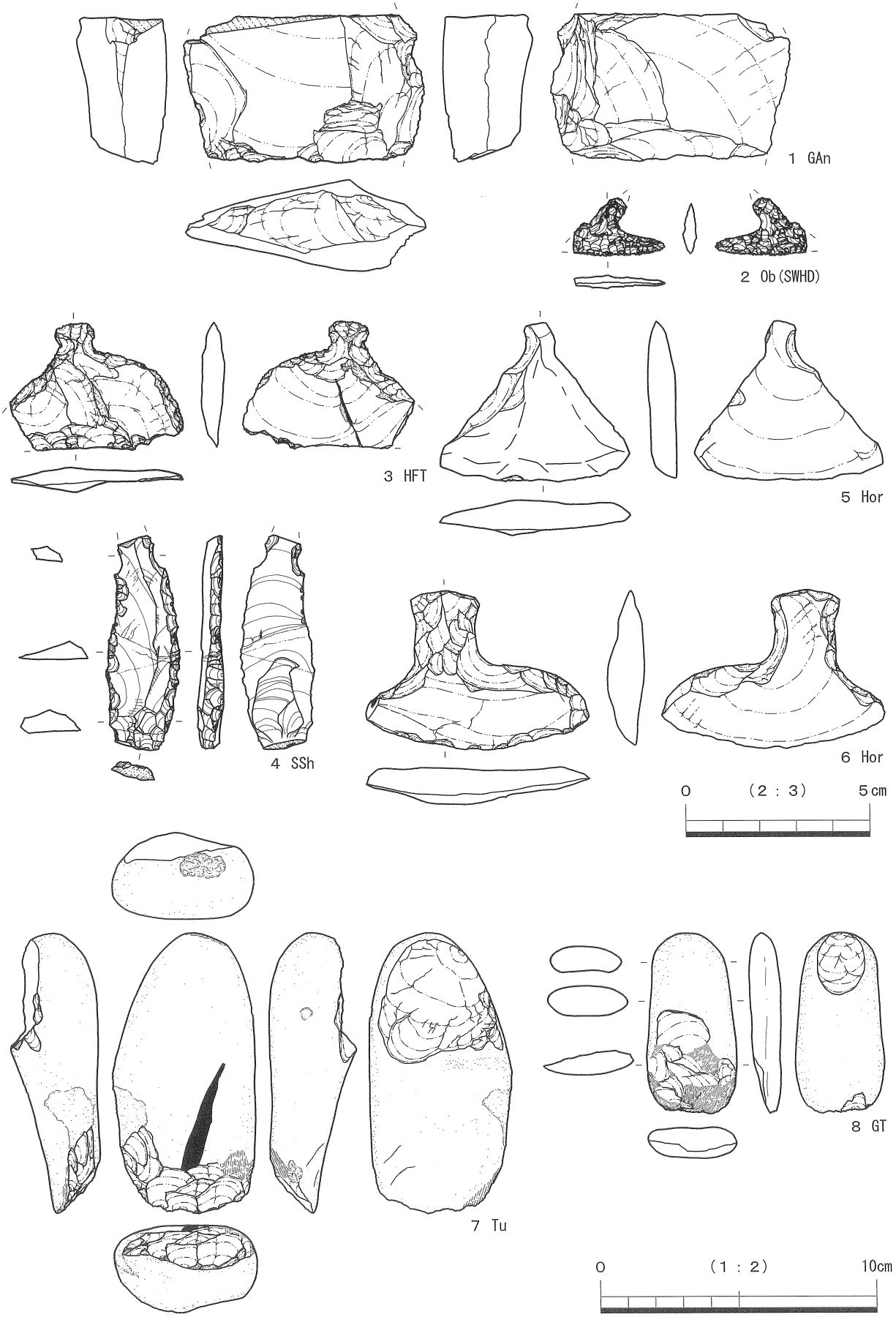
５は風化が進んでいるが、幅の広い剥片を使い、打面側につまみを作っている。刃部の加工は風化のため、観察できないが、剥片末端の薄い部分を刃部にしているため、あまり刃部作出の加工はしていないと思われる。６も幅の広い剥片を使い、打面を除去しながらつまみを作っている。刃部は、剥片末端の薄い部分を刃部にしているため、刃部の加工は少ない。



第24図　J7グリッド周辺、縄文時代包含層出土遺物



第25図　縄文時代包含層出土遺物（5）



第26図　縄文時代包含層出土遺物（6）（1～6：2/3、7・8：1/2）

石斧（第26図－７～第30図－２）

第26図－７と８は長楕円形の円礫を使い、一端に刃部を作り出し、刃部の一部を磨いている。作りは大雑把な印象だが、刃部が作られていることから、これで完成品なのであろう。

第27図－１はほぼ全面を磨いている。寸胴だが、欠損しているのではない。２は刃部と側面だけを磨いている。３は円礫を使っており、粗い剥離で刃部を作った後、刃部を磨いている。４は両面に平坦な剥離を入れて全体の形を作った後、側面を敲打して形を整えている。刃部には、図にトーンを入れて示したように、広い範囲に渡って磨滅が見られる。

第28図－１は大きさの割に薄い剥片を使い、縁辺に平坦剥離を入れて形を整えてから、刃部の一部を磨いている。加工の剥離は小さな剥離で、剥片の形を活かしていると思われる。２は片面に大きく自然面を残していることから、粗割りした礫を使っていると思われる。そして、両面に剥離を入れて全体の形を作っている。自然面が残っている側は、中央から基部付近を入念に加工しているのに対して、刃部付近はあまり加工していないため、基部側が細くなり、刃部が広がる形態に仕上がっている。刃部は、縁辺に小さな剥離を入れるだけで仕上げている。

３は両面に自然面が残っていることから扁平な円礫を使っていることがわかる。そして側面から両面に平坦剥離を入れて形を作っているが、器体中央に達するような大きな剥離は見られない。側面には敲打痕があり、基部付近を集中して敲打しているため、基部の方が細くなる形態になっている。刃部には両面から剥離を入れて作っている。

第29図－１は片面に自然面を大きく残す剥片を使い、中央付近に抉りを入れるように加工する特徴がある。刃部は、片面だけ剥離を入れて作っている。２は両面に自然面が残ることから、扁平な円礫を使っていると思われる。そして、中央付近に抉りを入れるように加工している。刃部は片面に自然面を残し、その反対側に剥離を入れてある。３は、両面に平坦な剥離面が残る剥片を使っている。そして、剥片の縁辺に小さな剥離を入れただけで、剥片の形をあまり変えずに作っている。刃部にはわずかに剥離を入れただけで、剥片縁辺の薄さを活かしていると思われる。

第30図－１は片面に自然面が残る剥片を使い、周縁から両面に平坦剥離を入れている。刃部はあまり加工しておらず、全体を細長くするような意図もうかがえない。また、薄く剥がれる性質の石材のためか、階段状剥離を起こしている剥離面が多い。２は剥片素材で片面を磨いている。

石核（第30図－３）

円礫の側面を打点が周回しながら不定形剥片を剥離している。

礫器（第31図－１）

扁平な円礫の一端に剥離を入れて刃部を作っている。

石棒（第31図－２）

一端を欠損しているが、大きさから考えて石棒の一部であろう。

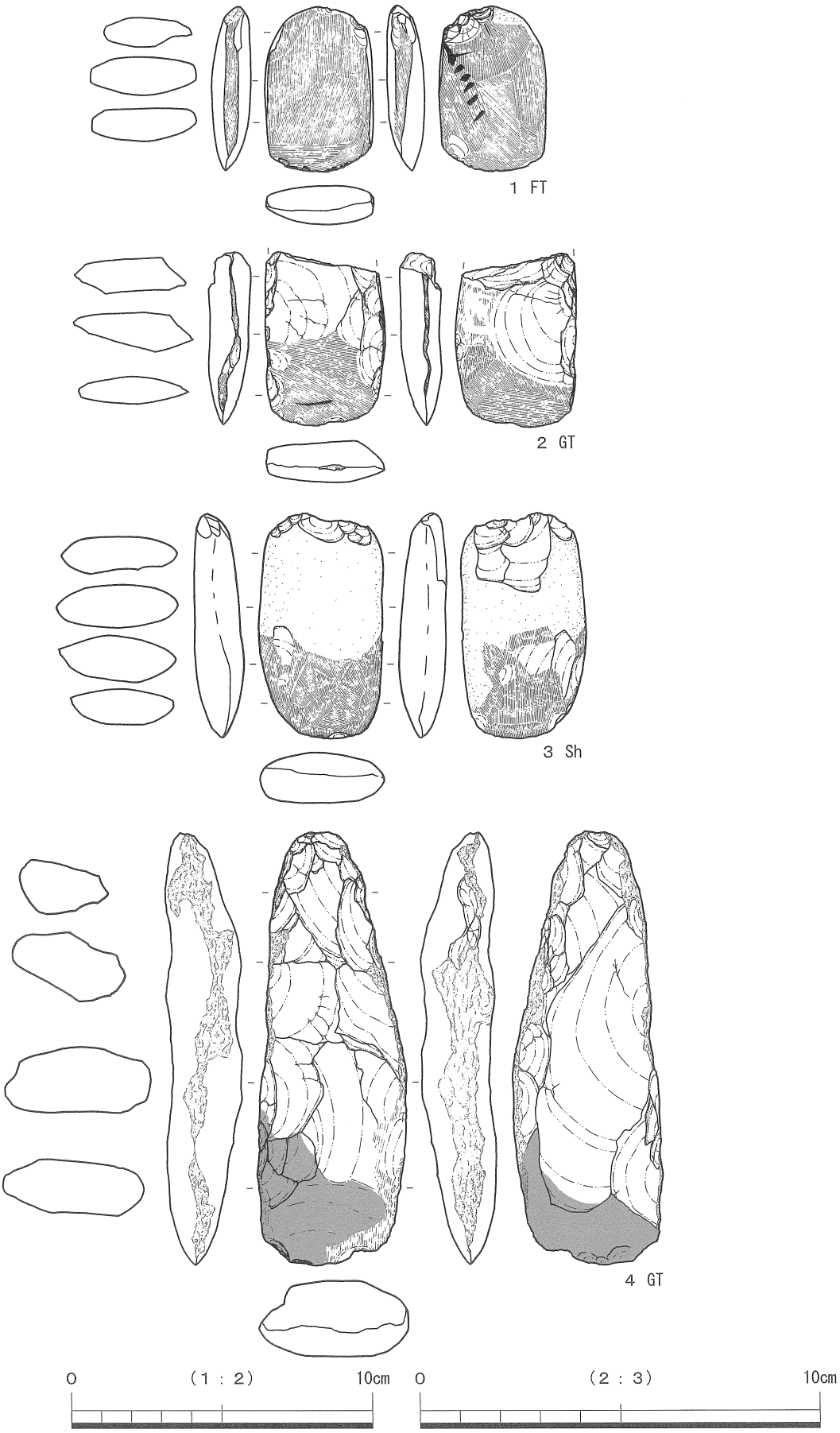
敲打痕・磨滅痕のある礫（第32図、第33図）

第32図－１、２は円礫の両面に磨滅した面がある。３は円礫の両面と側面に敲打痕がある。４は円礫の両面と側面に磨滅した面がある。

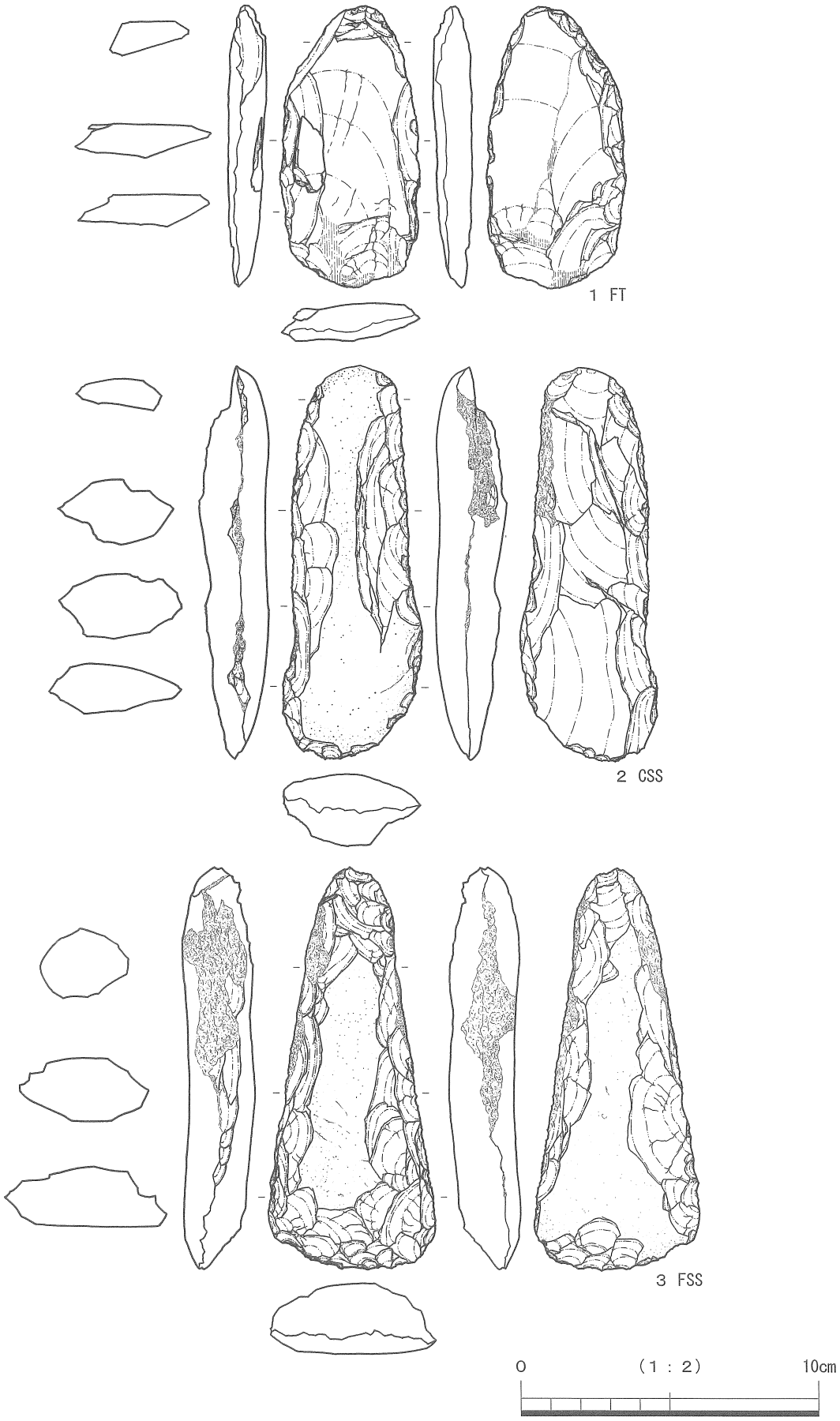
第33図－１～６、８～10は円礫に磨滅した面が見られる。７は円礫の両面に敲打痕がある。

石皿・台石（第34図）

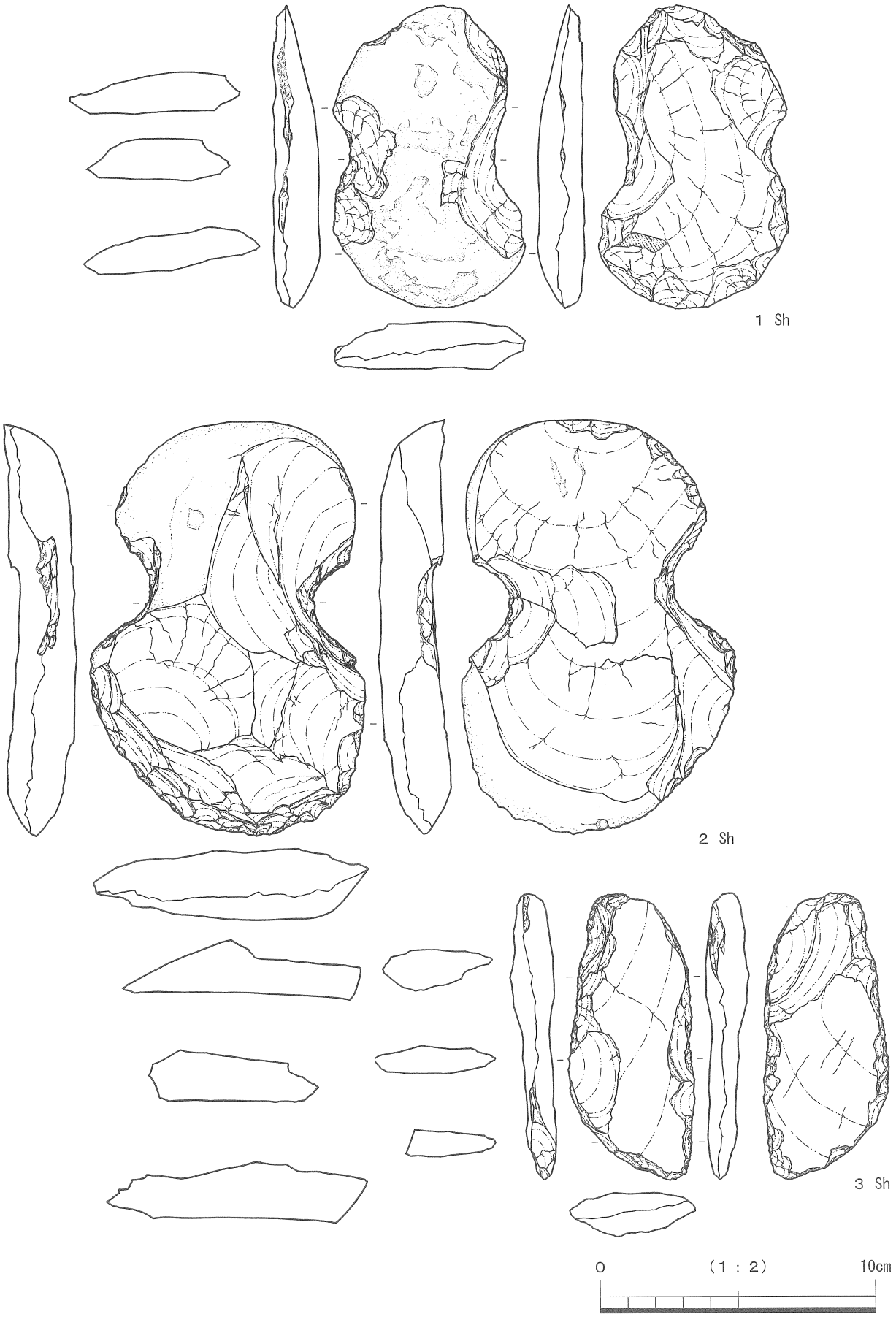
１と２は磨滅して窪んだ面がある。３～５は磨滅して平らになった面がある。６は台石で、円礫の表面が磨滅してわずかに窪んでいる。



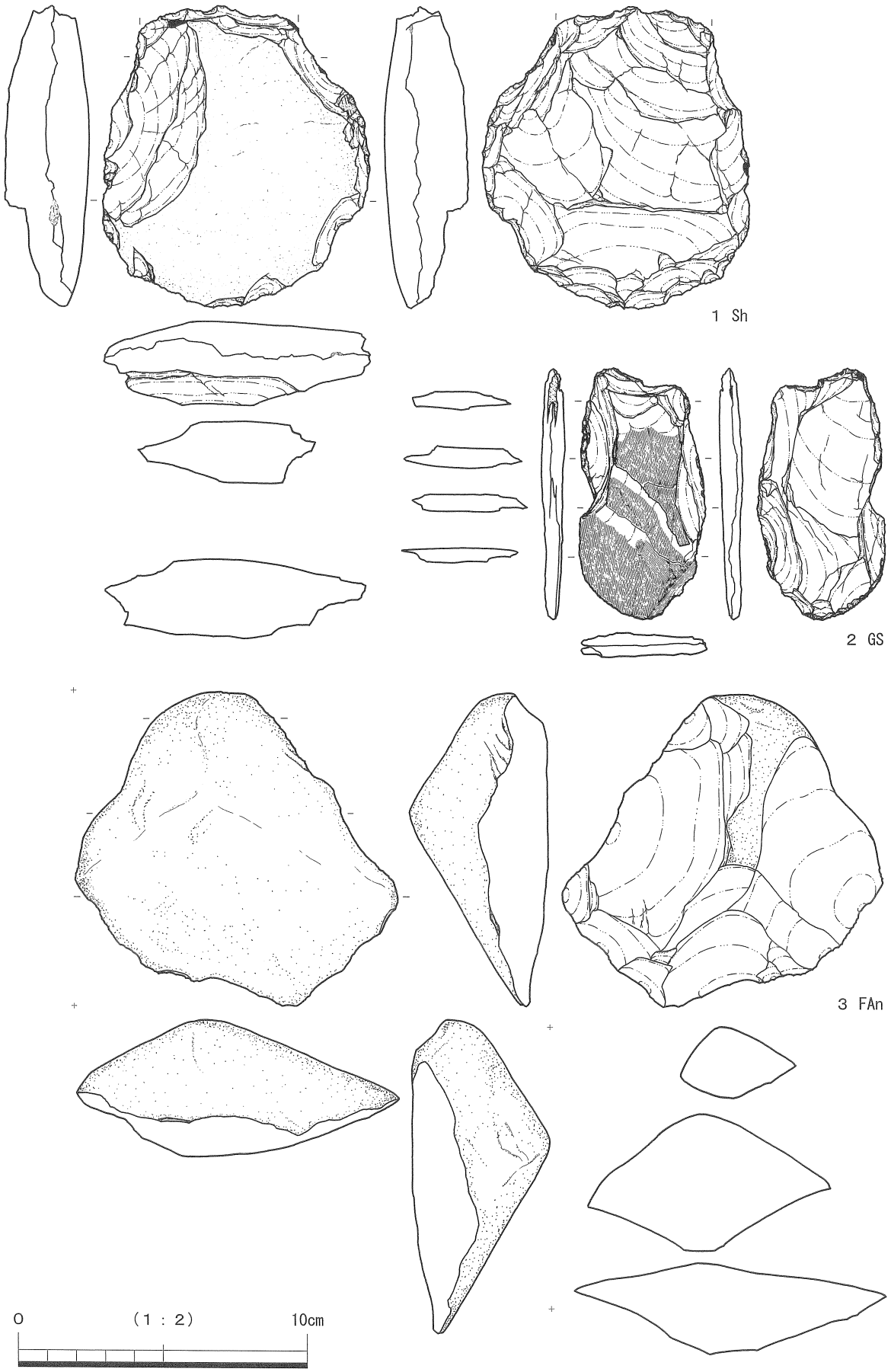
第27図　縄文時代包含層出土遺物（7）（1・2：2/3、3・4：1/2）



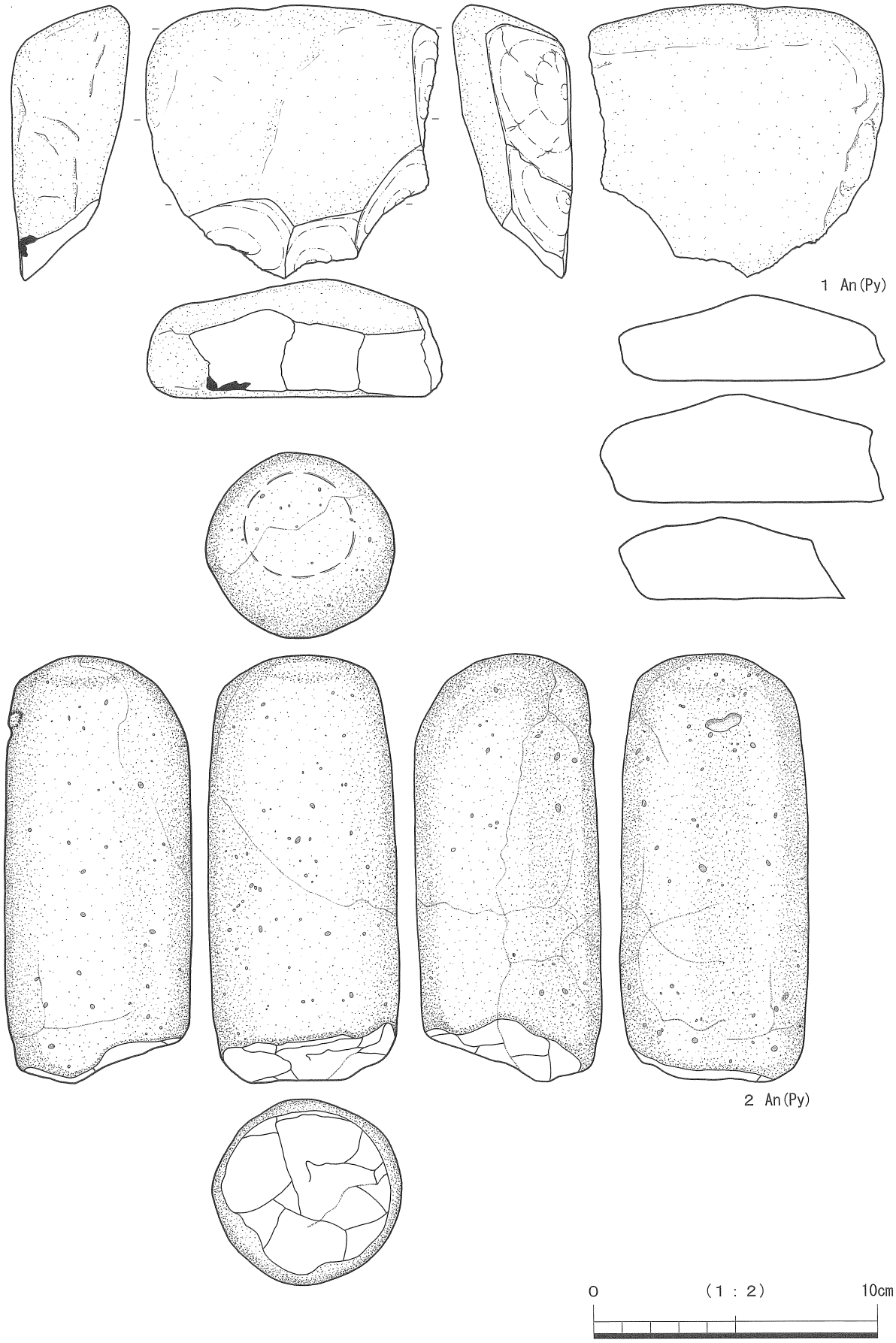
第28図　縄文時代包含層出土遺物（8）



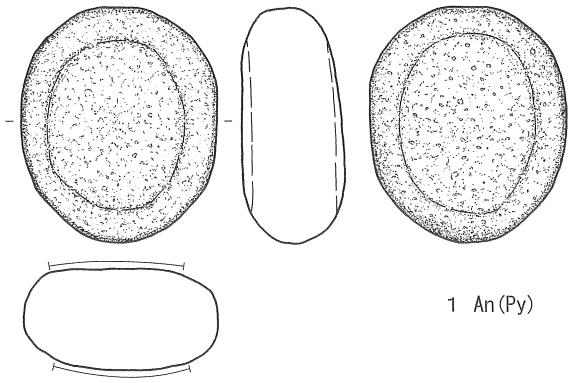
第29図　縄文時代包含層出土遺物（9）



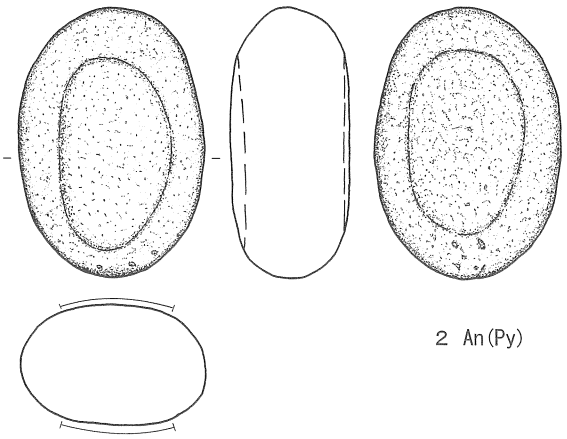
第30図　縄文時代包含層出土遺物（10）



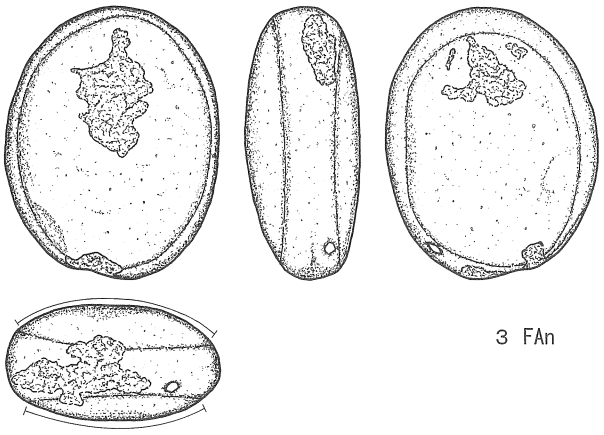
第31図　縄文時代包含層出土遺物（11）



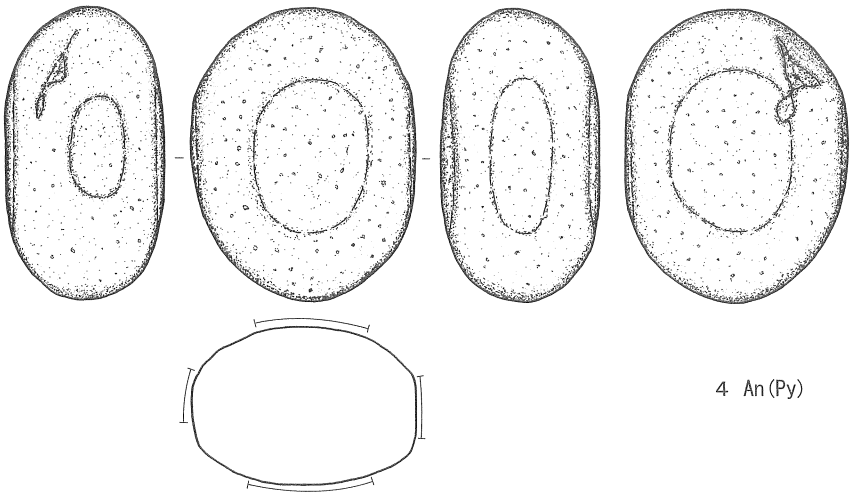
1 An(Py)



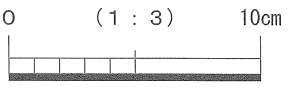
2 An(Py)



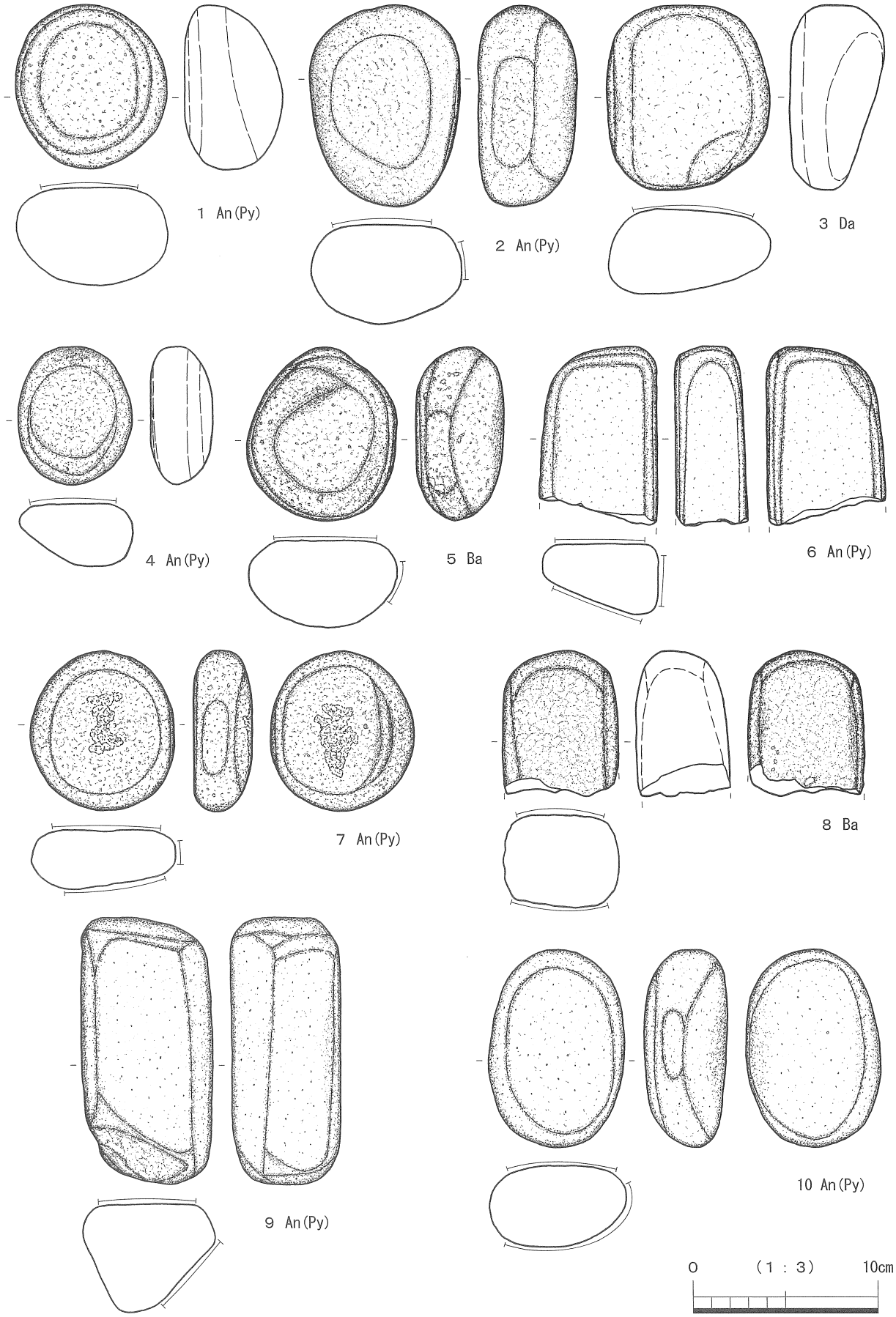
3 FAn



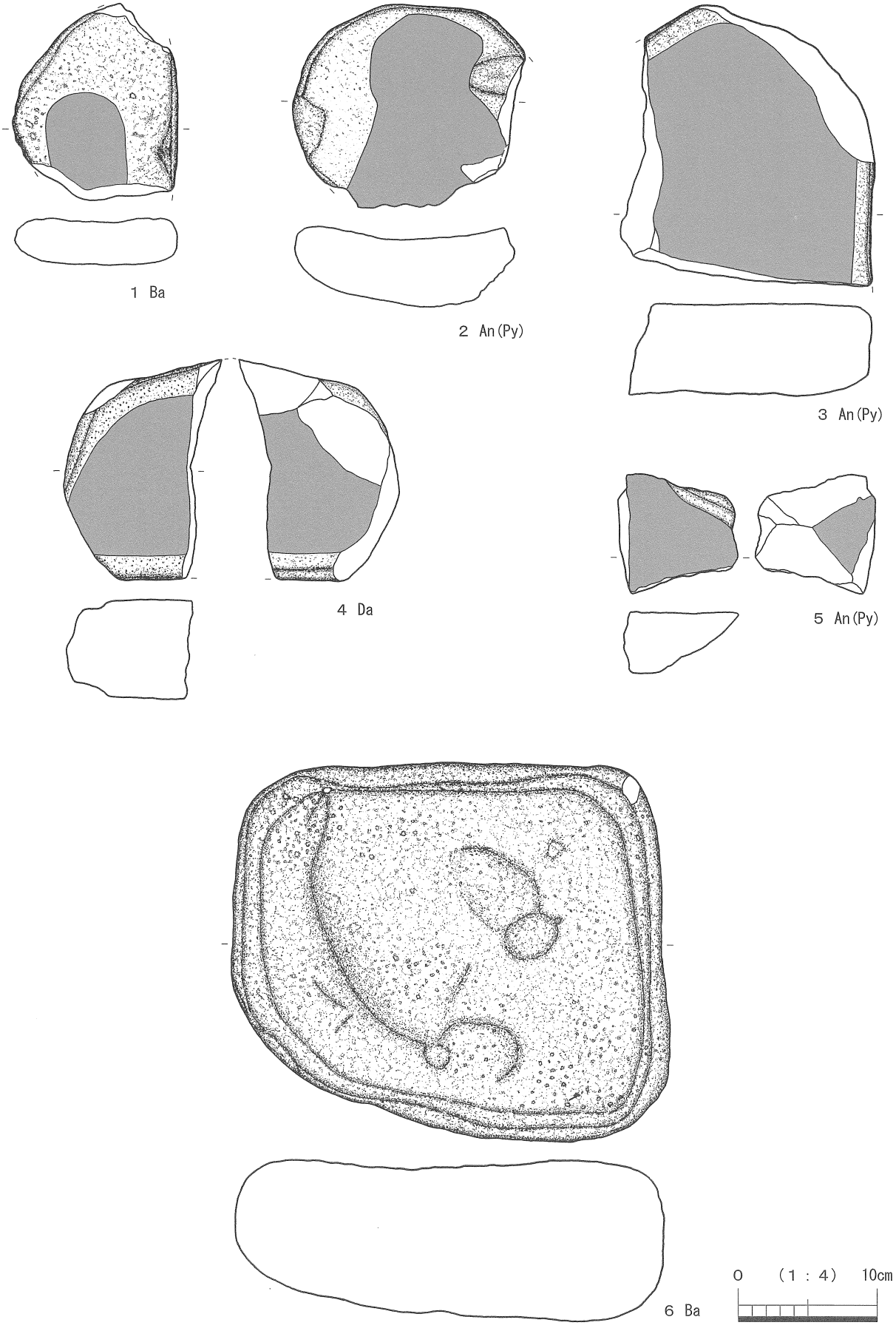
4 An(Py)



第32図　縄文時代包含層出土遺物（12）



第33図　縄文時代包含層出土遺物（13）



第34図　縄文時代包含層出土遺物（14）

第５章　旧石器時代の調査

旧石器時代の文化層は、休場層と第Ⅲ黒色帯に認められた。休場層中にいくつの文化層があるのかは、慎重に検討したが、下記の所見のため、出土層や出土レベルで分けることができなかった。

・休場層上層～下層に途切れることなく遺物が出土している。

・礫群の出土レベルは、休場層上層～下層で連続しており、特定のレベルに集中することはない。

・休場層上層と中層、休場層中層と下層で、層を超えて接合する礫、石器が複数ある。

以上から、休場層内に複数の文化層があることは想定できるが、文化層分離は不可能と判断した。

第１節　休場層出土の遺構と遺物

休場層から出土した遺構と遺物の分布を第35図に示す。休場層内の文化層分離はできなかったが、図中には各遺構の中心分布層を明記した。接合状況を第36図に示す。接合作業も時間をかけて入念に行ったが、この遺跡では接合例は少なく、近距離接合が多かった。ただ、後に報告するが、１点だけ接合距離が100mを超える例がある。

礫群01（第37図上段）

休場層中層で検出したもので、９点の礫が散在する小規模な礫群で、全点が赤化している。

礫群02（第37図下段）

休場層上層で検出したもので、13点の礫が散在する小規模な礫群である。全点が赤化している。

礫群03（第38図）

休場層中層で検出した60点の礫からなるもので、平面図を見ると複数の礫群に分けられるかもしれない。全点が赤化している。

礫群04（第43図）

ブロック03と重なって出土した礫群で、休場層中層の中部付近にある。６点の礫が散在しており、全点が赤化している。

礫群05（第51図）

ブロック07と重なって出土した礫群で、休場層中層の中部付近に中心がある。17点の礫からなり、全点が赤化している。隣接する礫群06との間に１点の接合例がある。

礫群06（第51図）

ブロック07と重なって出土した礫群で、休場層中層の中部付近に中心がある。９点の礫からなり、全点が赤化している。隣接する礫群05との間に１点の接合例がある。

礫群07（第52図）

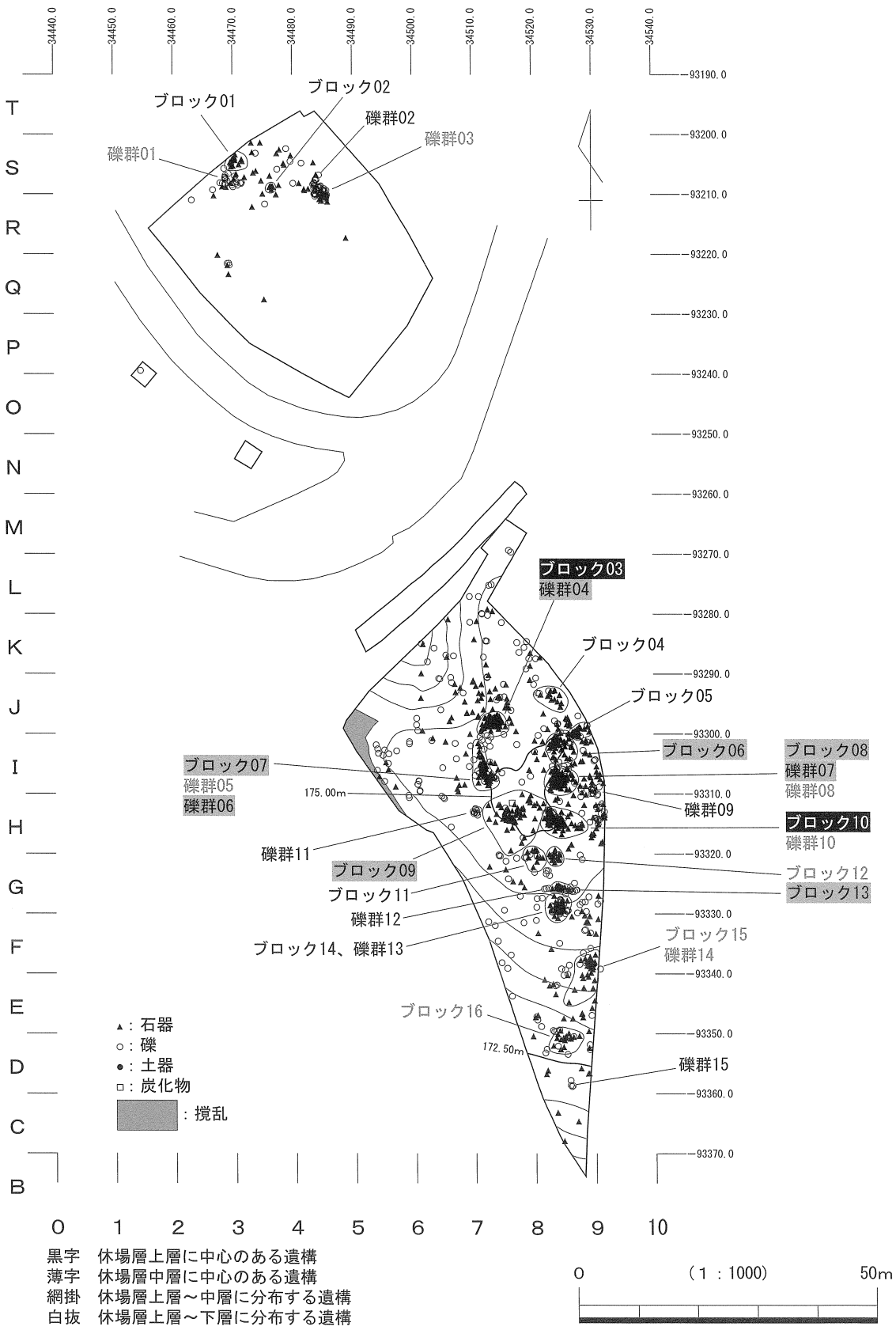
ブロック08と重なって出土した礫群で、休場層上層の下部に中心がある。８点の礫からなる。隣接して礫群08があり、平面分布上は１つの礫群にしても良さそうだが、礫群07は休場層上層下部、もしくは休場層中層上面に中心があるのに対して、礫群08は休場層中層に中心がある。このことから両礫群には出土レベルの差があるとして別の礫群にした。

礫群08（第52図）

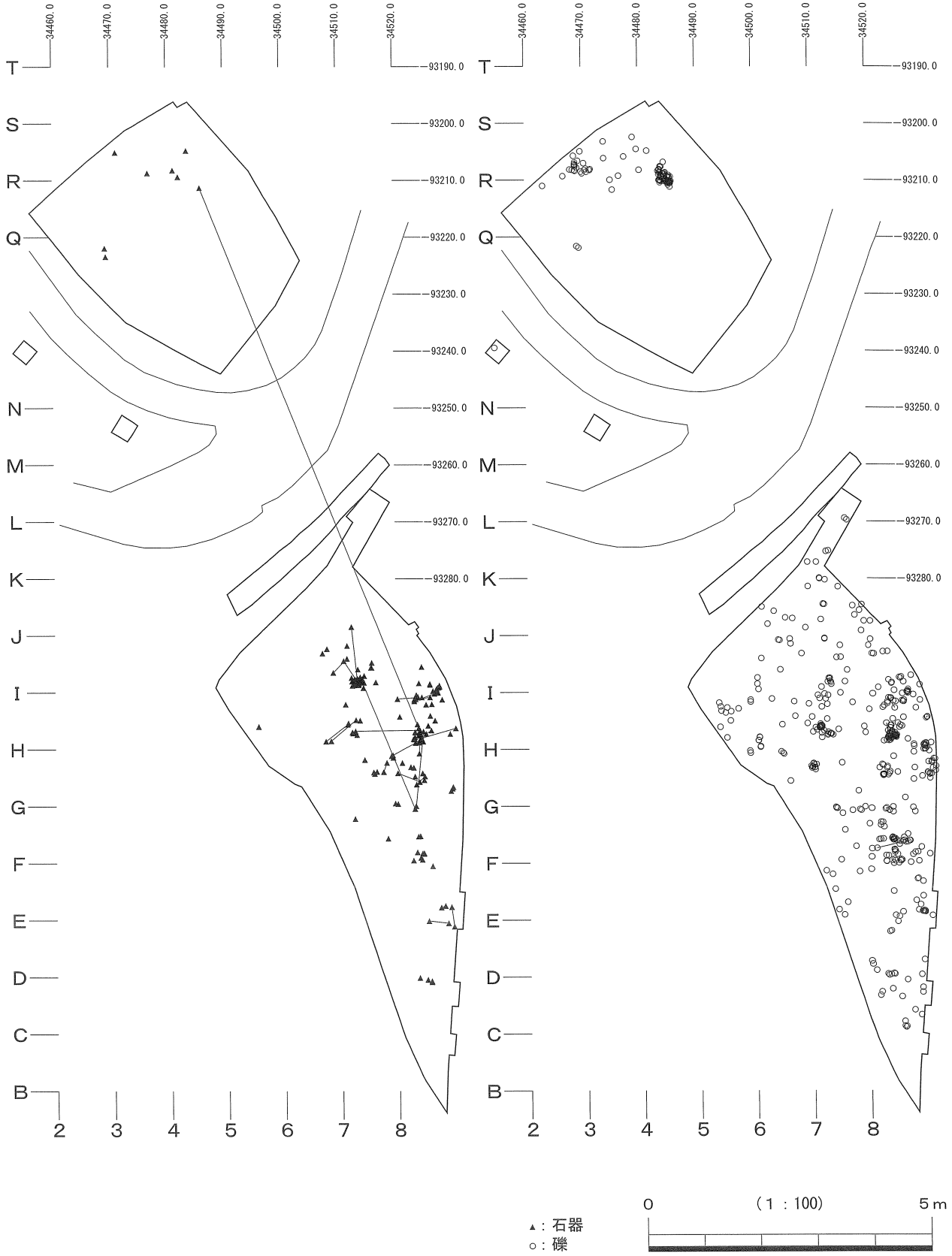
ブロック08と重なって出土した礫群で、休場層中層の中部に中心がある。18点の礫があり、全点が赤化している。隣接して礫群07があるが、出土レベルに差があるため、別の礫群とした。

礫群09（第39図上段）

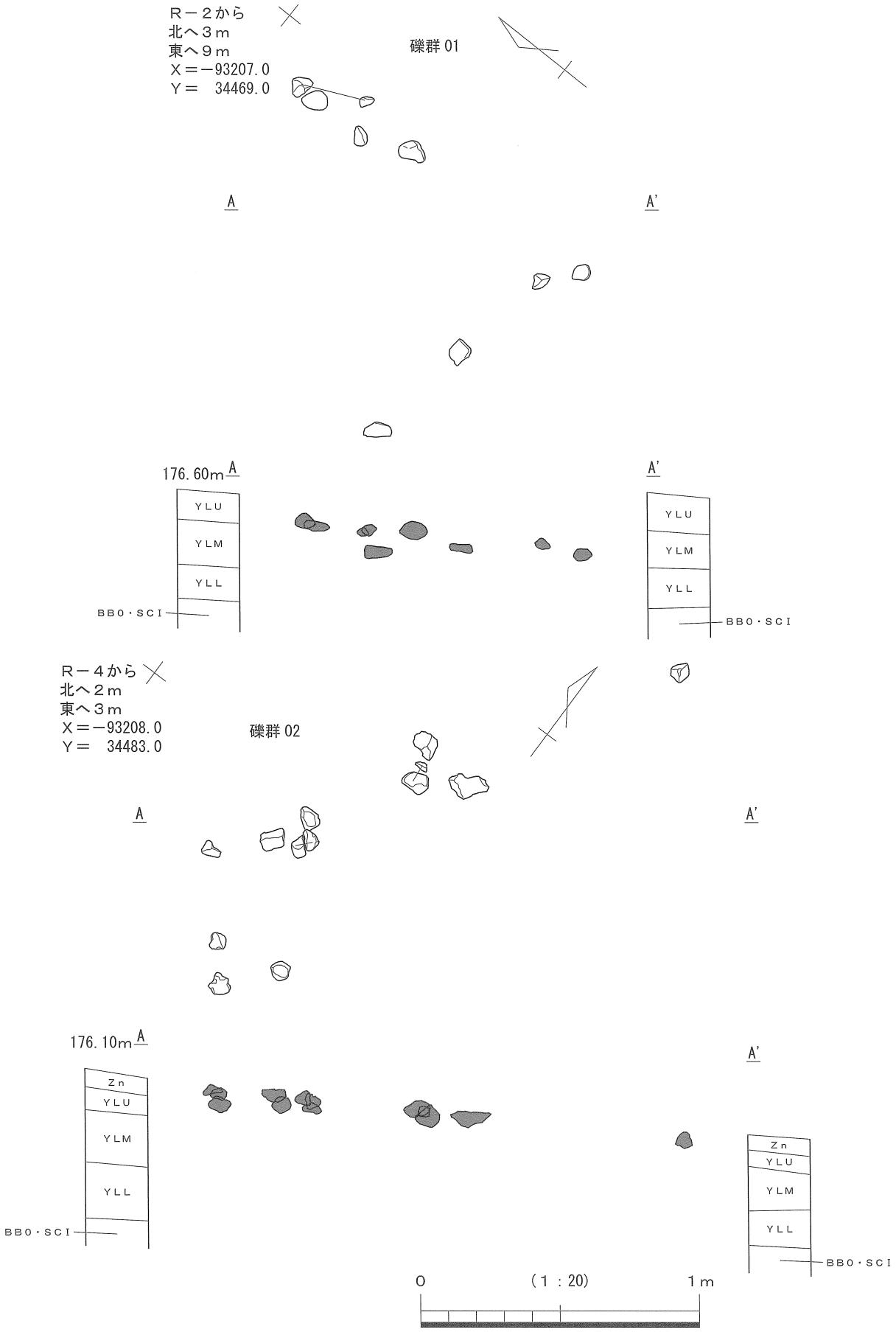
休場層上層で出土した17点の礫からなる礫群で、２点だけ赤化していない礫がある。



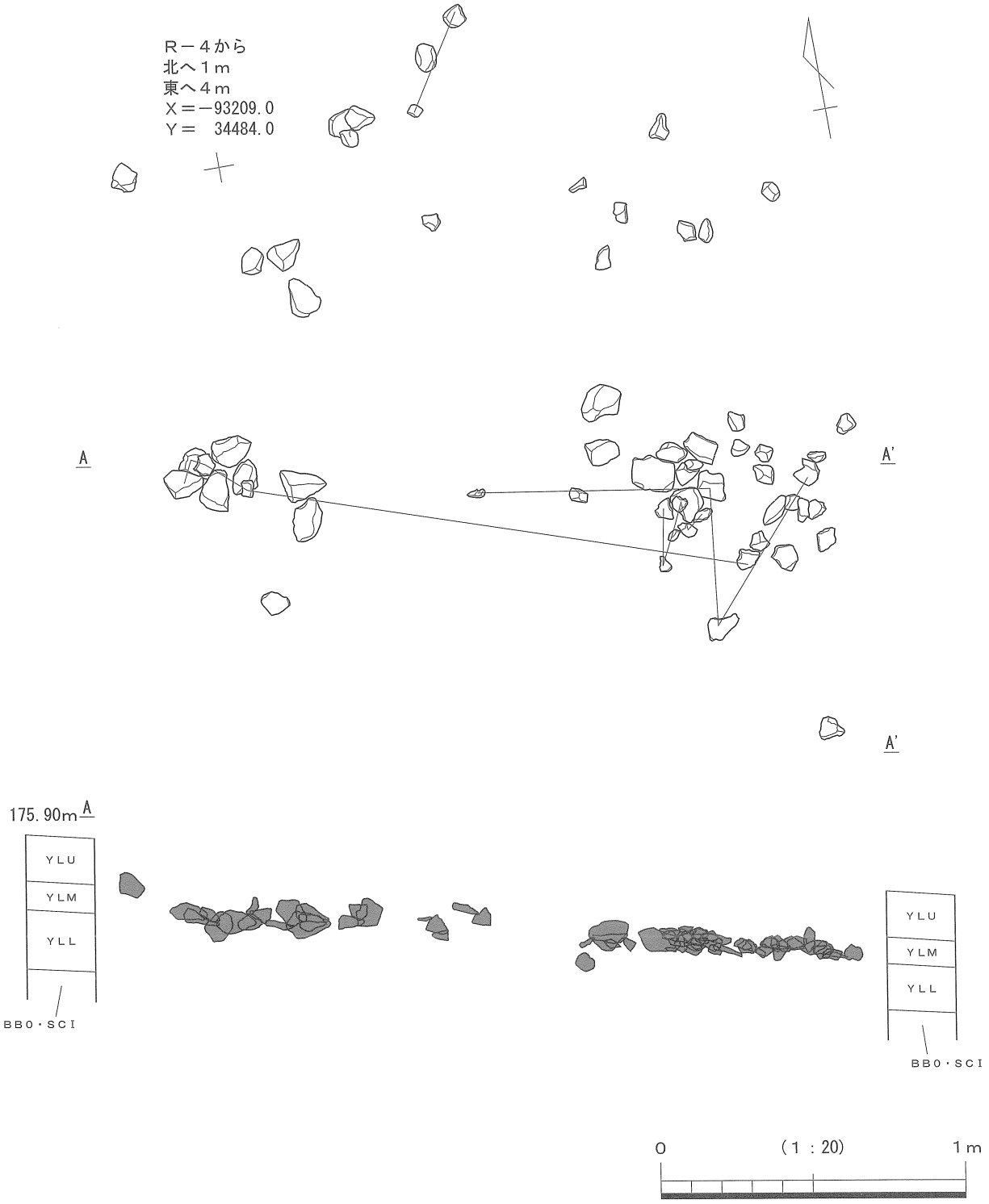
第35図　休場層出土遺構、遺物分布図



第36図　休場層遺物接合状況



第37図　礫群01、02平・断面図



第38図　礫群03平・断面図

礫群10（第56図）

休場層中層の下部で検出した礫群で、ブロック10と重なっている。15点の礫からなり、１点だけ赤化していない礫がある。

礫群11（第39図下段）

休場層上層の上面付近で出土した礫群で、12点の礫からなり、全点が赤化している。

礫群12（第40図上段）

休場層上層で出土した礫群で、10点からなる礫群で全点が赤化している。

礫群13（第61図）

ブロック14と重なって出土した礫群で、休場層上層下部～中層上部に中心がある。14点の礫からなり、１点だけ赤化していない。

礫群14（第62図）

ブロック15と重なって出土した礫群で、休場層中層に中心がある。14点の礫からなり、全点が赤化している。

礫群15（第40図下段）

休場層上層で出土したもので、３点の礫しかないため、礫群から除外してもよいが、周囲に遺物がない所で、この３点の礫だけが近接して出土したため、念のため礫群にした。３点とも赤化している。

ブロック01（第41図）

休場層上層下部で出土した。剥片を主体としており、黒曜石製の細石刃が１点だけ出土している。図示したのはガラス質黒色安山岩製の縦長剥片である。自然面打面で、かなり細長い。先行剥離面にも縦長剥片を剥離した痕跡があることから、縦長剥片を連続剥離する過程で剥離されたことがわかる。

ブロック02（第42図上段）

休場層上層～中層で出土したブロックで、石核と剥片からなる。石材はすべてホルンフェルスである。

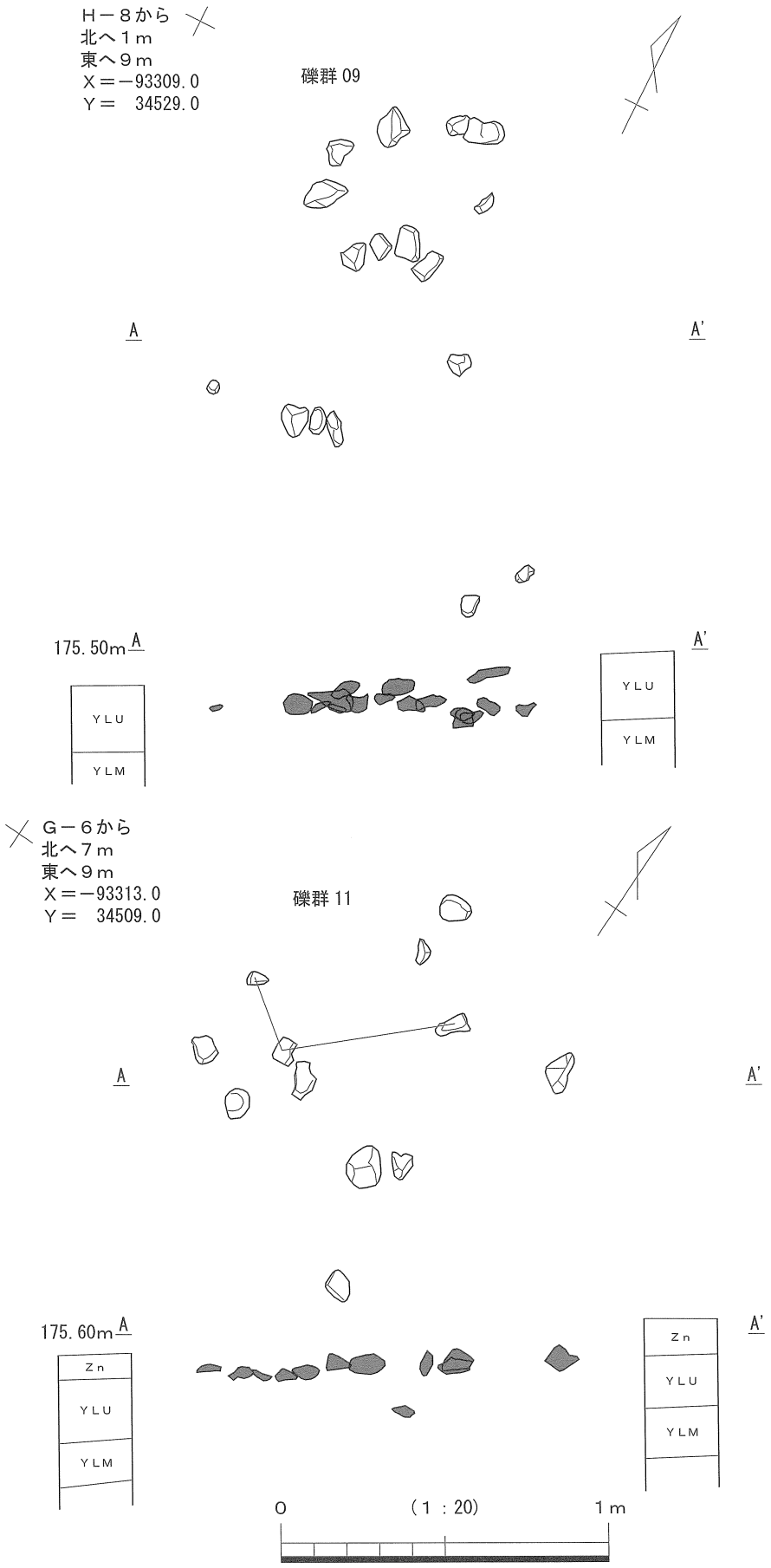
ブロック03（第43図）

この文化層最大のブロックで、478点の石器が出土した。出土層は休場層中層を中心に、上層～下層に広がる。石材は黒曜石が最も多いが、東北地方や北陸地方で目にするような良質な硬質頁岩が集中しているのもこのブロックの特徴である。石器点数は多いが、石核が出土していない。剥片剥離作業をしたことは間違いないが、石核は搬出したのであろう。ブロック12との間に接合関係がある。また、縄文時代の竪穴住居跡05に流れ込んだ石器が１点、このブロックの石器と接合している。

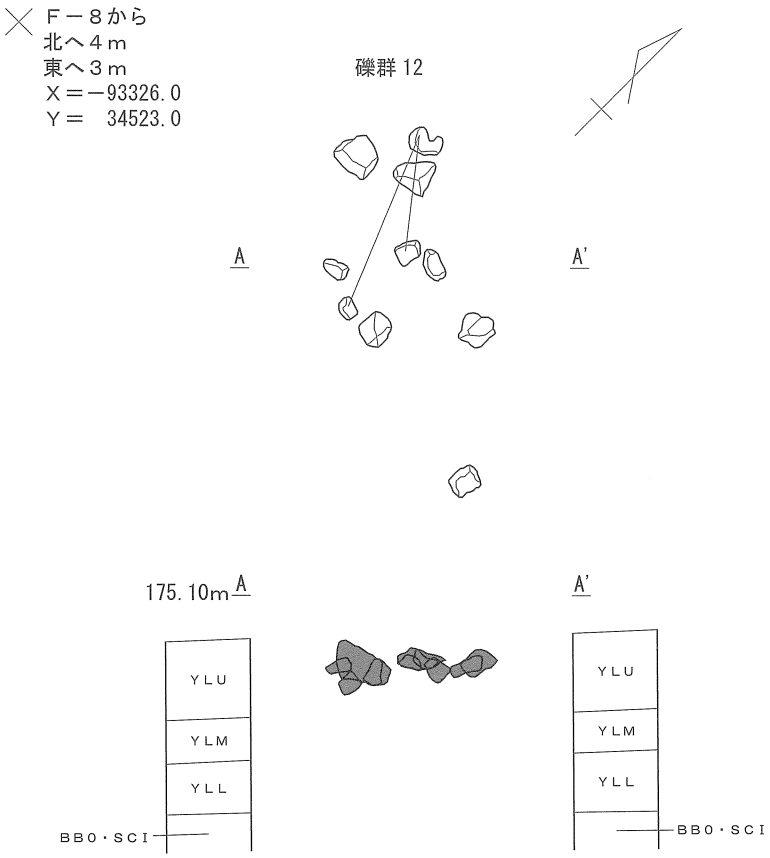
出土遺物を第44図、第45図に示す。第44図－１は良質な硬質頁岩の縦長剥片を加工したナイフ形石器で、刃部に抉るような加工が見られる。刃部の主剥離面側にも細かい剥離が並んでいる部分があり、これも加工痕かもしれない。良質な硬質頁岩の集中と、このブロックのもう１つの特徴は、２～５に示した黒曜石製のナイフ形石器の破片と６～22に示した刃潰し加工をした際の砕片、ブランティングチップと思われる砕片の出土である。ブロック内でナイフ形石器を集中的に作ったことがうかがえる。

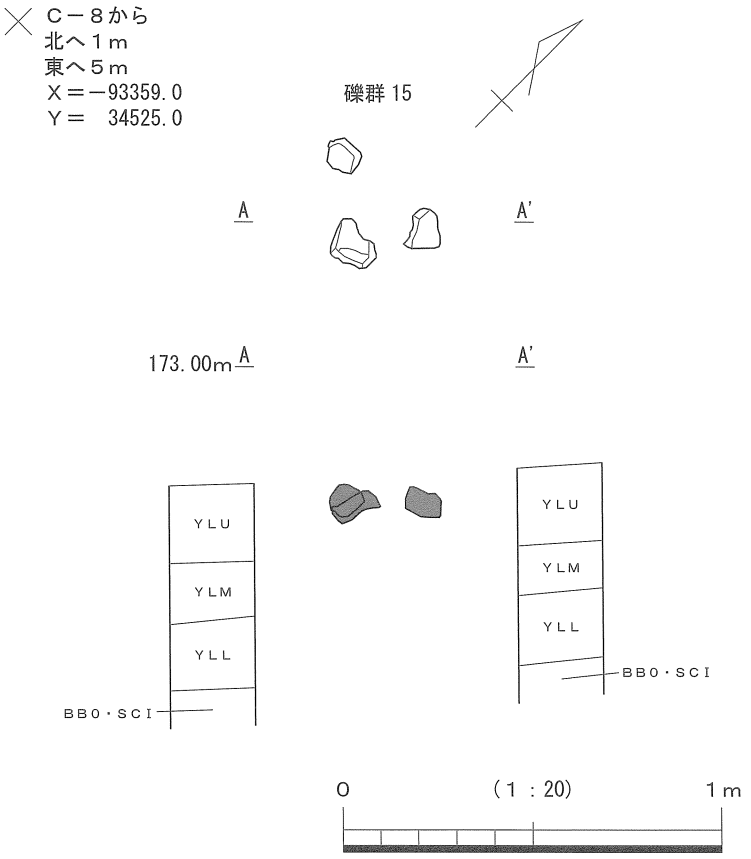
23は、24～26の３点の石器が接合している。24と25は直接接合しないが、両方の石器が26に接合したことで、24と25が同一ナイフ形石器で、刃潰し加工の際に折れた可能性が高いことがわかる。したがって、24と25は同一ナイフ形石器だったことがわかる位置関係で図示してある。26は黒曜石の幅の広い剥片の縁辺を加工したスクレイパーである。

第45図－１は、厚みがあり、幅の広い剥片の末端を加工してある。２は、ブロック03出土のスクレイパーとブロック12の縦長剥片が接合したものである。３は縦長剥片を加工したスクレイパー、４は５と６の縦長剥片が接合している。７は剥片の一端を分断するように加工したナイフ形石器、８は縁辺に微細な剥離が見られる。

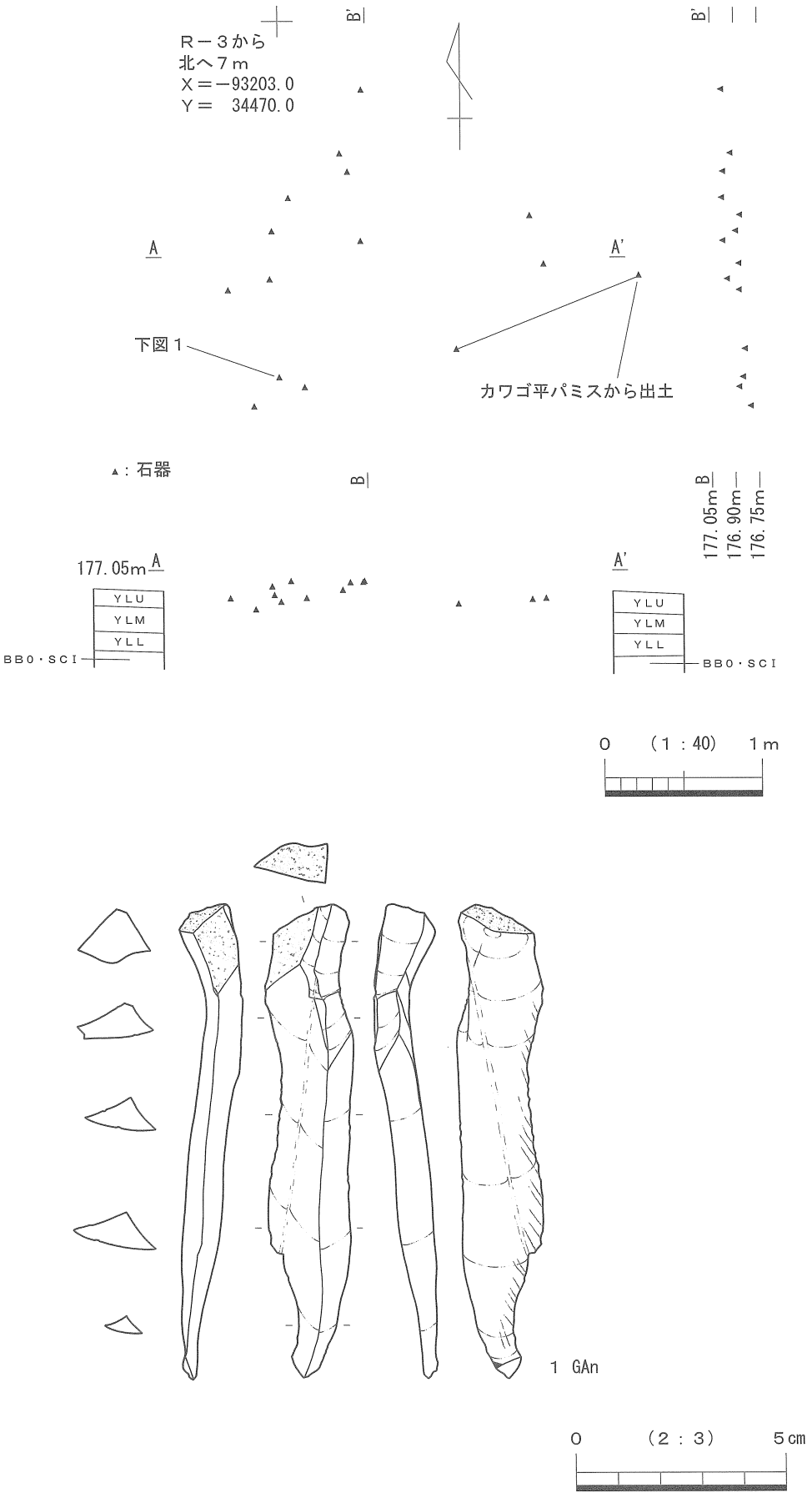


第39図　礫群09、11平・断面図

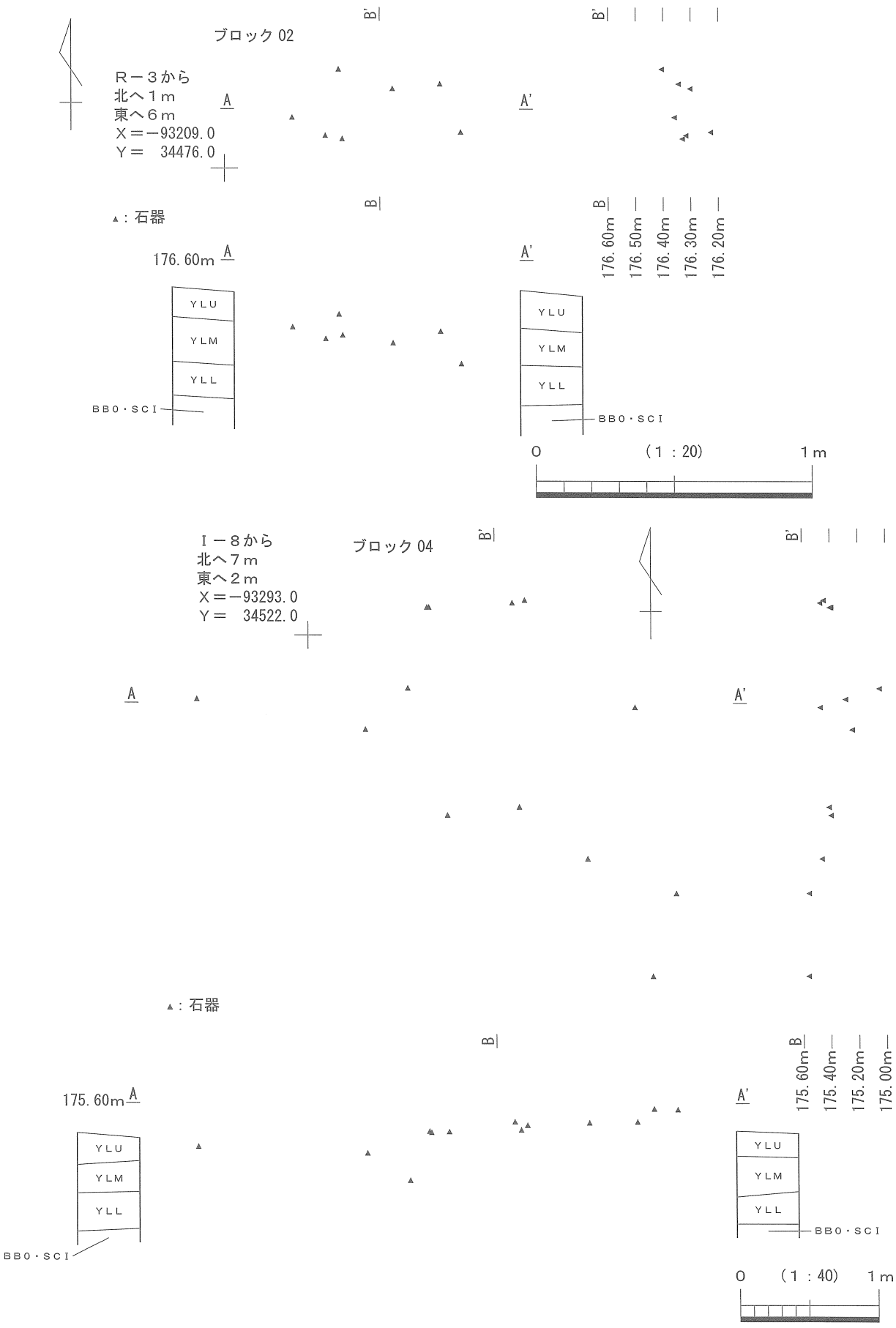




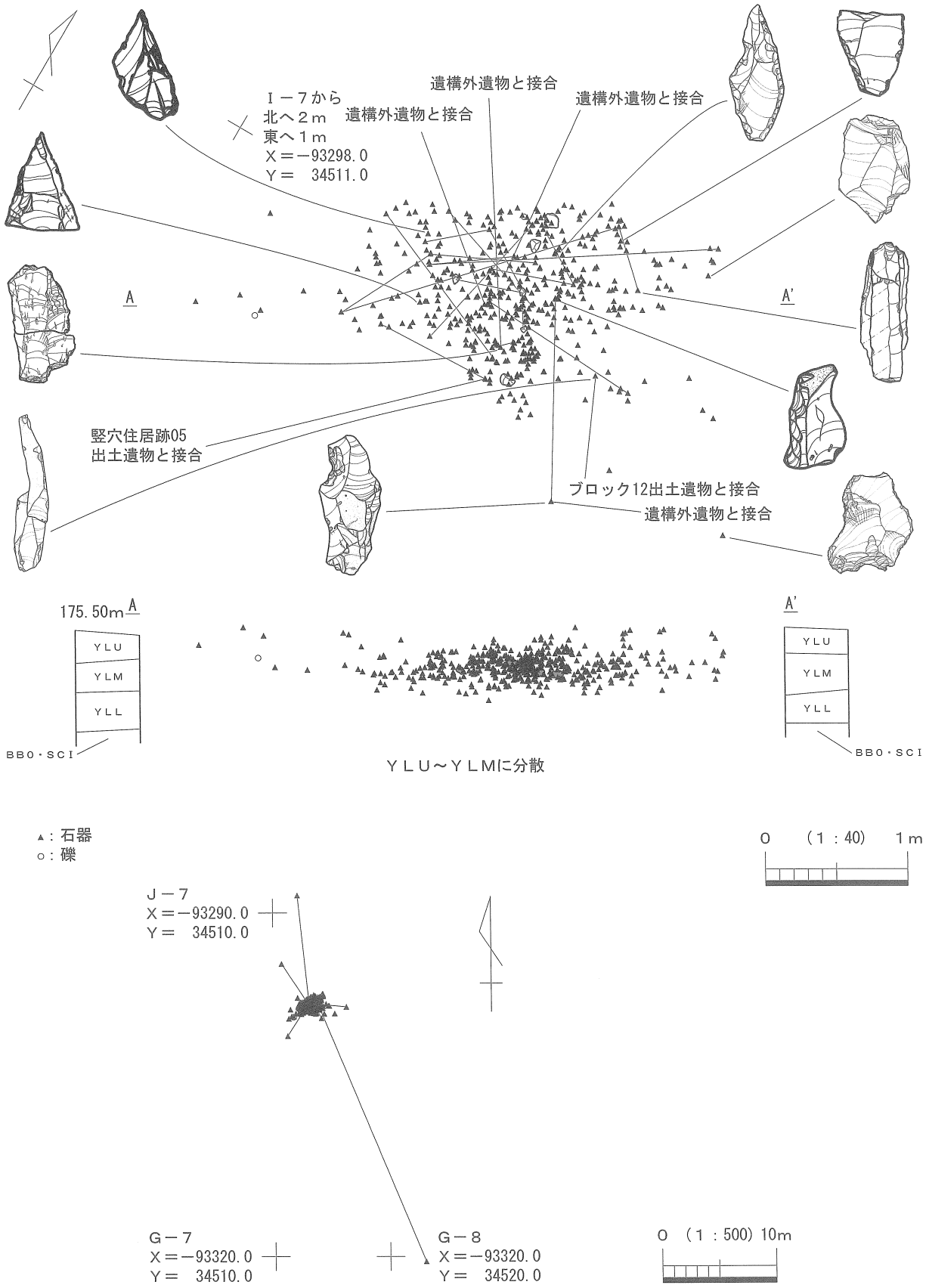
第40図　礫群12、15平・断面図



第41図　ブロック01遺物分布図、出土遺物

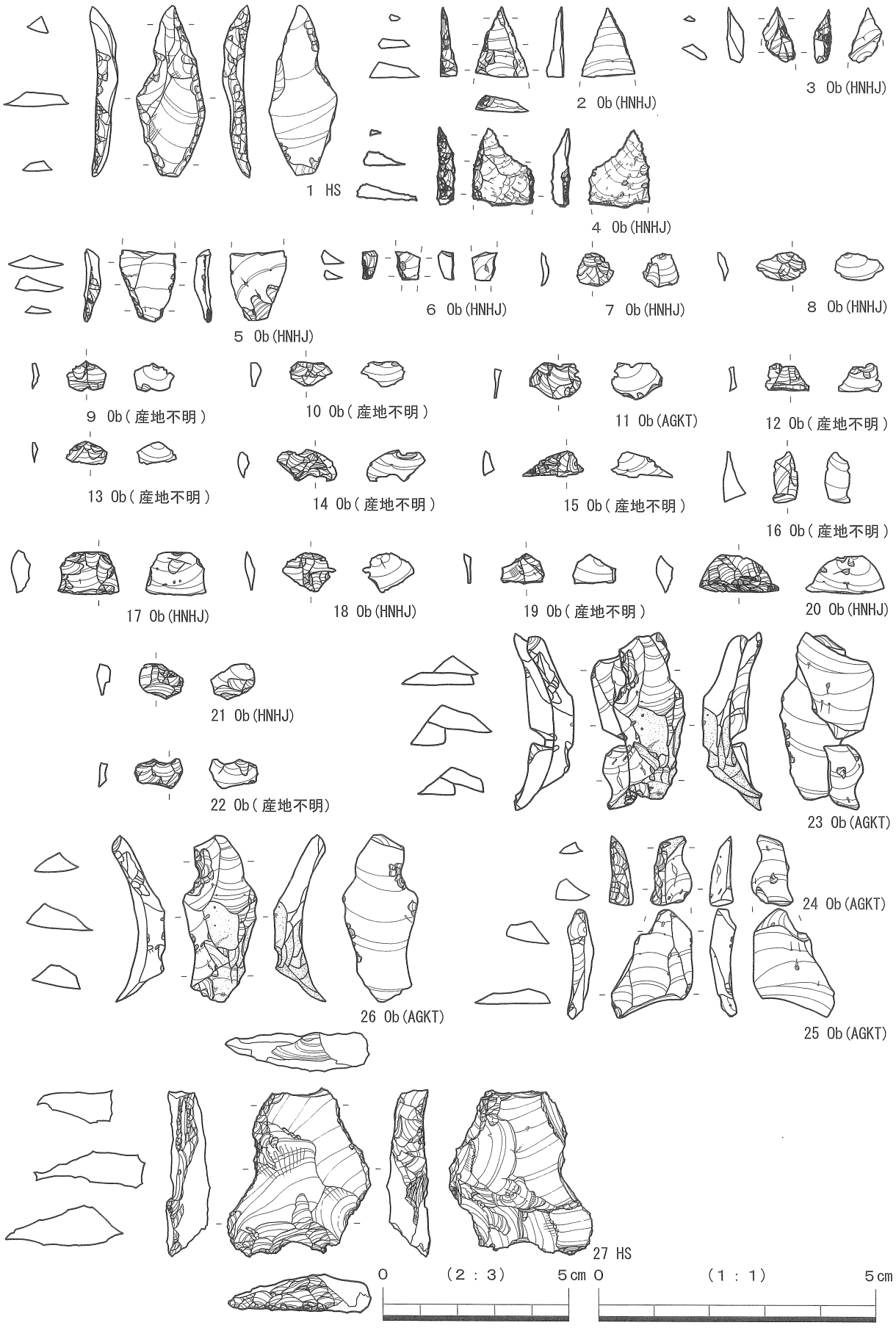


第42図　ブロック02、04遺物分布図

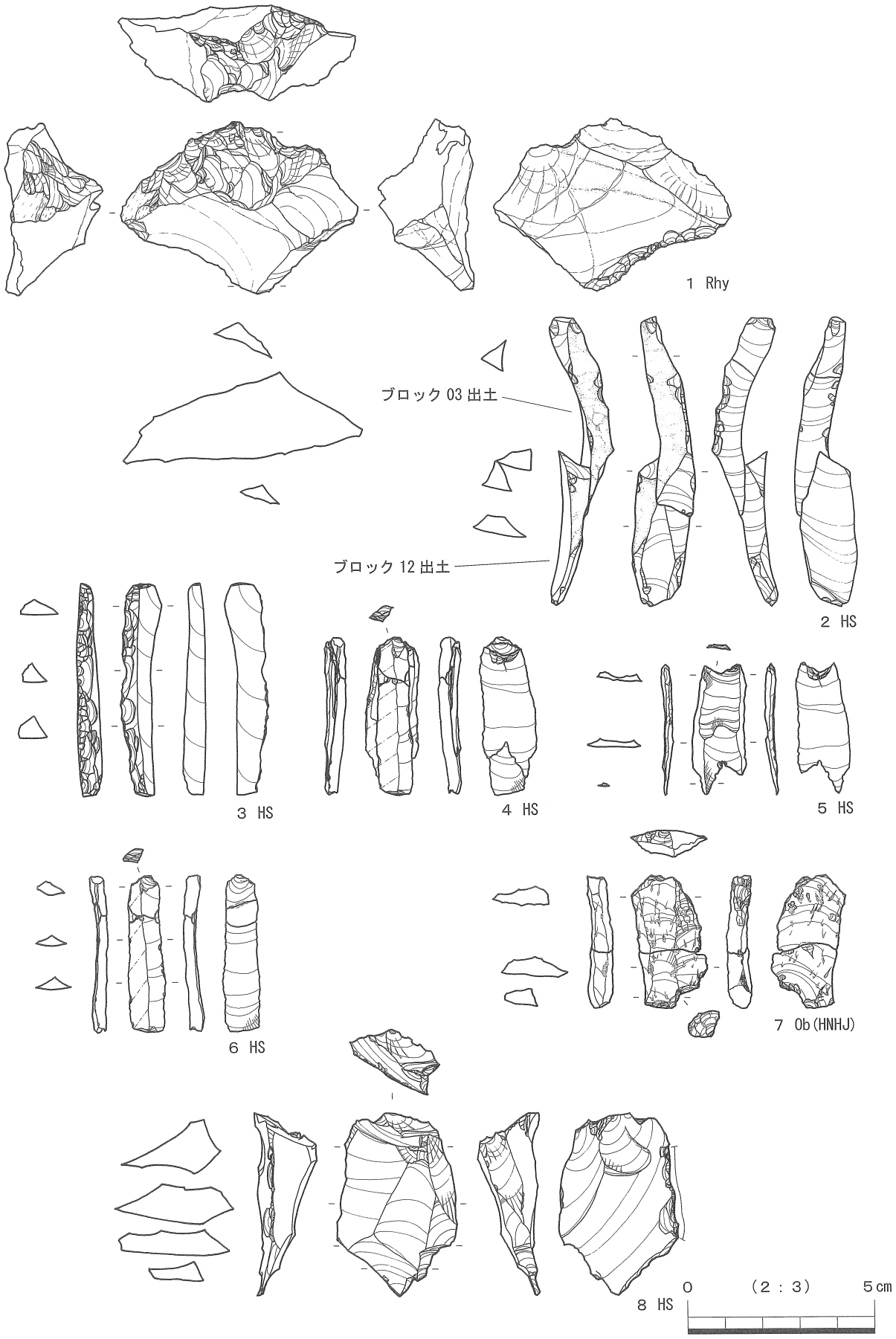


広域接合図

第43図　ブロック03、礫群04遺物分布図



第44図　休場層出土遺物（1）（1～5・23～27：2/3、6～22：1/1）



第45図　休場層出土遺物（2）

ブロック04（第42図下段）

休場層上層で出土した14点の剥片が散在する小規模なブロックである。接合する資料もなく、剥片を搬入しただけのようである。

ブロック05（第46図）

休場層上層～中層上面にかけて出土したブロックである。ブロック06との間で接合する資料があり、縄文時代の焼土土坑03の周辺で出土した遺物のうち１点が、このブロックの資料と接合したことで、休場層中の文化層所属となった。石材のほとんどがホルンフェルスである。

第47図－１は、ホルンフェルスの円礫を使った石核で、円礫の側面を打面が周回しながら不定形な剥片を剥離している。２も同様の石核で、ホルンフェルスの扁平な円礫を使っていると思われ、円礫の側面を打面が周回しながら、円礫の両面で不定形剥片を剥離している。そのため、両面調整体のような形態になっている。

第48図－１は、ホルンフェルスの扁平な円礫を使い、側面で打点と作業面を入れ替えながら不定形剥片を剥離している。そのため、礫器のような形態になっている。

ブロック06（第49図）

休場層上層～中層で出土したブロックで、ホルンフェルスが主体で、黒曜石がこれに次ぐ。尖頭器が２点出土している程度で、石器の種類は少ない。

第50図－１は、ガラス質黒色安山岩を使った尖頭器の未完成品である。実測図右面の方が、加工が進んでいる。平坦剥離がうまく進行しており、全体が薄くなっているが、長さに比べて幅が縮まっていない。２はホルンフェルスの扁平な円礫を使った石核で、礫の側面を打点が周回しながら、礫の両面で不定形剥片を剥離している。

ブロック07（第51図）

休場層上層～中層で出土したブロックで、礫群05、06と重なっている。主要石材はホルンフェルスで、黒曜石がこれに次ぐ。完成した石器はスクレイパーがあるぐらいで器種の種類は少ない。ブロック08と接合する資料がある。

第53図－１は黒曜石製のスクレイパーで、縁辺にナイフ形石器の刃潰し加工に似た加工が見られる。２は微細な剥離のある剥片で、黒曜石の剥片の縁辺に不規則な剥離が見られる。３はホルンフェルス製の縦長剥片で、厚みがあり、下面には石核の底面が残っている。４はこのブロックで出土した剥片とブロック08で出土した剥片が接合した状態で、両剥片を剥離する間に90度の打面転移があったことを示している。

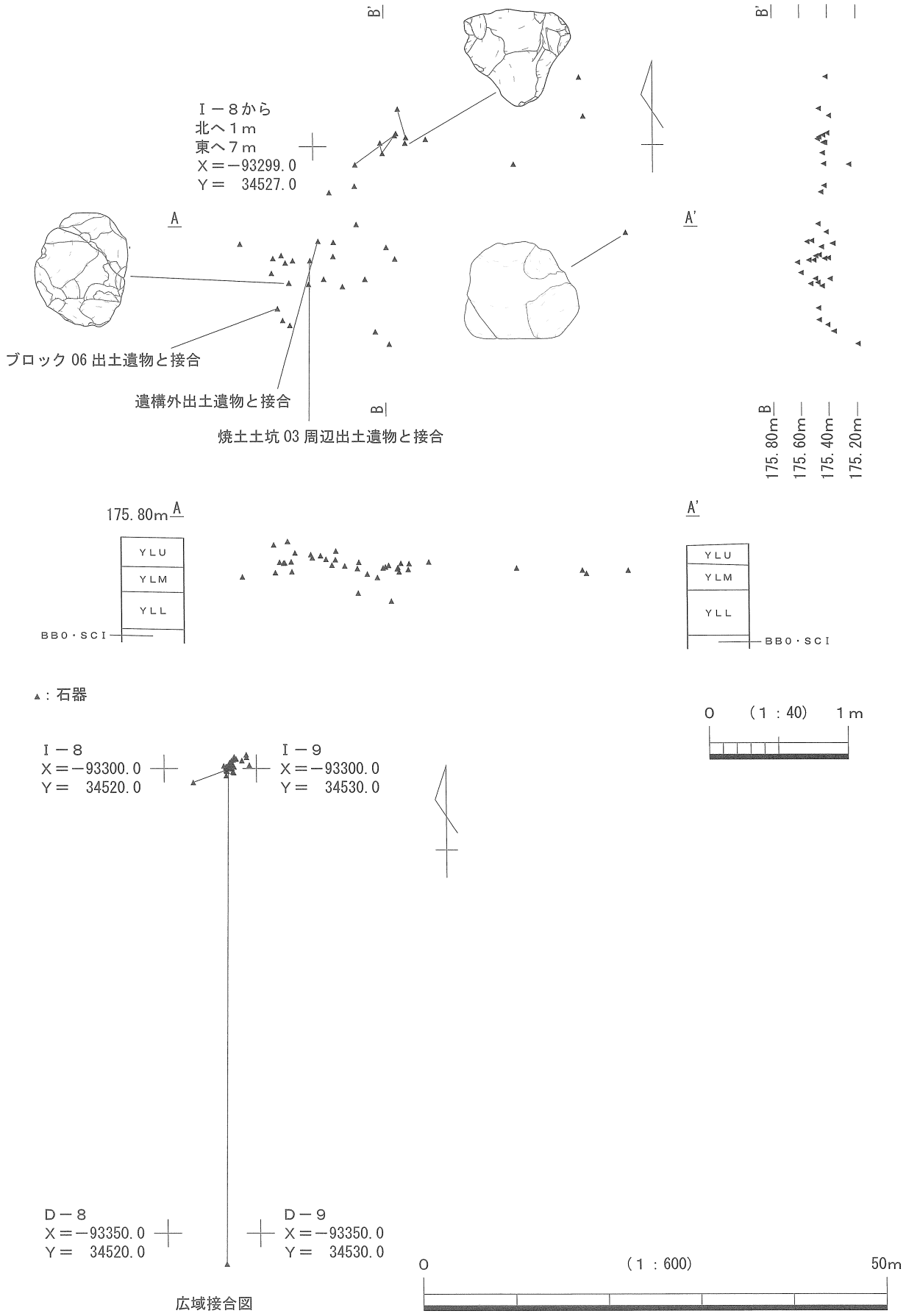
ブロック08（第52図）

休場層上層～中層で出土したホルンフェルスを主体とするブロックで、礫群07、08と重なっている。礫群07と08は20～30㎝のレベル差があるが、ブロック08の資料は両方のレベルにまたがっているため、礫群07と08に時期差があるとしても、ブロック08がどちらの時期になるのかわからない。

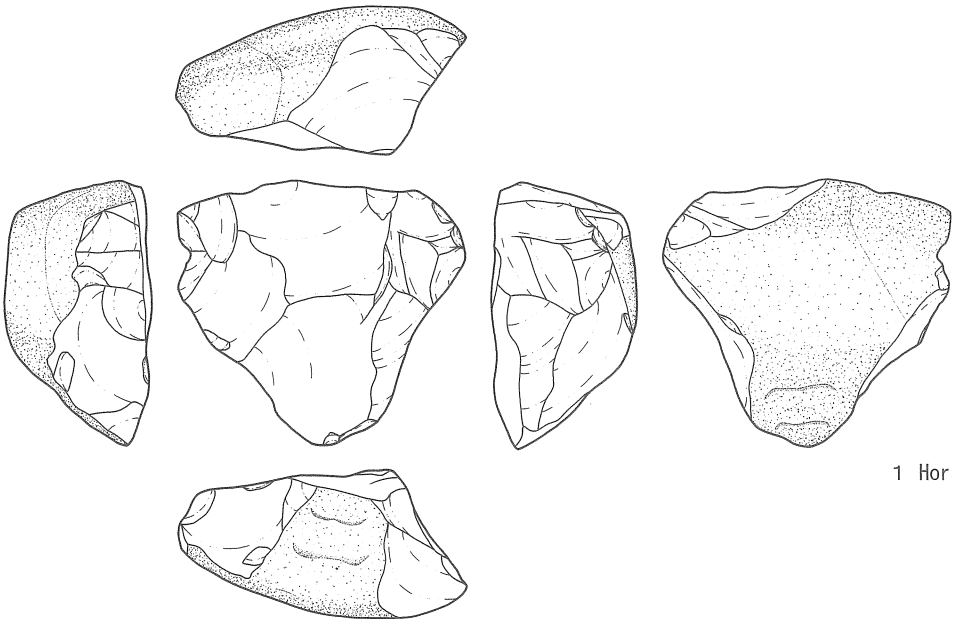
第52図－１は敲打痕のある礫で、元の円礫には戻っていないものの、４点の礫片が接合しており、そのうち１点は100m以上離れた場所で出土している。接合距離としては長距離になるであろう。

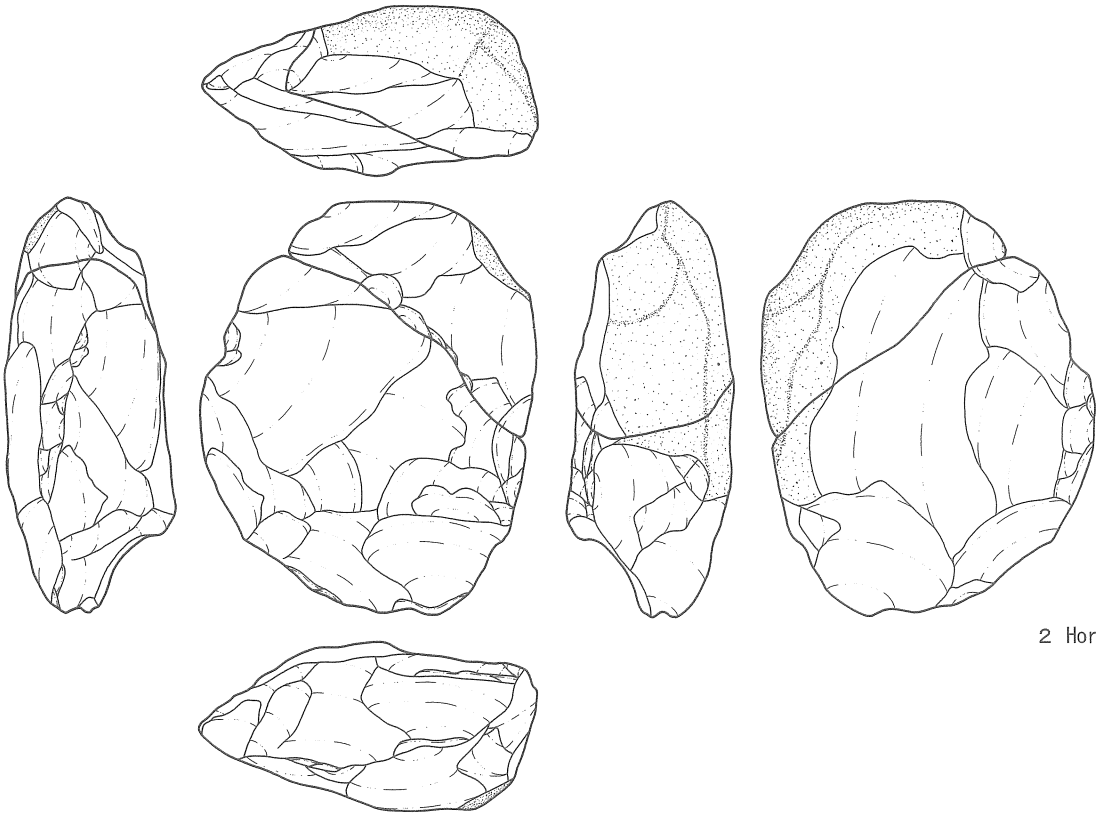
第53図－５はナイフ形石器に見えるが、加工が刃潰し加工ではないため、ここでは微細な剥離のある剥片に分類している。６と７は二側縁加工のナイフ形石器である。８は刃潰し加工の際に剥離される砕片と思われる。９と10は縦長剥片の微細な剥離が入っている。

第54図－１はホルンフェルス製の石核で、石核の周囲で打面と作業面を入れ替えながら、不定形の剥片を剥離している。２は敲打痕のある礫で、２つに割れたものが接合している。３と４は石皿と思われる石器で、磨滅した一面がある。



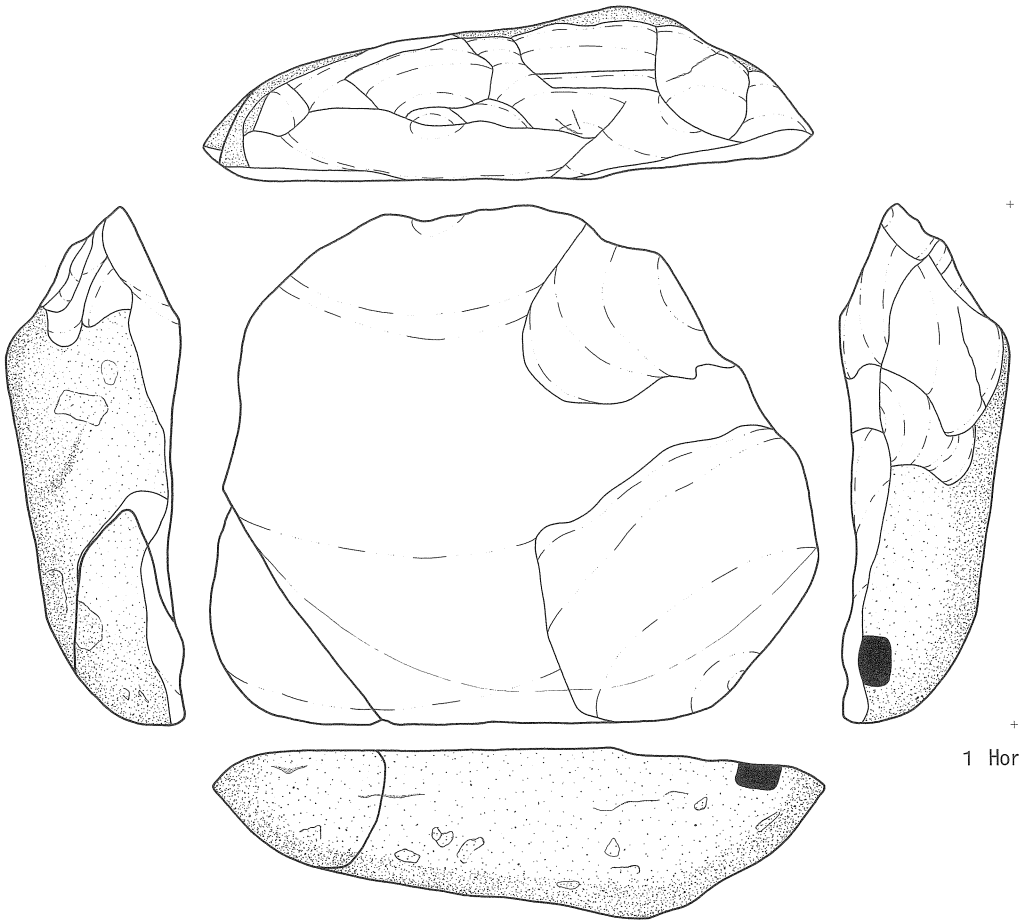
第46図　ブロック05遺物分布図

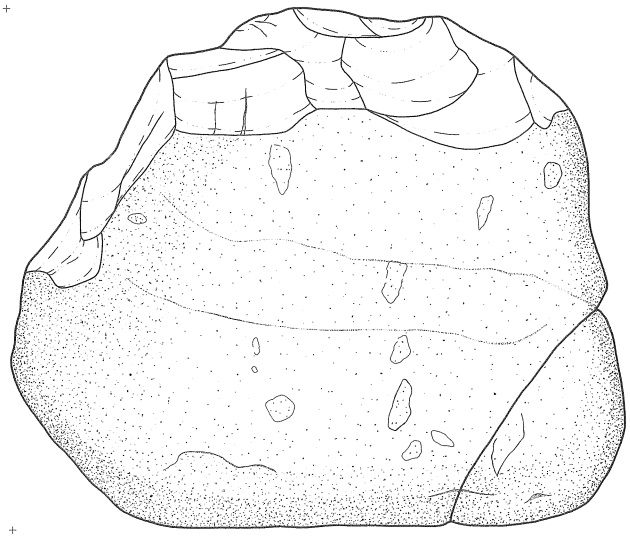


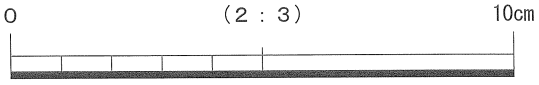


0　（2：3）　10cm

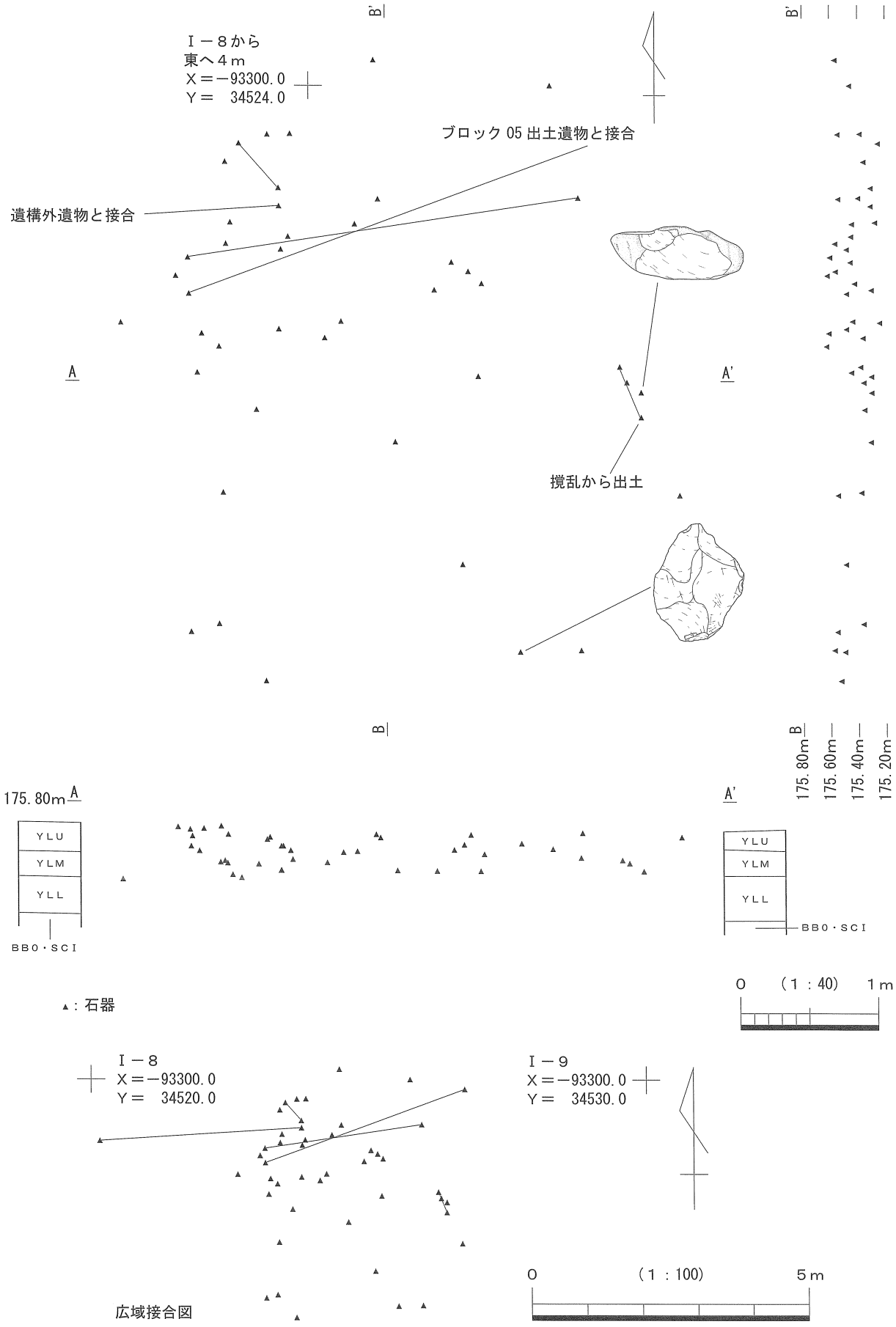
第47図　ブロック05出土遺物（1）



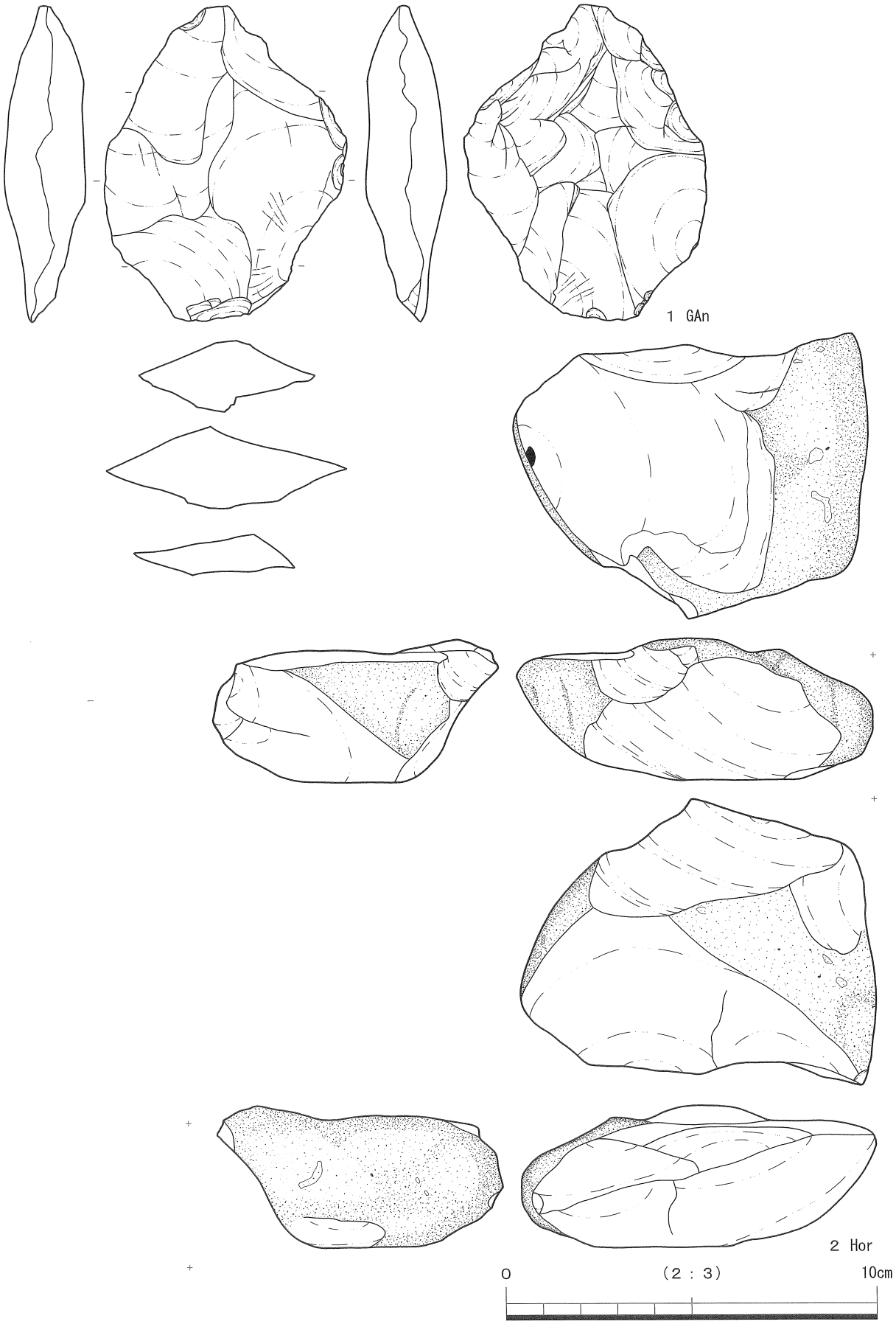




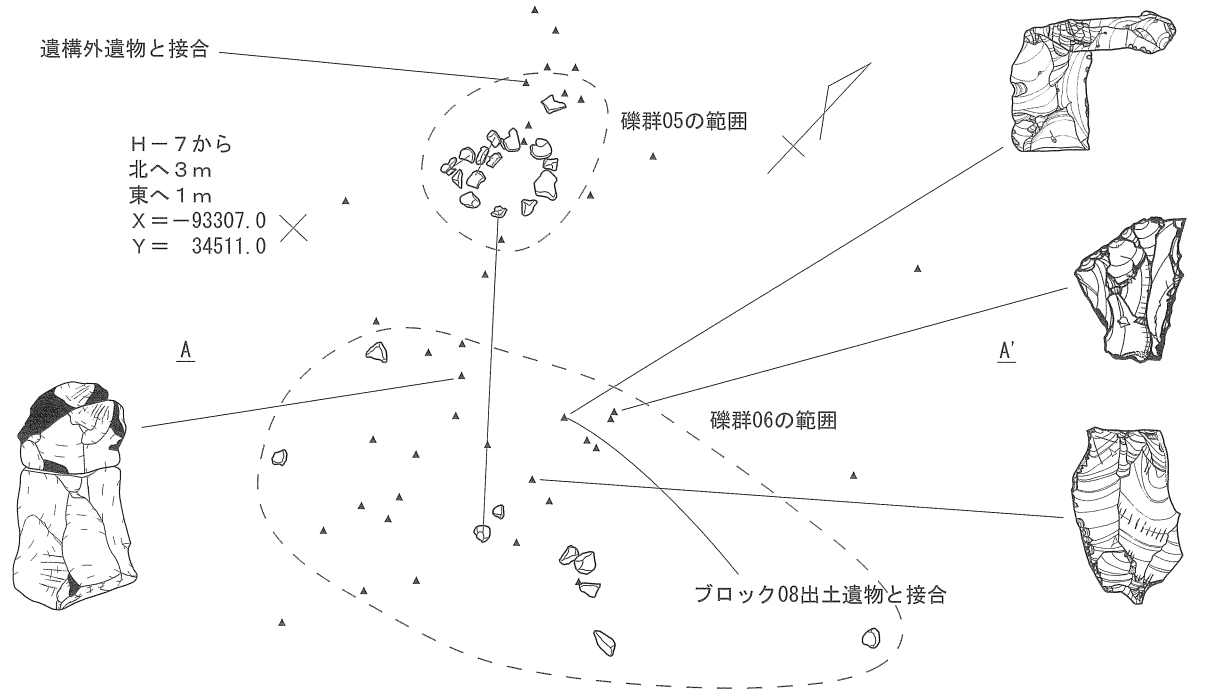
第48図　ブロック05出土遺物（2）



第49図　ブロック06遺物分布図

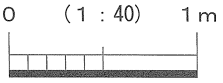


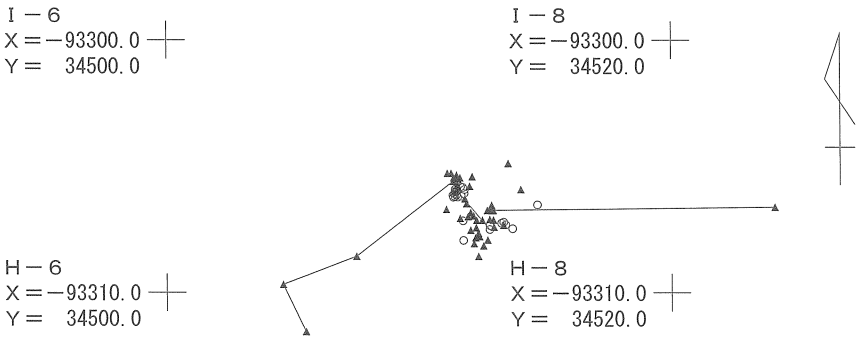
第50図　ブロック06出土遺物

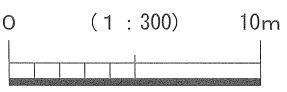


ＹＬＵ～ＹＬＭに分散、ＹＬＵ主体

▲：石器
○：礫

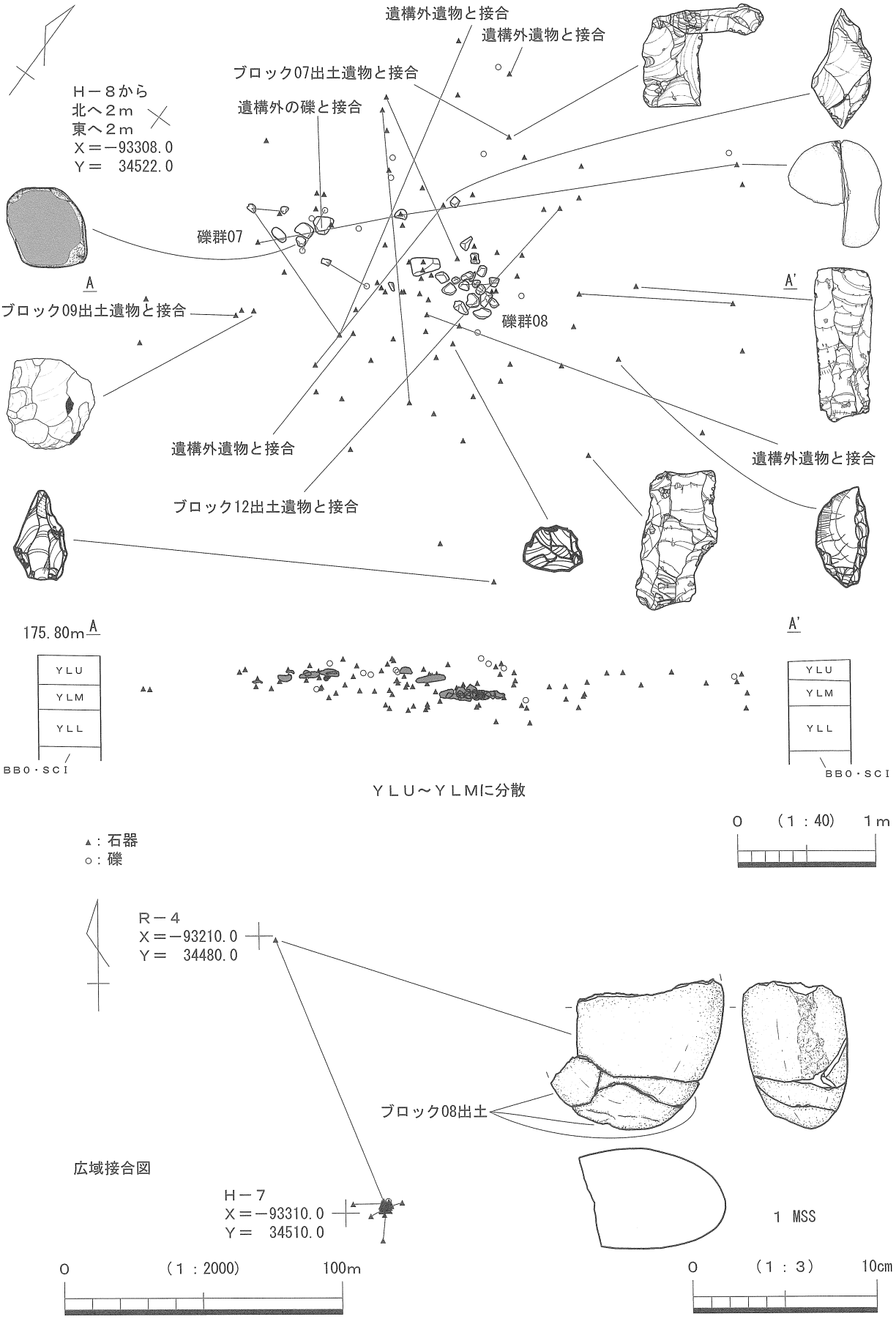




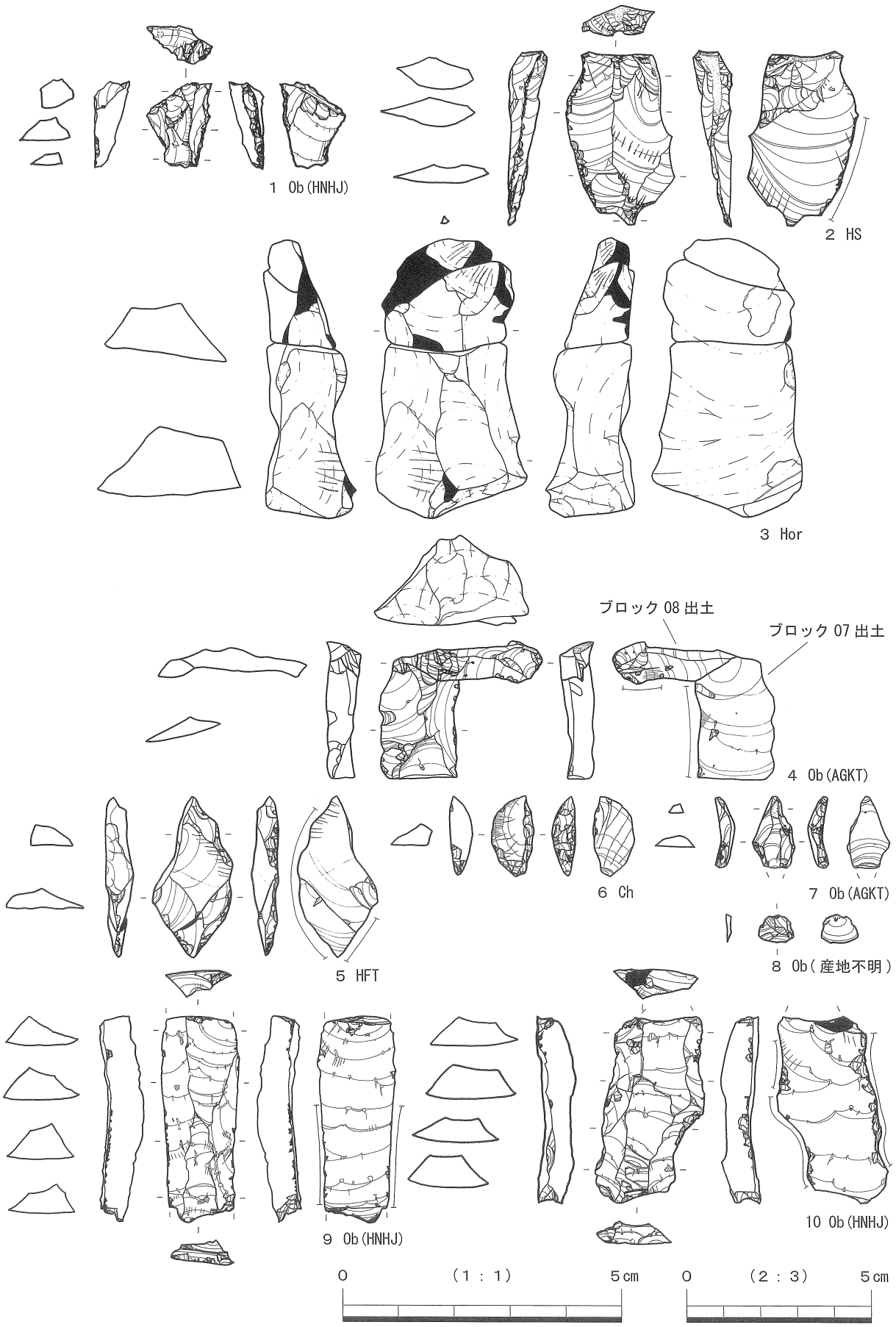


広域接合図

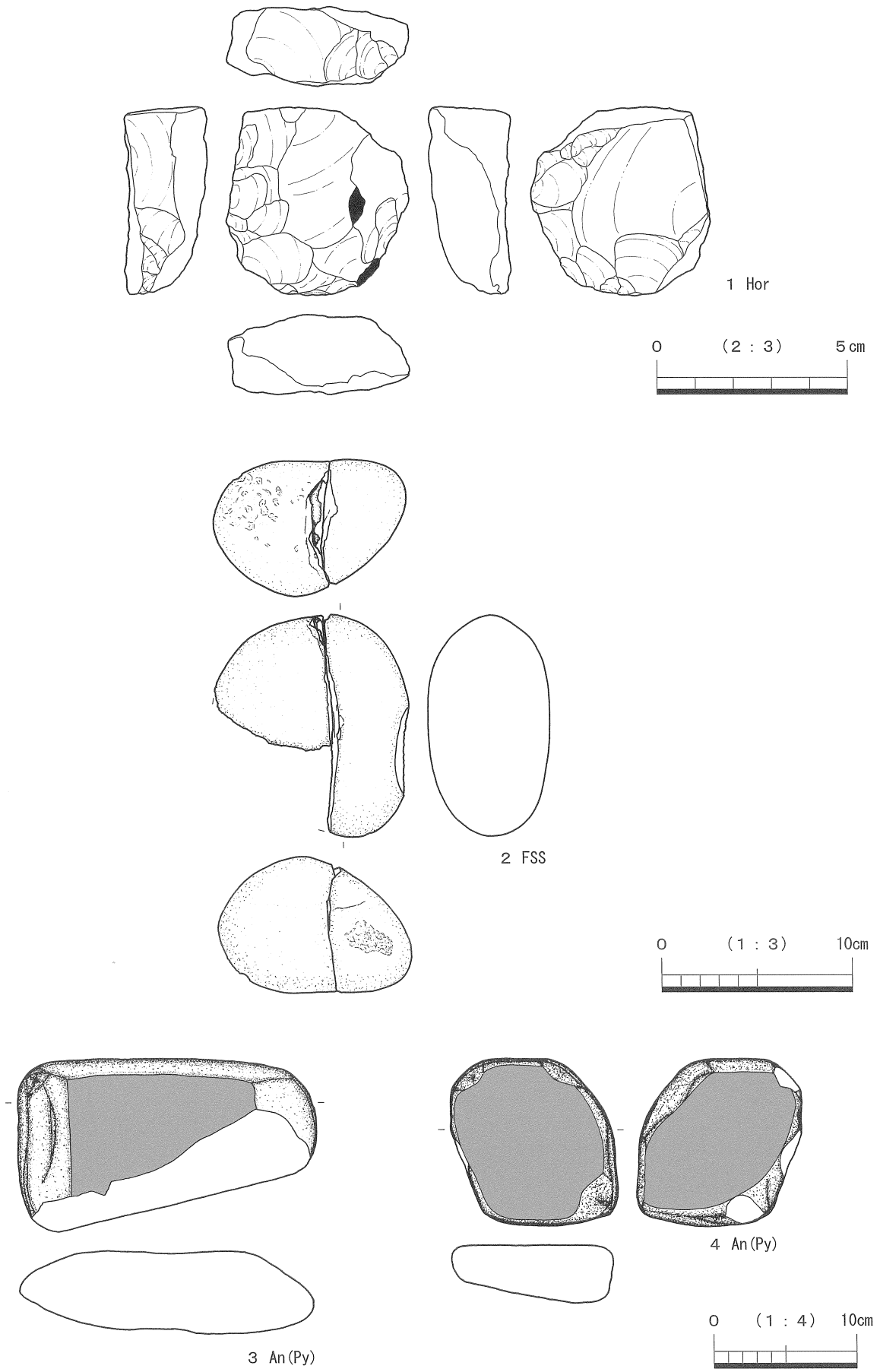
第51図　ブロック07、礫群05、06遺物分布図



第52図　ブロック08、礫群07、08遺物分布図、出土遺物



第53図　ブロック07、08出土遺物（1～7・9・10：2/3、8：1/1）



第54図　ブロック08出土遺物（1：2/3、2：1/3、3・4：1/4）

ブロック09（第55図）

休場層上層を中心にして出土したブロックで、一部資料は上層の漸移層や下の休場層中層からも出土している。この遺跡では、漸移層出土の遺物で旧石器時代の遺物と判断できないものは縄文時代の遺物にしているが、ブロック09の場合は、漸移層下部から休場層上層にかけて黒曜石が連続して出土し、分布の中心が休場層上層にあったため、機械的に層で分けずに漸移層下部から出土した遺物もブロック09に含めた。このブロックは黒曜石を主体としており、ブロック08、10と接合するものがある。

第57図－１は黒曜石製の尖頭器で、幅に比べて長さが短いため、寸胴な印象を受ける。また、基部付近の加工が縁辺を内湾させるようになっているため、基部を作り出しているようにも見える。２～６はナイフ形石器である。２は、右側縁下部に剥片の打面がわずかに残っている。また、左側縁の加工は、上半に比べて下半は剥離角度が低くなっている。３は大きさの割に厚みのある不定形剥片を使っており、打面は加工で除去されている。末端には剥片の縁辺が加工されずに残っている。４は大きさの割に厚みのある剥片を使っている。左側縁上半は両面から加工している。下半は基部から側縁に、彫器の彫刃面を作るように剥離を入れており、ナイフ形石器の縁辺加工としては、極めて珍しい方向からの加工である。右側縁上半は主剥離面から加工しているが、下半は、剥片の打面を折り取った折れ面が残っていて、加工していない。５は二側縁加工ナイフ形石器の基部である。６の左側縁は主剥離面から加工しているのに対して、右側縁は先行剥離面から加工している。そのため、両側縁の加工が錯行剥離になっている。７はホルンフェルス製の縦長剥片で、風化が進んでいる。先行剥離面の剥離方向も上下方向からの剥離と思われ、縦長剥片を連続剥離した石核から剥離されたと思われる。

ブロック10（第56図）

このブロックの遺物は休場層上層～下層に広く分布するブロックで、礫群10と分布が重なっているため、礫群10のある休場層中層が本来の中心なのであろう。休場層上層よりも上の富士黒土層から出土した遺物１点が、このブロックの資料と接合している。このブロックの特徴は、神奈川県箱根産黒曜石が主体になっていることと、全体的に大きな剥片が目立つことである。黒曜石の質は良質とは言えず、直径２～３㎜の不純物を多く含み、中には５㎜を超えるような不純物も入っている。そのため、小さな剥片は剥離しにくかったのか、剥片としては大型のものが目立つ。

第57図－８は両面加工尖頭器で完成品が欠損している。９～11は非常に小型のナイフ形石器である。12はブランティングチップと思われる砕片である。13は良質な硬質頁岩の縦長剥片を使ったスクレイパーである。14は黒曜石の剥片の縁辺に細かい剥離が連続するスクレイパーである。

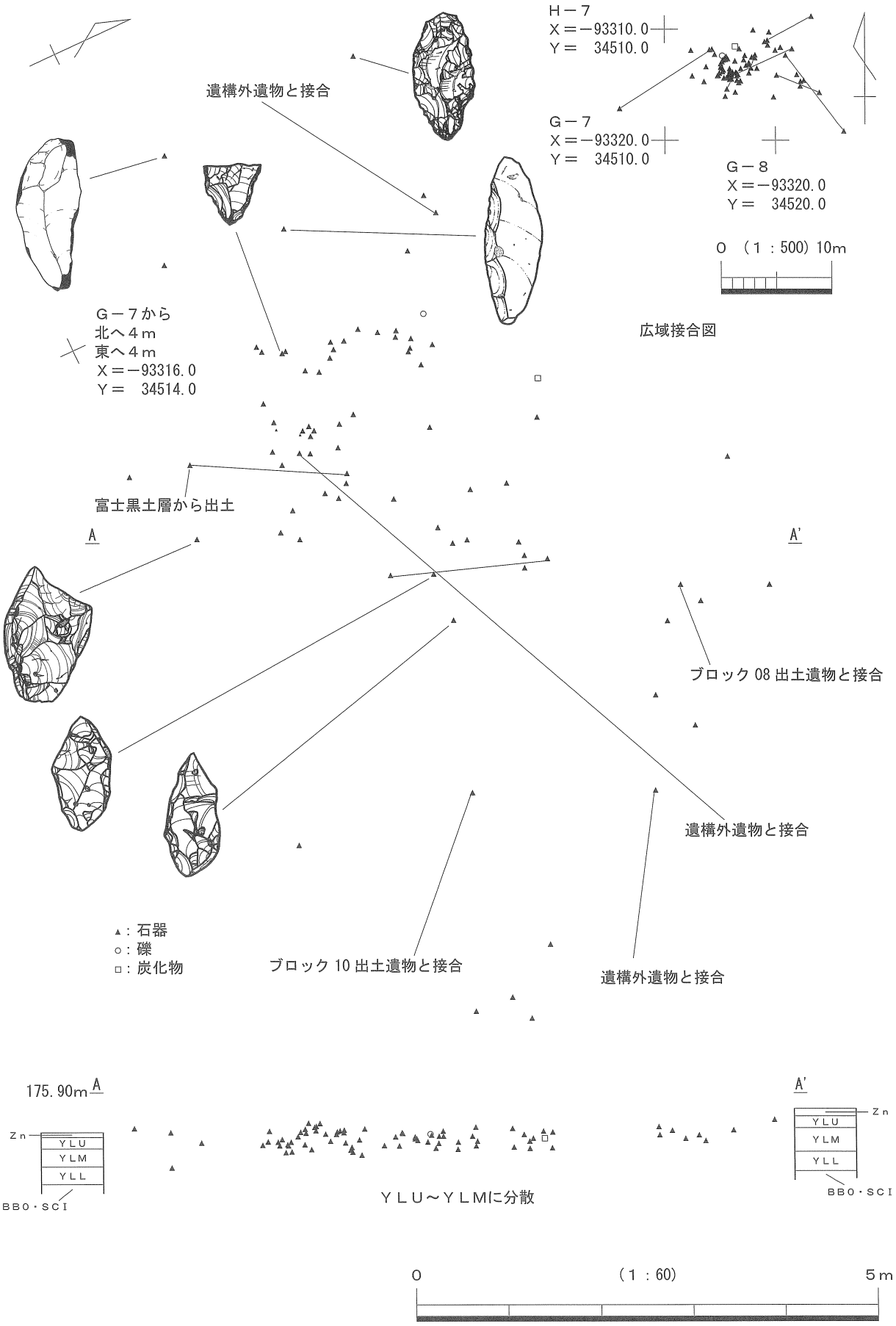
第58図－１は分厚い剥片の縁辺に微細な剥離が入っている。２は分厚い剥片の側縁と末端を加工したスクレイパーである。３は縦長剥片で、末端には石核の下面が残っている。

ブロック11（第59図）

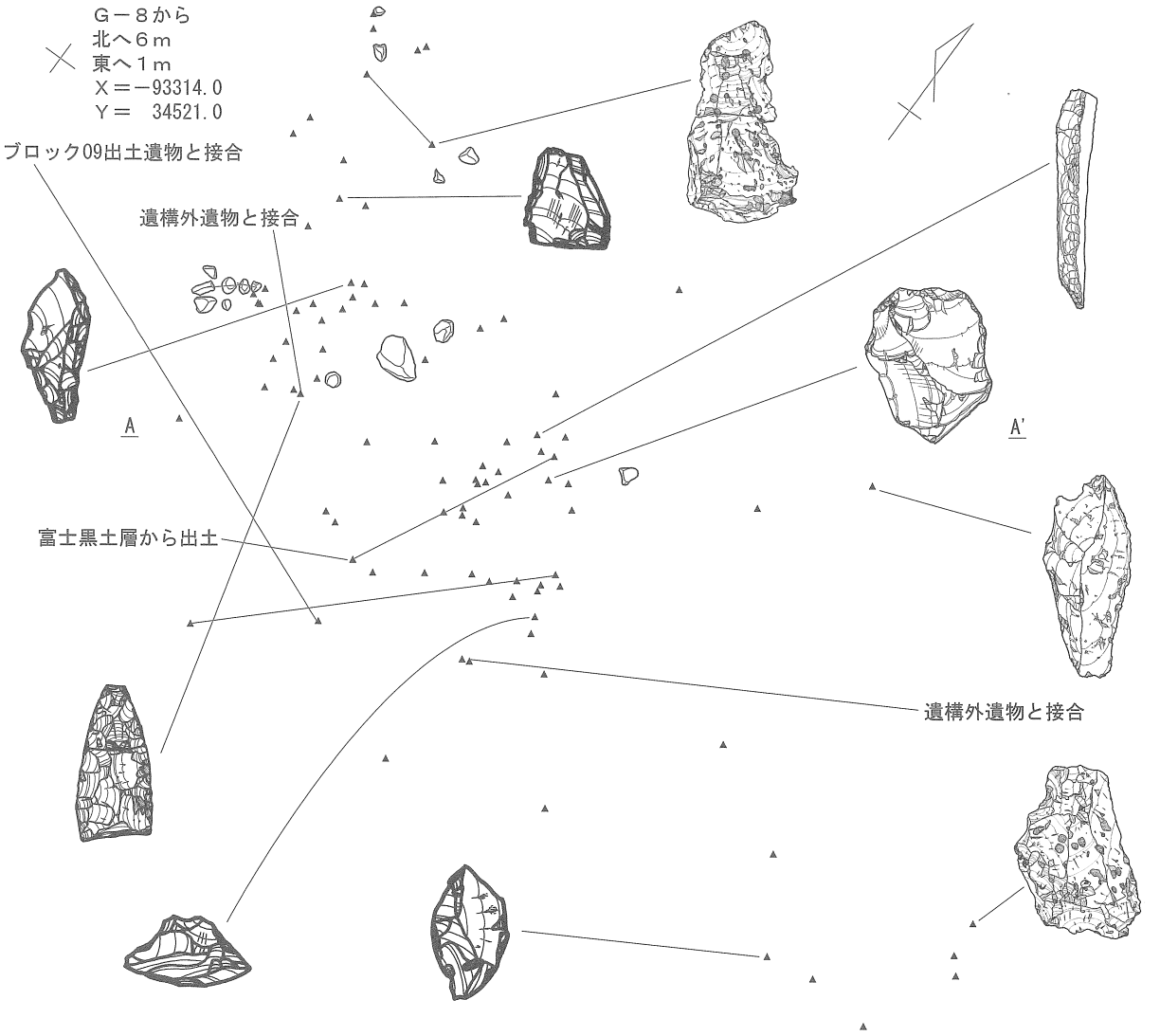
休場層中層～下層で検出したブロックで、ナイフ形石器と剥片、砕片から構成されている。ブロック12と隣接しているが、間に空間があるため、別のブロックにした。石材はホルンフェルスが主体である。第59図－２はホルンフェルス製のナイフ形石器で、かなり風化が進んでいるが、かろうじて二側縁加工と思われる剥離が確認できる。

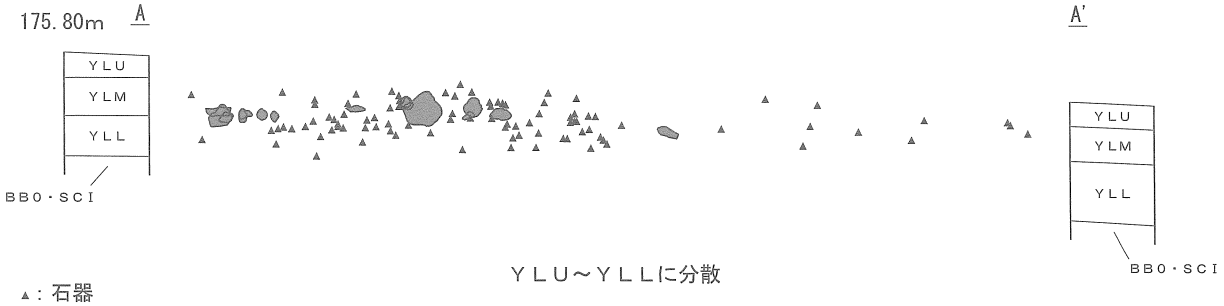
ブロック12（第59図）

休場層中層で検出したブロックで、16点の石器からなる。ブロック11と隣接しているが、間に空間があるため、別のブロックにした。第59図－１は良質な硬質頁岩を使った二側縁加工のナイフ形石器で、刃部の傾きが小さいため、切り出し形をしている。３も良質な硬質頁岩を使ったスクレイパーで、両側縁に一部に抉りを入れるように加工している。４は良質な硬質頁岩を使った石核で、細石刃に近い小型の縦長剥片を剥離している。下設打面からの剥離が細かい階段状剥離を起こしている。



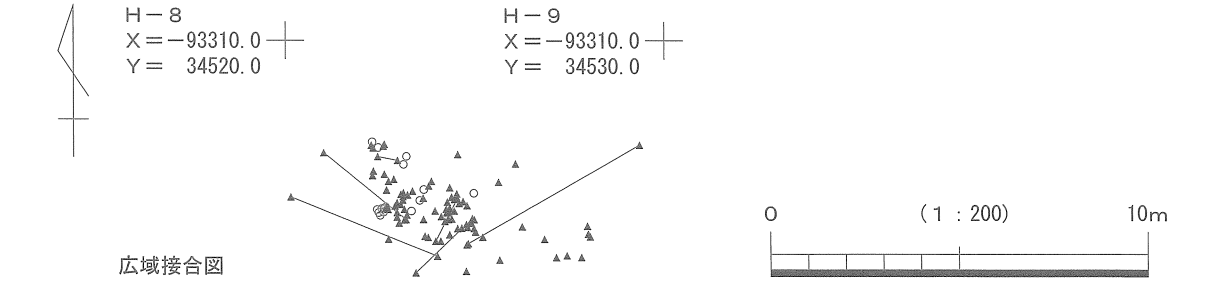
第55図　ブロック09遺物分布図





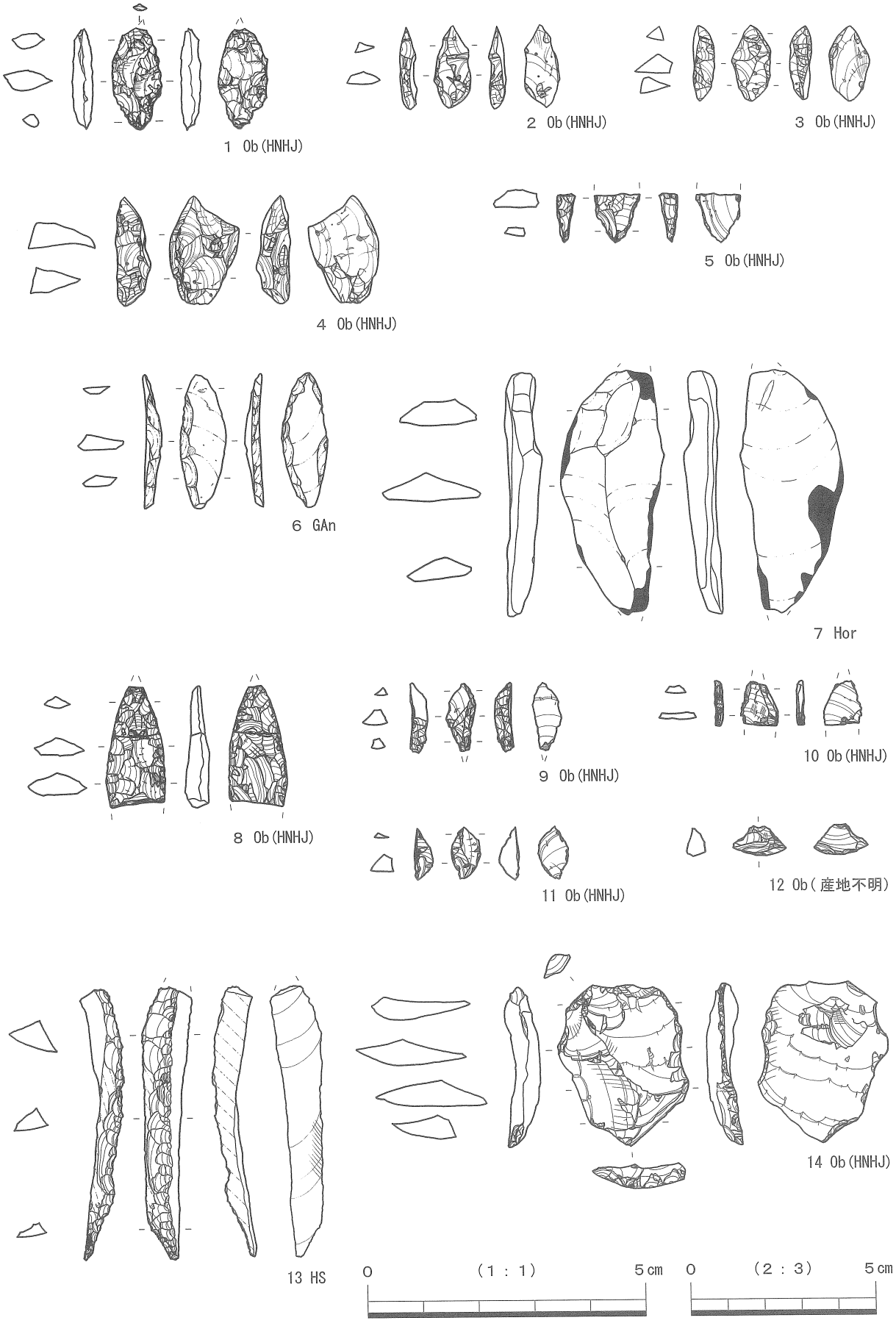
▲：石器
○：礫

0 (1：40) 1m

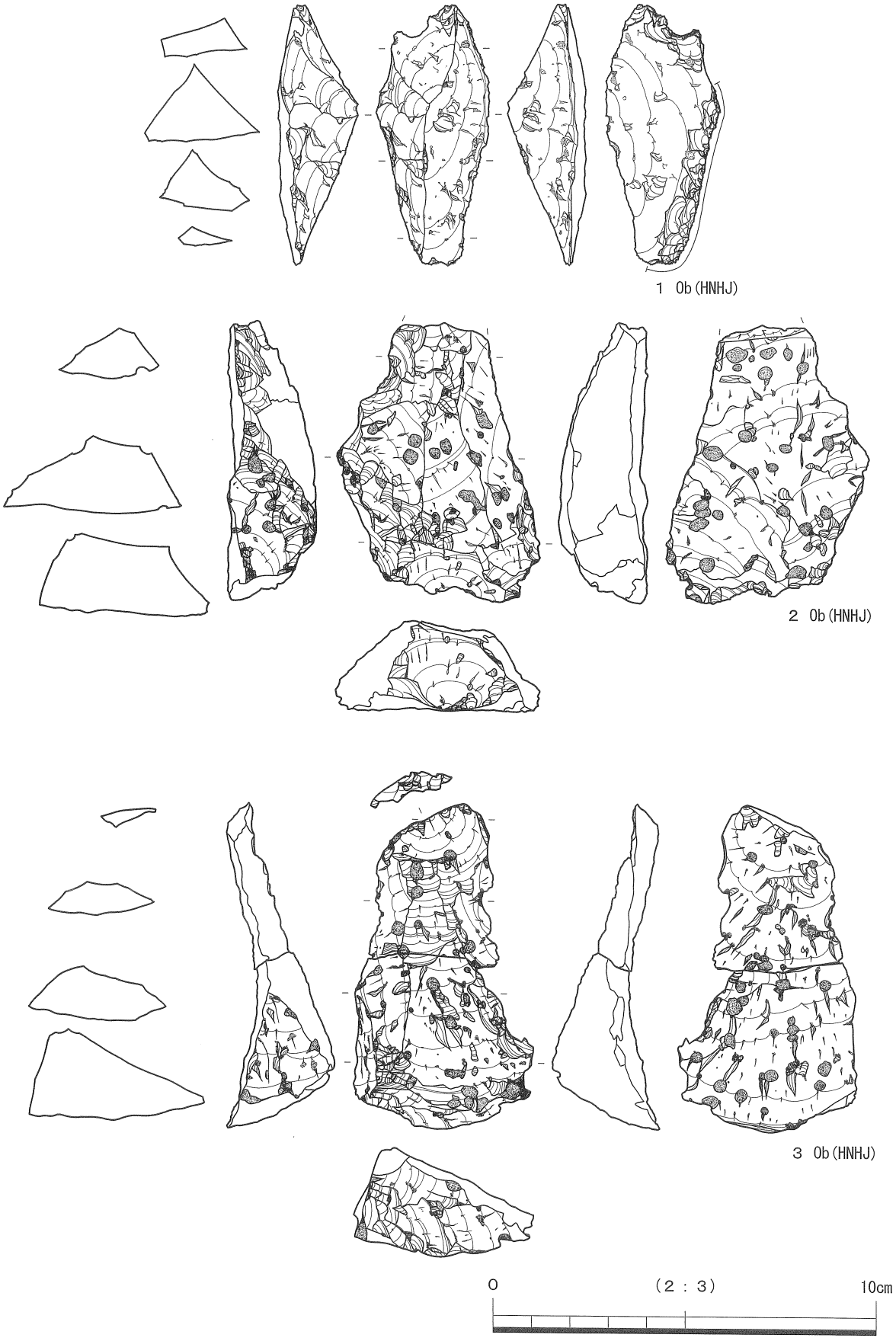


広域接合図

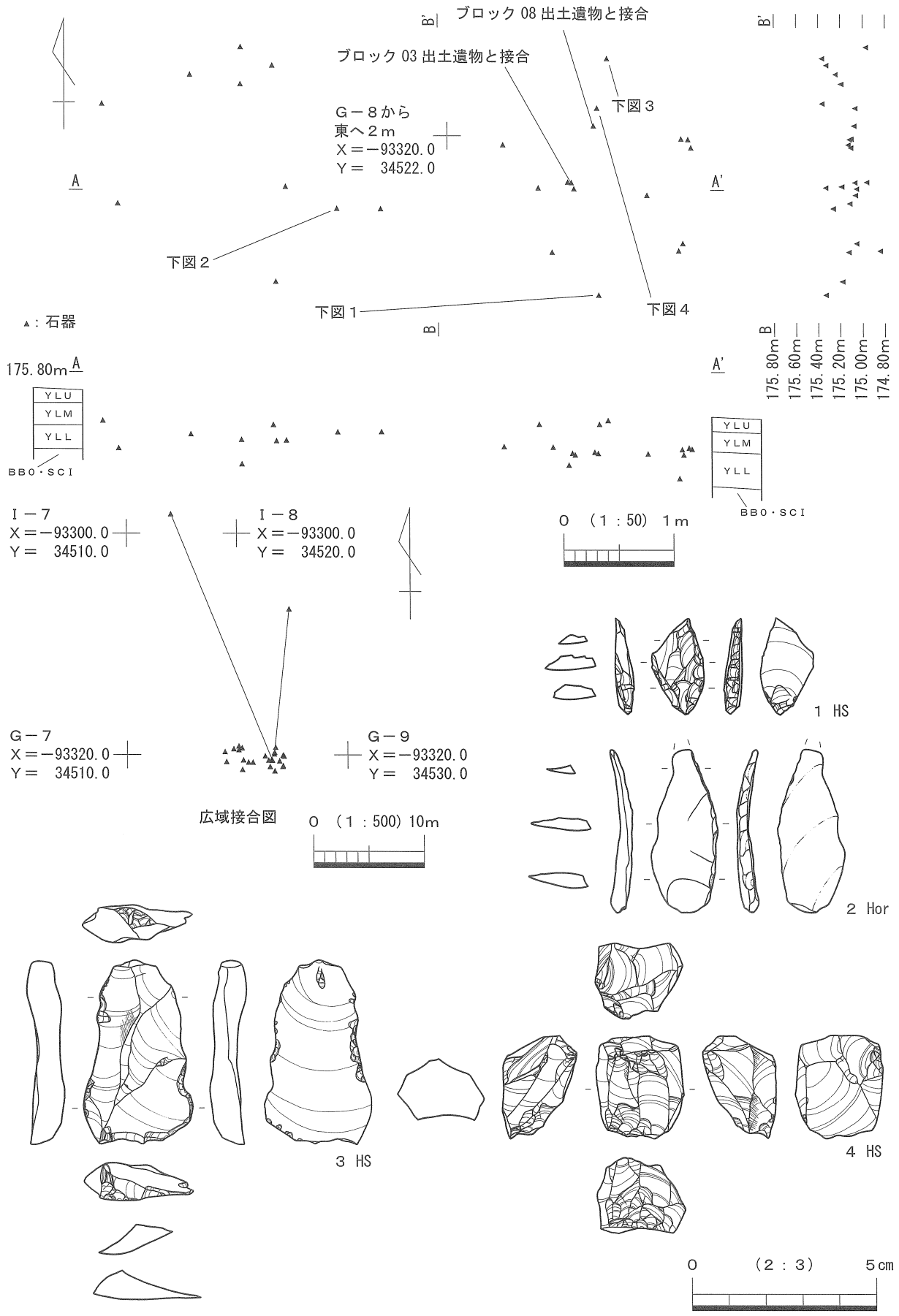
第56図　ブロック10、礫群10遺物分布図



第57図　ブロック10出土遺物（1）（1～11・13・14：2/3、12：1/1）



第58図　ブロック10出土遺物（2）



第59図　ブロック11、12遺物分布図、出土遺物

ブロック13（第60図）

休場層上層～中層で出土した11点の石器からなる小規模なブロックである。休場層上層よりも上にある富士黒土層から出土した遺物がこのブロック内の石器と接合したことで、このブロックの所属ではないが、休場層内の文化層所属となった。

第60図－１は良質な硬質頁岩の縦長剥片を使ったナイフ形石器で、二側縁を加工している。主剥離面側には平坦剥離が見られる。２は黒曜石の大型剥片を使ったスクレイパーで、両側縁を加工している。

ブロック14（第61図）

休場層上層を中心とするブロックで、礫群13と重なっている。礫群13が、休場層上層下部にあることから、このブロックの中心も本来は休場層上層下部にあったと思われる。ホルンフェルス製の剥片と砕片だけで構成されており、接合もしないことから、剥片だけを搬入したようである。

第61図－１は縦長剥片で、先行剥離面には複数方向から剥離が入っていることから、必ずしも縦長剥片石核から剥離されたものではないようである。２は縦長剥片で、平坦打面が残っているようである。

ブロック15（第62図）

休場層中層で検出した、黒曜石を主体とするブロックである。出土遺物を第63図に示す。１は良質な硬質頁岩製のナイフ形石器で、ナイフ形石器としては大型である。左側縁の上半の加工は、刃潰しと言うよりも、スクレイパーの刃部加工に近い。左側縁下半の加工は角度の高い刃潰し加工である。右側縁は、先端付近を刃潰し加工しており、基部に近い部分は、刃潰し加工の途中で縁辺を欠損しているため、これによって、基部が尖ったような形状になっている。２は黒曜石の不定形剥片の縁辺の一部を加工したスクレイパーである。３は黒曜石の稜付き縦長剥片の縁辺に微細な剥離が見られる。４は黒曜石の縦長剥片の末端を加工したスクレイパーである。５は黒曜石の石核で、実測図正面は上下から剥片を剥離しており、実測図裏面は左右から剥片を剥離している。６も黒曜石の石核で、上端の打面から不定形剥片を剥離している。

第64図－１は、平坦打面を持つ大きな不定形剥片の末端を加工したスクレイパーである。

ブロック16（第65図）

休場層下層で出土したホルンフェルスを主体とするブロックである。スクレイパーが１点ある以外は剥片と砕片から構成されている。第65図－２は良質な硬質頁岩の剥片を加工したスクレイパーである。１と３はホルンフェルスの縦長剥片で、風化が進んでいる。

包含層出土石器

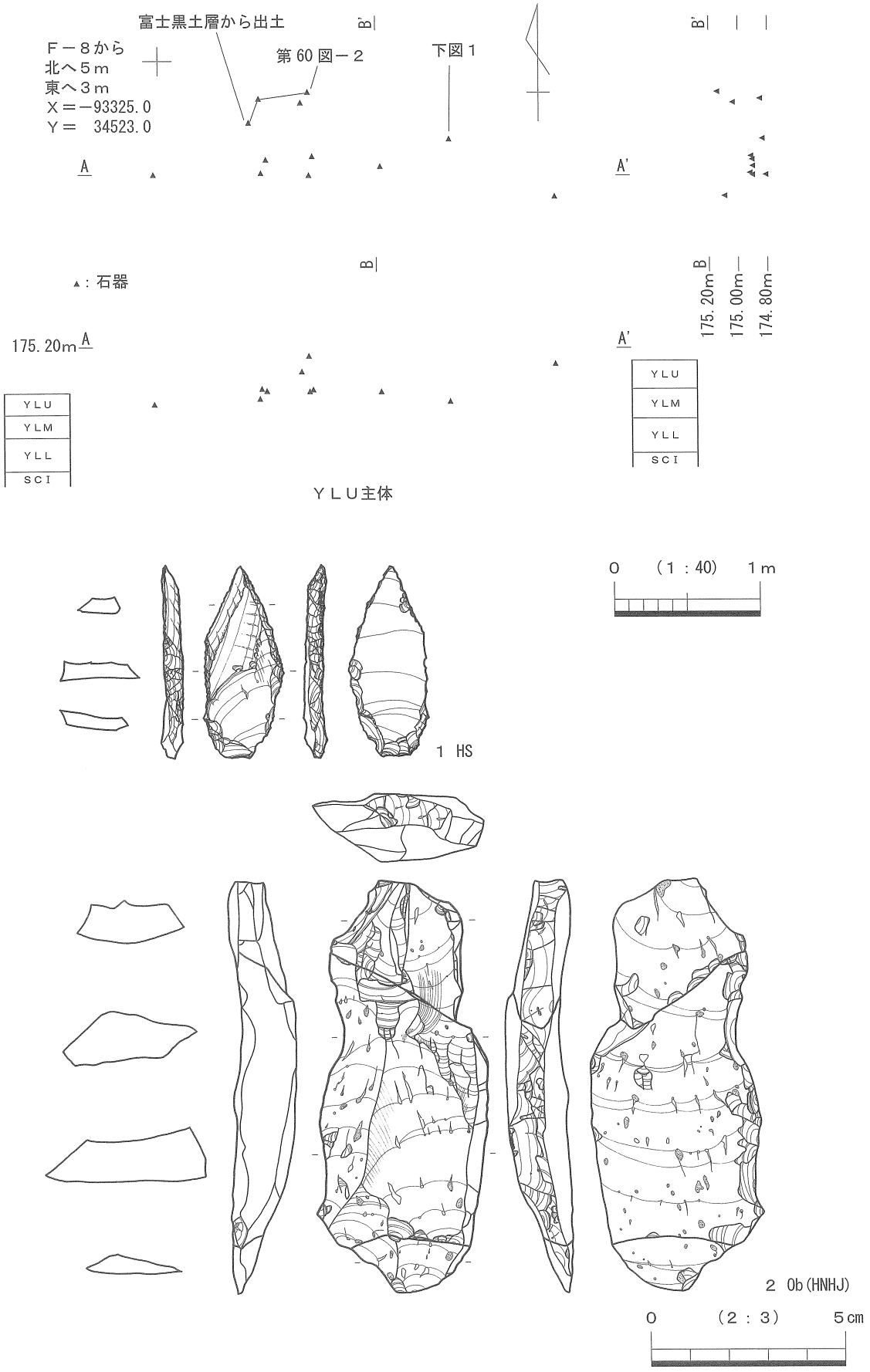
尖頭器

第66図－１は黒曜石の縦長剥片を加工した周縁加工尖頭器である。左側縁は裏面から加工しているのに対して、右側縁は表面から加工しているため、錯行剥離になっている。２はチャート製の両面加工尖頭器である。３と４はホルンフェルス製の両面加工尖頭器で、風化が進んでいる。５は黒曜石の縦長剥片を使った周縁加工で、先端だけ加工している。６は流紋岩性の両面加工尖頭器で、中央の厚みを取るために両側縁から平坦剥離を入れているが、階段状剥離を起こしている箇所が多く、厚みを除去できていない。７はガラス質黒色安山岩製の両面加工尖頭器で、加工が進んでいるようには見えないが、階段状剥離を起こすことなく全体が薄くなっていることから、完成に近いと思われる。

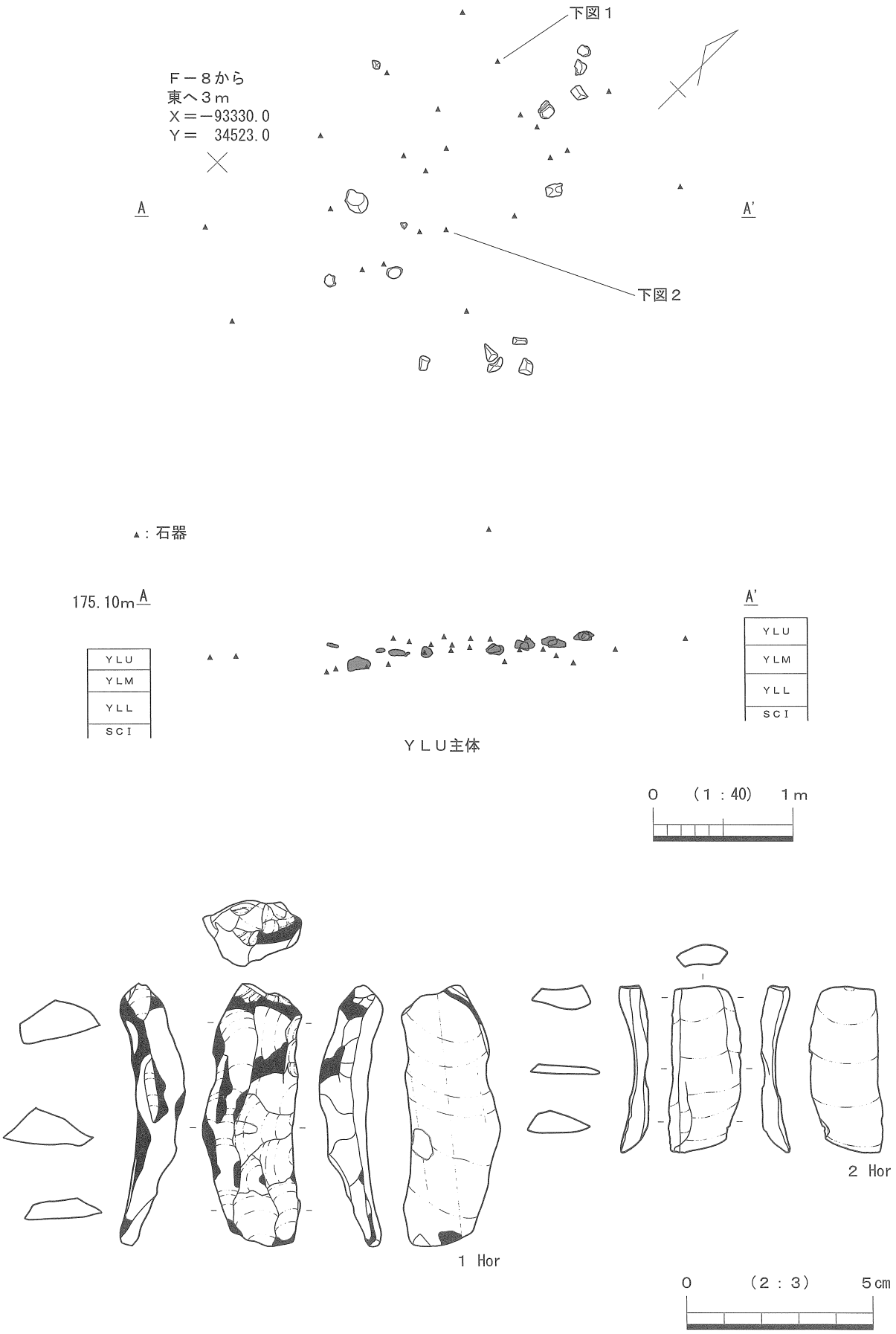
第67図－１はガラス質黒色安山岩を使った両面加工尖頭器の未完成品である。両面に自然面が残っている。２も両面加工尖頭器の未完成品で、先端部の破片だが、かなりの大型である。

ナイフ形石器

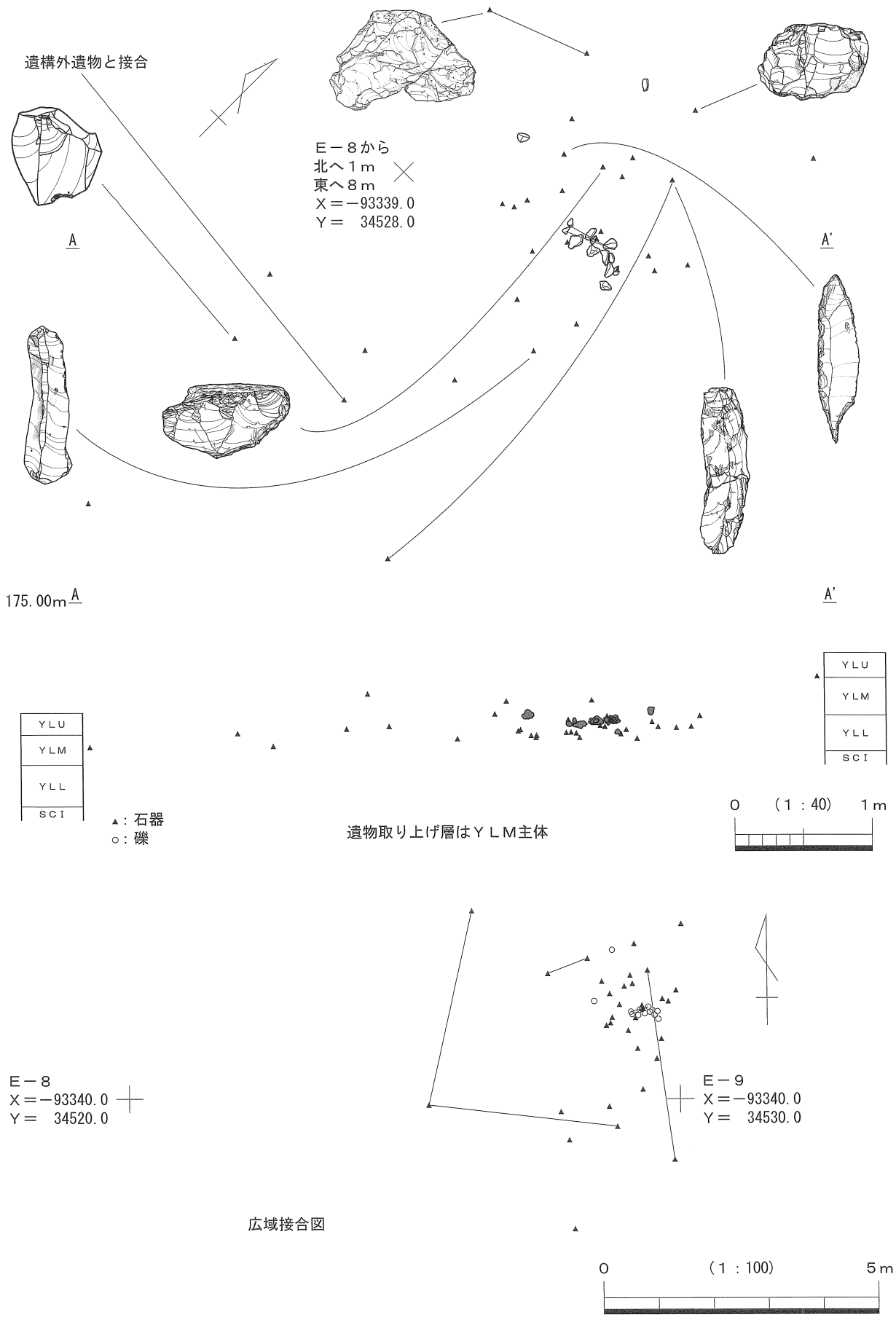
第67図－３は黒曜石製の二側縁加工で、裏面に打瘤を除去したと思われる平坦剥離がある。４は黒曜石製に一側縁加工で、大きさの割に厚みがある。また、裏面に厚みを取ったと思われる平坦剥離がある。



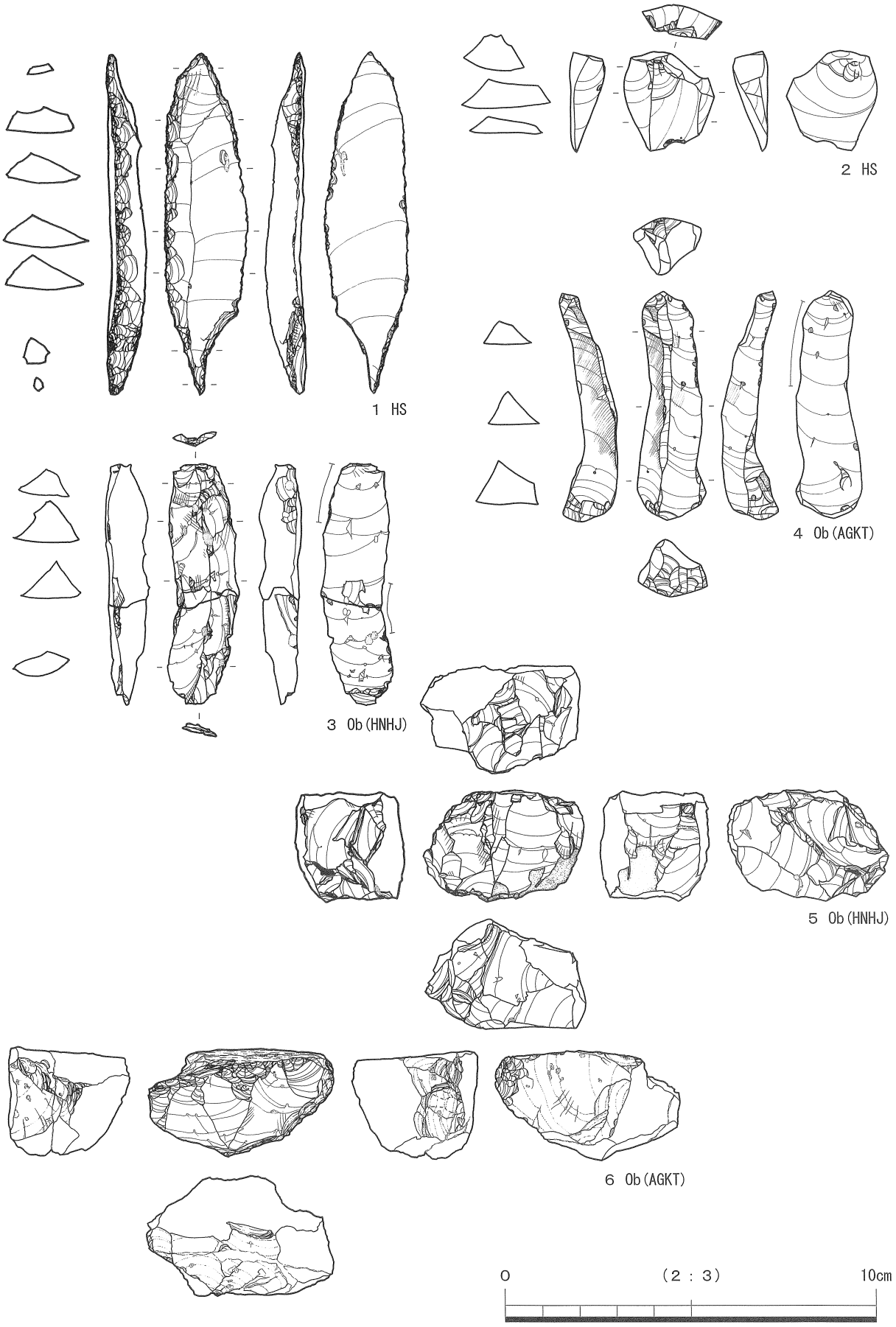
第60図　ブロック13遺物分布図、出土遺物



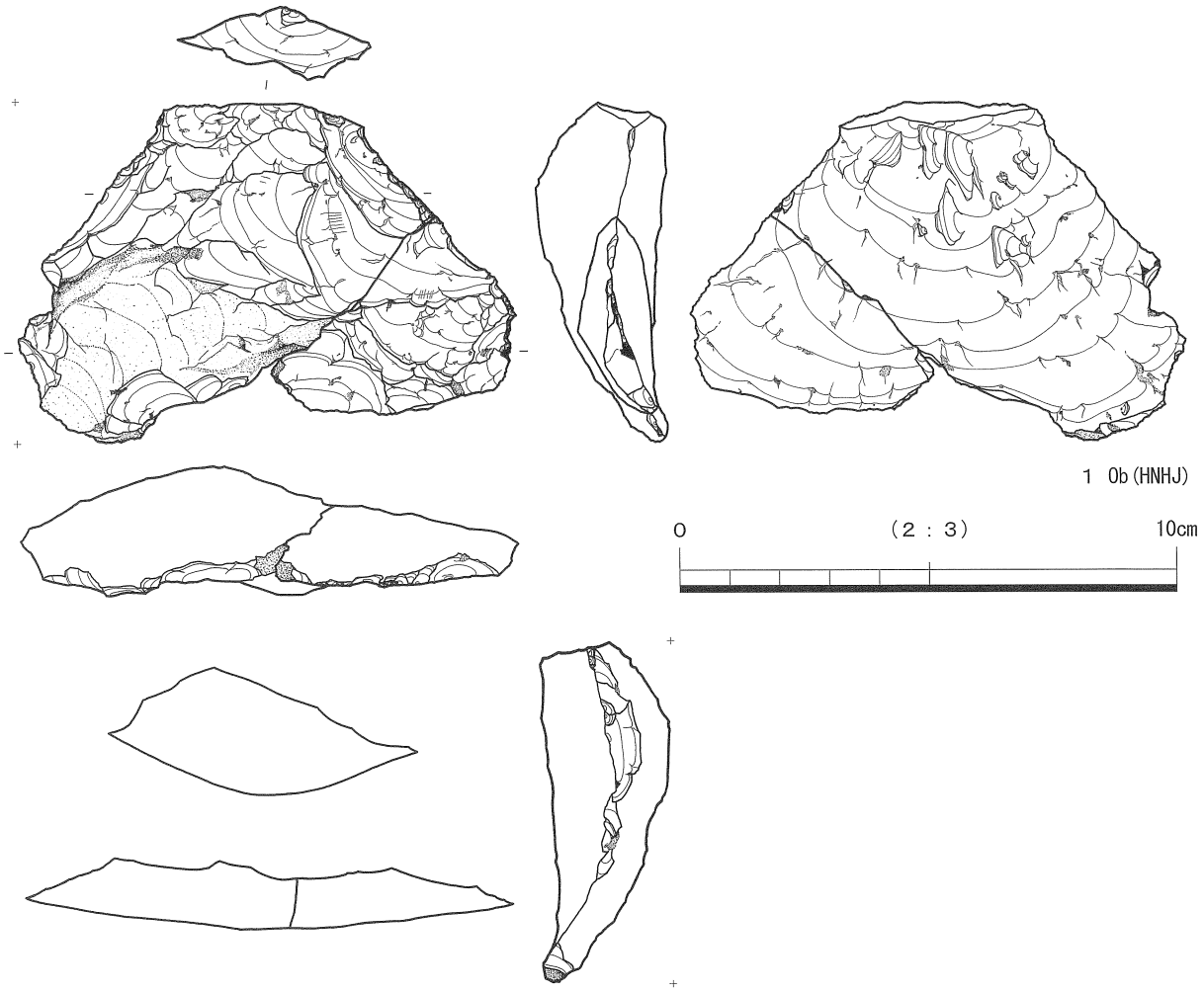
第61図　ブロック14、礫群13遺物分布図、出土遺物



第62図　ブロック15、礫群14遺物分布図



第63図　ブロック15出土遺物（1）



第64図　ブロック15出土遺物（2）

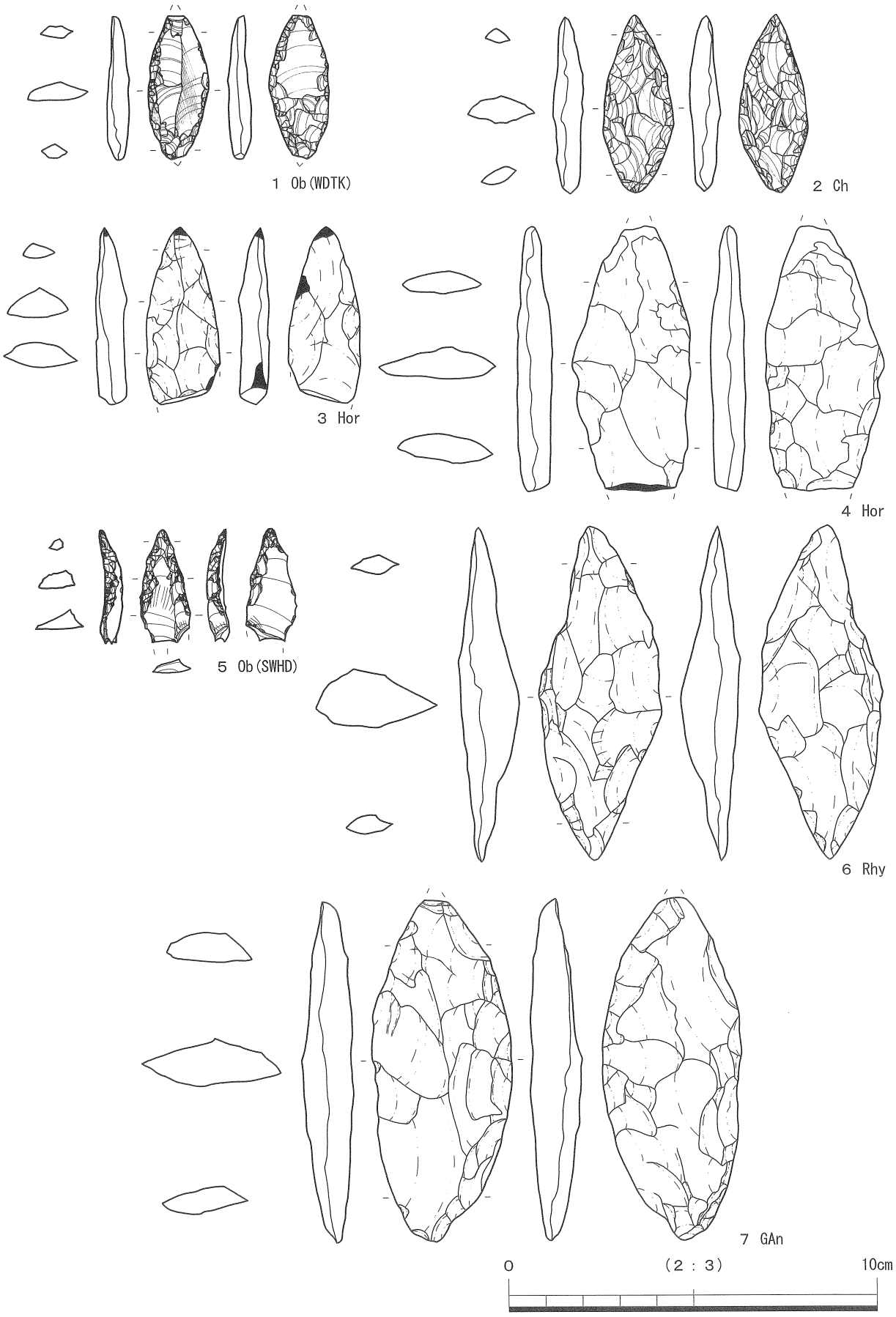
５はガラス質黒色安山岩の縦長剥片を使ったナイフ形石器で、右側縁上半に刃潰しをしたような剥離があるが、風化もあってはっきりしない。上下逆の可能性もある。６は黒曜石製の二側縁加工である。右側縁の刃潰し加工は、上半が細かく、下半が粗い加工になっている。

第68図－１は黒曜石製の二側縁加工で、右側縁下部は微細な剥離を入れて加工している。２と３は、ナイフ形石器だとすると上下が逆で、切り出し形のナイフ形石器になる。図示した通りだとすると角錐状石器に似た石器になる。石材は２がガラス質黒色安山岩、３が黒曜石である。

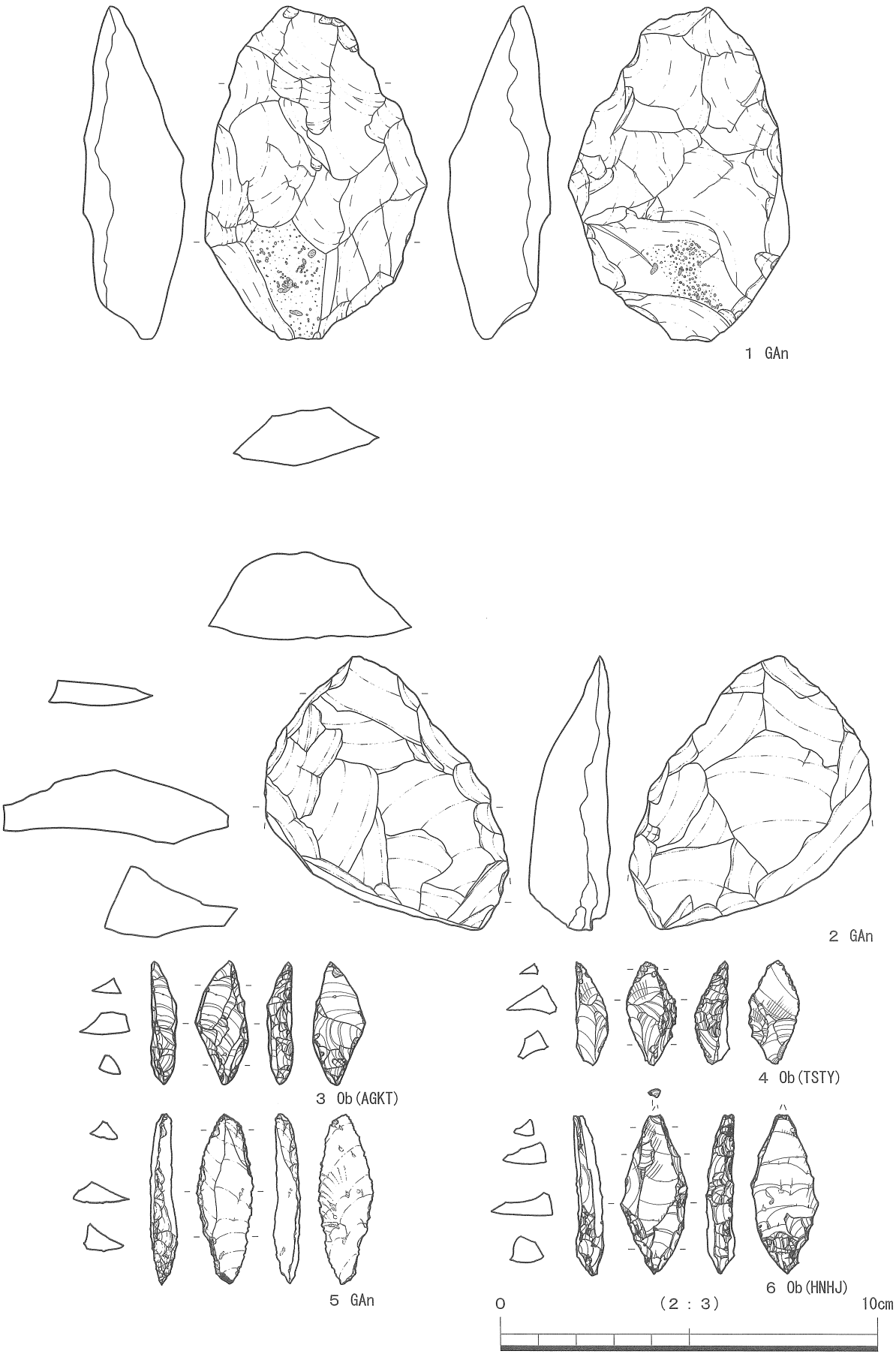
４は黒曜石製で、刃潰しを確認できるのは右側縁だけだが、左側縁下半の欠損は刃潰し加工の途中で欠損したと思われることから、二側縁加工に分類している。５は黒曜石の幅の広い剥片を使った二側縁加工である。右側縁は、上半に比べて下半の加工が細かい。基部に剥片の打面が残っている。６はホルンフェルス製の二側縁加工で、基部に剥片の打面が残っている。７は黒曜石製の二側縁加工で、基部に剥片の打面が残っている。８は黒曜石の丸みのある剥片を使った二側縁加工である。刃部から先端も加工してある。刺突具として機能したかどうか疑わしく、ナイフ形石器に分類して良いか躊躇される。

９は黒曜石製で、縦長の厚みのある剥片を使っている。基部に剥片の打面が残っている。10は良質な硬質頁岩製の二側縁加工で、左側縁の加工が剥片の打面を除去している。11も良質な硬質頁岩製の二側縁加工で、右側縁に自然面が残っている。12は黒曜石製で、右側縁上半の加工が剥片の打面を除去している。左側縁の加工は器面に沿って薄く剥がすような加工で、刃潰し加工とは異なり、スクレイパーの刃部を作るような加工になっている。裏面基部には厚みをとったと思われる平坦剥離が見られる。

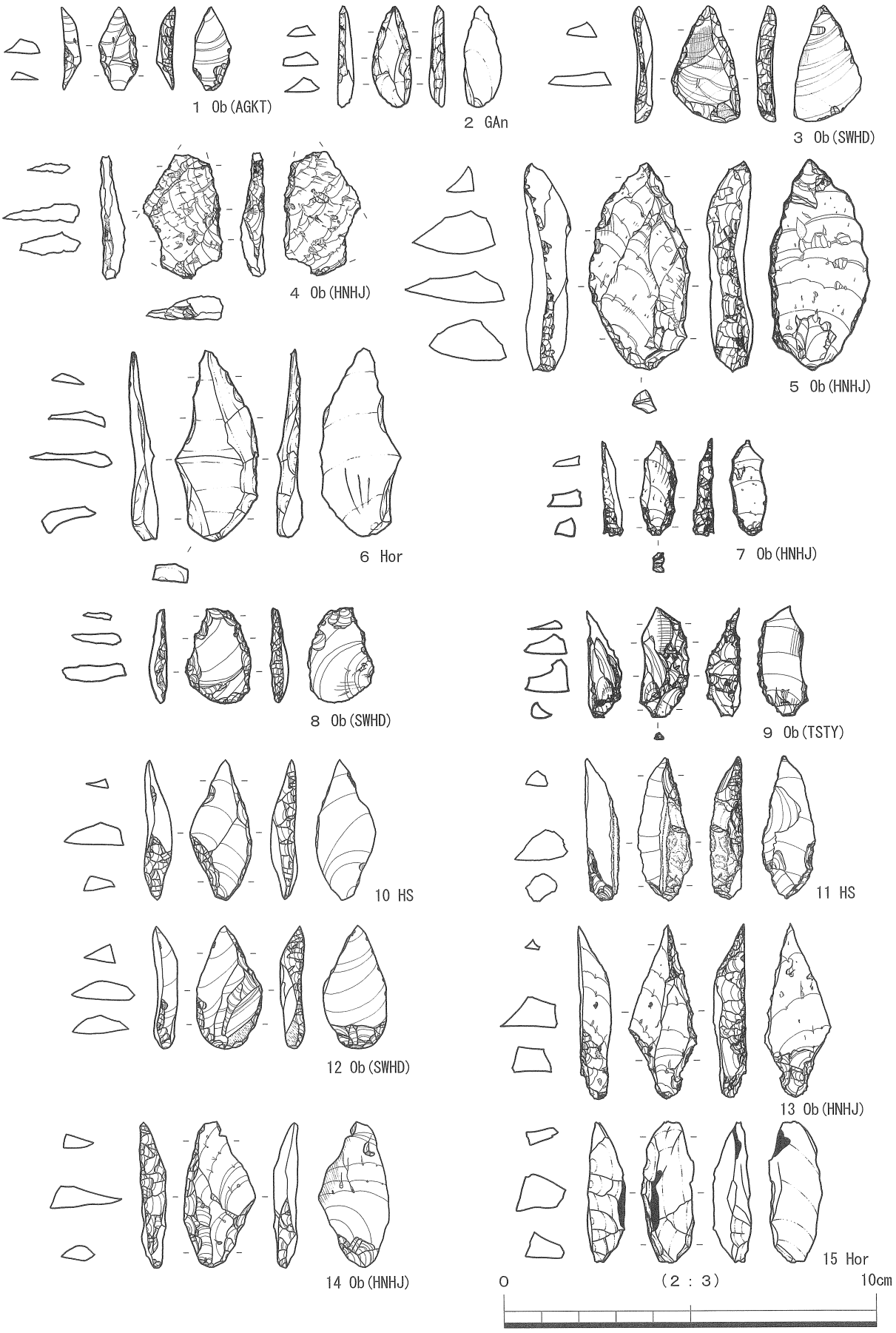
第65図　ブロック16遺物分布図、出土遺物



第66図　休場層出土遺物（1）



第67図　休場層出土遺物（2）



第68図　休場層出土遺物（3）

13は黒曜石製の二側縁加工で、裏面基部に打瘤を除去したと思われる平坦剥離がある。基部を細長く作り出しているように見える。14は黒曜石の幅の広い剥片を使った二側縁加工で、基部も加工して丸く仕上げている。15はホルンフェルス製の縦長剥片を使った二側縁加工で、大きさの割に厚みがある。

第69図－１はホルンフェルスの縦長剥片を使った一側縁加工である。２はナイフ形石器基部の破片である。３は珪化した流紋岩製の二側縁加工である。４は黒曜石の厚みのある剥片を使った二側縁加工で、下半を欠損している。５は珪化した流紋岩を使った一側縁加工で、縦長剥片の先端に近い部分を加工している。６～10は剥片の一端を切断するように加工したナイフ形石器である。６は左側縁の基部も加工しているため、上下逆の二側縁加工になるかもしれない。９は加工した部分が鋸歯状になっている。

彫器

第69図－11は良質な硬質頁岩を使った彫器で、折れた面から彫刃面を作っている。

スクレイパー

第69図－12～14はスクレイパーで、12は黒曜石の打面に近い縁辺を加工している。13は黒曜石製剥片のほぼ全周を加工している。14は良質な硬質頁岩の剥片を使っており、縁辺を加工している。

第70図－１は黒曜石の不定形剥片を使っており、表面から左側縁に剥離を入れて加工している。

微細な剥離のある剥片

第70図－２は黒曜石の縦長剥片の縁辺に微細な剥離がある。３は良質な硬質頁岩製縦長剥片で、縁辺に微細な剥離が見られる。４は黒曜石製縦長剥片の縁辺に微細な剥離が見られる。

稜付き剥片

第70図－５は良質な硬質頁岩製の縦長剥片で、稜線を作った剥離が見られる。

剥片

第70図－６、７はガラス質黒色安山岩の剥片である。６は縦長剥片で、７は先行剥離面側に自然面を残した幅広の剥片である。

打面再生剥片

第71図－１は良質な硬質頁岩製の石核から剥離された打面再生剥片である。

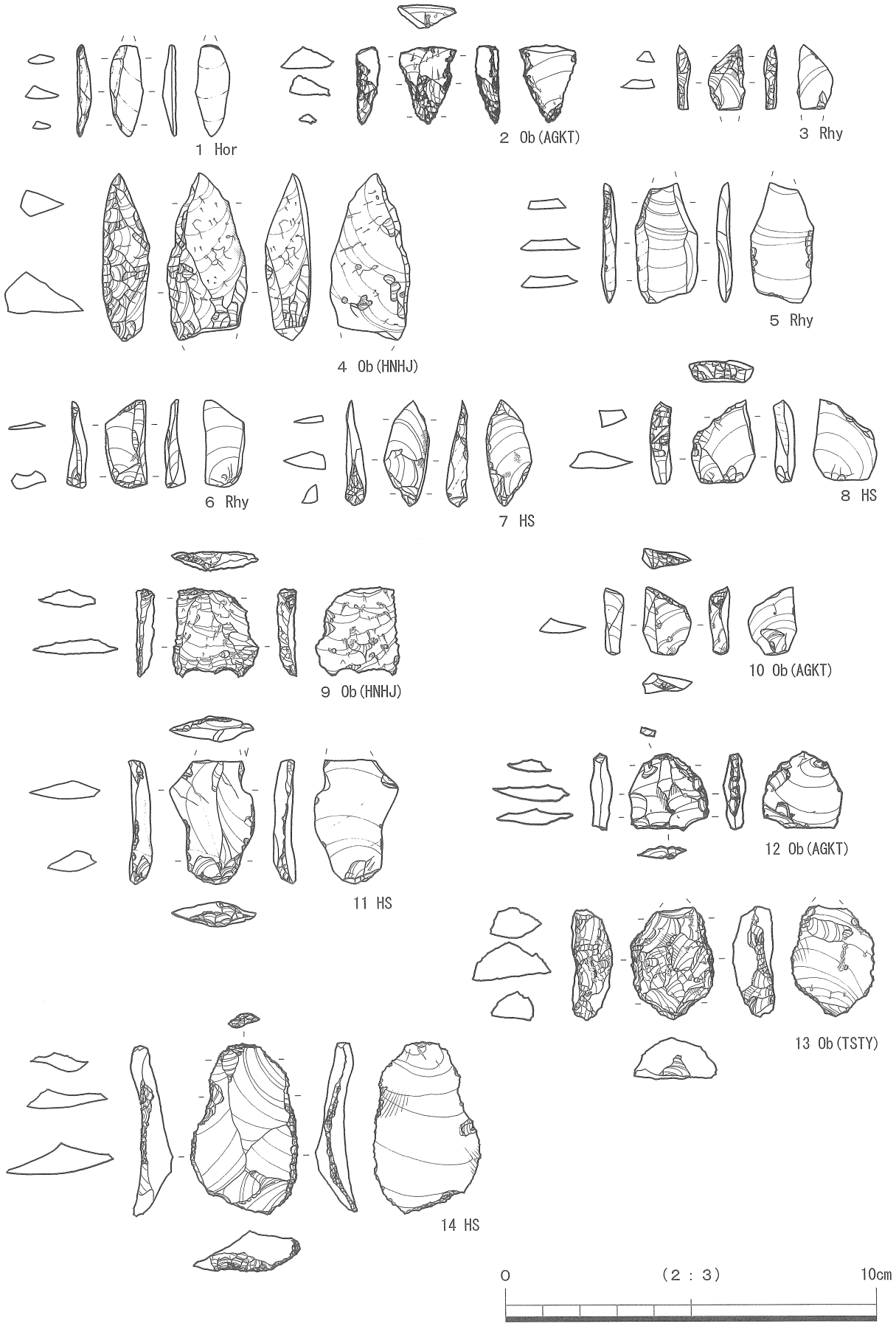
石核

第71図－２、３はホルンフェルス製の石核で、２は石核の側面を打点が周回しながら不定形剥片を剥離している。３は、上端の打面から実測図正面にある作業面で不定形剥片を剥離している。

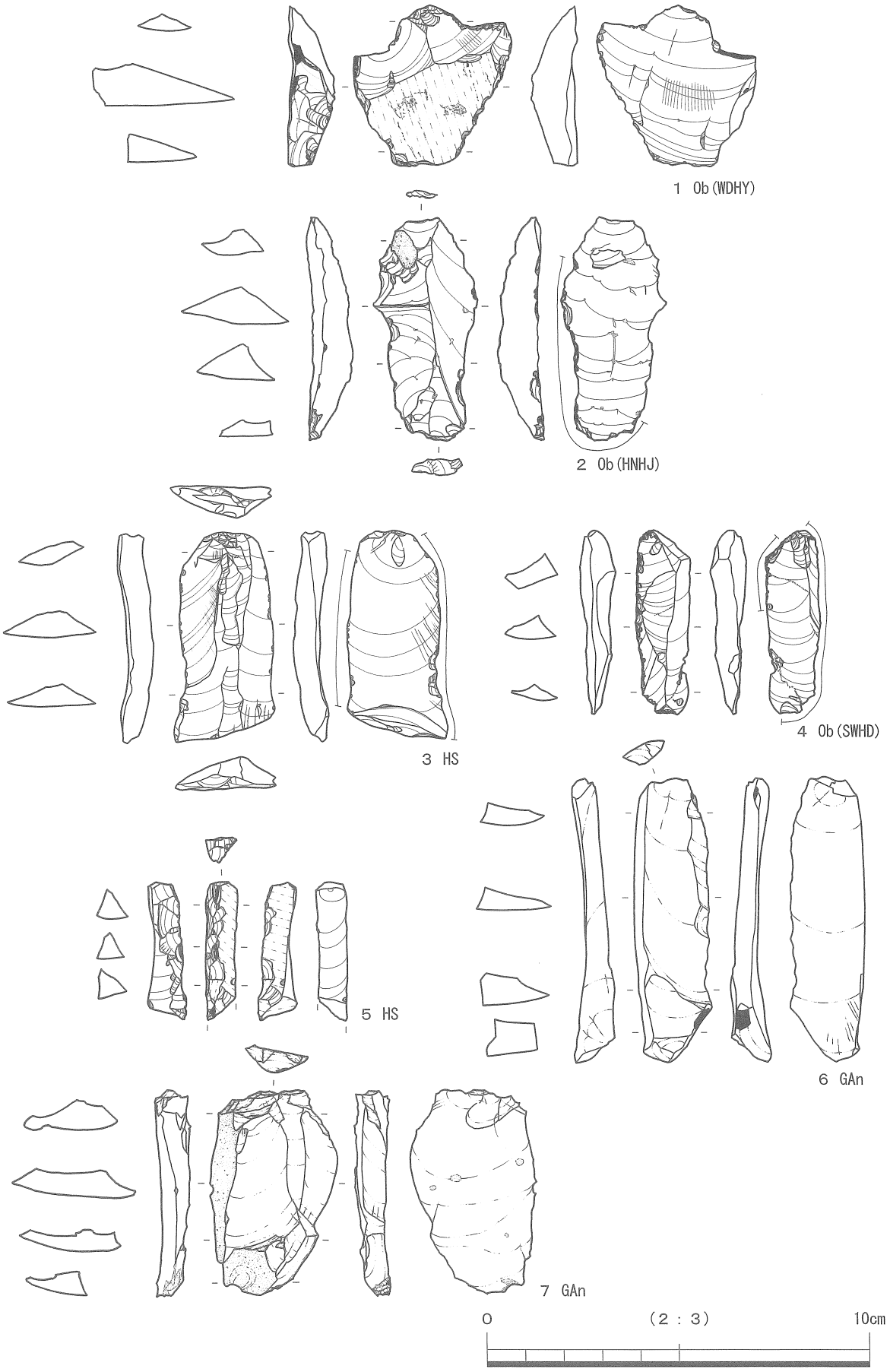
第72図－１は黒曜石製の石核で、上端の打面から縦長剥片を剥離している。これ以上は剥片を剥離できないほど小さくなっている。２は黒曜石製で、実測図正面の作業面で不定形剥片を剥離している。３はホルンフェルス製の石核で、打面と作業面を入れ替えながら不定形剥片を剥離しているため、尖頭器のような形になっている。４はホルンフェルスの円礫を使った石核で、上端の打面から幅の広い剥片を剥離している。第73図－１はホルンフェルスの円礫を使った石核で、上端の打面から実測図正面にある作業面で剥片を剥離しようとしているが、大きな階段状剥離を起こして剥離を失敗している。２はホルンフェルスの扁平な円礫を使った石核で、片面から不定形剥片を剥離しているため、礫器のような形態になっている。第74図－１はガラス質黒色安山岩の石核で、ほぼ全面を使って不定形剥片を剥離している。実測図正面の作業面が最終作業面で、ここに見られる上端からの剥離が大きく階段状剥離を起こして終わっている。２はホルンフェルスの円礫を使っており、上端の打面から、実測図正面にある作業面で不定形剥片を剥離しているが、階段状剥離を起こした剥離が多い。３はホルンフェルスの円礫を使った石核で、実測図右側見通し面を打面として、実測図正面にある作業面で不定形剥片を剥離している。

磨滅痕のある礫

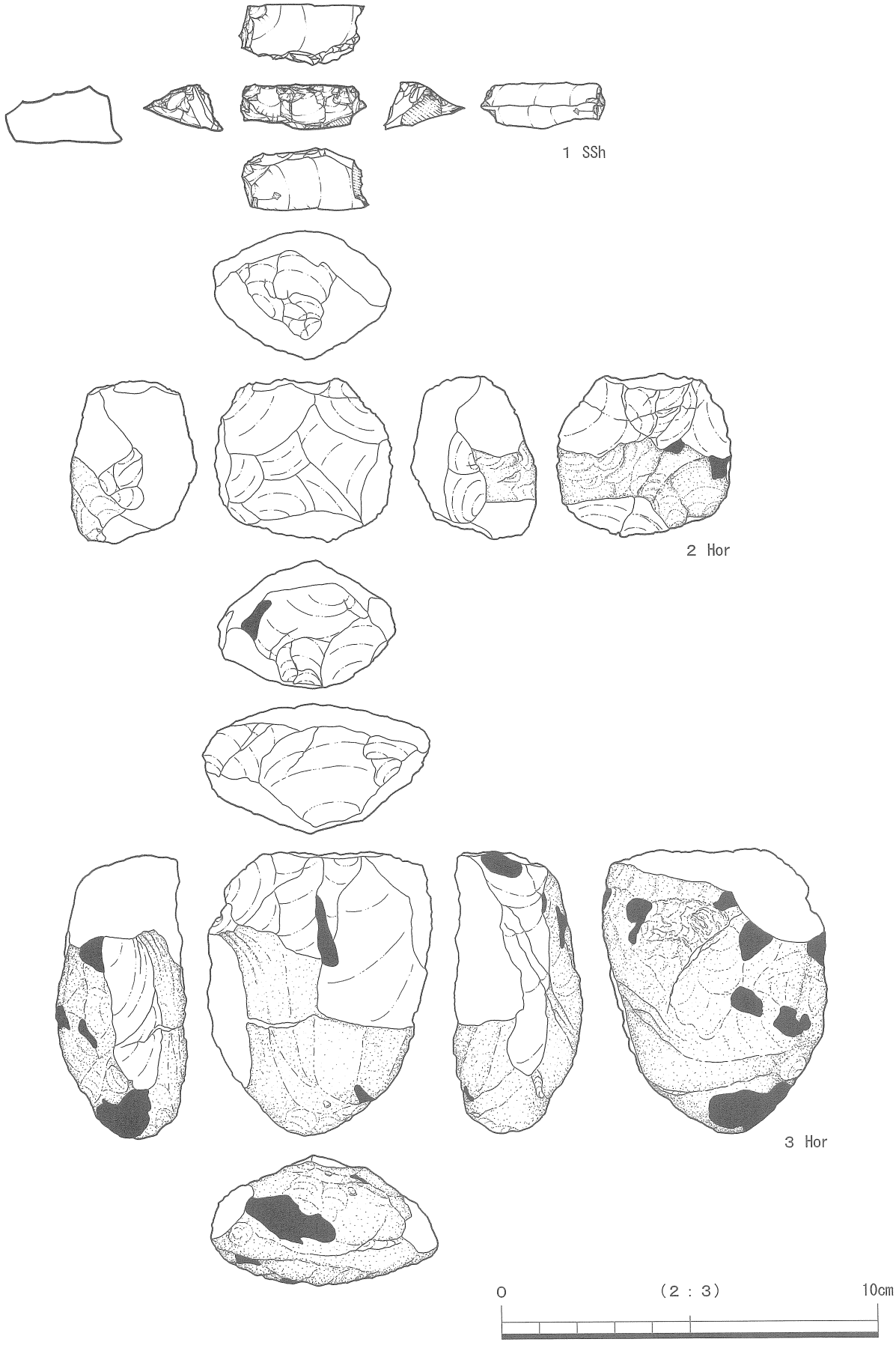
第74図－４は粗粒の安山岩の円礫で、磨滅して平坦になった部分がある。



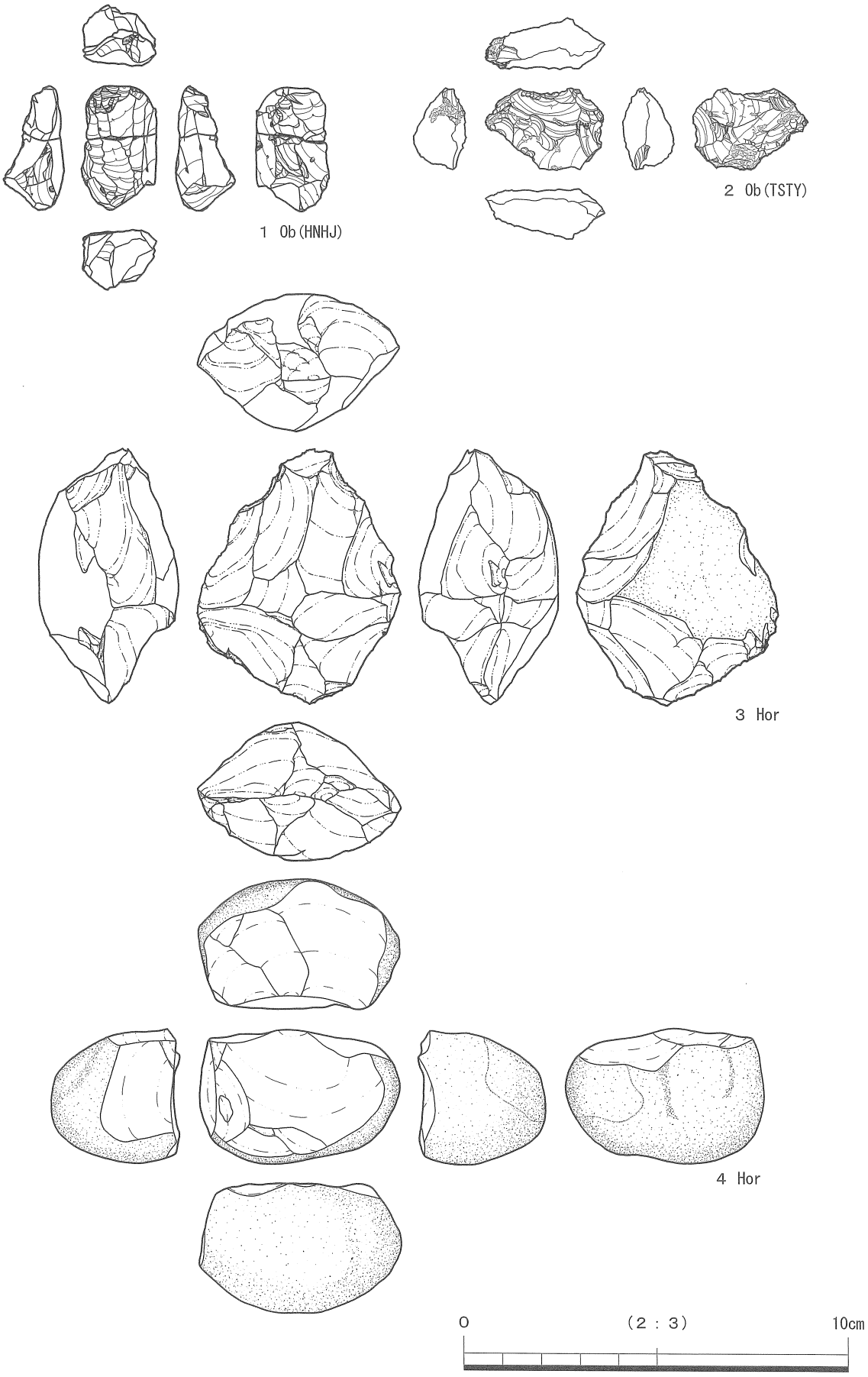
第69図　休場層出土遺物（4）



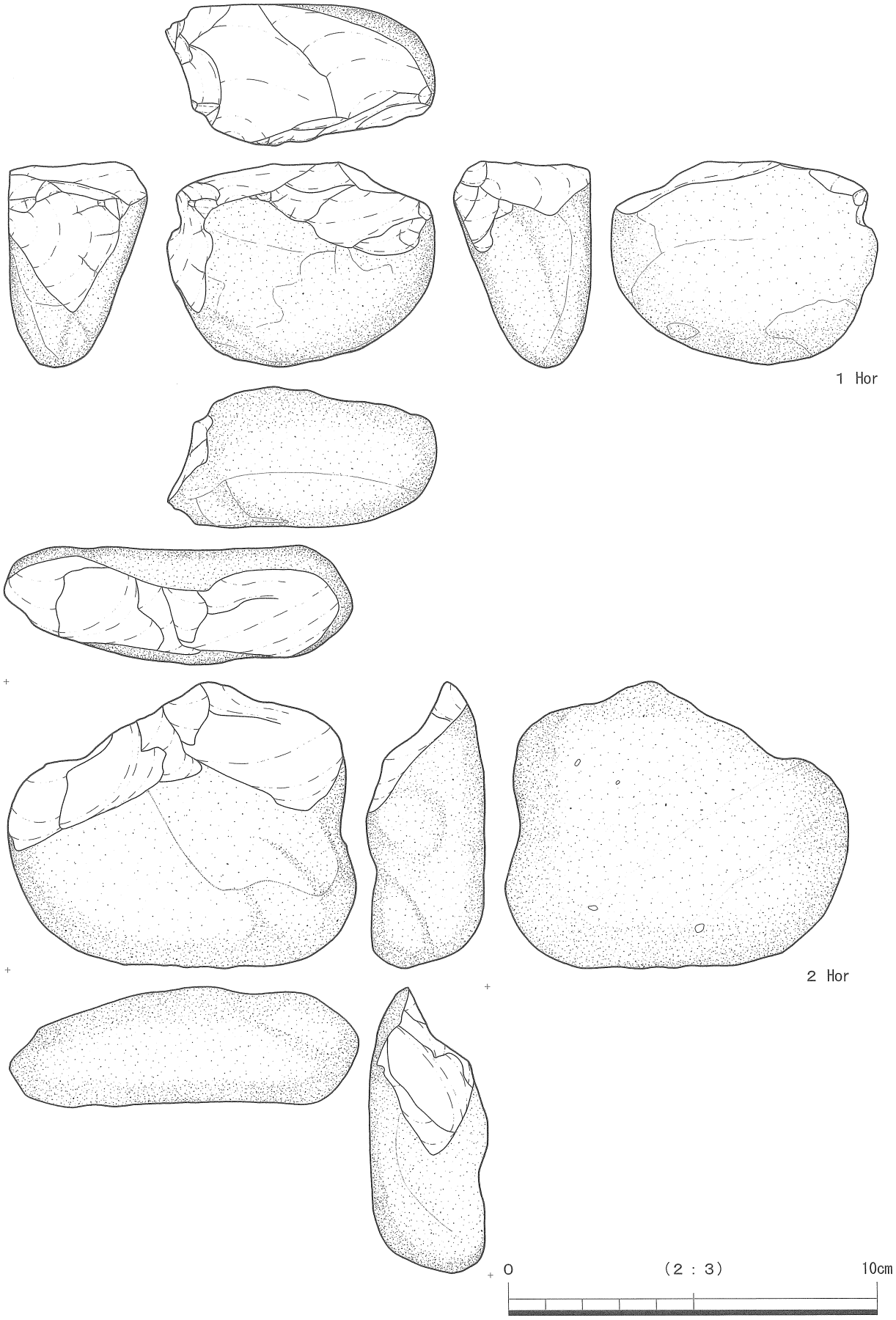
第70図　休場層出土遺物（5）



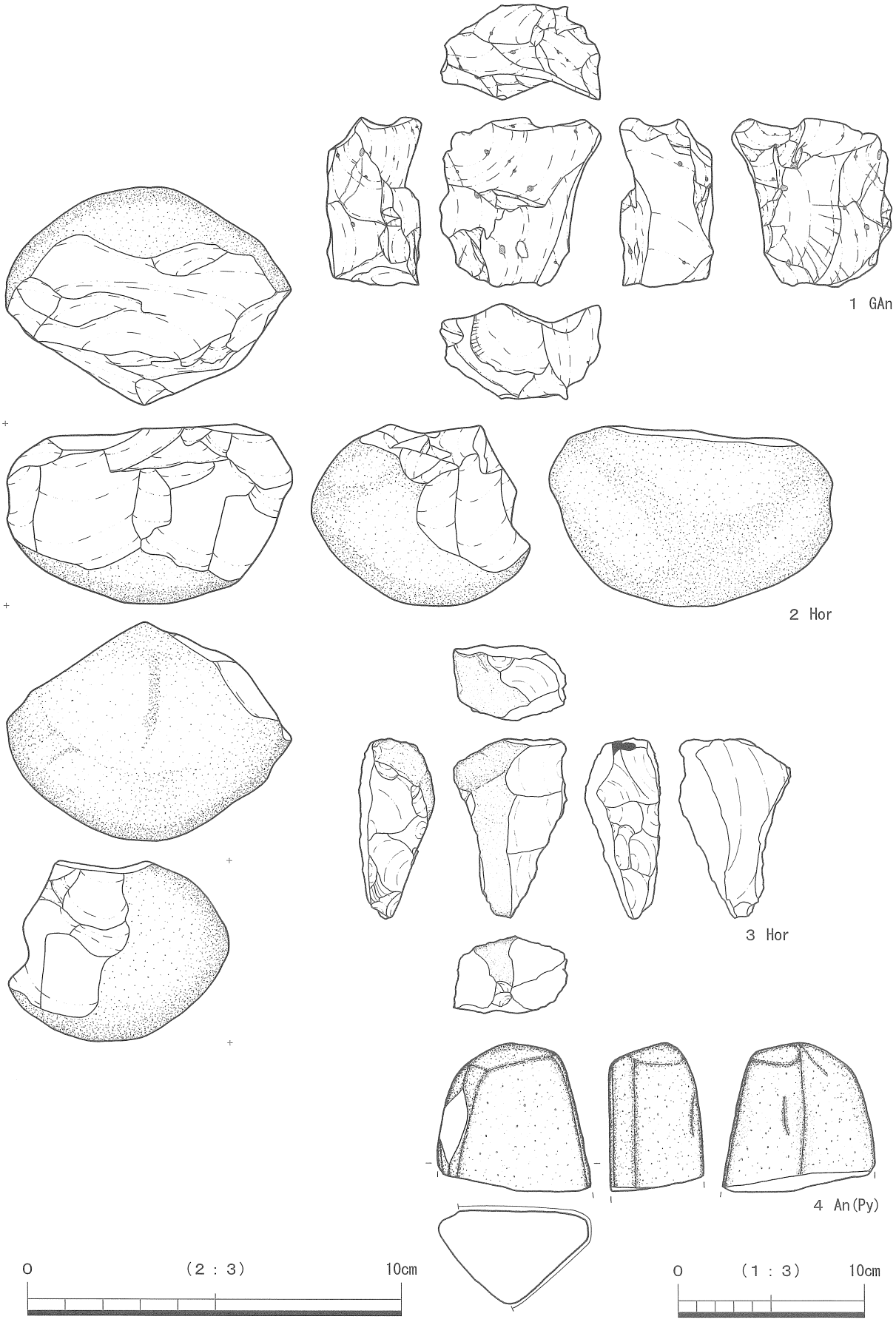
第71図　休場層出土遺物（6）



第72図　休場層出土遺物（7）



第73図　休場層出土遺物（8）



第74図　休場層出土遺物（9）（1～3：2/3、4：1/3）

第２節　第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯出土の遺構と遺物

この層で出土した遺物は少ない。第75図上段に示したように、ブロックが１基出土している程度であり、ほとんどの遺物は第Ⅲ黒色帯から出土している。また、第Ⅲ黒色帯でしばしば発見される土坑も、この遺跡では検出されなかった。

ブロック17（第75図下段）

第Ⅲ黒色帯を中心に出土した、13点の石器からなる小規模なブロックで、石材はホルンフェルス、細粒の安山岩、黒曜石、珪質岩からなる。

第76図－１は黒曜石の剥片を使った一側縁加工のナイフ形石器で、欠損が大きく、図示した部分が先端か基部か不明である。素材になった剥片は、幅の広い剥片だったと思われる。２は白っぽい珪質の石材を使った一側縁加工のナイフ形石器で、左側縁の加工が先端まで加工しているため、先端が尖っていない。また先行剥離面に、この剥片を剥離した石核に残っていた打点が残っている。したがって、このナイフ形石器に使った剥片は両面がポジティブ面の剥片である。

３と４は厚みのある不定形剥片で、５の石核に接合する。５は細粒の安山岩の円礫を使った石核で、実測図正面の大きな作業面に３と４の剥片が接合する。第77図－１が接合した状態で、３と４の剥片は剥離と同時に縦割れしたことがわかる。

第77図－２は、実測図正面が最終剥離面で、山形になった打面の頂点に打撃を加えて横長剥片を剥離している。横長剥片を剥離する前に、上面見通しにある面で打面を転移しながら不定形剥片を剥離している。したがって、不定形剥片を剥離していた石核が、剥離の最終段階で、横長剥片石核に移行したものである。

第６章　まとめ

平安時代の調査では隣接して４軒の竪穴住居跡を発見した。撹乱が激しく、床面付近が残っていたにすぎなかったが、そのうち１軒からは床面付近に残された土師器が出土した。竪穴住居跡を居住地とする時期としては終末期に当たると思われるが、日当たりの良い乾燥した愛鷹山麓が居住地として選ばれた背景には、水田農耕とは別の生業を想定する必要があるだろう。

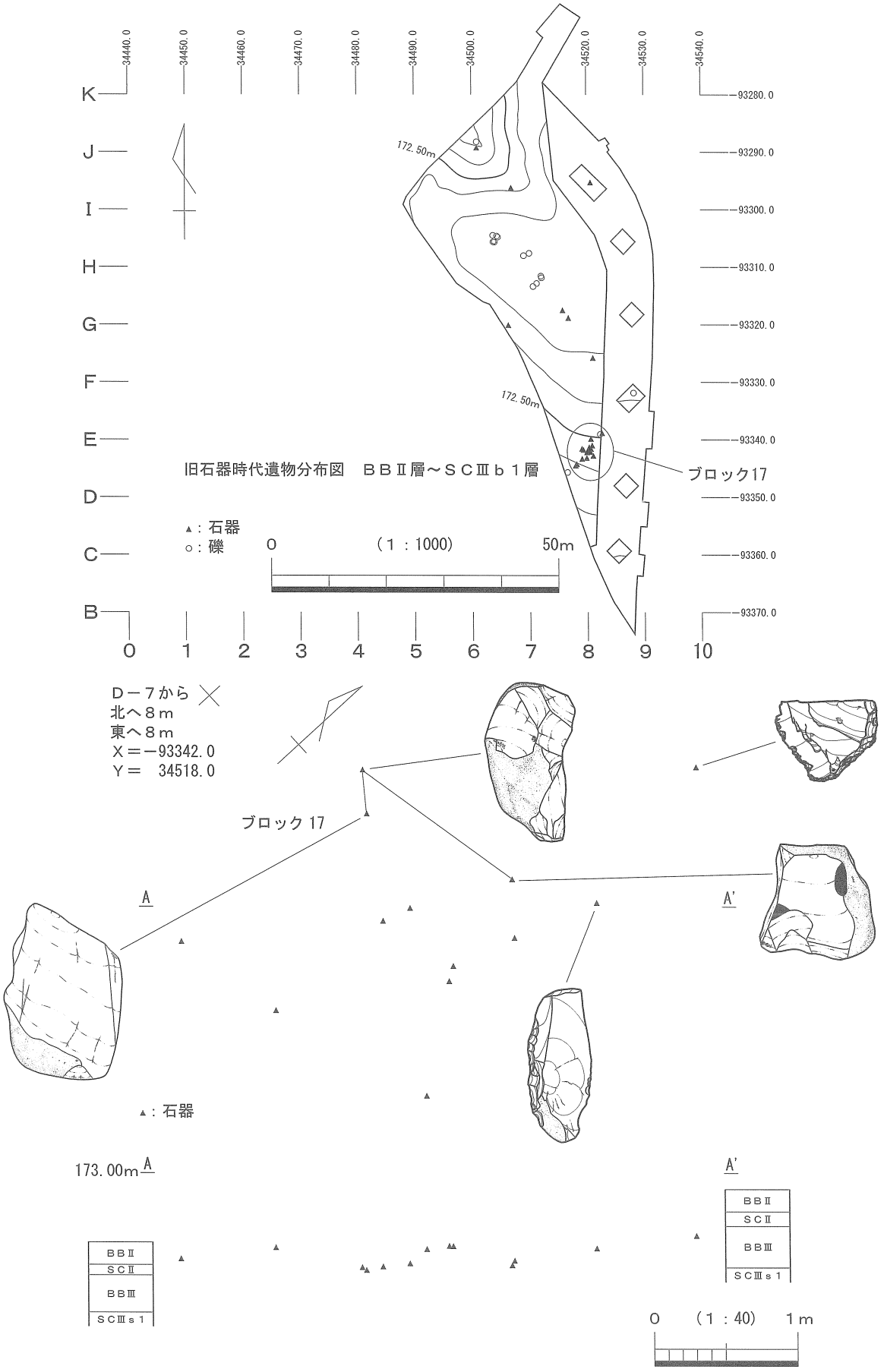
縄文時代の調査では、竪穴住居跡１軒の他に集石と焼土土坑を検出した。遺構の構成から、居住地ではなく、火を使う作業場所として利用されたと考えられる。

出土した縄文土器は、早期の土器が主体で、撚糸文土器と押型文土器、縄文土器の組み合わせからなる。撚糸文土器は、撚糸を斜め方向に施文するものが多く、斜めに交差させるものも目立つ。また、全体的に細い撚糸が目立つのも特徴である。押型文土器は楕円文と格子目文があり、楕円文は文様が不鮮明なものが目立つ。また、ネガティブな格子目文が見られるのも特徴である。

縄文土器では、細かい気泡を含むため、大きさの割に軽く、すべすべした独特の感触のある胎土が目立つ。文様では、縄文の間隔が開いているものや、縄文施文後に表面が乾かないうちに表面をなでているらしく、縄文の節が丸みを帯びているものも目立つ。

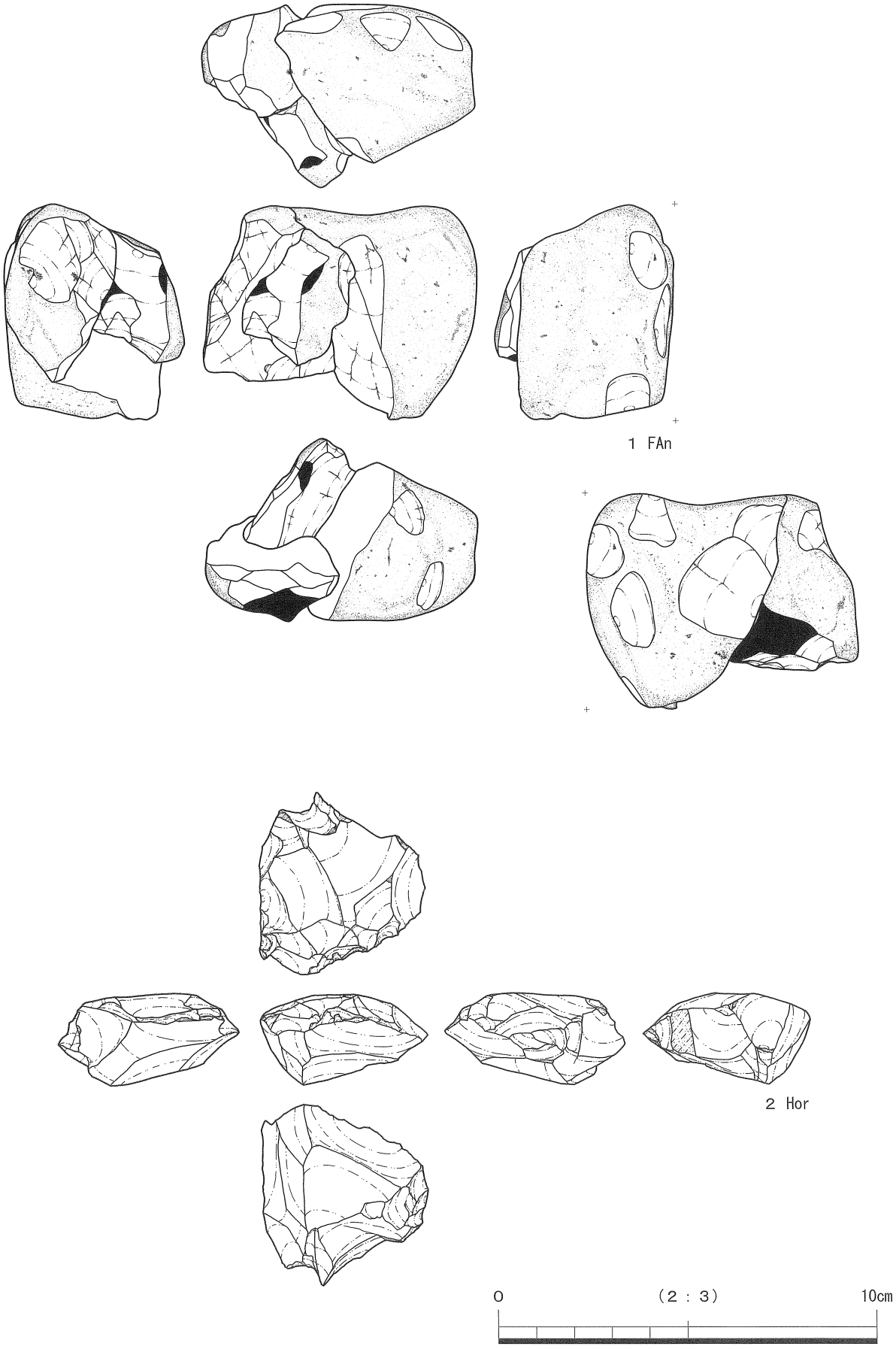
上記の特徴は、池谷信之2003「縦位密接施文から異方向帯状施文へ」『利根川』第24・25合併号で設定された西洞段階～イラウネ段階に見られる特徴で、八分平Ｅ遺跡の縄文土器がどちらの段階に入るかは決められないが、両段階の範囲に入ることは間違いないであろう。

旧石器時代の調査では、休場層と第Ⅲ黒色帯に文化層を設定した。休場層では16基、第Ⅲ黒色帯では１基のブロックを検出した。小規模ブロックが主体で、石器を製作した痕跡が少なく、接合例も少なかったことから、主に石器を搬入した地点であったと思われる。



第75図　第Ⅲ黒色帯遺物分布図、ブロック17遺物分布図

第76図　ブロック17出土遺物（1）



第77図　ブロック17出土遺物（2）、第Ⅲ黒色帯出土遺物

付編１　八分平Ｅ遺跡における放射性炭素年代（AMS測定）

（株）加速器分析研究所

１　測定対象試料

八分平E遺跡は、静岡県駿東郡長泉町東野八分平（北緯137°27′39″、東経36°18′23″）に所在する。測定対象試料は、竪穴住居跡等の遺構から出土した炭化物11点（IAAA-100717～100727)、遺物包含層から出土した土器に付着した炭化物9点（IAAA-100728～100736）の合計20点である（表1)。土器付着炭化物はすべて土器の内面から採取された。

２　測定の意義

遺構から出土した炭化物の年代測定により、遺構の年代を明らかにする。土器付着炭化物の年代測定では、土器の年代を直接検討する。

３　化学処理工程

（１）メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。

（２）酸-アルカリ-酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA処理における酸処理では、通常1mol/ℓ（1M)の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001Mから1Mまで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が1Mに達した時には「AAA」、1M未満の場合は「AaA」と表1に記載する。

（３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

（４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

（５）精製した二酸化炭素を鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

（６）グラファイトを内径１㎜のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

４　測定方法

3MVタンデム加速器（NEC Pelletron 9SDH-2）をベースとした^{14}C-AMS専用装置を使用し、^{14}Cの計数、^{13}C濃度（^{13}C/^{12}C)、^{14}C濃度（^{14}C/^{12}C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOxⅡ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

５　算出方法

（１）δ^{13}C は、試料炭素の^{13}C 濃度（^{13}C/^{12}C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（表1)。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

（２）^{14}C年代（Libby Age:yrBP）は、過去の大気中^{14}C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977)。^{14}C年代はδ^{13}Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。^{14}C年代と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、^{14}C年代の誤差（±1σ）は、試料の^{14}C年代がその誤差範囲に入

る確率が68.2%であることを意味する。

（3）pMC（percent Modern Carbon）は、標準現代炭素に対する試料炭素の^{14}C濃度の割合である。pMCが小さい（^{14}Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（^{14}Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ^{13}Cによって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。

（4）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の^{14}C濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の^{14}C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、^{14}C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差（1σ＝68.2%）あるいは2標準偏差（2σ＝95.4%）で表示される。グラフの縦軸が^{14}C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ^{13}C補正を行い、下一桁を丸めない^{14}C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal09データベース（Reimer et al. 2009）を用い、OxCalv4.1較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、^{14}C年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」（または「cal BP」）という単位で表される。

6　測定結果

石器製作場所と考えられるブロック09出土炭化物3022の^{14}C年代は4490±30yrBPである。縄文時代中期に相当する年代値で、休場層中層の年代としては新しい値となっている。

竪穴住居跡03出土炭化物の^{14}C年代は、404が1170±30yrBP、405が1210±30yrBPである。2点の年代値は誤差（±1σ）の範囲で重なり合い、近い年代を示している。暦年較正年代（1σ）は8世紀後葉から9世紀頃の範囲で示される。

竪穴住居跡04出土炭化物の^{14}C年代は、282が1220±30yrBP、284が1230±30yrBPである。2点の年代値は誤差（±1σ）の範囲でよく一致しており、ほぼ同年代を示している。暦年較正年代（1σ）は8世紀前葉から9世紀中葉頃の範囲で示される。

竪穴住居跡05出土炭化物の^{14}C年代は、4279が5570±30yrBP、4325が5420±30yrBP、4360が5430±30yrBP、5058が5790±30yrBP、2591が5580±30yrBPである。4325と4360、4279と2591の年代値は各々誤差（±1σ）の範囲でよく一致しており、ほぼ同年代を示しているが、前2者、後2者、及び5058の間には年代差が認められる。暦年較正年代（1σ）は、最も古い5058が4692～4600cal BC、最も新しい4325が4332～4261cal BCの間に2つの範囲で示される。おおよそ縄文時代前期前半頃に相当する。

集石04出土炭化物7655の^{14}C年代は9390±40yrBPである。暦年較正年代（1σ）は8725～8625cal BCの範囲で、縄文時代早期前葉頃に当たる。

次に遺物包含層から出土した土器に付着した炭化物の年代を上位の層から順に見ると、カワゴ平パミス層出土土器付着炭化物2741他の^{14}C年代は4960±30yrBPである。暦年較正年代（1σ）は3772～3701cal BCの範囲で示される。縄文時代前期後半に当たる年代値で、炭化物が採取された土器が諸磯式と判断されていることと矛盾しないが、カワゴ平パミスの噴出年代よりも古いと見られる。

栗色土層出土土器付着炭化物の^{14}C年代は、1398他が5020±30yrBP、1396他が4980±30yrBPである。2点の年代値は誤差（±1σ）の範囲で重なる部分を持ち、近い年代を示す。暦年較正年代（1σ）は、1398他が3934～3767cal BCの間に2つの範囲、1396他が3784～3710cal BCの範囲となっている。縄文時代前期

後半に相当し、炭化物が採取された土器が諸磯式と判断されていることと矛盾しない。

富士黒色土層出土土器付着炭化物の^{14}C年代は、4584他が9510±40yrBP、5664が9370±40yrBP、5526が9580±40yrBP、4997が9370±40yrBPである。5664と4997はほぼ同年代を示し、4584他と5526はこれらより古い値となった。暦年較正年代(1σ)は、4584他が9116～8745cal BCの間に3つの範囲、5664が8707～8571cal BCの間に3つの範囲、5526が9137～8837cal BCの間に4つの範囲、4997が8709～8571cal BCの間に3つの範囲で示される。おおむね縄文時代早期前葉頃に当たる。4584他、5664、5526は縄文土器、4997は撚糸文土器と認定されている土器から採取された。

漸移層出土土器付着炭化物の^{14}C年代は、7816が9780±40yrBP、874が11920±50yrBPである。暦年較正年代（1σ）は、7816が9284～9243cal BC、874が11901～11771cal BCの範囲となっている。7816は縄文時代草創期と早期の境界頃、874は縄文時代草創期に相当する年代値が示された。炭化物が採取された土器は、7816が撚糸文土器、874が隆帯のある土器と見なされている。

炭素含有率は多くの試料で40%を超えており、化学処理、測定上の問題は認められない。ただし、5664、7816、4997については10%台の低い値となっており、注意が必要である。

第２表　年代測定結果一覧表（１）

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	δ^{13}C (‰) (AMS)	δ^{13}C補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-100717	3022	ブロック09　休場層中層	炭化物	AAA	-27.17±0.48	4,490±30	57.15±0.20
IAAA-100718	404	竪穴住居跡03　埋土	炭化物	AaA	-26.05±0.66	1,170±30	86.44±0.28
IAAA-100719	405	竪穴住居跡03　埋土	炭化物	AaA	-27.89±0.38	1,210±30	86.01±0.27
IAAA-100720	282	竪穴住居跡04　埋土	炭化物	AAA	-26.69±0.59	1,220±30	85.86±0.27
IAAA-100721	284	竪穴住居跡04　埋土	炭化物	AAA	-27.12±0.67	1,230±30	85.83±0.29
IAAA-100722	4279	竪穴住居跡05　埋土	炭化物	AaA	-27.89±0.48	5,570±30	49.96±0.19
IAAA-100723	4325	竪穴住居跡05　埋土	炭化物	AaA	-29.34±0.59	5,420±30	50.91±0.19
IAAA-100724	4360	竪穴住居跡05　埋土	炭化物	AaA	-27.91±0.44	5,430±30	50.85±0.19
IAAA-100725	5058	竪穴住居跡05　埋土	炭化物	AAA	-25.07±0.46	5,790±30	48.65±0.19
IAAA-100726	2591	竪穴住居跡05内土坑	炭化物	AAA	-25.84±0.55	5,580±30	49.90±0.19
IAAA-100727	7655	集石04	炭化物	AAA	-26.72±0.70	9,390±40	31.06±0.16
IAAA-100728	1398他	栗色土層	炭化物	AaA	-26.71±0.58	5,020±30	53.52±0.20
IAAA-100729	1396他	栗色土層	炭化物	AaA	-25.76±0.55	4,980±30	53.79±0.22
IAAA-100730	2741他	カワゴ平パミス層	炭化物	AaA	-25.62±0.43	4,960±30	53.95±0.19
IAAA-100731	4584他	富士黒色土層	炭化物	AaA	-25.35±0.52	9,510±40	30.63±0.16
IAAA-100732	5664	富士黒色土層	炭化物	AaA	-24.88±0.60	9,370±40	31.16±0.15
IAAA-100733	5526	富士黒色土層	炭化物	AaA	-25.43±0.43	9,580±40	30.33±0.16
IAAA-100734	7816	漸移層	炭化物	AaA	-23.78±0.54	9,780±40	29.60±0.15
IAAA-100735	4997	富士黒色土層	炭化物	AaA	-25.03±0.49	9,370±40	31.15±0.16
IAAA-100736	874	漸移層	炭化物	AaA	-22.97±0.52	11,920±50	22.67±0.13

〔参考値〕

第３表　年代測定結果一覧表（２）

測定番号	δ13C補正なし		暦年較正用(yrBP)	1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-100717	4,530±30	56.90±0.19	4,494±28	3332calBC-3265calBC(30.2%) 3242calBC-3214calBC(13.2%) 3187calBC-3156calBC(14.0%) 3129calBC-3105calBC(10.8%)	3343calBC-3095calBC(95.4%)
IAAA-100718	1,190±20	86.25±0.26	1,170±26	782calAD-790calAD(5.7%) 809calAD-893calAD(62.5%)	776calAD-900calAD(82.5%) 918calAD-961calAD(12.9%)
IAAA-100719	1,260±20	85.50±0.26	1,210±25	777calAD-869calAD(68.2%)	714calAD-745calAD(7.8%) 767calAD-890calAD(87.6%)
IAAA-100720	1,250±20	85.56±0.25	1,224±25	722calAD-740calAD(10.5%) 770calAD-829calAD(39.8%) 837calAD-867calAD(17.8%)	693calAD-749calAD(22.1%) 765calAD-884calAD(73.3%)
IAAA-100721	1,260±30	85.46±0.26	1,227±27	719calAD-742calAD(15.1%) 769calAD-827calAD(38.1%) 839calAD-865calAD(14.9%)	690calAD-750calAD(26.9%) 762calAD-883calAD(68.5%)
IAAA-100722	5,620±30	49.67±0.19	5,574±31	4448calBC-4417calBC(30.4%) 4404calBC-4366calBC(37.8%)	4459calBC-4350calBC(95.4%)
IAAA-100723	5,490±30	50.46±0.18	5,422±30	4332calBC-4313calBC(20.7%) 4301calBC-4261calBC(47.5%)	4341calBC-4236calBC(95.4%)
IAAA-100724	5,480±30	50.55±0.19	5,432±30	4336calBC-4315calBC(22.8%) 4300calBC-4261calBC(45.4%)	4342calBC-4243calBC(95.4%)
IAAA-100725	5,790±30	48.64±0.18	5,787±30	4692calBC-4600calBC(68.2%)	4711calBC-4550calBC(95.4%)
IAAA-100726	5,600±30	49.82±0.18	5,583±30	4450calBC-4436calBC(12.9%) 4427calBC-4369calBC(55.3%)	4463calBC-4351calBC(95.4%)
IAAA-100727	9,420±40	30.95±0.15	9,392±40	8725calBC-8625calBC(68.2%)	8766calBC-8565calBC(95.4%)
IAAA-100728	5,050±30	53.33±0.19	5,021±29	3934calBC-3875calBC(39.7%) 3807calBC-3767calBC(28.5%)	3943calBC-3857calBC(46.2%) 3843calBC-3836calBC(1.2%) 3822calBC-3711calBC(48.0%)
IAAA-100729	4,990±30	53.71±0.21	4,980±32	3784calBC-3710calBC(68.2%)	3929calBC-3877calBC(9.3%) 3804calBC-3692calBC(82.7%) 3685calBC-3662calBC(3.4%)
IAAA-100730	4,970±30	53.88±0.19	4,957±29	3772calBC-3701calBC(68.2%)	3790calBC-3659calBC(95.4%)
IAAA-100731	9,510±40	30.60±0.16	9,505±42	9116calBC-9077calBC(13.3%) 9055calBC-9016calBC(12.2%) 8843calBC-8745calBC(42.7%)	9126calBC-8996calBC(34.1%) 8926calBC-8705calBC(60.2%) 8670calBC-8656calBC(1.2%)
IAAA-100732	9,360±40	31.17±0.15	9,366±39	8707calBC-8668calBC(24.4%) 8657calBC-8599calBC(36.5%) 8586calBC-8571calBC(7.4%)	8751calBC-8548calBC(95.4%)
IAAA-100733	9,590±40	30.30±0.15	9,584±41	9137calBC-9110calBC(7.7%) 9088calBC-9040calBC(13.4%) 9031calBC-8974calBC(16.2%) 8939calBC-8837calBC(30.9%)	9177calBC-8796calBC(95.4%)
IAAA-100734	9,760±40	29.67±0.14	9,779±39	9284calBC-9243calBC(68.2%)	9302calBC-9215calBC(95.4%)
IAAA-100735	9,370±40	31.15±0.16	9,368±41	8709calBC-8666calBC(25.9%) 8659calBC-8599calBC(35.5%) 8586calBC-8571calBC(6.8%)	8755calBC-8547calBC(94.9%) 8501calBC-8496calBC(0.5%)
IAAA-100736	11,890±50	22.76±0.13	11,922±46	11901calBC-11771calBC(68.2%)	11981calBC-11676calBC(95.4%)

〔参考値〕

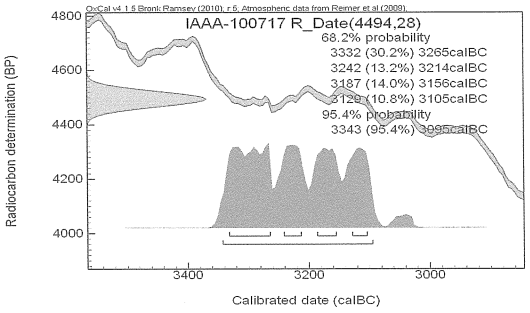
文献

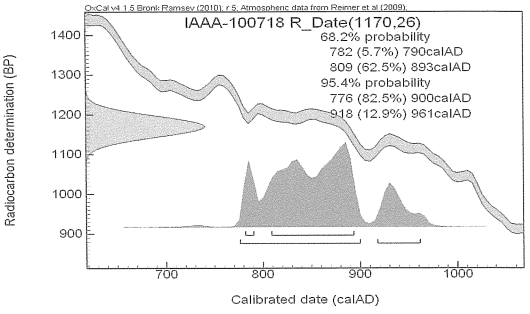
Stuiver M. and Polach H.A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19(3), 355-363

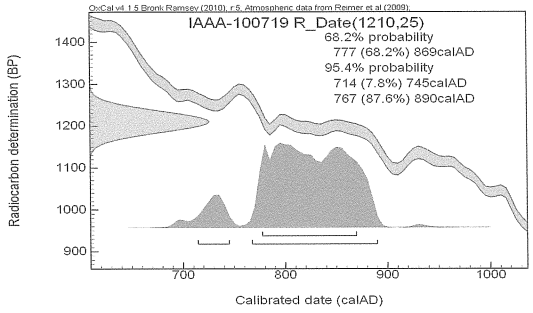
Bronk Ramsey C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, *Radiocarbon* 51(1), 337-360

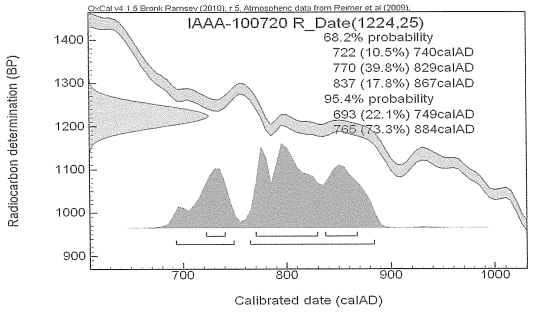
Reimer, P.J. et al. 2009 IntCal09 and Marine09 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 51(4), 1111-1150

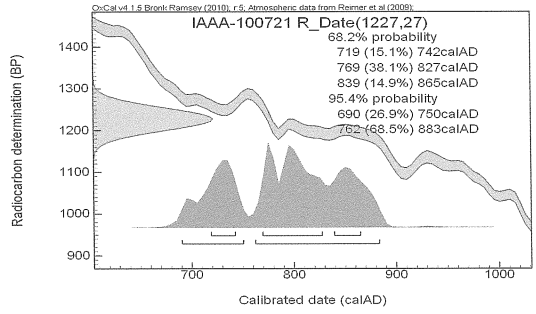
第78図　暦年較正年代グラフ（1）

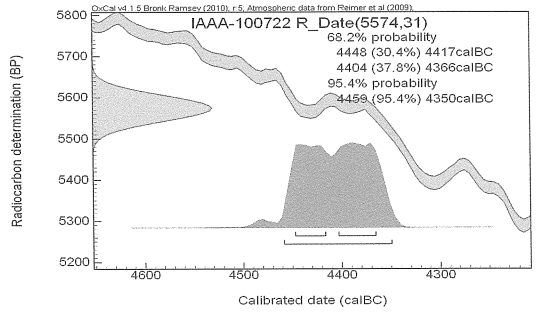


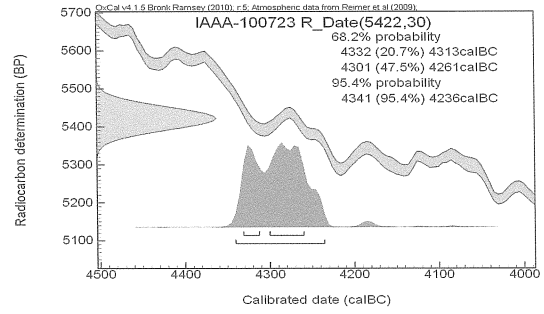


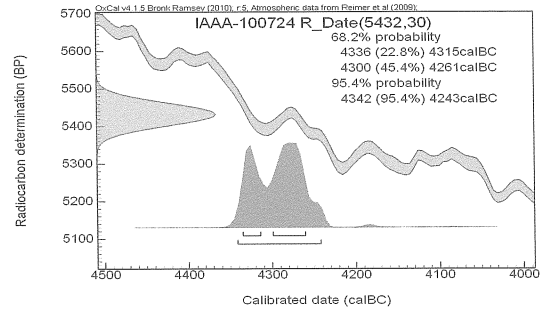


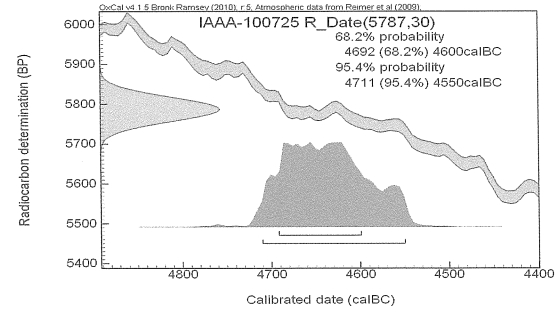


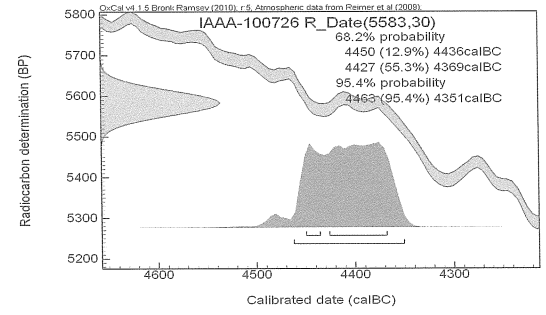




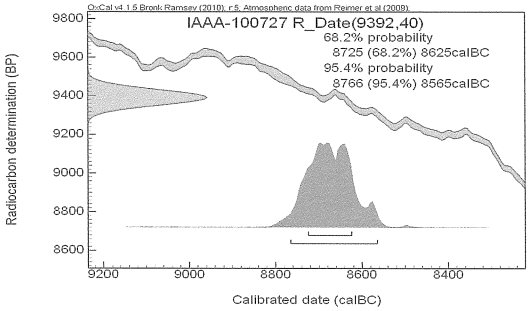


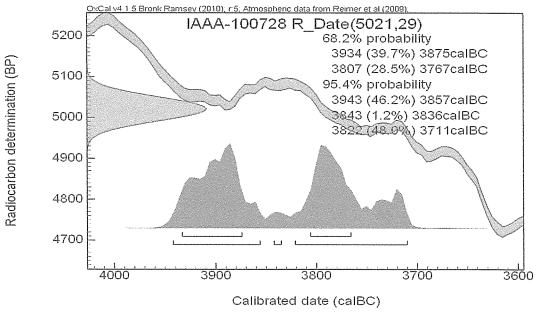


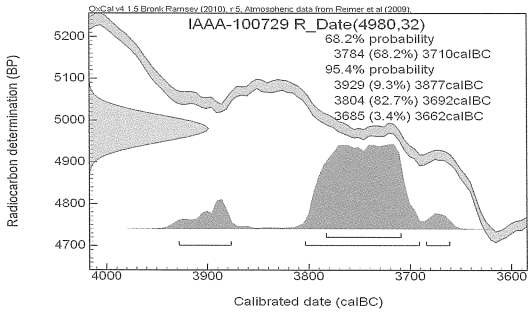


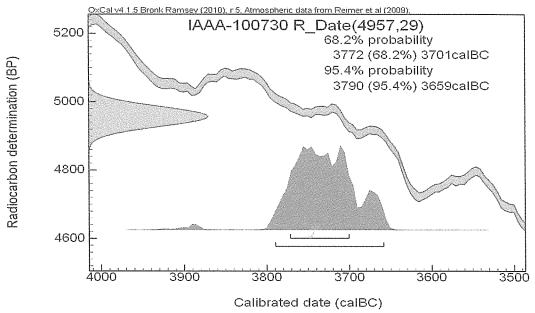


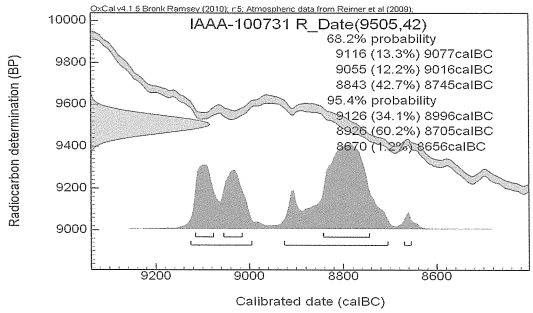
第79図　暦年較正年代グラフ（2）

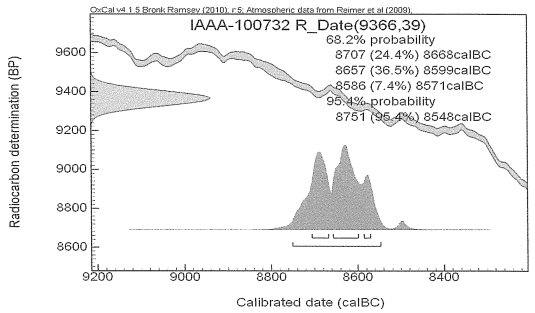


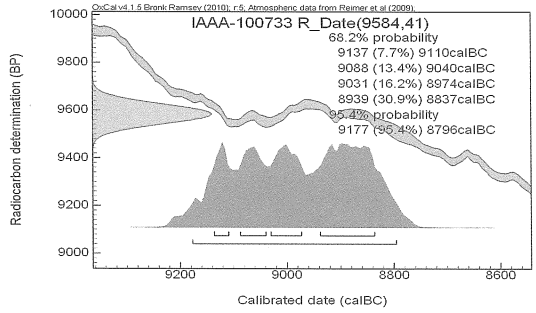


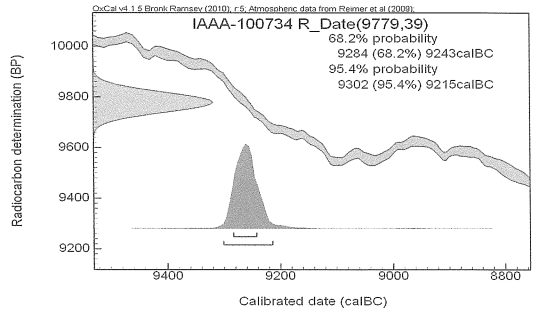


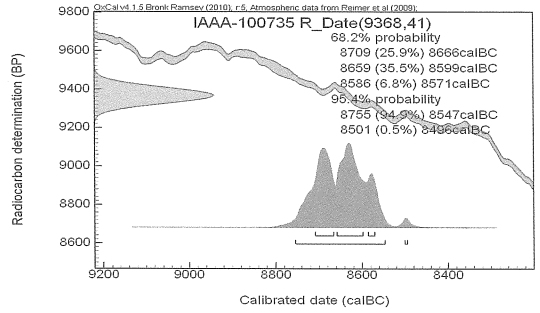


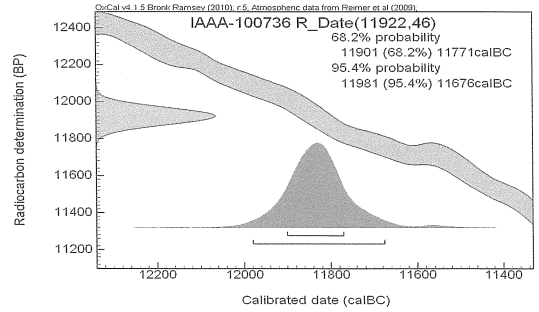












付編２　第二東名八分平Ｅ遺跡出土黒曜石産地推定結果

沼津工業高等専門学校名誉教授　望月　明彦

１　分析法　　エネルギー分散蛍光Ｘ線分析（EDX）

２　分析装置　　セイコーインスツルメンツ卓上型蛍光Ｘ線分析計　SEA-2110L

３　産地推定法

（１）得られた蛍光Ｘ線スペクトル強度を元素記号で表す。

指標　　Sum=Rb+Sr+Y+Zrとする。

Rb分率＝Rb/Sum

Sr分率＝Sr/Sum

Zr分率＝Zr/Sum

Mn*100/Fe

log（Fe/K）

（２）黒曜石産地から、産地原石を採集し測定する。

（３）測定結果から上記の指標を算出する。

（４）以上から、産地原石に関するデータベースを作成する。

（５）出土遺物について上記の二つの方法で産地推定を行う。

①　判別図法

用いる指標：横軸：Rb分率、縦軸：Mn/Fe

：横軸：Sr分率、縦軸：log（Fe/K）

推定方法　：遺跡出土試料を蛍光Ｘ線分析し、指標を計算。

指標を図にプロットする。

重なった判別群を推定結果とする。

②　判別分析（推定結果表参照）

用いる指標：算出された指標全て

推定方法　：判別図法では遺跡出土試料と重なっている判別群を推定結果とする。この判別群は試料と判別図上で２次元的に最も距離が近い。

判別分析ではこの距離を数学的にn次元で計算する。

試料と最も距離（マハラノビス距離）が近い判別群を推定結果とする。

この距離から、各判別群に属する確率を計算する。

第４表　出土黒曜石製石器産地推定結果一覧表

研究室年間通番	分析番号	遺物番号	推定産地	判別図判別群	判別分析					
					第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
MK03-7450	TM141-2_-1	939	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	17.34	1	WDTN	87.51	0
MK03-7451	TM141-2_-2	944	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.94	1	SBIY	81.57	0
MK03-7452	TM141-2_-3	949	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.51	1	HNKI	195.15	0
MK03-7453	TM141-2_-4	978	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.85	1	SBIY	48.66	0
MK03-7454	TM141-2_-5	981	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7455	TM141-2_-6	994	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.83	1	HNKI	86.35	0
MK03-7456	TM141-2_-7	996	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.9	1	HNKI	148.89	0
MK03-7457	TM141-2_-8	998	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7458	TM141-2_-9	1018	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.64	1	HNKI	189.69	0
MK03-7459	TM141-2_-10	1019	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.7	1	HNKI	134.52	0
MK03-7460	TM141-2_-11	1102	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.62	1	HNKI	45.89	0
MK03-7461	TM141-2_-12	1106	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7462	TM141-2_-13	1297	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.12	1	HNKI	97.16	0
MK03-7463	TM141-2_-14	1298	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.5	1	HNKI	143.39	0
MK03-7464	TM141-2_-15	1299	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.53	1	HNKI	66.19	0
MK03-7465	TM141-2_-16	1300	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.67	1	HNKI	71.46	0
MK03-7466	TM141-2_-17	1308	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.04	1	HNKT	139.03	0
MK03-7467	TM141-2_-18	1324	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.07	1	HNKI	135.29	0
MK03-7468	TM141-2_-19	2512	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.75	1	SBIY	73.12	0
MK03-7469	TM141-2_-20	2536	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.07	1	SBIY	74.86	0
MK03-7470	TM141-2_-21	2561	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.33	1	HNKT	129.71	0
MK03-7471	TM141-2_-22	2562	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.65	1	HNKI	193.36	0
MK03-7472	TM141-2_-23	2576	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.69	1	SBIY	56.33	0
MK03-7473	TM141-2_-24	2586	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.79	1	HNKI	128.27	0
MK03-7474	TM141-2_-25	2599	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.32	1	HNKT	137.23	0
MK03-7475	TM141-2_-26	2604	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	8.85	1	TSHG	31.37	0
MK03-7476	TM141-2_-27	2636	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.51	1	HNKI	186.35	0
MK03-7477	TM141-2_-28	2645	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.97	1	WDTN	98.31	0
MK03-7478	TM141-2_-29	2647	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.49	1	HNKI	110.33	0
MK03-7479	TM141-2_-30	2649	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.34	1	HNKI	209.72	0
MK03-7480	TM141-2_-31	2650	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.41	1	HNKT	89.95	0
MK03-7481	TM141-2_-32	2668	和田芙蓉ライト群	WDHY	WDHY	7.13	0.9988	WDTY	22.94	0.0012
MK03-7482	TM141-2_-33	2669	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.7	1	HNKI	85.88	0
MK03-7483	TM141-2_-34	2695	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.94	1	HNKI	99.28	0
MK03-7484	TM141-2_-35	2727	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.38	1	HNKI	50.17	0
MK03-7485	TM141-2_-36	2732	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.93	1	HNKI	78.75	0
MK03-7486	TM141-2_-37	2734	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.43	1	KZSN	53.81	0
MK03-7487	TM141-2_-38	2735	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	11.14	1	TUTI	27.54	0
MK03-7488	TM141-2_-39	2740	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.03	1	HNKT	123.16	0
MK03-7489	TM141-2_-40	2767	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.95	1	HNKT	131	0
MK03-7490	TM141-2_-41	2770	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.09	1	HNKI	105.11	0
MK03-7491	TM141-2_-42	2822	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.64	1	HNKI	197.56	0
MK03-7492	TM141-2_-43	2849	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.35	1	HNKI	132.45	0
MK03-7493	TM141-2_-44	3070	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.62	1	HNKT	145.8	0
MK03-7494	TM141-2_-45	3353	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7495	TM141-2_-46	3481	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.41	1	HNKI	89.53	0
MK03-7496	TM141-2_-47	3482	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.04	1	HNKT	142.21	0
MK03-7497	TM141-2_-48	3521	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.44	1	HNKI	83.65	0
MK03-7498	TM141-2_-49	3582	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.24	1	SBIY	89.21	0

MK03-7499	TM141-2_-50	3669	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.9	1	HNKI	139.18	0
MK03-7500	TM141-2_-51	3670	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.38	1	HNKI	226.78	0
MK03-7501	TM141-2_-52	3785	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.63	1	HNKI	171.63	0
MK03-7502	TM141-2_-53	3788	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.6	1	HNKI	80.93	0
MK03-7503	TM141-2_-54	3793	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.64	1	HNKT	133.47	0
MK03-7504	TM141-2_-55	3796	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.44	1	HNKT	153.43	0
MK03-7505	TM141-2_-56	3797	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.57	1	HNKI	84.9	0
MK03-7506	TM141-2_-57	3798	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.64	1	HNKI	78.27	0
MK03-7507	TM141-2_-58	3799	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.58	1	HNKT	125.66	0
MK03-7508	TM141-2_-59	3803	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	7.33	1	SBIY	106.11	0
MK03-7509	TM141-2_-60	3804	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.38	1	WDTN	81.82	0
MK03-7510	TM141-2_-61	3805	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.74	1	HNKI	60.48	0
MK03-7511	TM141-2_-62	3807	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	6.12	1	WDTN	83.87	0
MK03-7512	TM141-2_-63	3808	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.29	1	WDTN	89.83	0
MK03-7513	TM141-2_-64	3816	和田土屋橋北群	WDTK	WDTK	2.45	1	WDTN	35.78	0
MK03-7514	TM141-2_-65	3817	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.3	1	HNKT	104.9	0
MK03-7515	TM141-2_-66	3818	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.28	1	HNKI	229.16	0
MK03-7516	TM141-2_-67	3819	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7517	TM141-2_-68	3820	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.56	1	HNKI	145.05	0
MK03-7518	TM141-2_-69	3828	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.51	1	HNKI	66.64	0
MK03-7519	TM141-2_-70	3844	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.45	1	HNKI	195.9	0
MK03-7520	TM141-2_-71	3852	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.07	1	HNKI	154.14	0
MK03-7521	TM141-2_-72	3914	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.49	1	HNKI	96.67	0
MK03-7522	TM141-2_-73	3924	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.45	1	HNKI	148.78	0
MK03-7523	TM141-2_-74	3927	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.15	1	SBIY	91.31	0
MK03-7524	TM141-2_-75	3928	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.11	1	HNKI	123.35	0
MK03-7525	TM141-2_-76	3932	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.73	1	HNKI	154.54	0
MK03-7526	TM141-2_-77	3938	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7527	TM141-2_-78	3940	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.82	1	HNKI	105.18	0
MK03-7528	TM141-2_-79	3941	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.46	1	HNKI	159.07	0
MK03-7529	TM141-2_-80	3942	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.97	1	HNKI	202.69	0
MK03-7530	TM141-2_-81	3945	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.06	1	HNKI	157.04	0
MK03-7531	TM141-2_-82	3946	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.08	1	HNKI	123.36	0
MK03-7532	TM141-2_-83	3948	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.3	1	HNKI	147.42	0
MK03-7533	TM141-2_-84	3952	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.71	1	HNKI	86.86	0
MK03-7534	TM141-2_-85	3953	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.28	1	SBIY	65.69	0
MK03-7535	TM141-2_-86	3954	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7536	TM141-2_-87	3959	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.12	1	HNKI	93.47	0
MK03-7537	TM141-2_-88	3961	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7538	TM141-2_-89	3972	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.57	1	HNKI	157.08	0
MK03-7539	TM141-2_-90	3974	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.79	1	HNKT	103.48	0
MK03-7540	TM141-2_-91	3975	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.45	1	HNKI	105.56	0
MK03-7541	TM141-2_-92	3976	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7542	TM141-2_-93	4133	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.06	1	HNKI	144.84	0
MK03-7543	TM141-2_-94	4146	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.96	1	HNKI	77.16	0
MK03-7544	TM141-2_-95	4150	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.94	1	HNKI	97.15	0
MK03-7545	TM141-2_-96	4151	天城柏峠群	AGKT	AGKT	23.47	1	HNKT	113.56	0
MK03-7546	TM141-2_-97	4154	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.1	1	HNKT	138.1	0
MK03-7547	TM141-2_-98	4155	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.14	1	HNKT	103.03	0
MK03-7548	TM141-2_-99	4187	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.71	1	HNKI	73.62	0
MK03-7549	TM141-2_-100	4488	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.55	1	HNKT	104.59	0
MK03-7550	TM141-2_-101	4874	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	10.56	1	SBIY	71.01	0
MK03-7551	TM141-2_-102	5099	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.82	1	HNKI	141.62	0

MK03-7552	TM141-2_-103	6464	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.56	1	HNKI	148.23	0
MK03-7553	TM141-2_-104	6465	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.3	1	HNKI	93.47	0
MK03-7554	TM141-2_-105	6466	天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.92	1	HNKT	125.29	0
MK03-7555	TM141-2_-106	6468	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7556	TM141-2_-107	6582	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.94	1	HNKI	100.88	0
MK03-7557	TM141-2_-108	6598	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.71	1	HNKI	164.47	0
MK03-7558	TM141-2_-109	6647	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.99	1	HNKI	144.16	0
MK03-7559	TM141-2_-110	6649	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.65	1	HNKI	187.39	0
MK03-7560	TM141-2_-111	6656	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.66	1	HNKI	71.84	0
MK03-7561	TM141-2_-112	6677	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.17	1	HNKT	149.33	0
MK03-7562	TM141-2_-113	6686	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.18	1	HNKI	92.09	0
MK03-7563	TM141-2_-114	6688	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.95	1	HNKI	127.42	0
MK03-7564	TM141-2_-115	6690	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7565	TM141-2_-116	6694	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.72	1	HNKI	75.73	0
MK03-7566	TM141-2_-117	6699	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.5	1	HNKI	91.84	0
MK03-7567	TM141-2_-118	6703	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.68	1	HNKT	140.57	0
MK03-7568	TM141-2_-119	6704	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.91	1	HNKI	181.59	0
MK03-7569	TM141-2_-120	6705	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.55	1	HNKI	77.57	0
MK03-7570	TM141-2_-121	6706	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.16	1	HNKI	103.49	0
MK03-7571	TM141-2_-122	6708	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.96	1	HNKI	237.87	0
MK03-7572	TM141-2_-123	6730	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.86	1	HNKI	151.03	0
MK03-7573	TM141-2_-124	7173	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.39	1	HNKI	148.65	0
MK03-7574	TM141-2_-125	7174	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.25	1	HNKI	94.36	0
MK03-7575	TM141-2_-126	7175	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.13	1	HNKI	97.46	0
MK03-7576	TM141-2_-127	7178	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.49	1	TSHG	21.95	0
MK03-7577	TM141-2_-128	7180	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	6.9	0.9999	TUTI	20.79	0.0001
MK03-7578	TM141-2_-129	7184	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.88	1	HNKI	108.45	0
MK03-7579	TM141-2_-130	7185	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.46	1	HNKI	109.11	0
MK03-7580	TM141-2_-131	7205	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.76	1	HNKI	81.02	0
MK03-7581	TM141-2_-132	7206	天城柏峠群	AGKT	AGKT	0.98	1	HNKT	128.69	0
MK03-7582	TM141-2_-133	7209	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	5.02	1	TUTI	26.96	0
MK03-7583	TM141-2_-134	7210	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.87	1	HNKI	65.75	0
MK03-7584	TM141-2_-135	7212	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	0.69	1	TSHG	17.92	0
MK03-7585	TM141-2_-136	7213	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.34	1	TSHG	26.27	0
MK03-7586	TM141-2_-137	7214	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7587	TM141-2_-138	7215	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.12	1	HNKI	139.98	0
MK03-7588	TM141-2_-139	7216	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.62	1	HNKI	94.36	0
MK03-7589	TM141-2_-140	7217	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.79	1	HNKI	128.19	0
MK03-7590	TM141-2_-141	7218	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.76	1	HNKI	105.81	0
MK03-7591	TM141-2_-142	7219	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.87	1	HNKI	101.95	0
MK03-7592	TM141-2_-143	7220	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.55	1	HNKI	109.61	0
MK03-7593	TM141-2_-144	7223	和田鷹山群	WDTY	WDTY	1.63	1	WDHY	32.54	0
MK03-7594	TM141-2_-145	7300	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.34	1	HNKI	73.05	0
MK03-7595	TM141-2_-146	7301	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.6	1	HNKI	99.7	0
MK03-7596	TM141-2_-147	7303	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.61	1	HNKI	110.18	0
MK03-7597	TM141-2_-148	7304	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.98	1	HNKI	92.82	0
MK03-7598	TM141-2_-149	7307	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	2.37	0.9998	TSHG	15.15	0.0002
MK03-7599	TM141-2_-150	7316	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	22.47	1	KZSN	82.03	0
MK03-7600	TM141-2_-151	7325	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	2.95	1	SBIY	96.01	0
MK03-7601	TM141-2_-152	7326	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.75	1	HNKI	191.06	0
MK03-7602	TM141-2_-153	7329	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.29	1	HNKI	123.97	0
MK03-7603	TM141-2_-154	7330	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.73	1	HNKI	92.41	0
MK03-7604	TM141-2_-155	7331	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.64	1	HNKI	71.24	0

MK03-7605	TM141-2_-156	7332	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3. 16	1	HNKT	147. 1	0
MK03-7606	TM141-2_-157	7333	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	5. 45	1	KZSN	40. 11	0
MK03-7607	TM141-2_-158	7334	天城柏峠群	AGKT	AGKT	19. 08	1	HNKT	138. 24	0
MK03-7608	TM141-2_-159	7336	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6. 14	1	HNKI	74. 55	0
MK03-7609	TM141-2_-160	7460	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7. 66	1	HNKI	132. 75	0
MK03-7610	TM141-2_-161	7483	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16. 65	1	HNKI	185. 41	0
MK03-7611	TM141-2_-162	7575	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12. 91	1	HNKI	56. 79	0
MK03-7612	TM141-2_-163	7576	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 91	1	HNKI	128. 47	0
MK03-7613	TM141-2_-164	7578	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 77	1	HNKI	70. 59	0
MK03-7614	TM141-2_-165	7585	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6. 54	1	HNKI	153. 25	0
MK03-7615	TM141-2_-166	7588	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8. 76	1	HNKI	143. 04	0
MK03-7616	TM141-2_-167	7589	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 82	1	HNKI	75. 14	0
MK03-7617	TM141-2_-168	7590	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 3	1	HNKI	134. 07	0
MK03-7618	TM141-2_-169	7593	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 38	1	HNKI	125	0
MK03-7619	TM141-2_-170	7594	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8. 64	1	HNKI	161. 73	0
MK03-7620	TM141-2_-171	7595	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7. 9	1	HNKI	137. 93	0
MK03-7621	TM141-2_-172	7622	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 91	1	HNKI	82. 8	0
MK03-7622	TM141-2_-173	7873	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11. 59	1	HNKI	181. 43	0
MK03-7623	TM141-2_-174	7880	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2. 64	1	HNKT	131. 05	0
MK03-7624	TM141-2_-175	2958	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 81	1	HNKI	97. 29	0
MK03-7625	TM141-2_-176	2959	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2. 59	1	HNKI	130. 59	0
MK03-7626	TM141-2_-177	2960	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14. 71	1	HNKI	145. 75	0
MK03-7627	TM141-2_-178	2961	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2. 25	1	HNKI	101. 08	0
MK03-7628	TM141-2_-179	2962	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19. 07	1	HNKI	60. 01	0
MK03-7629	TM141-2_-180	2963	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7630	TM141-2_-181	2967	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7631	TM141-2_-182	2968	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 63	1	HNKI	95. 99	0
MK03-7632	TM141-2_-183	2969	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7633	TM141-2_-184	2970	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13. 39	1	HNKI	155. 33	0
MK03-7634	TM141-2_-185	2971	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14. 02	1	HNKI	171. 67	0
MK03-7635	TM141-2_-186	2972	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 51	1	HNKI	137. 62	0
MK03-7636	TM141-2_-187	2973	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11. 02	1	HNKI	166. 4	0
MK03-7637	TM141-2_-188	2974	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5. 27	1	HNKI	145. 45	0
MK03-7638	TM141-2_-189	2975	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18. 67	1	HNKI	66. 22	0
MK03-7639	TM141-2_-190	2976	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1. 18	1	HNKI	95. 56	0
MK03-7640	TM141-2_-191	2977	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 34	1	HNKI	125. 22	0
MK03-7641	TM141-2_-192	2979	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10. 13	1	HNKI	160. 05	0
MK03-7642	TM141-2_-193	2980	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 85	1	HNKI	126. 2	0
MK03-7643	TM141-2_-194	2981	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0. 74	1	HNKI	110. 42	0
MK03-7644	TM141-2_-195	2982	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10. 96	1	HNKI	169. 55	0
MK03-7645	TM141-2_-196	2983	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 45	1	HNKI	135. 62	0
MK03-7646	TM141-2_-197	2984	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15. 94	1	HNKI	71. 62	0
MK03-7647	TM141-2_-198	2985	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29. 46	1	HNKI	232. 31	0
MK03-7648	TM141-2_-199	2986	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15. 77	1	HNKI	179. 32	0
MK03-7649	TM141-2_-200	2987	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17	1	HNKI	197. 28	0
MK03-7650	TM141-2_-201	2988	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7651	TM141-2_-202	2989	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4. 83	1	HNKI	68. 54	0
MK03-7652	TM141-2_-203	2992	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 49	1	HNKI	91. 95	0
MK03-7653	TM141-2_-204	2993	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2. 7	1	HNKI	76. 28	0
MK03-7654	TM141-2_-205	2994	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 17	1	HNKI	77. 87	0
MK03-7655	TM141-2_-206	2995	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7656	TM141-2_-207	2996	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16. 49	1	HNKI	194. 52	0
MK03-7657	TM141-2_-208	2997	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3. 92	1	HNKI	135. 48	0

MK03-7658	TM141-2_-209	2998	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.63	1	HNKI	187.34	0
MK03-7659	TM141-2_-210	2999	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.97	1	HNKI	78.23	0
MK03-7660	TM141-2_-211	3002	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.47	1	HNKI	112.76	0
MK03-7661	TM141-2_-212	3003	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.49	1	HNKI	63.87	0
MK03-7662	TM141-2_-213	3004	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.99	1	HNKI	130.72	0
MK03-7663	TM141-2_-214	3005	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.94	1	HNKI	99.79	0
MK03-7664	TM141-2_-215	3006	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.23	1	HNKI	203.45	0
MK03-7665	TM141-2_-216	3007	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.63	1	HNKI	105.1	0
MK03-7666	TM141-2_-217	3009	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.43	1	HNKI	211.07	0
MK03-7667	TM141-2_-218	3010	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.48	1	HNKI	113.06	0
MK03-7668	TM141-2_-219	3011	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.75	1	HNKI	142.07	0
MK03-7669	TM141-2_-220	3012	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7670	TM141-2_-221	3013	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.74	1	HNKI	90.42	0
MK03-7671	TM141-2_-222	3014	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.93	1	HNKI	68.35	0
MK03-7672	TM141-2_-223	3015	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7673	TM141-2_-224	3018	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6	1	HNKI	153.72	0
MK03-7674	TM141-2_-225	3019	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.92	1	HNKI	113.39	0
MK03-7675	TM141-2_-226	3021	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.62	1	HNKI	109.55	0
MK03-7676	TM141-2_-227	3023	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.7	1	HNKI	194.96	0
MK03-7677	TM141-2_-228	3028	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.52	1	HNKI	41.82	0
MK03-7678	TM141-2_-229	3338	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7679	TM141-2_-230	3339	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.44	1	HNKI	187.19	0
MK03-7680	TM141-2_-231	3340	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.64	1	HNKI	110.59	0
MK03-7681	TM141-2_-232	3341	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.53	1	HNKI	136.59	0
MK03-7682	TM141-2_-233	3342	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.35	1	HNKI	63.16	0
MK03-7683	TM141-2_-234	3343	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.11	1	HNKI	124.82	0
MK03-7684	TM141-2_-235	3344	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.28	1	HNKT	131.85	0
MK03-7685	TM141-2_-236	3345	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.93	1	HNKI	145.52	0
MK03-7686	TM141-2_-237	3595	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.28	1	HNKI	50.97	0
MK03-7687	TM141-2_-238	3654	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.18	1	SBIY	75.63	0
MK03-7688	TM141-2_-239	3764	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.67	1	HNKI	152.81	0
MK03-7689	TM141-2_-240	3765	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.01	1	HNKI	175.73	0
MK03-7690	TM141-2_-241	3767	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.09	1	HNKI	86.6	0
MK03-7691	TM141-2_-242	3768	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.87	1	HNKI	96.17	0
MK03-7692	TM141-2_-243	3769	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.19	1	HNKI	153.68	0
MK03-7693	TM141-2_-244	3773	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.48	1	HNKI	135.28	0
MK03-7694	TM141-2_-245	3774	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.57	1	HNKI	175.19	0
MK03-7695	TM141-2_-246	3775	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.6	1	HNKI	58.49	0
MK03-7696	TM141-2_-247	3776	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.56	1	HNKI	108.43	0
MK03-7697	TM141-2_-248	3777	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.56	1	HNKI	134.07	0
MK03-7698	TM141-2_-249	4166	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.24	1	HNKI	73.01	0
MK03-7699	TM141-2_-250	4167	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	20.2	1	HNKI	50.07	0
MK03-7700	TM141-2_-251	4168	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.25	1	HNKI	55.69	0
MK03-7701	TM141-2_-252	4169	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.92	1	HNKI	77.12	0
MK03-7702	TM141-2_-253	4170	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.05	1	HNKI	66.22	0
MK03-7703	TM141-2_-254	4171	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.34	1	HNKI	75.08	0
MK03-7704	TM141-2_-255	4172	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.09	1	HNKI	64.79	0
MK03-7705	TM141-2_-256	4173	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.98	1	HNKI	109.36	0
MK03-7706	TM141-2_-257	4174	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.78	1	HNKI	93.92	0
MK03-7707	TM141-2_-258	4175	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.7	1	HNKI	131.57	0
MK03-7708	TM141-2_-259	4176	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.52	1	HNKI	89.66	0
MK03-7709	TM141-2_-260	4177	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.63	1	HNKI	161.72	0
MK03-7710	TM141-2_-261	4213	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.28	1	HNKI	175.22	0

MK03-7711	TM141-2_-262	4214	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.82	1	HNKI	134.73	0
MK03-7712	TM141-2_-263	4215	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.55	1	HNKI	80.06	0
MK03-7713	TM141-2_-264	4216	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.12	1	HNKI	100.36	0
MK03-7714	TM141-2_-265	4217	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.9	1	HNKI	90.82	0
MK03-7715	TM141-2_-266	4219	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.81	1	HNKI	116.06	0
MK03-7716	TM141-2_-267	4224	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.05	1	HNKI	140.05	0
MK03-7717	TM141-2_-268	4225	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.39	1	HNKI	124.64	0
MK03-7718	TM141-2_-269	4226	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7719	TM141-2_-270	4229	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.02	1	HNKI	157.7	0
MK03-7720	TM141-2_-271	4252	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.23	1	HNKI	108.8	0
MK03-7721	TM141-2_-272	4345	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.03	1	HNKI	112.58	0
MK03-7722	TM141-2_-273	4346	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.91	1	HNKI	119.8	0
MK03-7723	TM141-2_-274	4347	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.87	1	HNKI	134.06	0
MK03-7724	TM141-2_-275	4348	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.58	1	HNKI	146.58	0
MK03-7725	TM141-2_-276	4349	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.1	1	HNKI	84.09	0
MK03-7726	TM141-2_-277	4350	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.36	1	HNKI	86.48	0
MK03-7727	TM141-2_-278	4351	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.98	1	HNKI	112.56	0
MK03-7728	TM141-2_-279	4364	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.11	1	HNKI	101.15	0
MK03-7729	TM141-2_-280	6657	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.54	1	HNKI	103.02	0
MK03-7730	TM141-2_-281	6658	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.72	1	HNKI	87.83	0
MK03-7731	TM141-2_-282	6659	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.03	1	HNKI	74.53	0
MK03-7732	TM141-2_-283	6660	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	11.63	1	KZSN	50.18	0
MK03-7733	TM141-2_-284	6661	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.9	1	HNKI	202.53	0
MK03-7734	TM141-2_-285	6662	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.04	1	HNKI	99.62	0
MK03-7735	TM141-2_-286	6663	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	23.65	1	HNKI	224.68	0
MK03-7736	TM141-2_-287	6664	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.61	1	HNKI	123.43	0
MK03-7737	TM141-2_-288	6666	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.79	1	HNKI	73.66	0
MK03-7738	TM141-2_-289	6667	和田鷹山群	WDTY	WDTY	5.22	1	WDHY	34.73	0
MK03-7739	TM141-2_-290	6668	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.92	1	HNKI	56.58	0
MK03-7740	TM141-2_-291	6669	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.72	1	HNKI	92.67	0
MK03-7741	TM141-2_-292	6670	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.31	1	HNKI	82.54	0
MK03-7742	TM141-2_-293	6671	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.28	1	HNKI	77.92	0
MK03-7743	TM141-2_-294	6672	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.62	1	HNKI	163.51	0
MK03-7744	TM141-2_-295	6673	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.22	1	HNKI	74.42	0
MK03-7745	TM141-2_-296	6674	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.53	1	HNKI	102.21	0
MK03-7746	TM141-2_-297	6675	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.85	1	HNKI	60.17	0
MK03-7747	TM141-2_-298	7337	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.43	1	HNKI	56.43	0
MK03-7748	TM141-2_-299	7338	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.82	1	HNKI	83.08	0
MK03-7749	TM141-2_-300	7339	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6	1	HNKI	106.41	0
MK03-7750	TM141-2_-301	7340	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	22.28	1	HNKI	193.6	0
MK03-7751	TM141-2_-302	7341	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.7	1	HNKI	123.65	0
MK03-7752	TM141-2_-303	7566	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.54	1	HNKI	120.9	0
MK03-7753	TM141-2_-304	7569	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.54	1	HNKI	217.29	0
MK03-7754	TM141-2_-305	7570	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.87	1	HNKI	80.84	0
MK03-7755	TM141-2_-306	7573	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.3	1	HNKI	208.47	0
MK03-7756	TM141-2_-307	7574	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.69	1	HNKI	102.74	0
MK03-7757	TM141-2_-308	7592	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.99	1	HNKI	95.35	0
MK03-7758	TM141-2_-309	3857	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.49	1	HNKI	226.86	0
MK03-7759	TM141-2_-310	3859	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.71	1	HNKT	140.53	0
MK03-7760	TM141-2_-311	3861	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.94	1	HNKI	151.65	0
MK03-7761	TM141-2_-312	3862	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.9	1	HNKT	99.81	0
MK03-7762	TM141-2_-313	3864	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.34	1	HNKT	121.06	0
MK03-7763	TM141-2_-314	3866	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.63	1	HNKT	120.46	0

MK03-7764	TM141-2_-315	3870	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.34	1	HNKT	101.94	0
MK03-7765	TM141-2_-316	3871	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.72	1	HNKI	89.59	0
MK03-7766	TM141-2_-317	3873	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.58	1	HNKI	68.27	0
MK03-7767	TM141-2_-318	3876	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	0.42	1	SBIY	82.67	0
MK03-7768	TM141-2_-319	3879	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.7	1	HNKT	133.68	0
MK03-7769	TM141-2_-320	3880	天城柏峠群	AGKT	AGKT	10.17	1	HNKT	111.47	0
MK03-7770	TM141-2_-321	3886	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.09	1	HNKI	97.04	0
MK03-7771	TM141-2_-322	3888	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.23	1	HNKT	105.75	0
MK03-7772	TM141-2_-323	3889	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.18	1	HNKI	172.7	0
MK03-7773	TM141-2_-324	3894	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.21	1	HNKT	154.49	0
MK03-7774	TM141-2_-325	3895	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.9	1	HNKI	137.02	0
MK03-7775	TM141-2_-326	3898	天城柏峠群	AGKT	AGKT	9.5	1	HNKT	121.31	0
MK03-7776	TM141-2_-327	3906	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.8	1	HNKT	113.15	0
MK03-7777	TM141-2_-328	3912	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.93	1	THAY	123.92	0
MK03-7778	TM141-2_-329	3915	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7779	TM141-2_-330	3917	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.46	1	HNKI	80.12	0
MK03-7780	TM141-2_-331	3922	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.28	1	HNKT	124.32	0
MK03-7781	TM141-2_-332	4157	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.04	1	HNKT	141.74	0
MK03-7782	TM141-2_-333	4158	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.01	1	HNKT	115.07	0
MK03-7783	TM141-2_-334	4231	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.76	1	HNKT	85.13	0
MK03-7784	TM141-2_-335	4232	天城柏峠群	AGKT	AGKT	13.88	1	HNKT	84.83	0
MK03-7785	TM141-2_-336	4270	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.58	1	HNKT	153.62	0
MK03-7786	TM141-2_-337	4271	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.11	1	HNKT	113.18	0
MK03-7787	TM141-2_-338	4310	天城柏峠群	AGKT	AGKT	12.67	1	HNKT	124.93	0
MK03-7788	TM141-2_-339	4352	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.33	1	HNKT	111.33	0
MK03-7789	TM141-2_-340	4353	天城柏峠群	AGKT	AGKT	5.77	1	HNKT	107.86	0
MK03-7790	TM141-2_-341	4356	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.15	1	HNKT	142.83	0
MK03-7791	TM141-2_-342	4363	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.82	1	HNKT	135.41	0
MK03-7792	TM141-2_-343	3978	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.56	1	HNKI	101.74	0
MK03-7793	TM141-2_-344	3980	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.02	1	HNKI	168.76	0
MK03-7794	TM141-2_-345	3981	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7795	TM141-2_-346	3983	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.98	1	HNKI	121.02	0
MK03-7796	TM141-2_-347	3984	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.04	1	HNKI	99.3	0
MK03-7797	TM141-2_-348	3985	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.96	1	HNKI	196.02	0
MK03-7798	TM141-2_-349	3986	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.43	1	HNKI	226.23	0
MK03-7799	TM141-2_-350	3987	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.29	1	HNKI	185.71	0
MK03-7800	TM141-2_-351	3992	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.7	1	SBIY	85.92	0
MK03-7801	TM141-2_-352	3996	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.72	1	HNKI	108.97	0
MK03-7802	TM141-2_-353	3998	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.95	1	HNKT	110.06	0
MK03-7803	TM141-2_-354	3999	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.05	1	HNKI	198.69	0
MK03-7804	TM141-2_-355	4012	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.91	1	HNKI	203.7	0
MK03-7805	TM141-2_-356	4013	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.45	1	HNKI	102.38	0
MK03-7806	TM141-2_-357	4015	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.52	1	HNKI	127.23	0
MK03-7807	TM141-2_-358	4016	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.91	1	HNKI	150.95	0
MK03-7808	TM141-2_-359	4020	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.49	1	HNKI	58.31	0
MK03-7809	TM141-2_-360	6499	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.01	1	HNKI	84.08	0
MK03-7810	TM141-2_-361	6502	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.91	1	HNKI	150.95	0
MK03-7811	TM141-2_-362	6503	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.56	1	HNKI	88.93	0
MK03-7812	TM141-2_-363	6504	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.92	1	HNKI	142.61	0
MK03-7813	TM141-2_-364	6505	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	13.3	1	TSHG	41.07	0
MK03-7814	TM141-2_-365	6508	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.36	1	HNKI	144.88	0
MK03-7815	TM141-2_-366	6509	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.43	1	HNKI	147.72	0
MK03-7816	TM141-2_-367	6514	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.63	1	HNKI	167.59	0

MK03-7817	TM141-2_-368	6518	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.42	1	HNKI	182.63	0
MK03-7818	TM141-2_-369	6519	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.9	1	HNKI	109.26	0
MK03-7819	TM141-2_-370	6522	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.77	1	HNKI	68.91	0
MK03-7820	TM141-2_-371	6526	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.75	1	HNKI	197.23	0
MK03-7821	TM141-2_-372	6527	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.77	1	HNKI	132.2	0
MK03-7822	TM141-2_-373	6530	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.84	1	HNKI	146.46	0
MK03-7823	TM141-2_-374	6531	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.85	1	HNKT	129.92	0
MK03-7824	TM141-2_-375	6533	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.01	1	HNKI	87.56	0
MK03-7825	TM141-2_-376	6535	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.55	1	HNKI	174.93	0
MK03-7826	TM141-2_-377	6536	天城柏峠群	AGKT	AGKT	7.55	1	HNKT	119.24	0
MK03-7827	TM141-2_-378	6537	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.72	1	HNKI	88.85	0
MK03-7828	TM141-2_-379	6540	天城柏峠群	AGKT	AGKT	17.28	1	HNKT	172.87	0
MK03-7829	TM141-2_-380	6541	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.5	1	HNKI	197.07	0
MK03-7830	TM141-2_-381	6542	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.89	1	HNKI	140.03	0
MK03-7831	TM141-2_-382	6543	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.78	1	HNKI	111.05	0
MK03-7832	TM141-2_-383	6546	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.1	1	HNKI	95.64	0
MK03-7833	TM141-2_-384	6548	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.14	1	HNKI	91.38	0
MK03-7834	TM141-2_-385	6551	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.1	1	HNKI	83.45	0
MK03-7835	TM141-2_-386	6552	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.4	1	HNKI	74.65	0
MK03-7836	TM141-2_-387	6553	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.11	1	HNKI	112.98	0
MK03-7837	TM141-2_-388	6555	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.99	1	HNKI	120.08	0
MK03-7838	TM141-2_-389	6557	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.1	1	HNKI	129.18	0
MK03-7839	TM141-2_-390	6558	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7840	TM141-2_-391	6559	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.24	1	HNKI	174.29	0
MK03-7841	TM141-2_-392	6560	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.73	1	HNKI	89.98	0
MK03-7842	TM141-2_-393	6561	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	17.45	1	HNKI	200.12	0
MK03-7843	TM141-2_-394	6563	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.82	1	HNKI	116.74	0
MK03-7844	TM141-2_-395	6564	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	29.51	1	HNKI	225.17	0
MK03-7845	TM141-2_-396	6565	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.65	1	HNKI	115.54	0
MK03-7846	TM141-2_-397	6567	天城柏峠群	AGKT	AGKT	9.06	1	HNKT	135.76	0
MK03-7847	TM141-2_-398	6568	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.93	1	HNKT	134.36	0
MK03-7848	TM141-2_-399	6569	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.98	1	HNKI	103.76	0
MK03-7849	TM141-2_-400	6580	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.26	1	HNKI	125.76	0
MK03-7850	TM141-2_-401	6581	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.13	1	HNKI	117.3	0
MK03-7851	TM141-2_-402	6585	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.08	1	HNKI	118.03	0
MK03-7852	TM141-2_-403	6587	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.5	1	HNKI	82.45	0
MK03-7853	TM141-2_-404	6588	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.43	1	HNKI	198.77	0
MK03-7854	TM141-2_-405	6592	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	7.5	1	KZSN	55.89	0
MK03-7855	TM141-2_-406	6792	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.25	1	HNKI	121.09	0
MK03-7856	TM141-2_-407	6793	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.19	1	HNKI	122.13	0
MK03-7857	TM141-2_-408	6794	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.42	1	HNKI	219.39	0
MK03-7858	TM141-2_-409	6795	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.99	1	HNKI	160.39	0
MK03-7859	TM141-2_-410	6797	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.42	1	HNKI	85.66	0
MK03-7860	TM141-2_-411	6800	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.03	1	HNKI	86.52	0
MK03-7861	TM141-2_-412	6809	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.21	1	HNKI	226.79	0
MK03-7862	TM141-2_-413	6816	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.73	1	HNKI	82.04	0
MK03-7863	TM141-2_-414	6817	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.44	1	HNKI	135.26	0
MK03-7864	TM141-2_-415	6819	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.35	1	HNKI	148.37	0
MK03-7865	TM141-2_-416	6823	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.53	1	HNKI	71.43	0
MK03-7866	TM141-2_-417	6824	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	0.76	1	HNKI	107	0
MK03-7867	TM141-2_-418	6834	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.44	1	HNKI	133.32	0
MK03-7868	TM141-2_-419	6850	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.71	1	HNKT	127.48	0
MK03-7869	TM141-2_-420	6852	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.22	1	HNKI	129.14	0

MK03-7870	TM141-2_-421	6854	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.08	1	HNKT	126.22	0
MK03-7871	TM141-2_-422	6855	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.07	1	HNKI	229.47	0
MK03-7872	TM141-2_-423	6864	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.48	1	HNKI	98.21	0
MK03-7873	TM141-2_-424	6865	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.22	1	HNKI	126.59	0
MK03-7874	TM141-2_-425	6868	天城柏峠群	AGKT	AGKT	3.4	1	HNKT	107.7	0
MK03-7875	TM141-2_-426	6871	天城柏峠群	AGKT	AGKT	6.23	1	HNKT	97.43	0
MK03-7876	TM141-2_-427	6873	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7877	TM141-2_-428	6874	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.54	1	HNKI	122.47	0
MK03-7878	TM141-2_-429	6906	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.57	1	HNKI	134.11	0
MK03-7879	TM141-2_-430	6908	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.95	1	HNKI	134.75	0
MK03-7880	TM141-2_-431	6914	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.64	1	HNKI	115.3	0
MK03-7881	TM141-2_-432	6917	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.7	1	HNKI	100.42	0
MK03-7882	TM141-2_-433	6919	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.49	1	HNKI	86.08	0
MK03-7883	TM141-2_-434	6937	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.21	1	HNKI	93.97	0
MK03-7884	TM141-2_-435	6938	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.29	1	HNKI	97.22	0
MK03-7885	TM141-2_-436	6943	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.73	1	HNKI	138.77	0
MK03-7886	TM141-2_-437	6947	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.37	1	HNKT	142.48	0
MK03-7887	TM141-2_-438	6951	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.14	1	HNKI	130.99	0
MK03-7888	TM141-2_-439	6956	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.62	1	HNKI	152.06	0
MK03-7889	TM141-2_-440	6985	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.74	1	HNKT	137.68	0
MK03-7890	TM141-2_-441	6988	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.74	1	HNKI	165.02	0
MK03-7891	TM141-2_-442	6994	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.34	1	HNKI	70.34	0
MK03-7892	TM141-2_-443	6998	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.87	1	HNKI	94.77	0
MK03-7893	TM141-2_-444	6999	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.49	1	HNKI	165.58	0
MK03-7894	TM141-2_-445	7003	天城柏峠群	AGKT	AGKT	23.66	1	HNKT	87.55	0
MK03-7895	TM141-2_-446	7005	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.41	1	HNKI	89.25	0
MK03-7896	TM141-2_-447	7009	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.48	1	HNKI	82.77	0
MK03-7897	TM141-2_-448	7017	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.87	1	HNKT	114.2	0
MK03-7898	TM141-2_-449	7020	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.35	1	HNKI	179.97	0
MK03-7899	TM141-2_-450	7027	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.37	1	HNKI	91.37	0
MK03-7900	TM141-2_-451	7030	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.48	1	HNKI	117.3	0
MK03-7901	TM141-2_-452	7057	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.42	1	HNKI	144.5	0
MK03-7902	TM141-2_-453	7063	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7903	TM141-2_-454	7065	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.73	1	HNKI	105.79	0
MK03-7904	TM141-2_-455	7069	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.05	1	HNKI	150.69	0
MK03-7905	TM141-2_-456	7078	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.49	1	HNKI	162.14	0
MK03-7906	TM141-2_-457	7079	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.82	1	HNKI	86.91	0
MK03-7907	TM141-2_-458	7081	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.49	1	HNKI	214.47	0
MK03-7908	TM141-2_-459	7084	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.52	1	HNKI	91.21	0
MK03-7909	TM141-2_-460	7086	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	16.93	1	HNKI	201.72	0
MK03-7910	TM141-2_-461	7094	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.56	1	HNKI	101.81	0
MK03-7911	TM141-2_-462	7095	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.24	1	HNKI	154.68	0
MK03-7912	TM141-2_-463	7096	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.95	1	HNKI	157.69	0
MK03-7913	TM141-2_-464	7102	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.75	1	HNKI	91.89	0
MK03-7914	TM141-2_-465	7104	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.49	1	HNKI	122.13	0
MK03-7915	TM141-2_-466	7107	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.4	1	HNKT	109.01	0
MK03-7916	TM141-2_-467	7110	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.56	1	HNKT	143.58	0
MK03-7917	TM141-2_-468	7113	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	18.13	1	HNKI	200.15	0
MK03-7918	TM141-2_-469	7119	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.18	1	HNKI	116.74	0
MK03-7919	TM141-2_-470	7122	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.76	1	HNKI	222.8	0
MK03-7920	TM141-2_-471	7123	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.65	1	HNKI	89.93	0
MK03-7921	TM141-2_-472	7129	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.02	1	HNKI	194.96	0
MK03-7922	TM141-2_-473	7138	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.48	1	HNKI	94.94	0

MK03-7923	TM141-2_-474	7145	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	12.7	1	HNKI	184.53	0
MK03-7924	TM141-2_-475	7146	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.74	1	HNKI	126.98	0
MK03-7925	TM141-2_-476	7149	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	21.23	1	HNKI	206.84	0
MK03-7926	TM141-2_-477	7151	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.15	1	HNKI	174.64	0
MK03-7927	TM141-2_-478	7152	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.48	1	HNKI	166.35	0
MK03-7928	TM141-2_-479	7154	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.23	1	HNKI	67.37	0
MK03-7929	TM141-2_-480	7155	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.89	1	HNKI	161.69	0
MK03-7930	TM141-2_-481	7156	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.71	1	HNKI	105.17	0
MK03-7931	TM141-2_-482	7159	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.76	1	HNKI	132.78	0
MK03-7932	TM141-2_-483	7160	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	19.18	1	HNKI	59.68	0
MK03-7933	TM141-2_-484	7164	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	10.93	1	HNKI	134.08	0
MK03-7934	TM141-2_-485	7166	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.03	1	HNKI	102.12	0
MK03-7935	TM141-2_-486	7167	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.41	1	HNKI	72.06	0
MK03-7936	TM141-2_-487	7224	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.01	1	HNKT	138.35	0
MK03-7937	TM141-2_-488	7225	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.02	1	HNKI	102.51	0
MK03-7938	TM141-2_-489	7226	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.15	1	HNKI	174.64	0
MK03-7939	TM141-2_-490	7231	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	3.08	1	HNKI	86.05	0
MK03-7940	TM141-2_-491	7236	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	28.62	1	HNKI	60.57	0
MK03-7941	TM141-2_-492	7237	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.96	1	HNKI	81.9	0
MK03-7942	TM141-2_-493	7238	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7943	TM141-2_-494	7243	天城柏峠群	AGKT	AGKT	8.05	1	HNKT	116.94	0
MK03-7944	TM141-2_-495	7244	天城柏峠群	AGKT	AGKT	1.17	1	HNKT	107.58	0
MK03-7945	TM141-2_-496	7245	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	11.25	1	HNKI	178.91	0
MK03-7946	TM141-2_-497	7248	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	14.85	1	HNKI	132.87	0
MK03-7947	TM141-2_-498	7249	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	25.31	1	HNKI	228.46	0
MK03-7948	TM141-2_-499	7253	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.47	1	HNKI	129.79	0
MK03-7949	TM141-2_-500	7255	天城柏峠群	AGKT	AGKT	4.21	1	HNKT	121.53	0
MK03-7950	TM141-2_-501	7258	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7951	TM141-2_-502	7271	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.41	1	HNKI	77.26	0
MK03-7952	TM141-2_-503	7276	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.27	1	HNKI	74.23	0
MK03-7953	TM141-2_-504	7277	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7954	TM141-2_-505	7278	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.63	1	HNKI	137.9	0
MK03-7955	TM141-2_-506	7280	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.04	1	HNKT	137.44	0
MK03-7956	TM141-2_-507	7281	測定不可	測定不可	測定不可			測定不可		
MK03-7957	TM141-2_-508	7282	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	26.22	1	HNKI	226.25	0
MK03-7958	TM141-2_-509	7283	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.49	1	HNKI	74.85	0
MK03-7959	TM141-2_-510	7284	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.32	1	HNKT	118.05	0
MK03-7960	TM141-2_-511	7285	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	1.43	1	HNKI	101.62	0
MK03-7961	TM141-2_-512	7286	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	9.78	1	HNKI	171.38	0
MK03-7962	TM141-2_-513	7287	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.64	1	HNKI	45.28	0
MK03-7963	TM141-2_-514	7289	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.58	1	HNKI	127.83	0
MK03-7964	TM141-2_-515	7398	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.04	1	HNKI	65.37	0
MK03-7965	TM141-2_-516	7644	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	13.21	1	HNKI	78.53	0
MK03-7966	TM141-2_-517	7647	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.1	1	HNKI	152	0
MK03-7967	TM141-2_-518	7648	推定不可	推定不可	推定不可			推定不可		
MK03-7968	TM141-2_-519	7651	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	2.05	1	HNKI	122.64	0
MK03-7969	TM141-2_-520	7652	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	7.3	1	HNKI	156.37	0
MK03-7970	TM141-2_-521	7681	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	24.77	1	HNKI	216.22	0
MK03-7971	TM141-2_-522	7696	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	15.06	1	HNKI	160.36	0
MK03-7972	TM141-2_-523	7797	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	1.92	1	TSHG	26.08	0
MK03-7973	TM141-2_-524	7802	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	9.29	1	TSHG	35.5	0
MK03-7974	TM141-2_-525	273	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	8.47	1	WDTN	107.08	0
MK03-7975	TM141-2_-526	318	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	3.9	1	SBIY	82.48	0

MK03-7976	TM141-2_-527	490	神津島恩馳島群	KZOB	KZOB	10.23	1	KZSN	100.55	0
MK03-7977	TM141-2_-528	772	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	1.13	1	SBIY	94.9	0
MK03-7978	TM141-2_-529	796	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	6.01	1	HNKI	110.32	0
MK03-7979	TM141-2_-530	829	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	5.89	1	SBIY	80.72	0
MK03-7980	TM141-2_-531	909	和田鷹山群	WDTY	WDTY	6.43	1	WDHY	25.42	0
MK03-7981	TM141-2_-532	1594	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	27.3	1	HNKI	47.66	0
MK03-7982	TM141-2_-533	2097	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	5.65	1	HNKI	138.39	0
MK03-7983	TM141-2_-534	5003	蓼科冷山群	TSTY	TSTY	3.61	0.9996	TSHG	15.25	0.0004
MK03-7984	TM141-2_-535	5603	天城柏峠群	AGKT	AGKT	2.95	1	HNKT	100.46	0
MK03-7985	TM141-2_-536	6043	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	4.91	1	HNKI	113.3	0
MK03-7986	TM141-2_-537	6478	諏訪星ヶ台群	SWHD	SWHD	4.54	1	SBIY	110.46	0
MK03-7987	TM141-2_-538	7335	箱根畑宿群	HNHJ	HNHJ	8.03	1	HNKI	152.51	0

＜表中用語＞判別図判別群:判別図法によって推定された産地
判別分析：第1候補産地…判別分析により推定された産地の第1候補
第2候補産地…判別分析により推定された産地の第2候補
判別群：候補産地記号

第５表　産地原石判別群一覧表(SEIKO SEA-2110L蛍光Ｘ線分析装置による)

都道府県	地図No.	エリア	新判別群	旧判別群	新記号	旧記号	原石採取地(分析数)
北海道	1	白滝	八号沢群		STHG		赤石山山頂(19)、八号沢露頭(31)、八号沢(79)、黒曜の沢(6)、幌加林道(4)
			黒曜の沢群		STKY		
	2	上士幌	三股群		KSMM		十三ノ沢(16)
	3	置戸	安住群		ODAZ		安住(25)、清水ノ沢(9)
	4	旭川	高砂台群		AKTS		高砂台(6)、雨紛台(5)、春光台(5)
			春光台群		AKSK		
	5	名寄	布川群		NYHK		布川(10)
	6	新十津川	須田群		STSD		須田(6)
	7	赤井川	曲川群		AIMK		曲川(25)、土木川(15)
	8	豊浦	豊泉群		TUTI		豊泉(16)
青森	9	木造	出来島群		KDDK		出来島海岸(34)
	10	深浦	八森山群		HUHM		八森山公園(8)、六角沢(8)、岡崎浜(40)
秋田	11	男鹿	金ヶ崎群		OGKS		金ヶ崎温泉(37)、脇本海岸(98)
			脇本群		OGWM		脇本海岸(16)
山形	12	羽黒	月山群		HGGS		月山荘前(30)、朝日町田代沢(18)、櫛引町中沢(18)
			今野川群		HGIN		今野川(9)、大網川(5)
新潟	13	新津	金津群		NTKT		金津(29)
	14	新発田	板山群		SBIY		板山牧場(40)
栃木	15	高原山	甘湯沢群	高原山1群	THAY	TKH1	甘湯沢(50)、桜沢(20)
			七尋沢群	高原山2群	THNH	TKH2	七尋沢(9)、自然の家(9)

長野	16	和田(WD)	鷹山群	和田峠1群	WDTY	WDT1	鷹山(53)、小深沢(54)、東餅屋(36)、芙蓉ライト(87)、古峠(50)、土屋橋北(83)、土屋橋西(29)、土屋橋南(68)、丁字御領(18)
			小深沢群	和田峠2群	WDKB	WDT2	
			土屋橋北群	和田峠3群	WDTK	WDT3	
			土屋橋西群	和田峠4群	WDTN	WDT4	
			土屋橋南群	和田峠5群	WDTM	WDT5	
			芙蓉ライト群		WDHY		
			古峠群		WDHT		
		和田(WO)	ブドウ沢群	男女倉1群	WOBD	OMG1	ブドウ沢(36)、ブドウ沢右岸(18)、牧ヶ沢上(33)、牧ヶ沢下(36)、高松沢(40)
			牧ヶ沢群	男女倉2群	WOMS	OMG2	
			高松沢群	男女倉3群	WOTM	OMG3	
	17	諏訪	星ヶ台群	霧ヶ峰系	SWHD	KRM	星ヶ塔第1鉱区(36)、星ヶ塔第2鉱区(36)、星ヶ台A(36)、星ヶ台B(11)、水月霊園(36)、水月公園(13)、星ヶ塔のりこし(36)
	18	蓼科	冷山群	蓼科系	TSTY	TTS	冷山(33)、麦草峠(36)、麦草峠東(33)、渋ノ湯(29)、美し森(4)、八ヶ岳7(17)、八ヶ岳9(18)、双子池(34)
			双子山群		TSHG		双子池(26)
			擂鉢山群		TSSB		擂鉢山(31)、亀甲池(8)
神奈川	19	箱根	芦ノ湯群	芦ノ湯	HNAY	ASY	芦ノ湯(34)
	20		畑宿群	畑宿	HNHJ	HTJ	畑宿(71)
			黒岩橋群	箱根系A群	HNKI	HKNA	黒岩橋(9)
	21		鍛冶屋群	鍛冶屋	HNKJ	KJY	鍛冶屋(30)
静岡			上多賀群	上多賀	HNKT	KMT	上多賀(18)
	22	天城	柏峠群	柏峠	AGKT	KSW	柏峠(80)
東京	23	神津島	恩馳島群	神津島1群	KZOB	KOZ1	恩馳島(100)、長浜(43)、沢尻湾(8)
			砂糠崎群	神津島2群	KZSN	KOZ2	砂糠崎(40)、長浜(5)
島根	24	隠岐	久見群		OKHM		久見パーライト中(30)、久見採掘現場(18)
			箕浦群		OKMU		箕浦海岸(30)、加茂(19)、岸浜(35)
			岬群		OKMT		岬地区(16)
その他			NK群		NK		中ッ原1G、5G(遺跡試料)、原石産地は未発見

第80図　黒曜石産地位置

写真図版

図版 1

調査区遠景

図版２

竪穴住居跡04遺物出土状況

竪穴住居跡04土器出土状況

竪穴住居跡01、04完掘状況

竪穴住居跡01完掘状況

図版４

竪穴住居跡02完掘状況

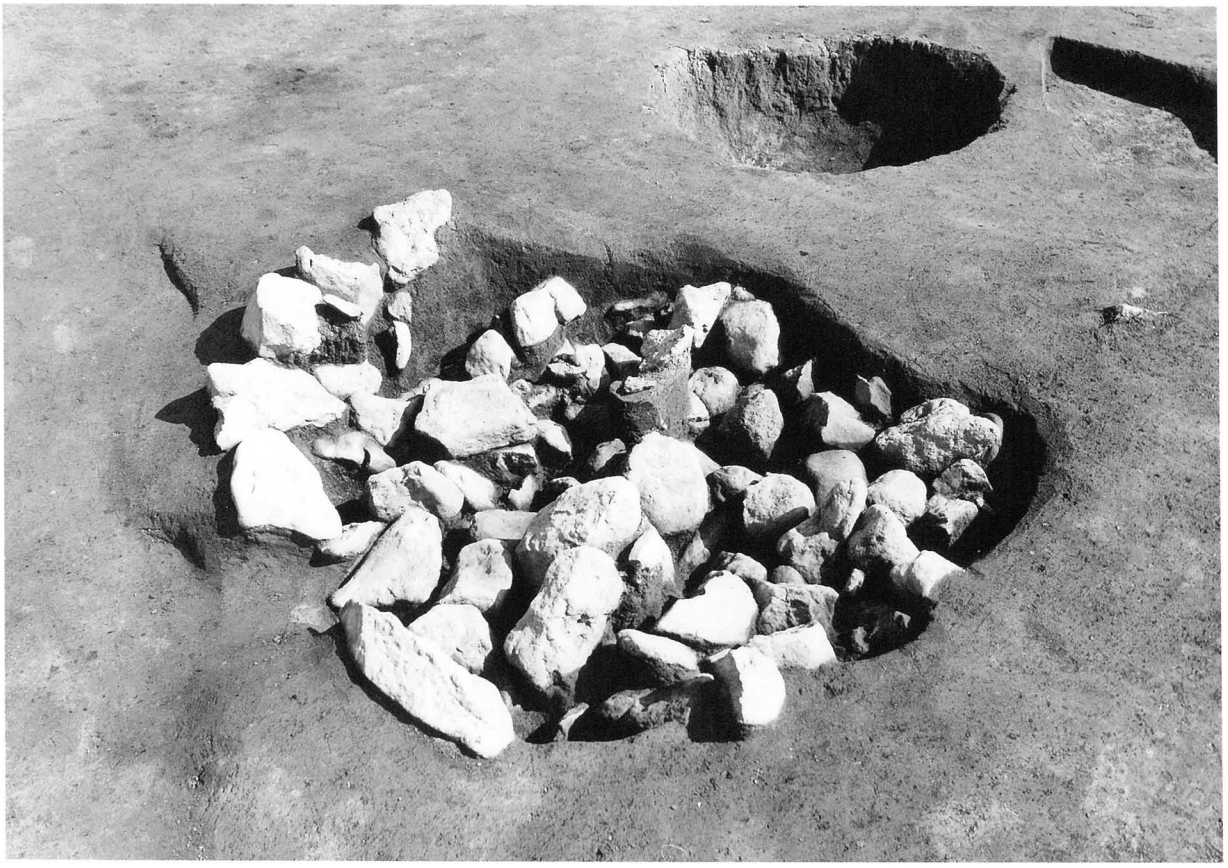
竪穴住居跡03完掘状況

竪穴住居跡05、集石05検出状況

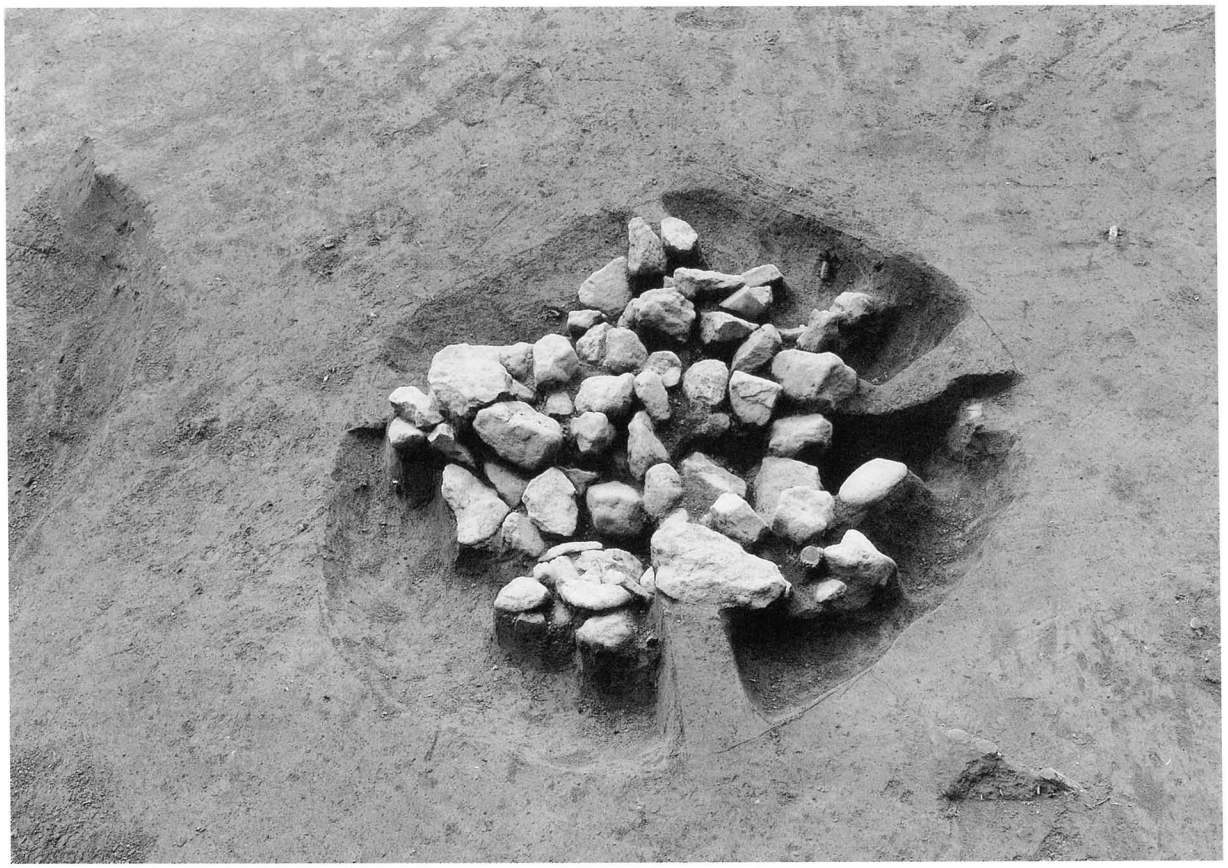
竪穴住居跡05床面検出状況

図版６

集石01検出状況



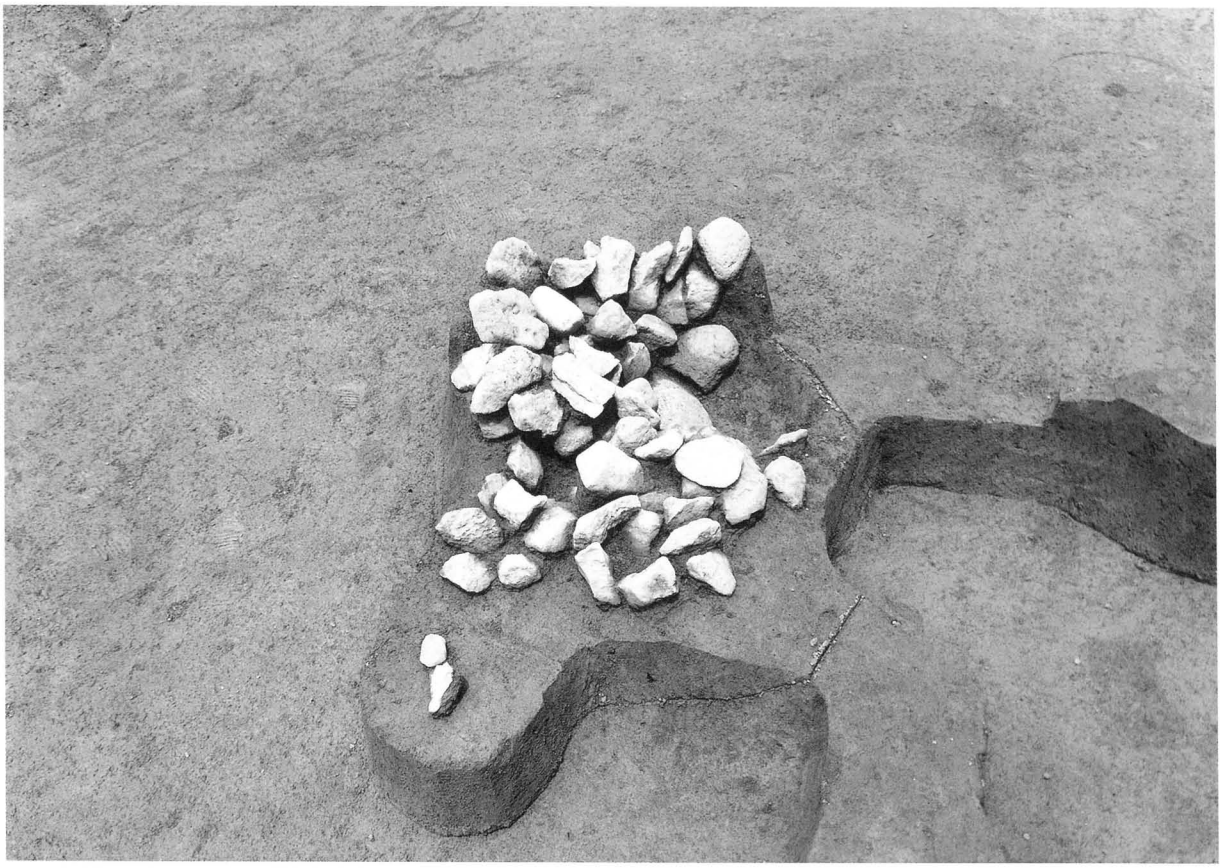
集石05内部状況



集石05掘削途中

集石05底部礫出土状況

図版８



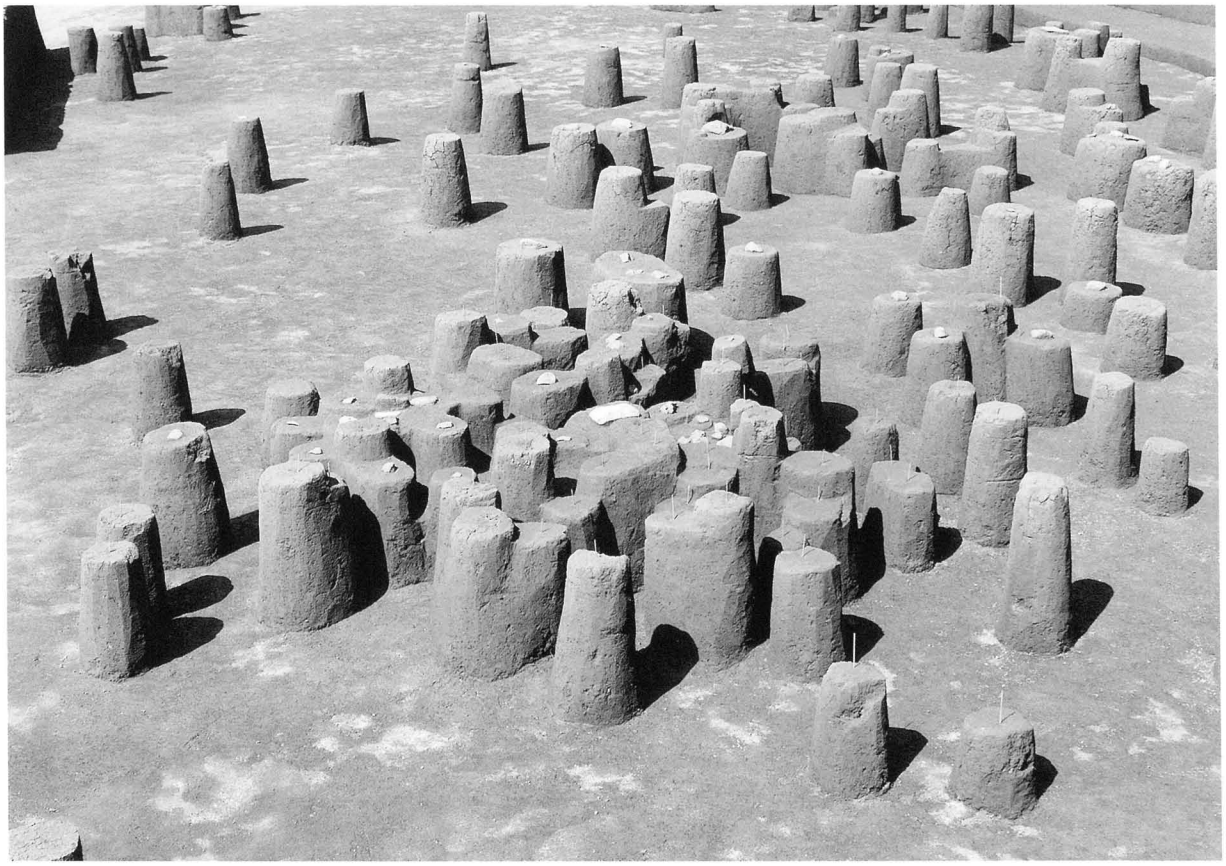
集石02検出状況

集石04検出状況

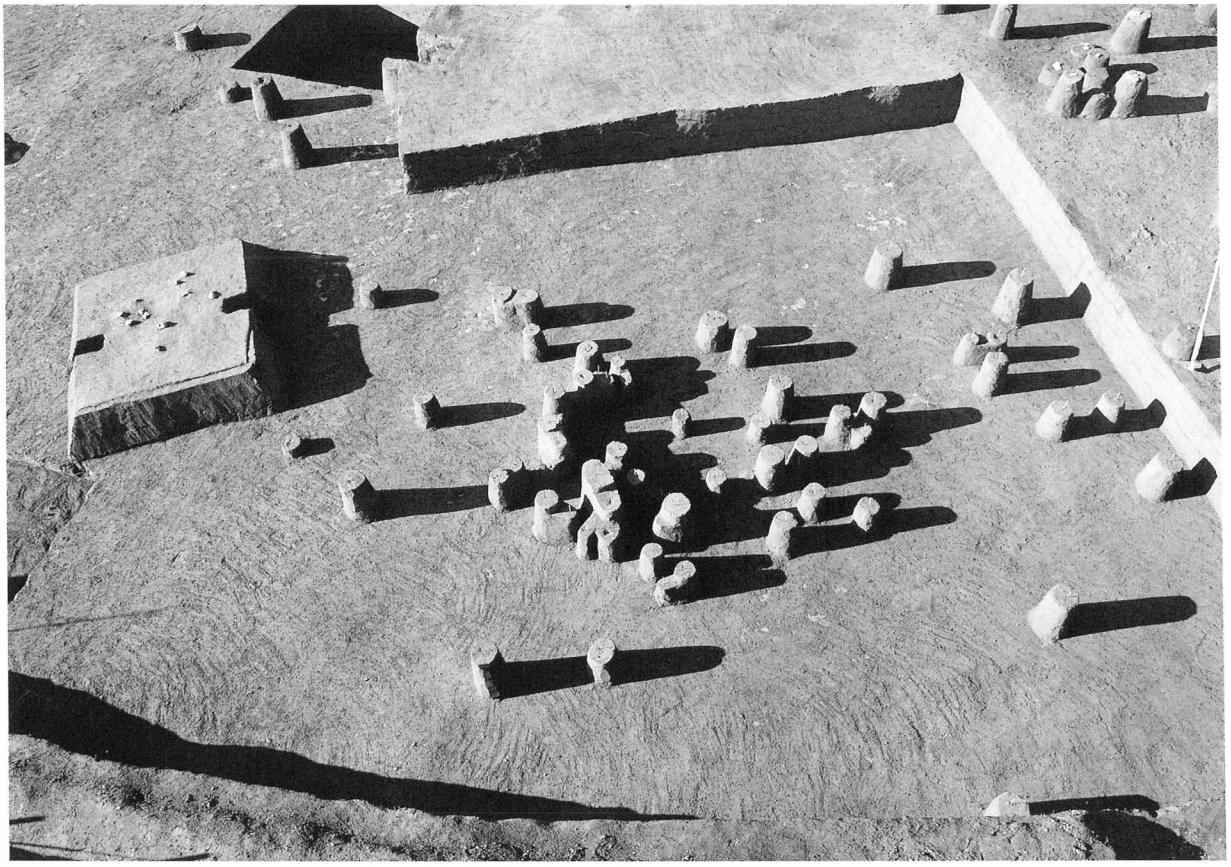
諸磯ｂ式土器出土状況

礫群03検出状況

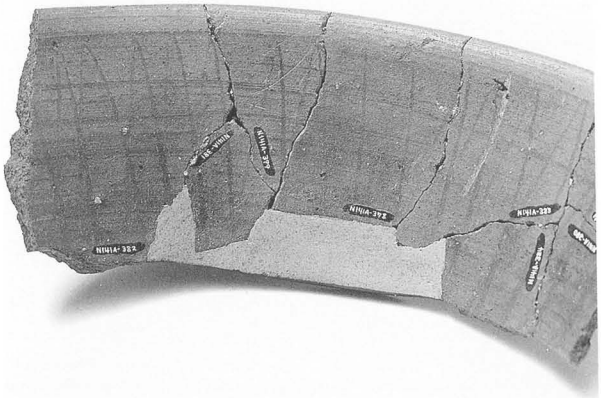
図版10



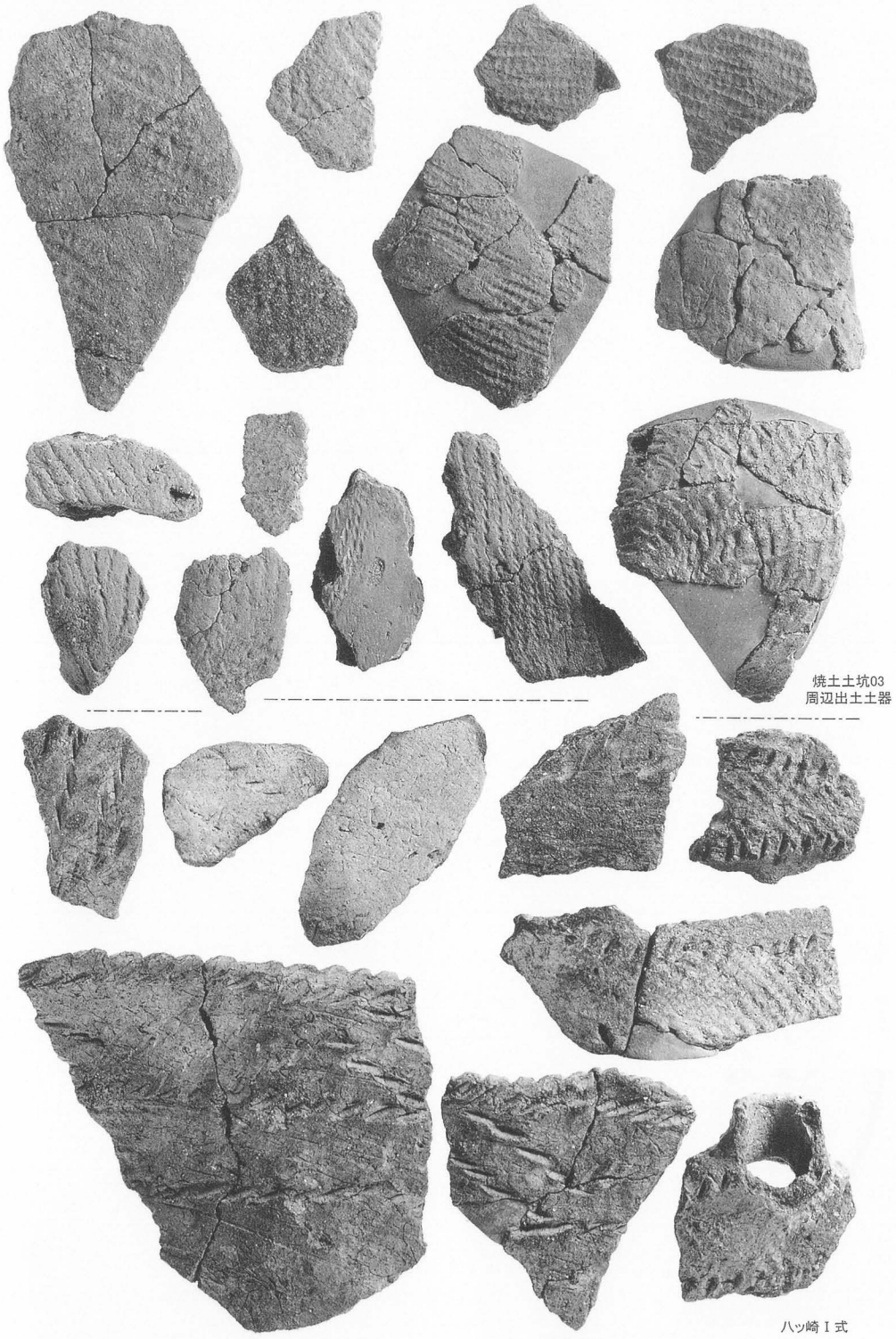
ブロック08検出状況



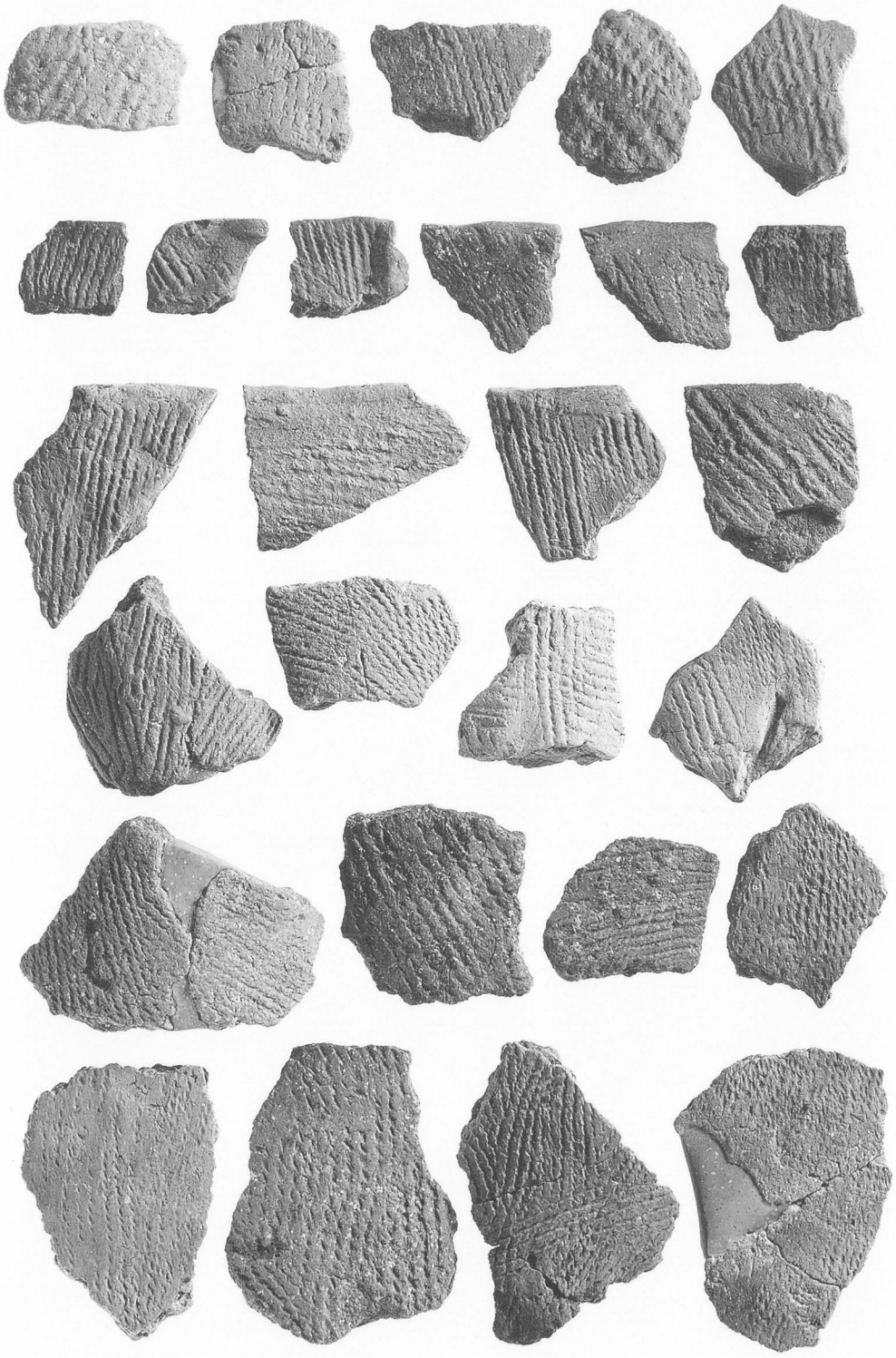
ブロック09検出状況



竪穴住居跡04出土土器他

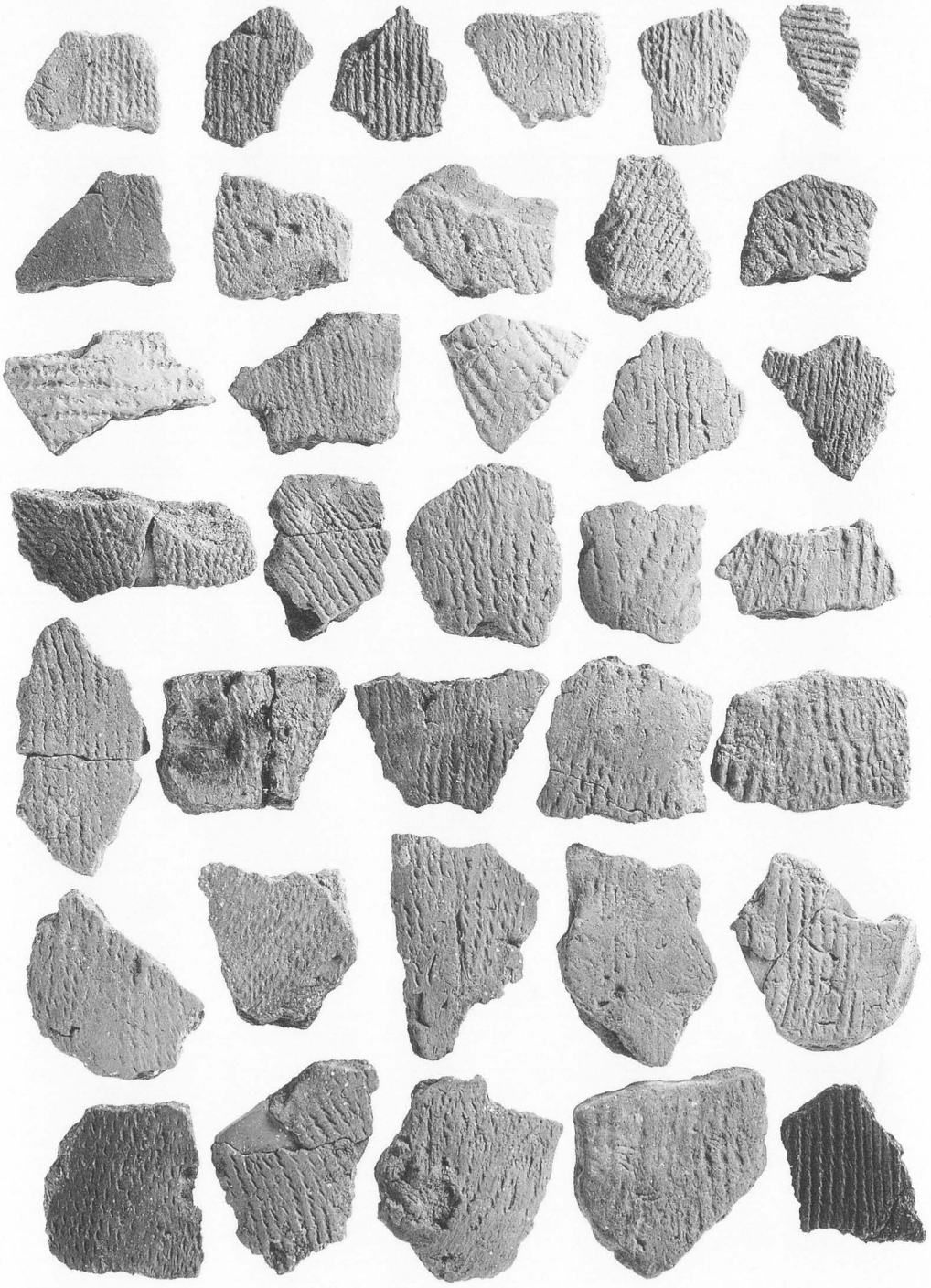


焼土土坑03周辺出土土器

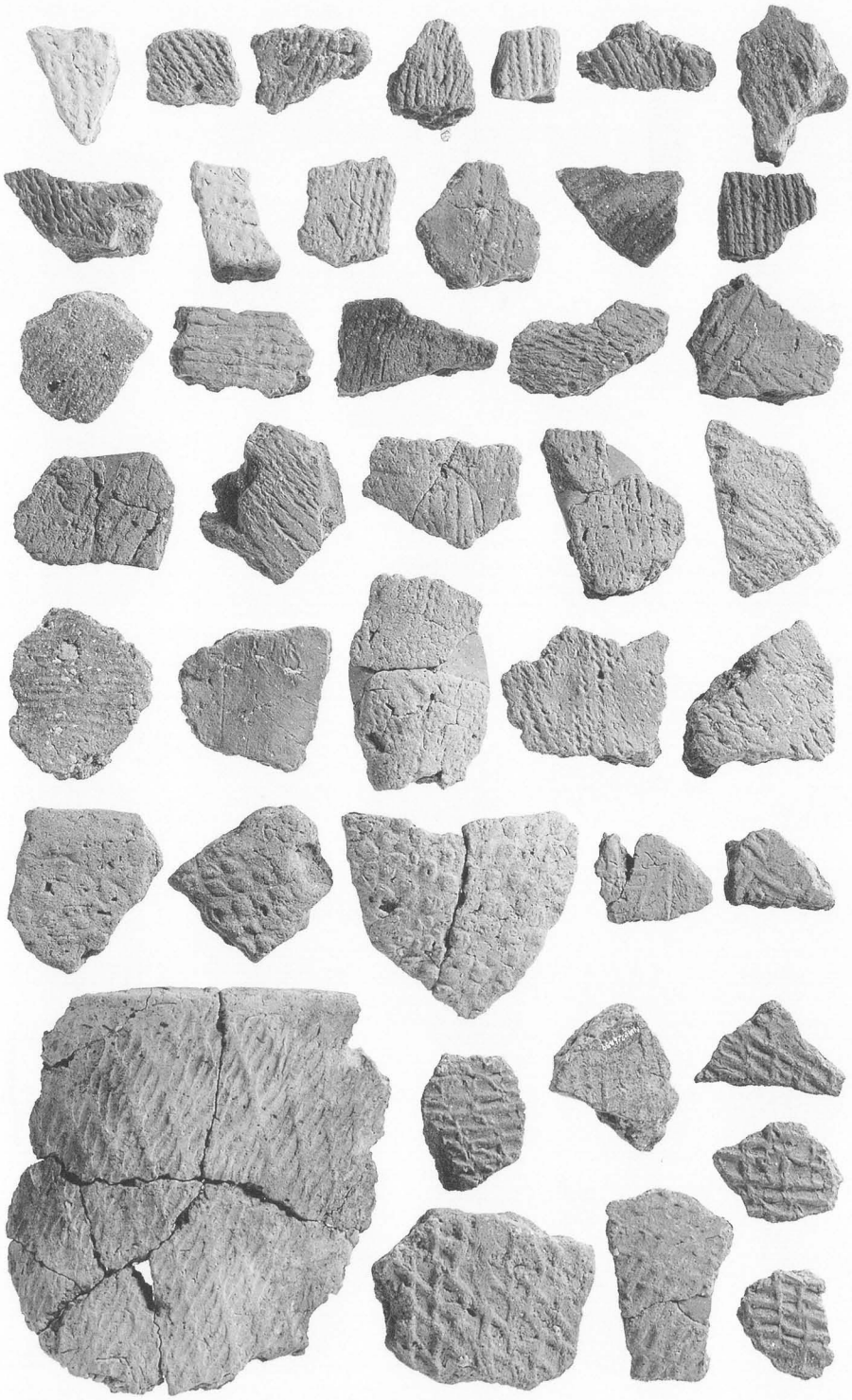


撚糸文土器（1）

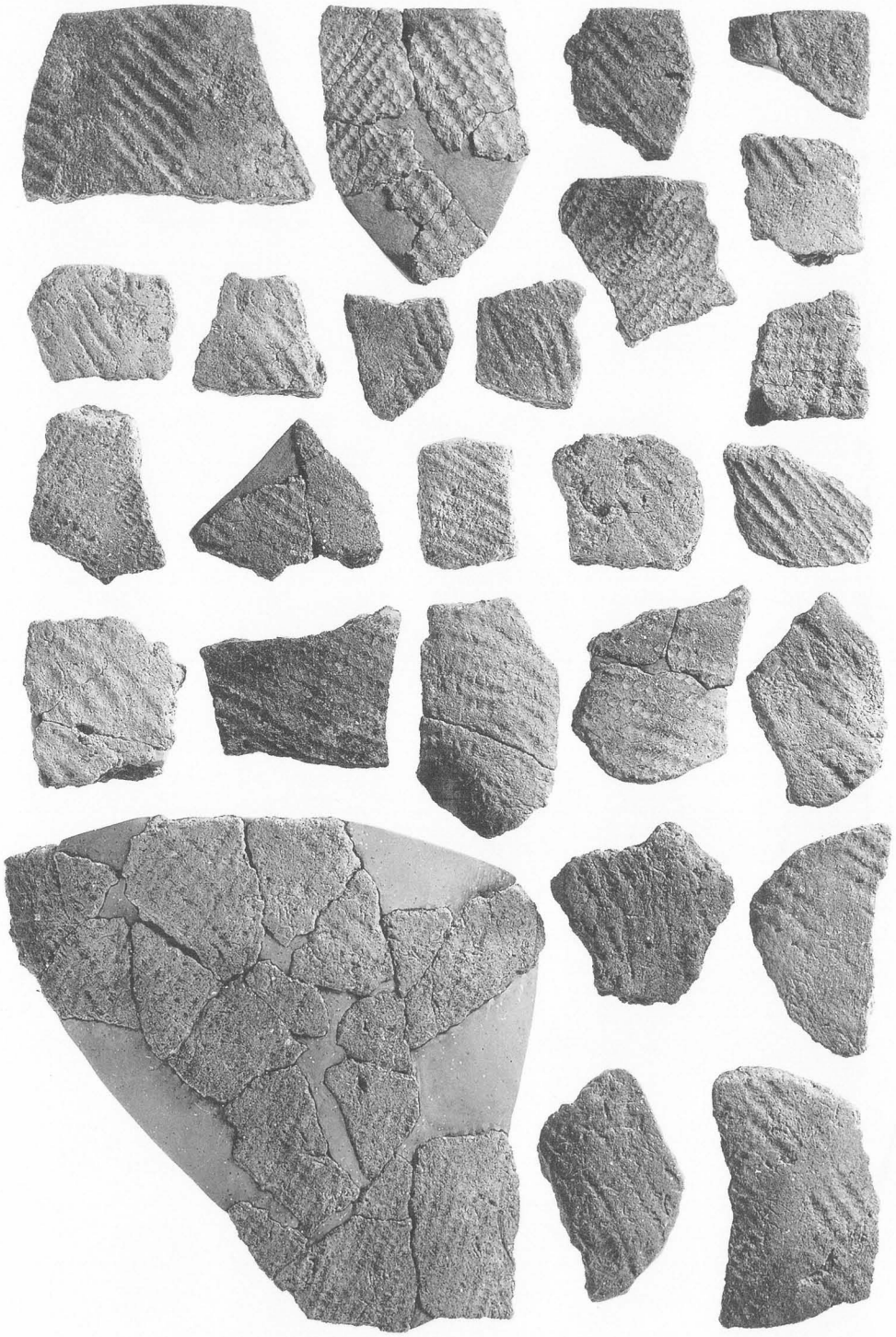
図版14



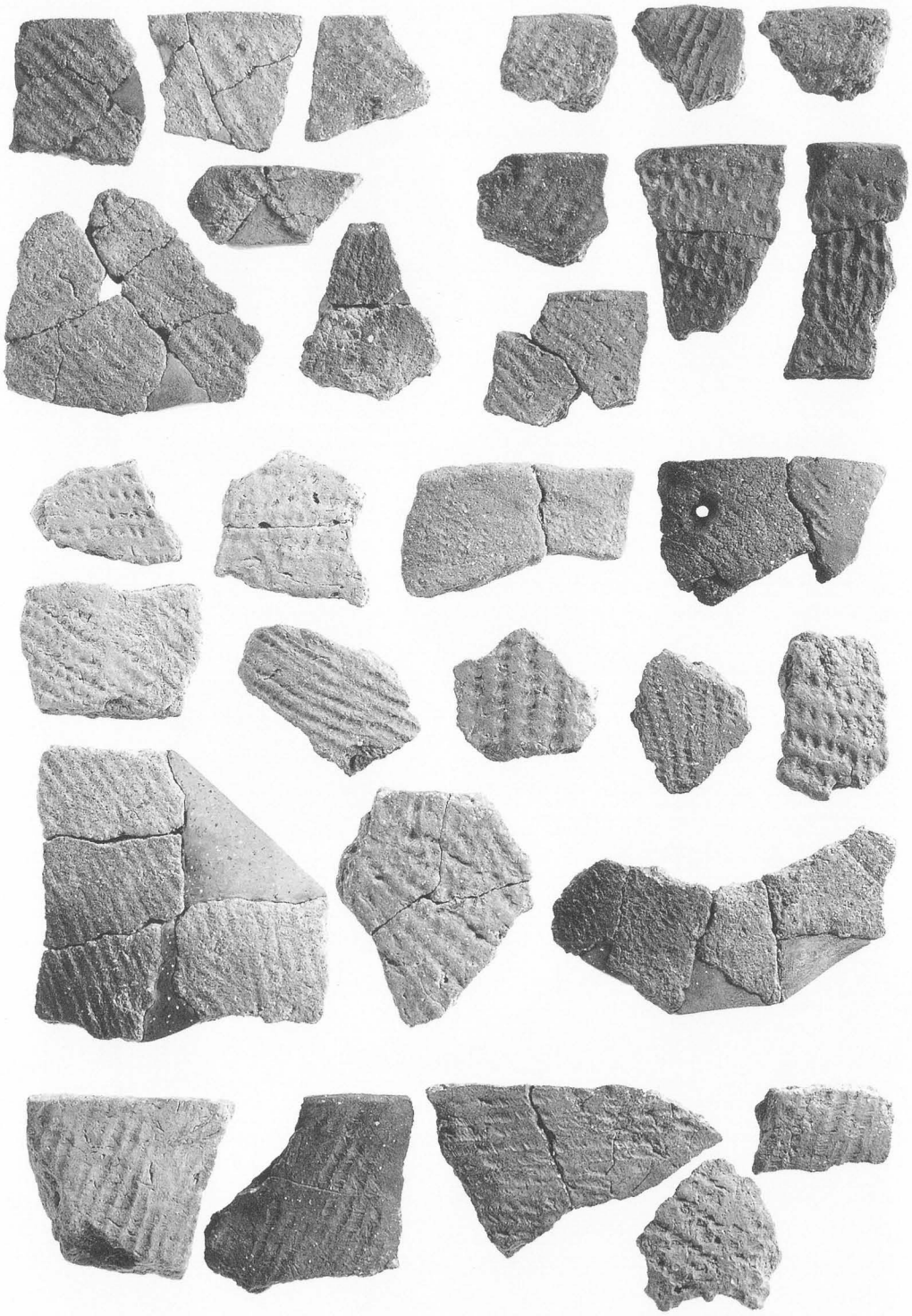
撚糸文土器（2）



撚糸文土器、押型文土器

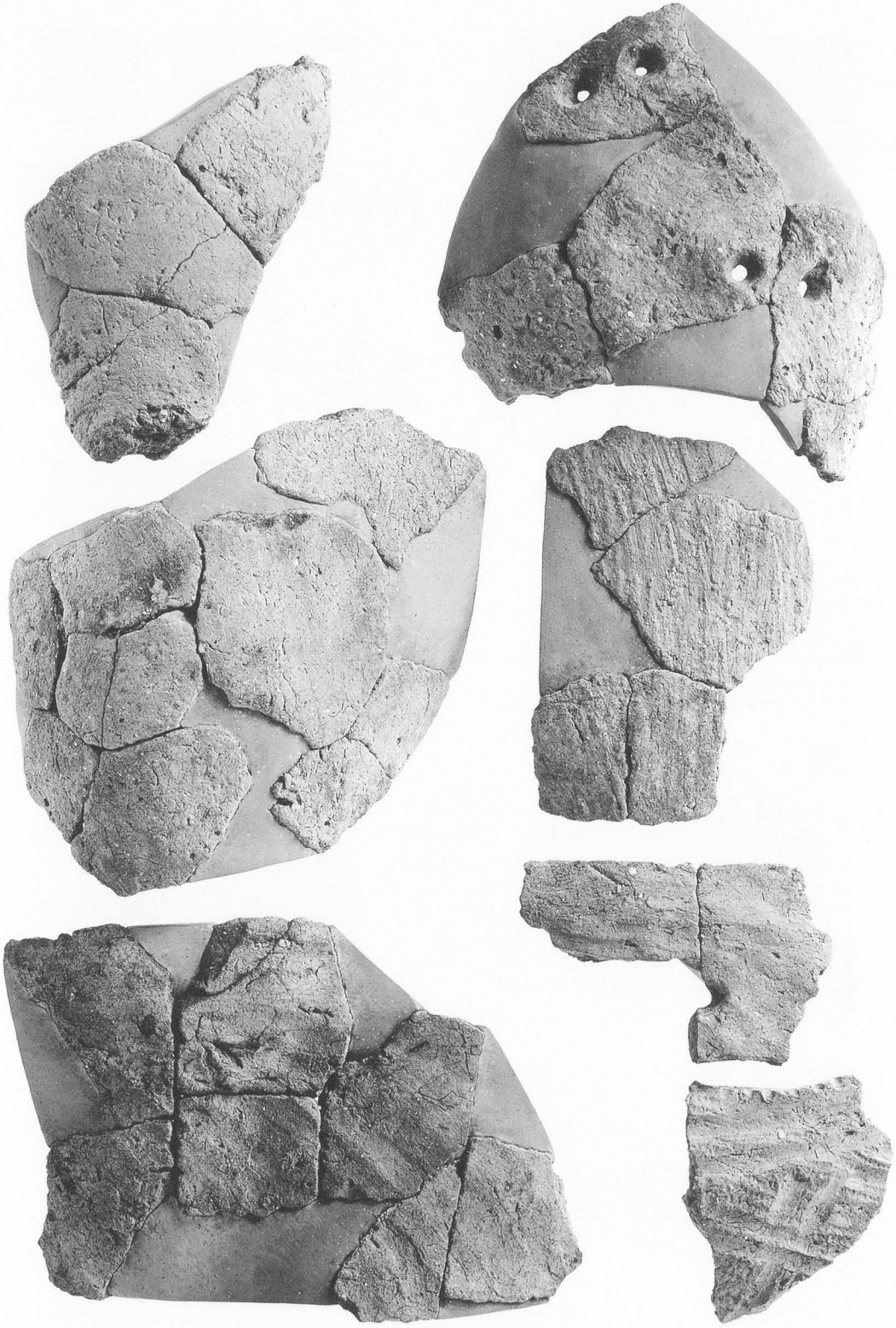


早期縄文土器（1）

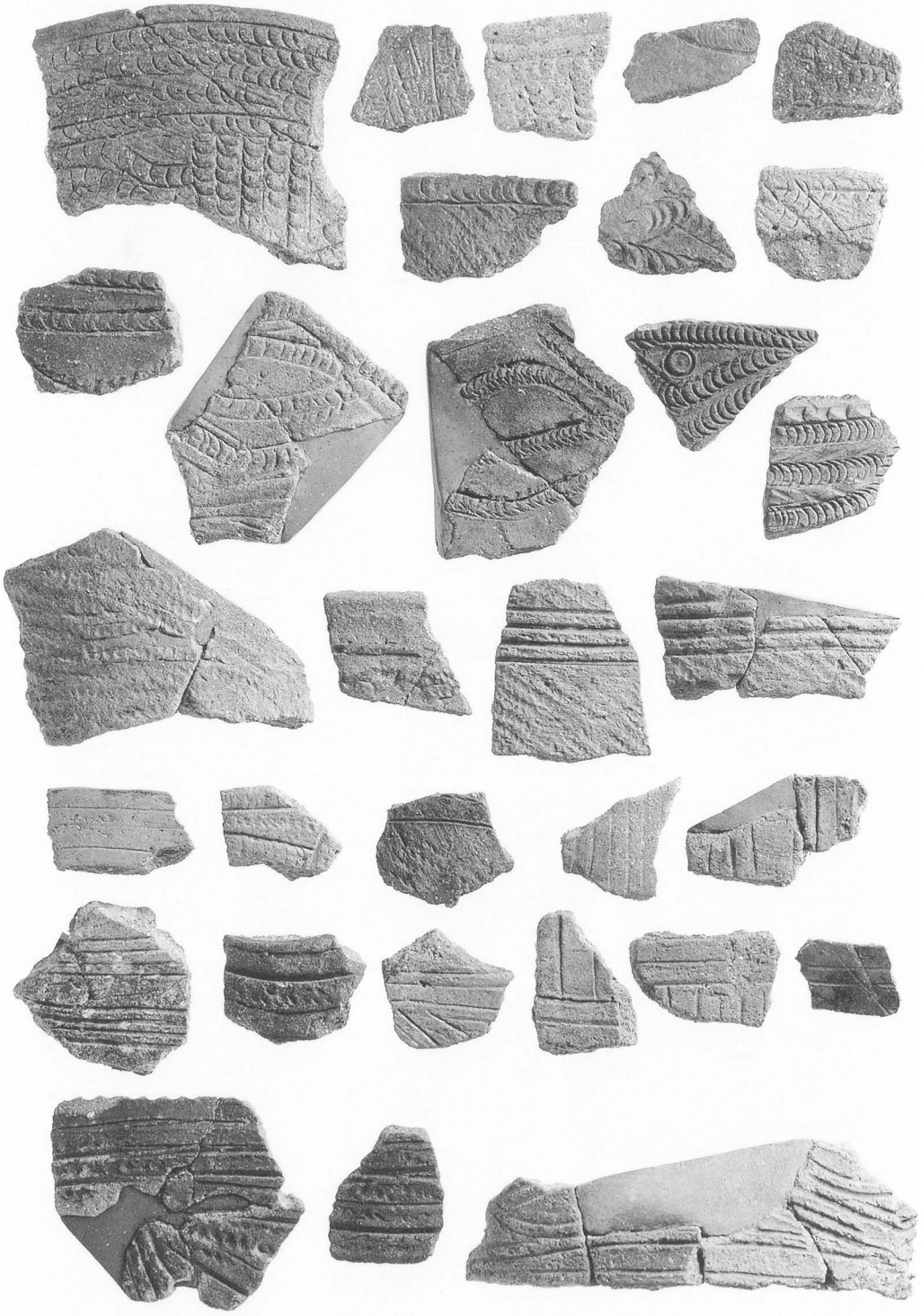


早期縄文土器（2）

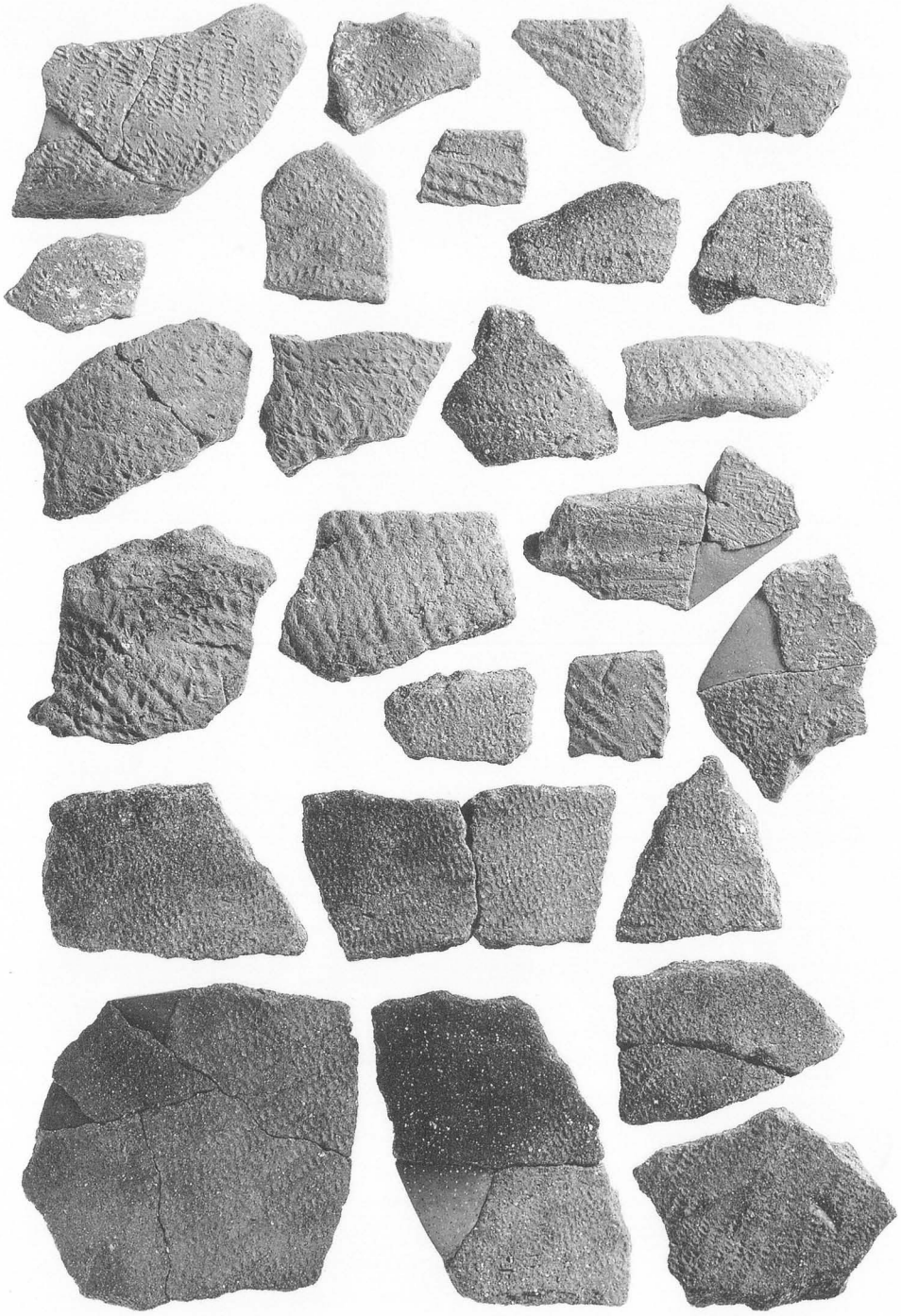
図版18



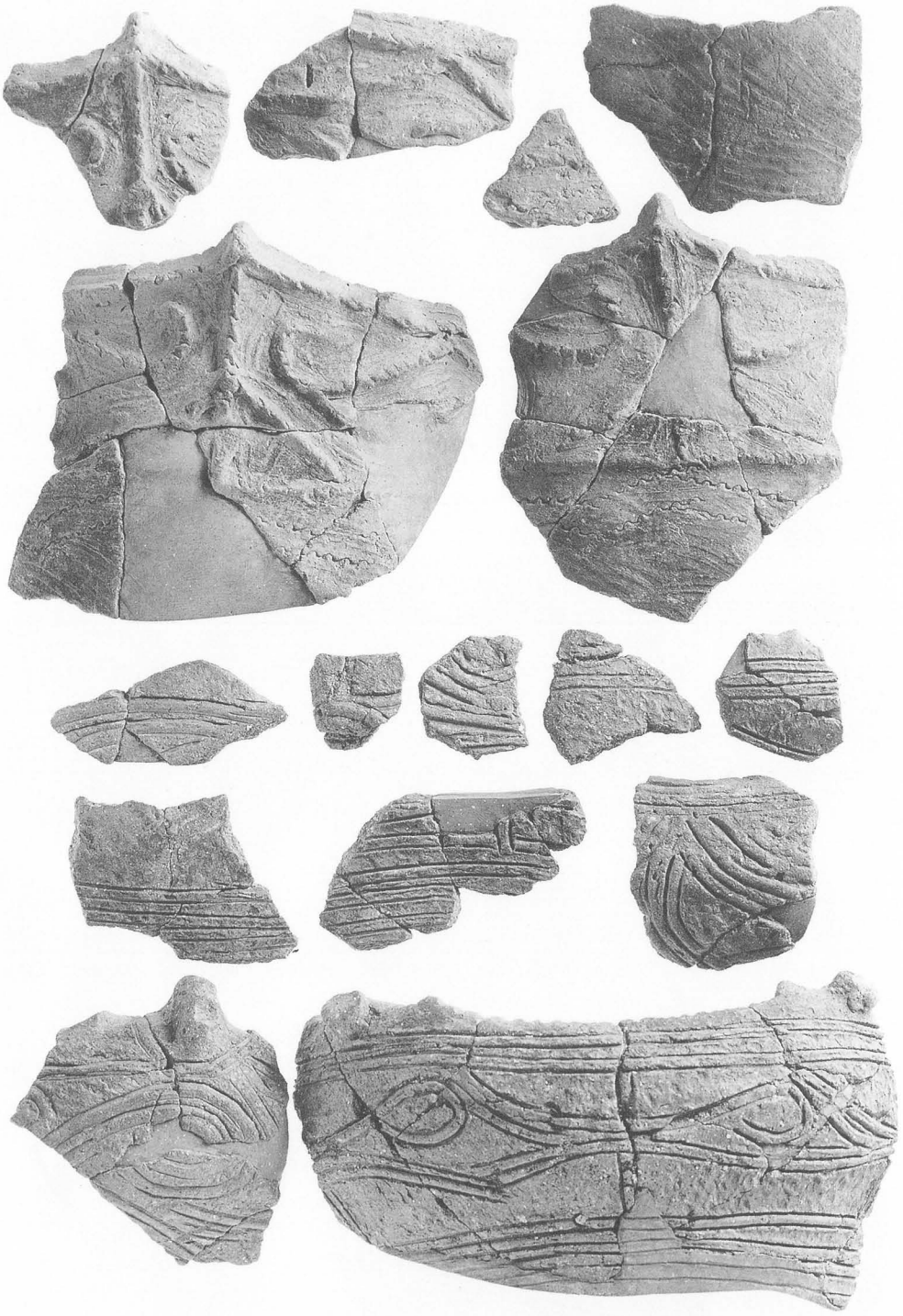
早期条痕文土器



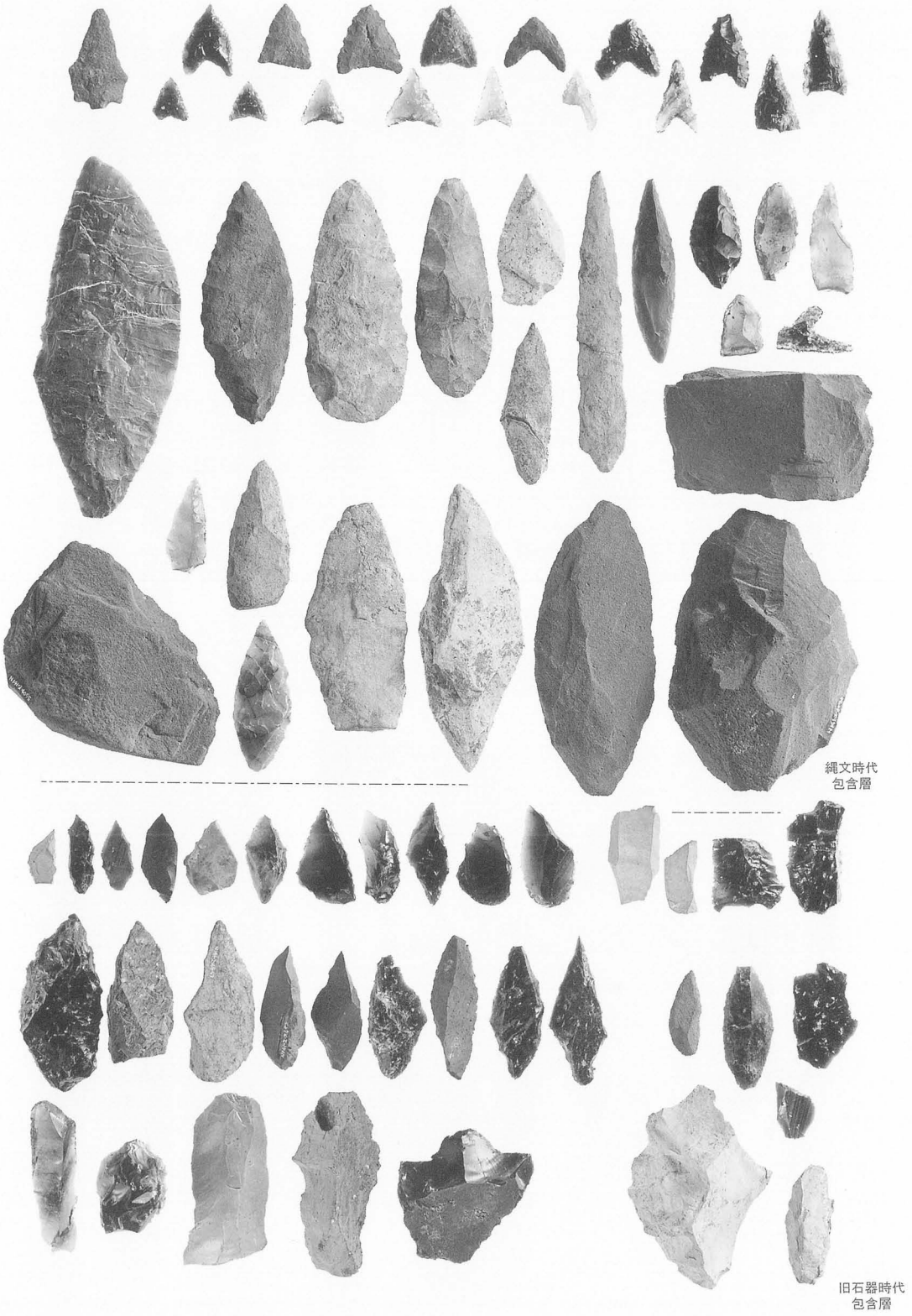
諸磯ｂ式土器（１）



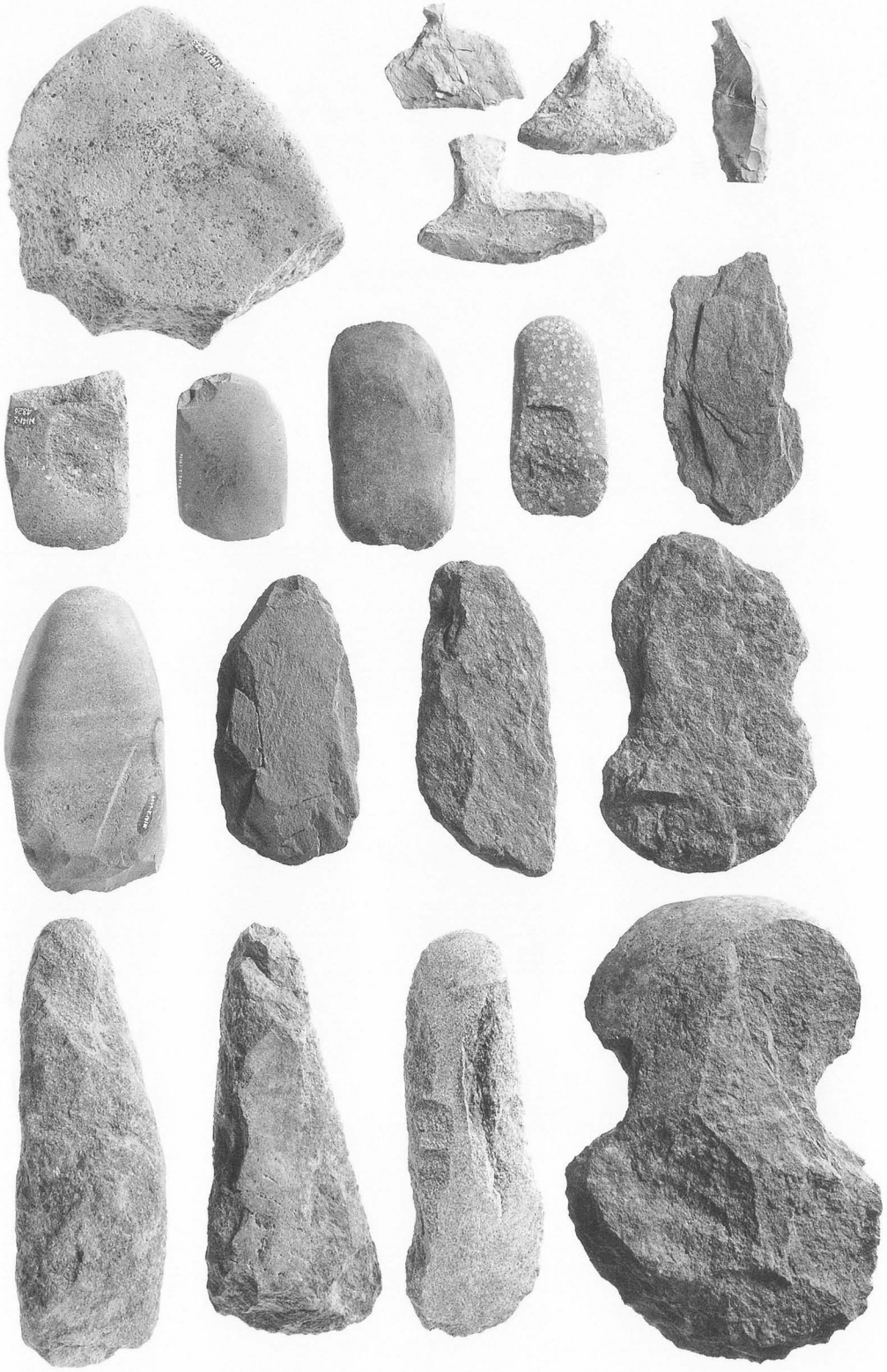
諸磯ｂ式土器（2）



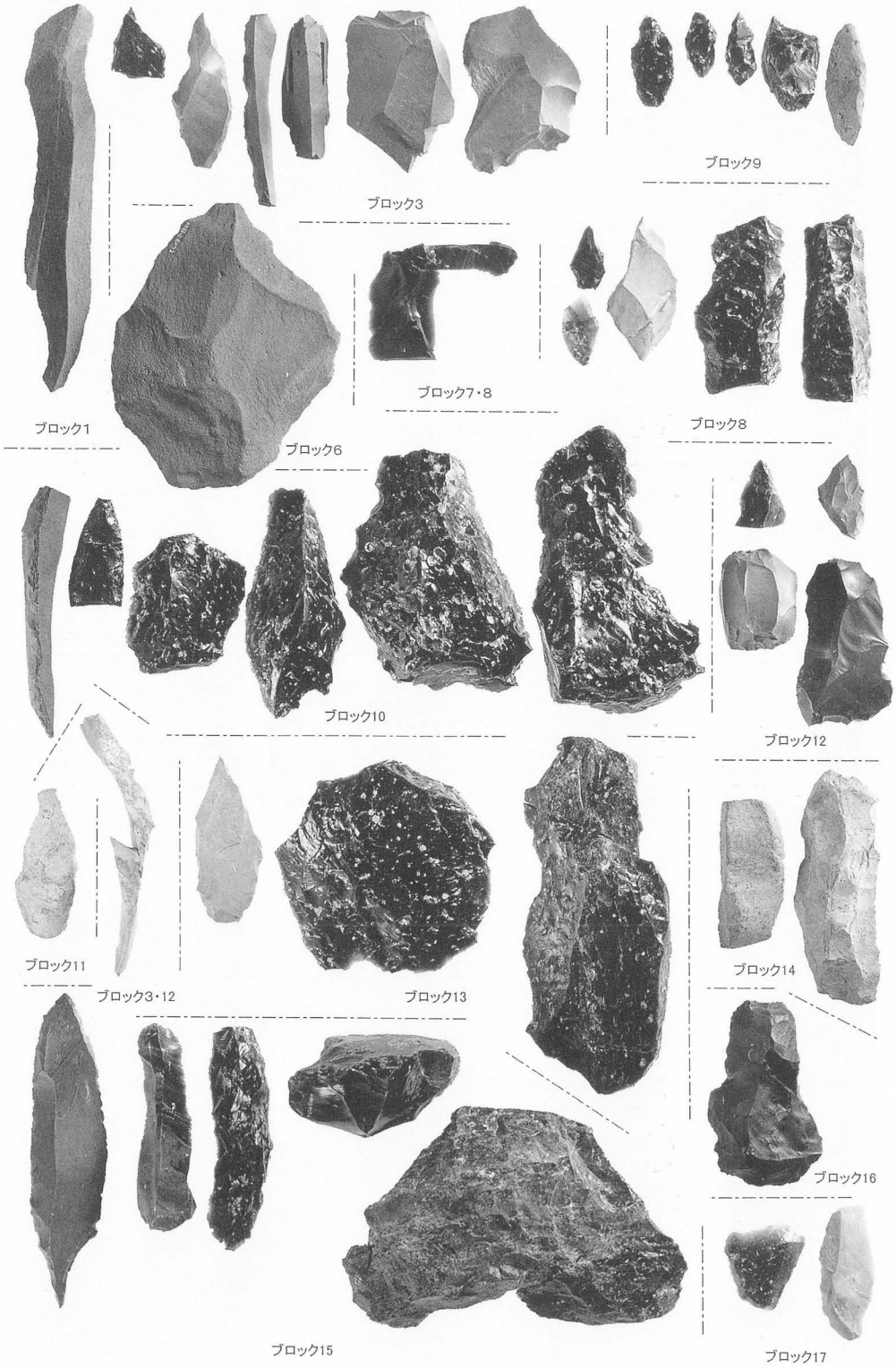
下吉井式土器、諸磯ｂ式土器



包含層出土石器（1）



包含層出土石器（2）


ブロック1
ブロック3
ブロック6
ブロック7・8
ブロック8
ブロック9
ブロック10
ブロック11
ブロック12
ブロック3・12
ブロック13
ブロック14
ブロック15
ブロック16
ブロック17

包含層出土石器（3）

報告書抄録

ふりがな	はちぶだいらいーいせき
書名	八分平Ｅ遺跡
副書名	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	長泉町－９
シリーズ名	静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告
シリーズ番号	第238集
編著者名	富樫孝志
編集機関	財団法人　静岡県埋蔵文化財調査研究所
所在地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20　TEL054-262-4261（代表）
発行年月日	西暦　2011年３月18日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 世界測地形	東経 世界測地形	調査期間	調査面積	調査原因
はちぶだいらいー 八分平Ｅ いせき 遺跡	しずおかけん 静岡県 すんとうぐん 駿東郡 ながいずみちょう 長泉町 ひがしの 東野 あざはちぶだいら 字八分平 484－78他	22342		36° 18′ 23″	137° 27′ 39″	確認調査 20011203～ 20020111、 20020115～ 20020331 本調査 20010426～ 20010707、 20011203～ 20020329、 20020402～ 20020703	6099㎡	第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
八分平Ｅ 遺跡	集落	平安時代 縄文時代 旧石器時代	竪穴住居跡　４軒 竪穴住居跡　１軒 集石　５基 焼土土坑　４基 礫群　15基 ブロック　17基	土師器 縄文土器 縄文土器 石器	

要約	平安時代の調査では、竪穴住居跡を４軒検出し、そのうち１軒の床面から土師器が複数出土した。 縄文時代の調査では、集石や焼土土坑が検出されたことから、居住域ではなく、火を使う作業場だったと考えられる。 旧石器時代の調査では、休場層と第Ⅲ黒色帯に文化層を設定したが、いずれも石器製作の痕跡は少なく、石器を搬入した地点だったと思われる。

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第238集

八分平E遺跡

第二東名No.141－2地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成23年3月18日発行

編集・発行　財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所
〒422－8002　静岡県静岡市駿河区谷田23－20
TEL　054－262－4261（代表）
FAX　054－262－4266

印　刷　所　松本印刷株式会社
〒421－0303　静岡県榛原郡吉田町片岡2210
TEL　0548－32－0851（代表）